

明治十六

特 62

AN ILLUSTRATED  
EXPLORER'S BOOK

FOR TRAVELLERS  
ROUND THE WORLD.

BY TAWOKI and J. SUSUKA  
行 德 不 是

萬國名所圖繪

河津祐之先生題字  
士居通豫先生序  
南枝醇先生閱  
青木恒三郎編輯

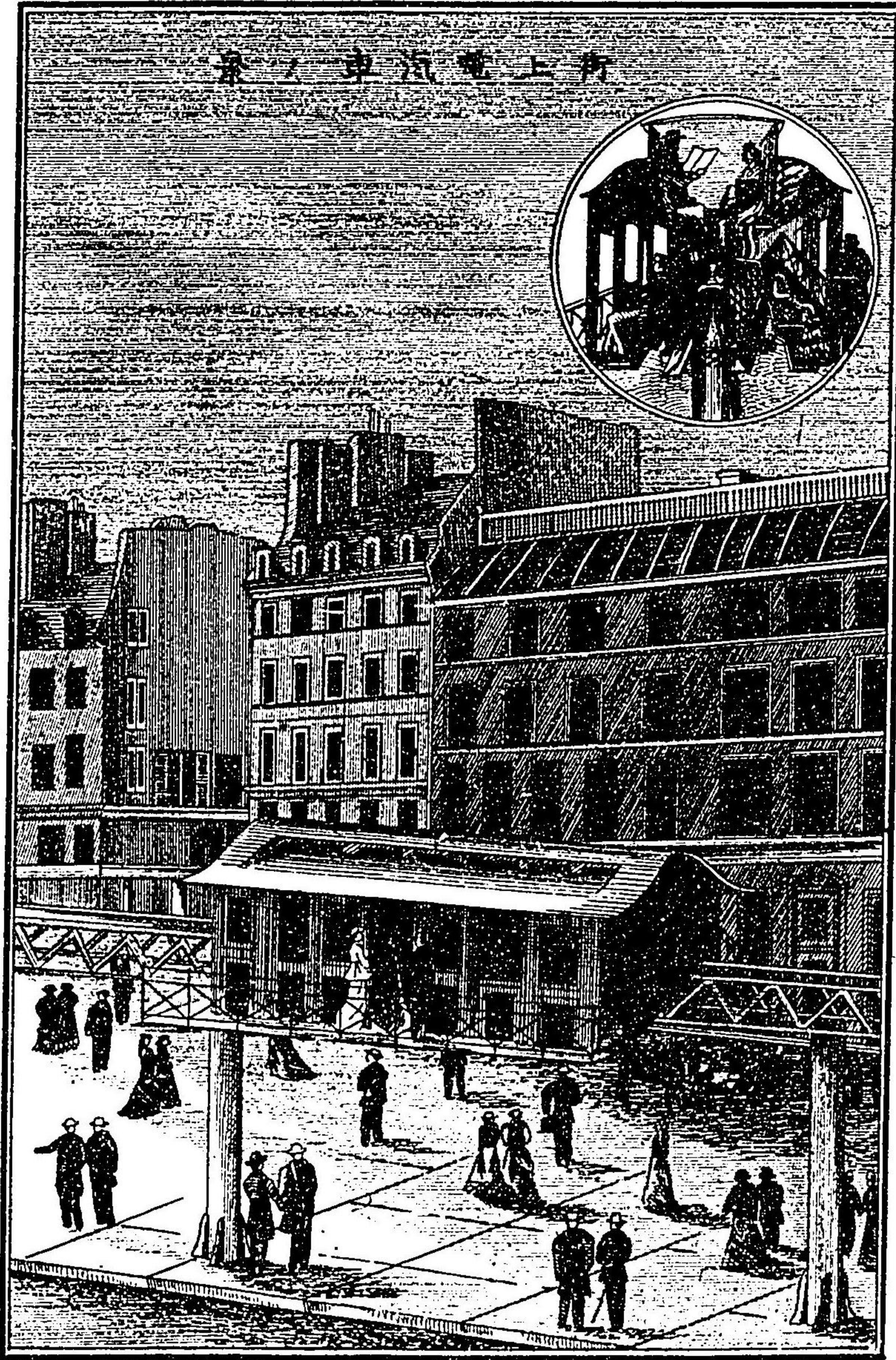
佛蘭西 黎白耳義 和蘭  
日耳曼 噠馬北洋 菲 兀  
治 華

嵩山堂梓

OSAKA  
AWOKISZANDOW.



VIEW OF THE ELEVATED ELECTROLOCOMOTIVE  
IN MARKET

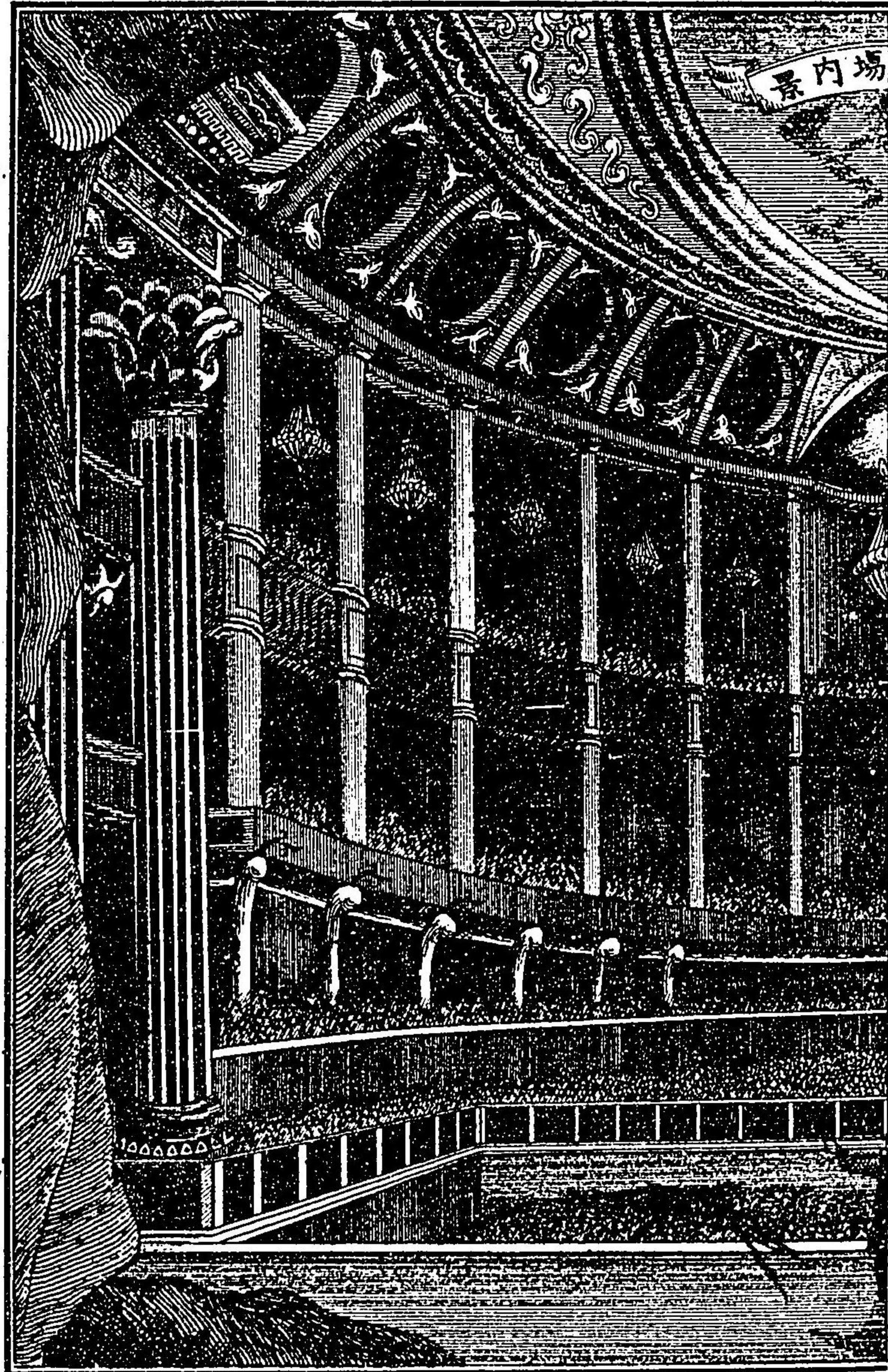


夫より赴くデンマルク  
北洋中のハルス島  
グリーンランドの三属地  
寒さの為か小人島  
奇異の見物過ぎ去れを  
一ケ年中三ケ月  
残る九ケ月夜國ふて  
紙數ふかざりみあれを  
明治十八年十月

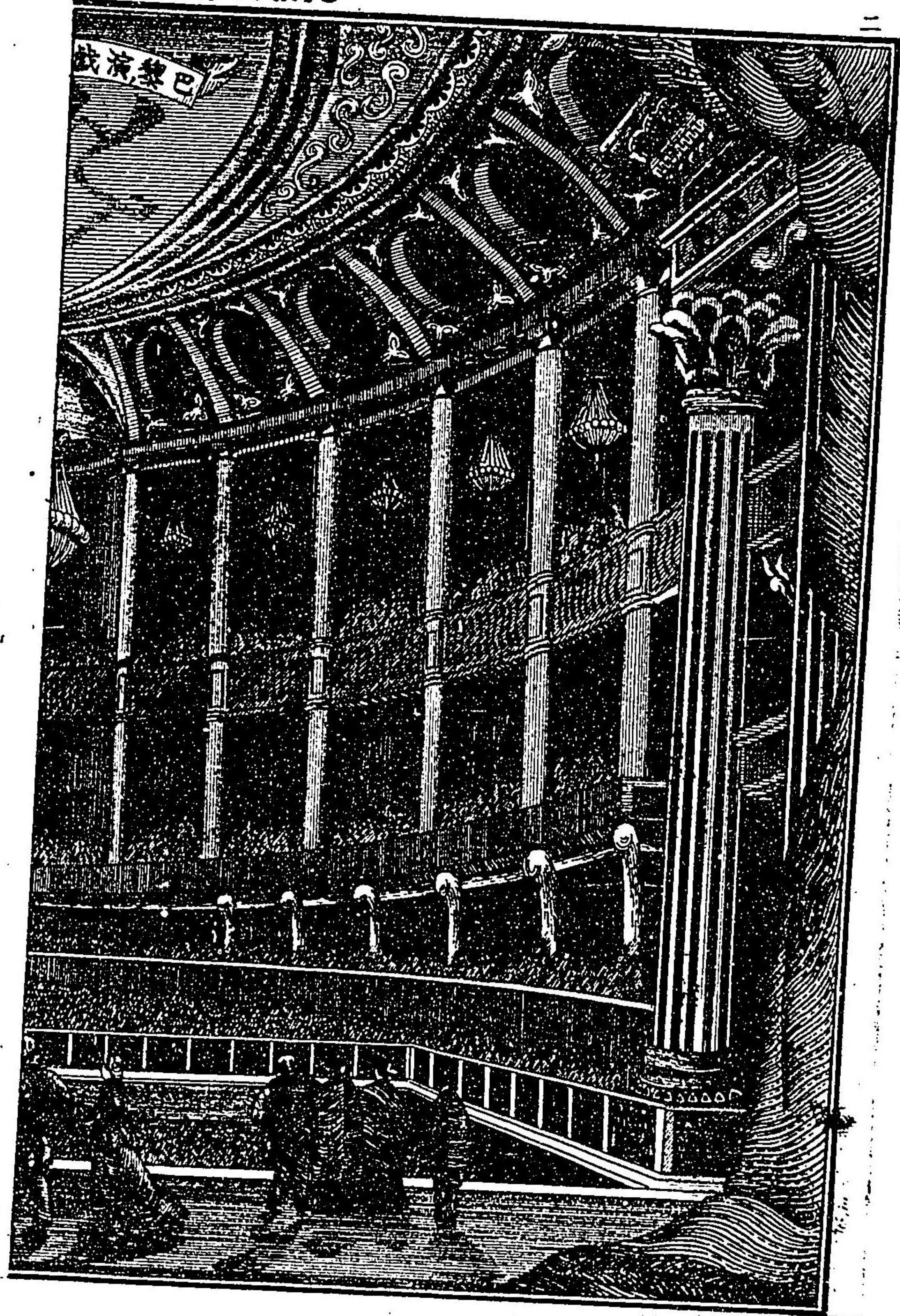
小國なれど民剛毅  
アイスランドの氷じま  
萬古融ざる氷國  
エスキモーてふ人種あり  
次ハスイデンイルウエー  
大陽没せど晝間のみ  
最と面白き談話あり  
後は四卷へ譲る也

編者識

INTERIOR LOOK OF

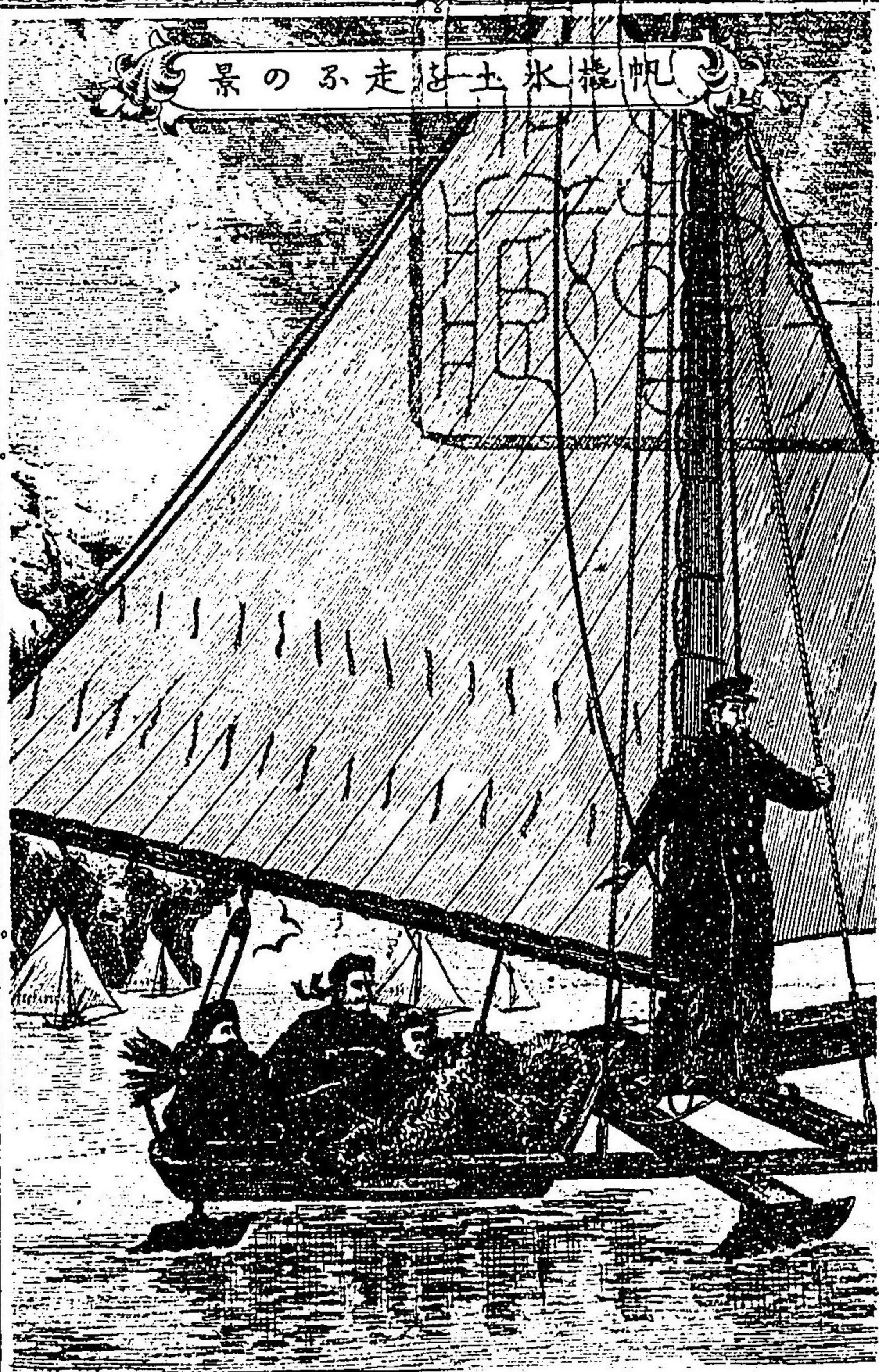


OPERA, PARIS



SAILED SLED CAN RUN IN THE ICE.

帆氷走の景

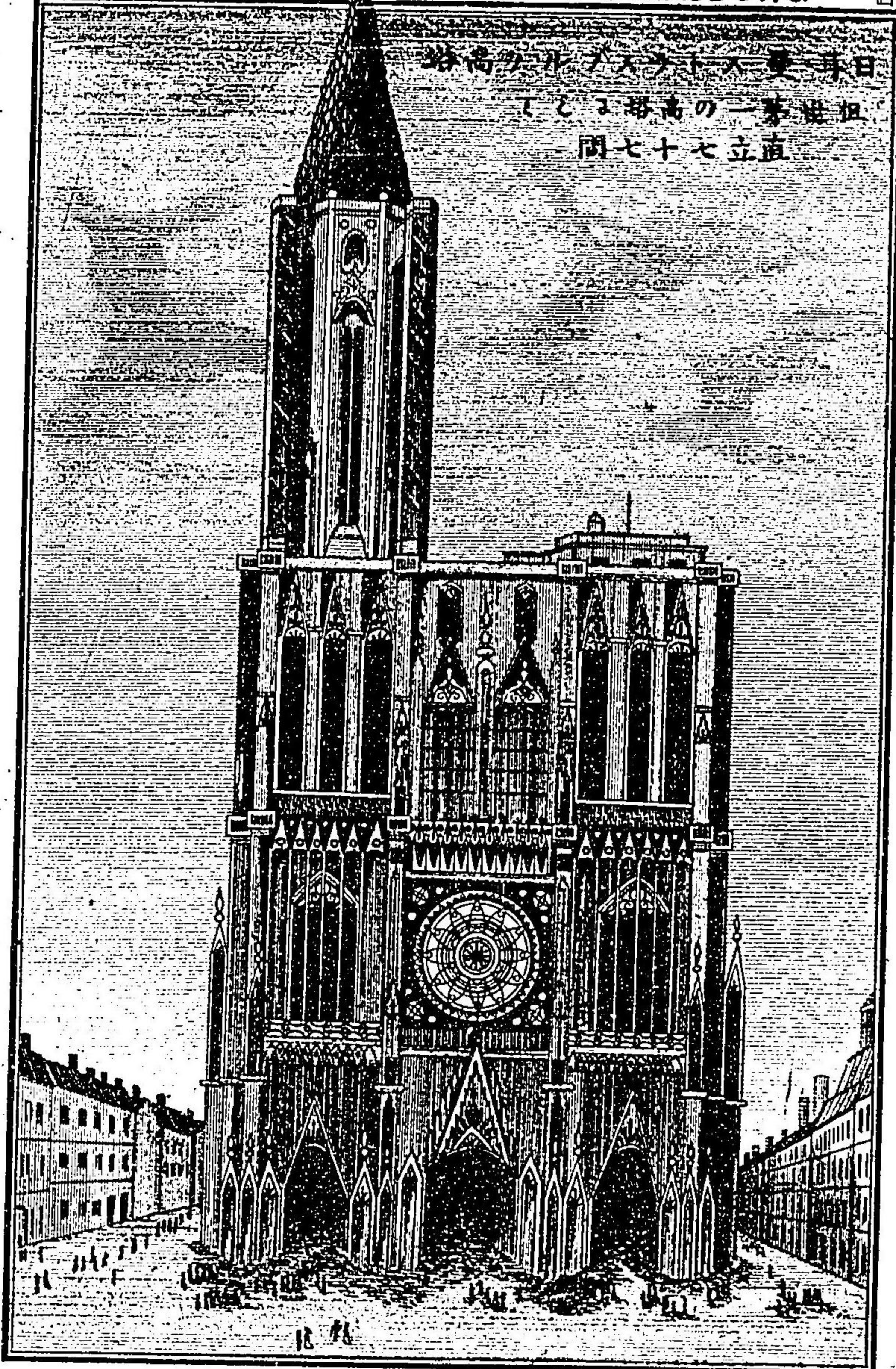


大坂 松盛堂長瀬銅鑄

大坂 松盛堂長瀬銅鑄

CATHEDRAL OF STRASBURG

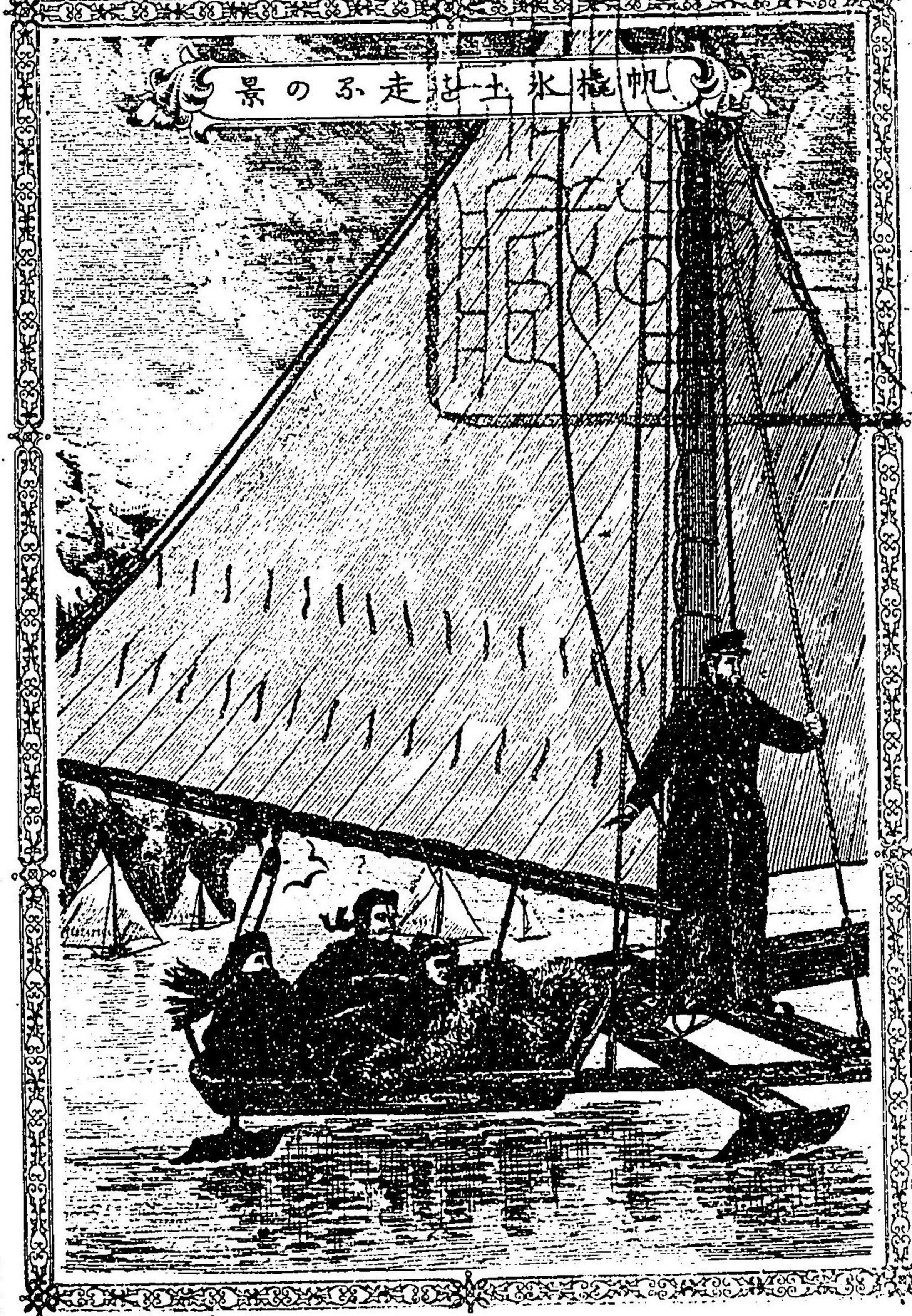
塔高カールストラスブルグ  
として塔高の一景也  
一問七十七立直



18 71

SAILED SLED CAN RUN IN THE ICE.

帆氷走の景

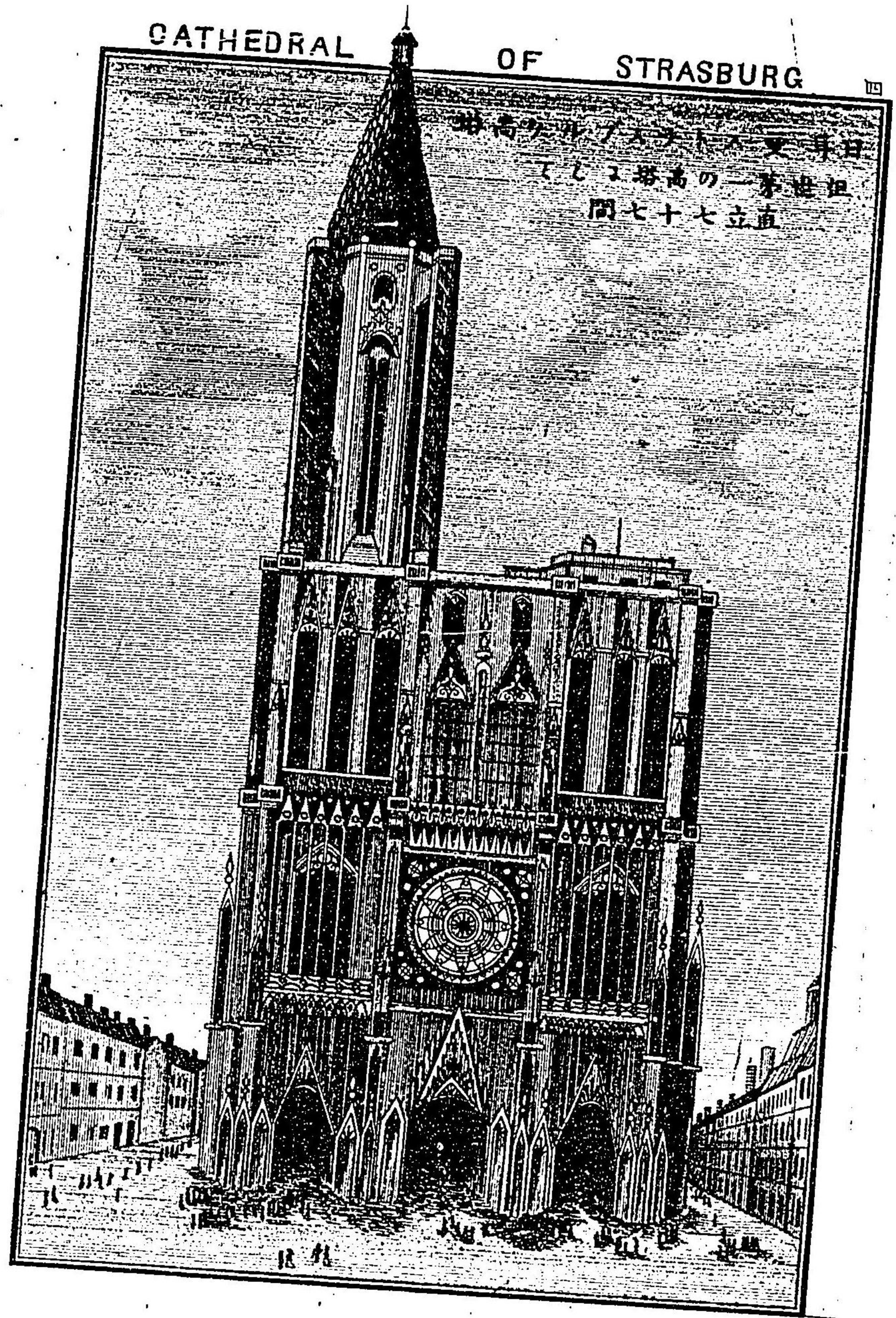


明治十九年一月二十七日 山務省贈付 曼曼繪

大阪 松盛堂長瀬銅鑄

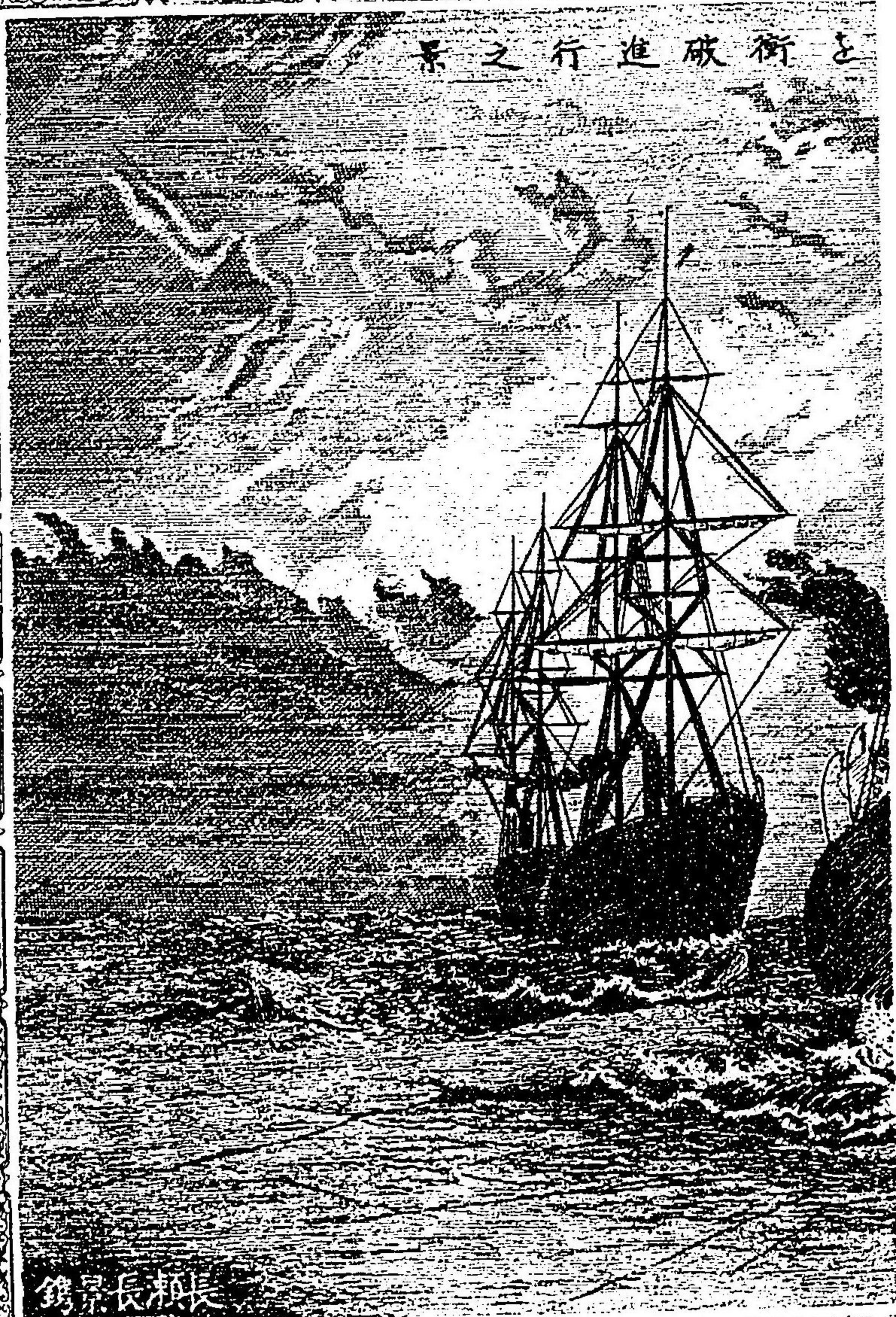
CATHEDRAL OF STRASBURG

高さ九十八メートル 聖日  
としは塔高の一第世坦  
間七十七立直



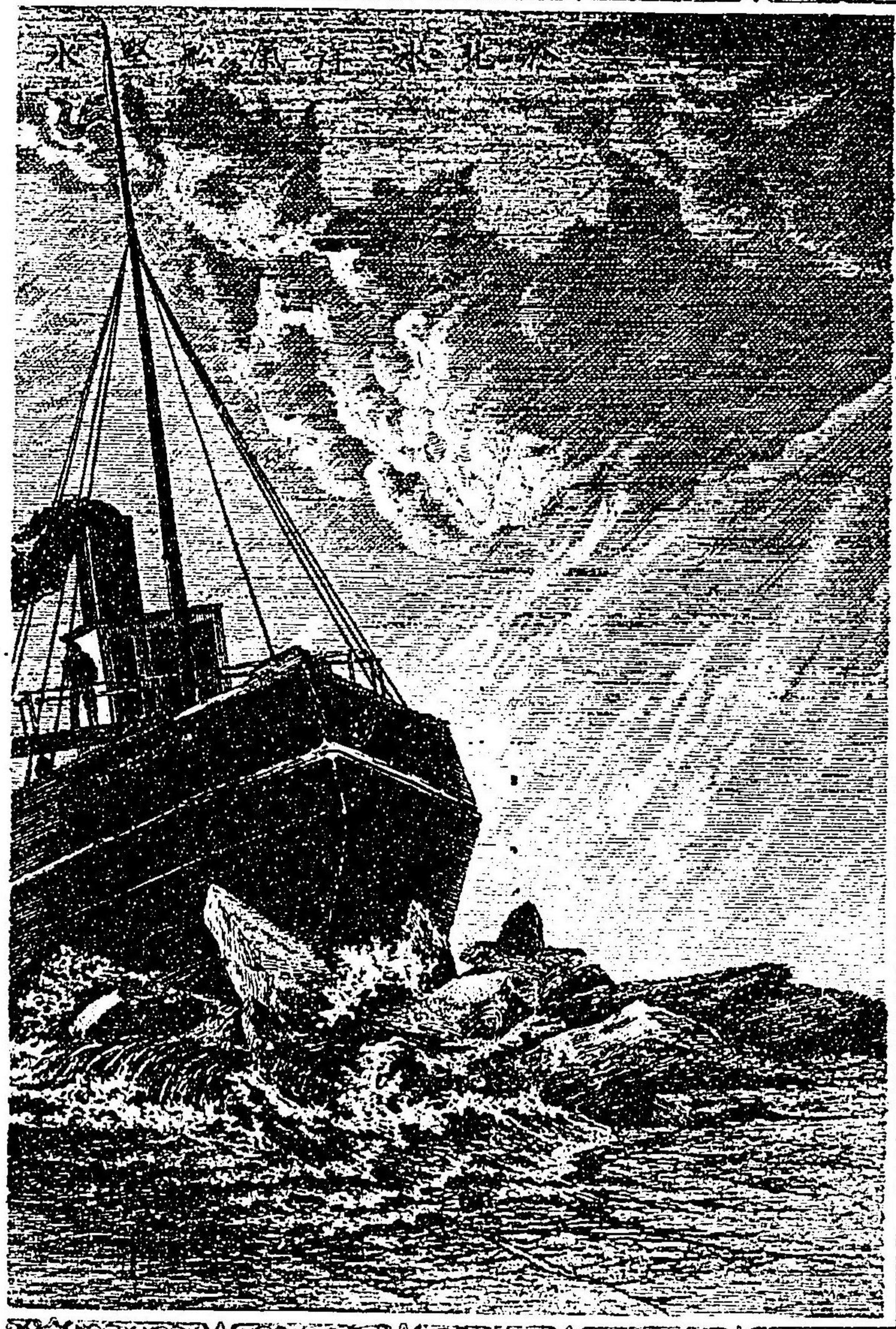
VIEW OF ARCTIC SEA TRAVEL

北極海航行之景象



長洲長景

LING STEAM BOATS, WITH MARCH,



北極海航行之景象

魯西亞人風俗



松盛堂始創阿爾

世界萬國名所圖繪第四卷

緒言

一 北極の地帯に於ては、  
 東西の絶てなき  
 北極の地帯に於ては、  
 東西の絶てなき  
 北極の地帯に於ては、  
 東西の絶てなき

今 回 登 克 の 第 四 卷  
 哥 里 蘭 の 着 船 行 して  
 氷 山 雲 野 を 旅 行 して  
 氷 の 室 に 住 居 せ る  
 人 情 風 俗 其 の 航 して  
 大 鯨 澳 を 視 終 り て  
 氷 洋 一 面 張 結 め し



堅氷を衝破航行し  
久しき昼と長き夜の  
緩急順序をすたし  
再び開化の境に入  
馬廐は廣漠無邊  
二三の都府は巡遊  
上下の不和を察す  
國民の卑屈怠惰ある  
希臘へ渡りてこの國が  
伊太利國へ進み行き

那威國は上陸し  
間は宮む業の  
瑞典國へ発車して  
魯西亞國へ渡航して  
瘠地を荒野を走せ通り  
壓制政治の實を視て  
土耳其の國へ廻航し  
著あ微多る國家を目撃し  
古昔の盛を想ひ遣り  
古代の羅馬を追懐し

談撒帝の傳をよき  
詳知するを得べき也  
紀えの初め地の底に  
掘出したる奇を賞し  
國運進歩の象を視つ  
小國強兵國民が  
佛蘭西國を核をりて  
是は行木をあらためて  
糸に至りて擱筆す  
経歴したる各國の

古今羅馬の盛衰を  
ポンパー村は杖を曳き  
埋没したる都會をば  
奥地利は渡航して  
瑞士蘭は着車して  
義氣は富めるの實を知  
馬耳塞は着車しつ  
阿非利加洲へ航するの  
奇事と美觀は悉く



世界萬國名所圖繪卷之三  
旅行

南枝醇先生校閱

青木恒三郎編輯

佛蘭西國之續

巴黎府之記

巴黎は里昂の北の方鐵路二百九十五英里  
佛蘭西國の首府にして塞納河の西岸に跨  
り海より遡る、一百拾有一英里河は三十有  
三の鐵石橋を架け渡し府内を分つ三大部、  
其北方をウルと稱び南岸の地は中央をシ  
チーと稱す是を巴黎、パリシオランの旧地  
よて市街商厦基布極比其南方の地方をば  
ユニヴァルシチーと名稱し公園ありて緑樹

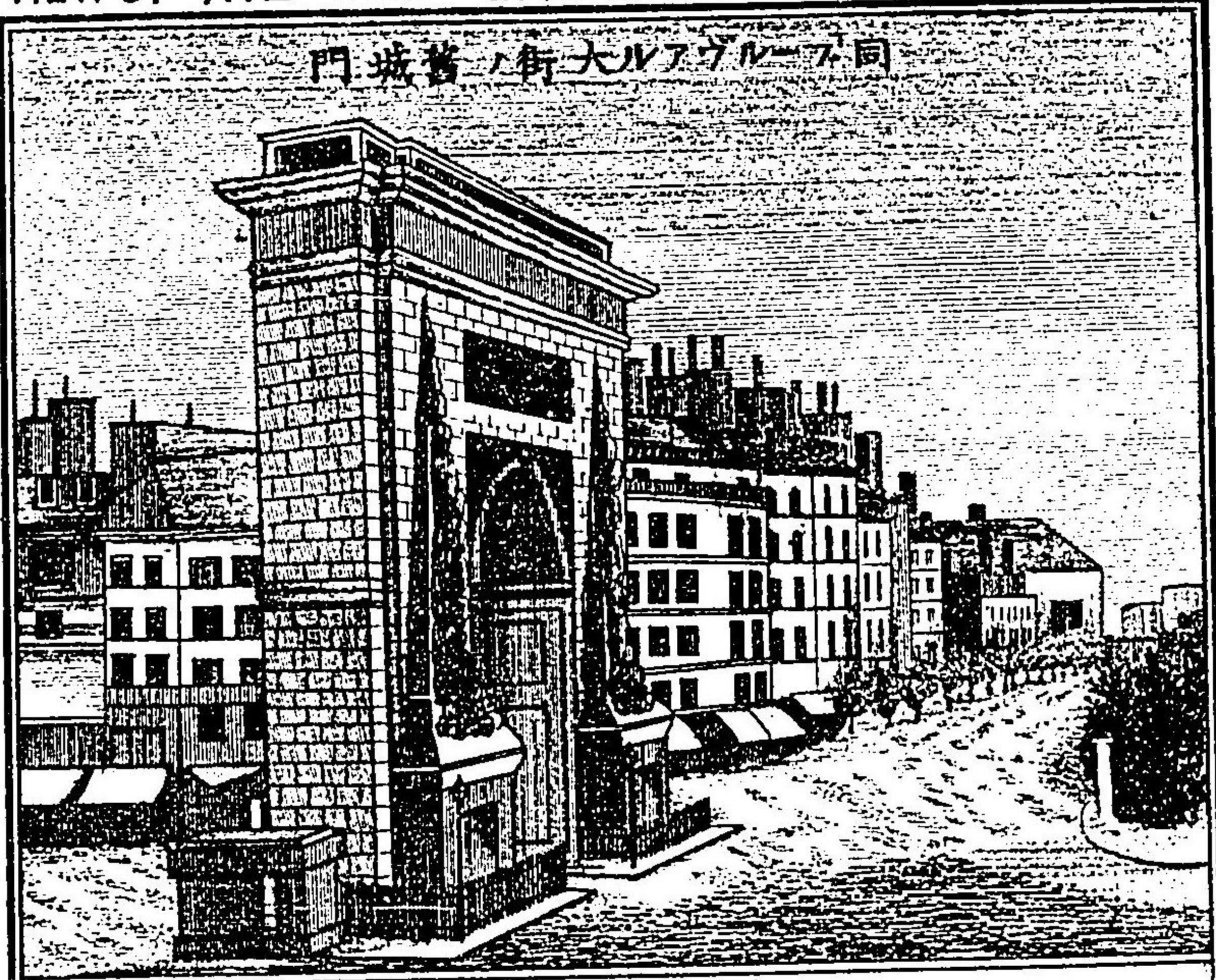
写真を掲げて詳説  
他亦し本書の主旨たるや  
諸君よ示して吾國の  
故に其畫の下様は  
必ず之に對するの  
圖畫の如何に不抱  
注意熱讀玩味して  
利益を得らざらん事を

明治十九年一月

然るに讀者の願あり  
世界各地の大勢を  
進歩を謀るの點あり  
畫の説明を書し後  
評論愚見を附たまは  
あり其美は物たるを  
編者の微志をくみ玉ひ

編者識

VIEW OF THE OLD GATE OF BOULEVARD



門城舊ノ街大ルアブル同

を設け街上の行人歩行に難ならず都人は競て時々流行新趣の衣を着し新陳交代限りあり龍動其他歐洲の各府の人民は皆まきを習ひ模して着用す各國地方の人民が都府を慕ふは異ならず当府の市街百年前區域最も狹隘は屈曲道路多かりし然も一世拿破崙世最も名高き威力以て(一世拿破崙は)歐洲諸邦を戦争し捷て收めし財宝を傾け遂に矮小の家屋を毀ち大屋をば断然総て取除き千コロリ宮より北郭迄長さ三英里の域を改修て凱施門を心點として四方より十二廣街を開設家屋の築造五層より七八階を構成し今は吾界に双びなき建

VIEW OF NEWMARKET



トウケーマ新同  
リナ場市

を植へ清爽宏麗人をして廣苑佳景の象中居住せしめつ東北は製造場の數多く職工市街を設けたり又府の周圍二十余英里是に住する人口は一百八十二万余世界中彼の英京の龍動てふ府を除く外盛を較ぶる都府やあし殊に家屋の築造や道路の清爽快美なる龍動迎も此府は教歩を讓る盛府あり今其一班を掲げんは龍動府中は地の下より市街を設け空中に車道を造り繁雜且製作の盛なる石炭烟は白日を蔽じつ雨露も亦黒き思をささしむ斗にて清潔あらざる場所多し是府は然らず市民をば一大園地を置如く市中各所に遊息の勝地

THE SUN SHIELD OF GLASS  
ON THE MARKET

九



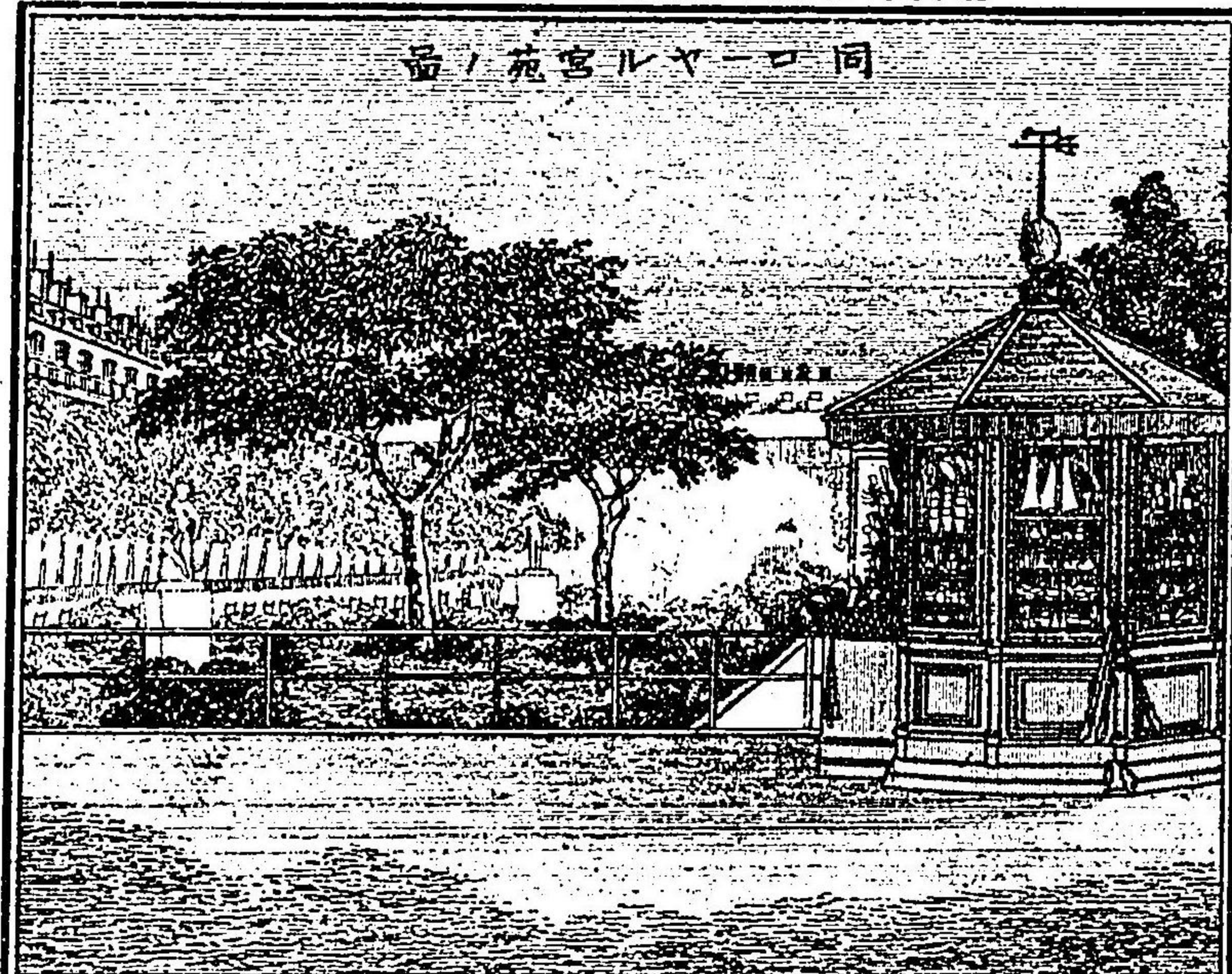
街市の上屋で、物販

は開きたり今ふ古代は造りたる石門處々  
 遺存せり  
 パレローヤル宮苑はシチーの部内は名  
 高し高を看て其美を知り給へ其下層は  
 市塵あり珍玩奇器や奢靡の品時々風流の  
 具を賣せり、其他シチーの旧衢は道幅少  
 し狭けせど街上玻璃にて覆ひたせば常  
 日光を透さざほし風雨を漏さず往來の人  
 は雨をば知らずと云ふ兩中府民は徘徊し貨  
 物の賣買自由あり、  
 凱旋門は西北位八方四面する廣街の輻輳  
 極まる處あり周囲二町四方余の平地の中  
 央に雲聳ゆる白石造りの巨門にて高さ

PALAIS LOYAL

八

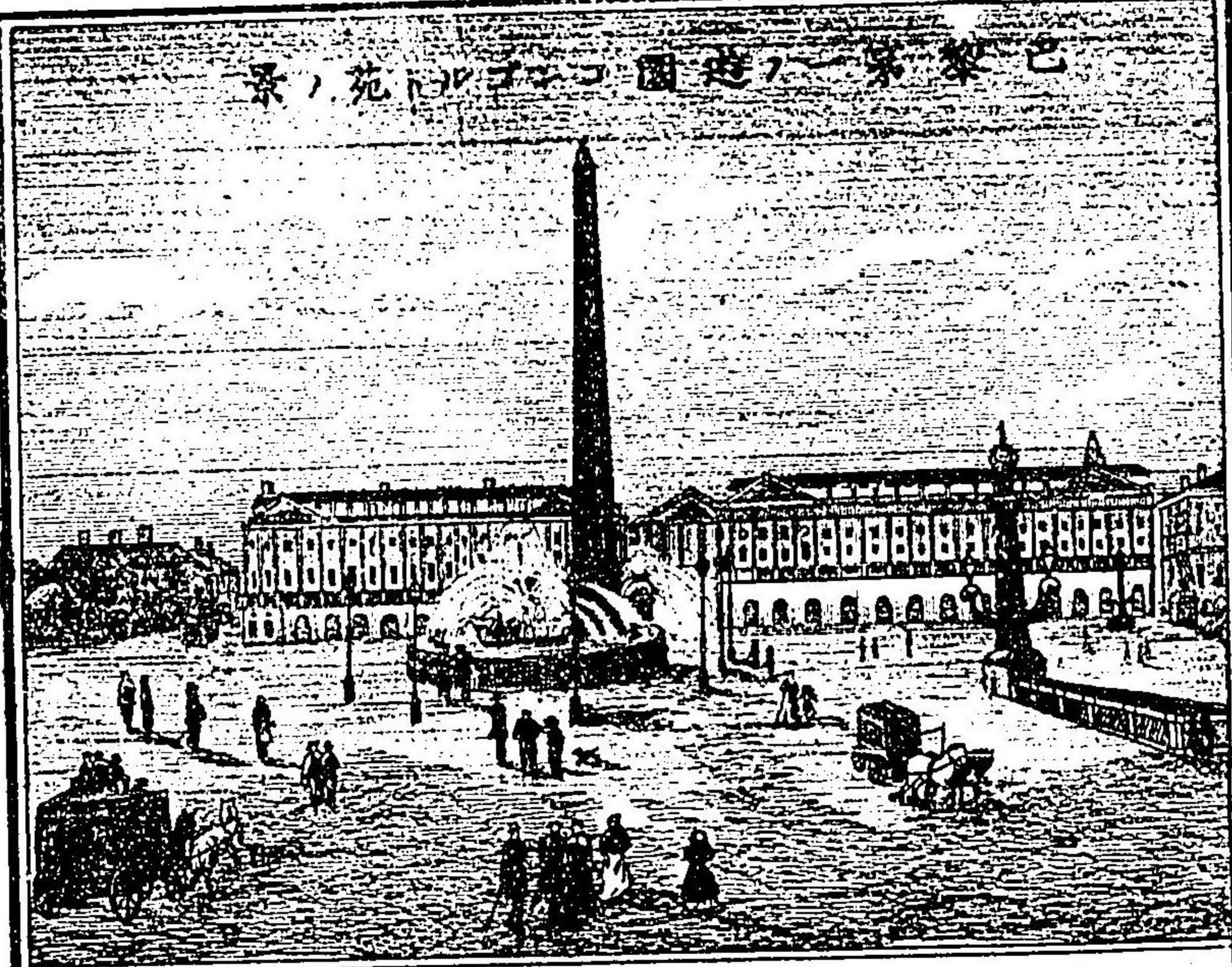
品ノ苑宮ルヤ一ロ同



築至盛の名を得たり府の周圍は土壁あり  
 處々夥多の砲臺を設けて外侵の防禦  
 とす又關門の備へあり是にて府内へ輸入  
 の商品に税を課すブルヴァルイタリヤ  
 ン街府中第一の夾街を巨大の市塵壁を比  
 し街路の兩側樹木あり都人士馬車の往來  
 は晝夜絡繹絶ゆるなし市街一種の叩き土  
 車輪の響き更なるを倫敦府より静多り扱  
 此巴黎曠昔は羅馬の國の諛撒が攻取此處  
 一城を建てパリシチランと稱へたり其後  
 次第に増築し遂に大都とありしと云ふブ  
 ルヴァルは其時及外郭にして聖壁を匝した  
 りしが拿破侖一世の代に取毀ち此市街を

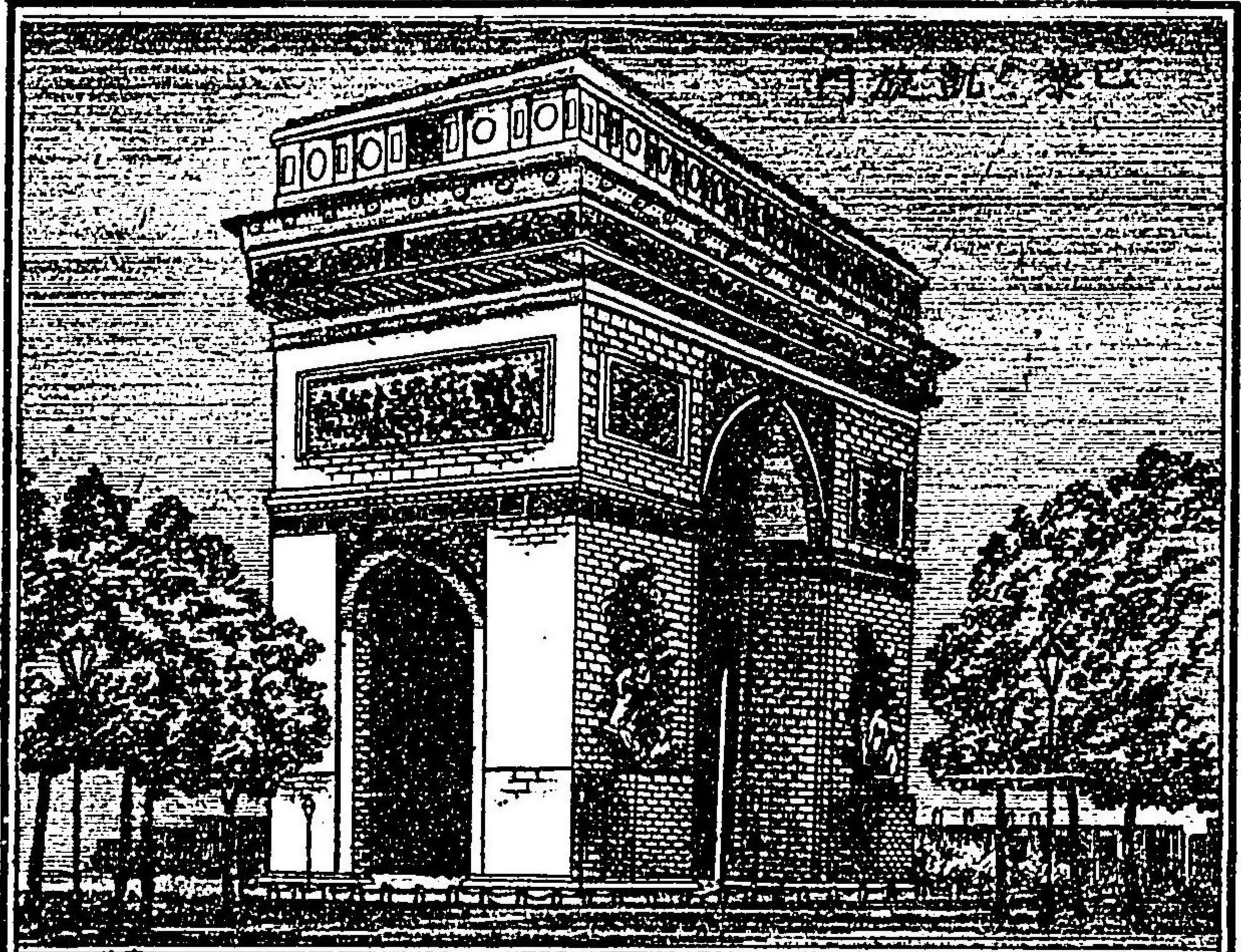
卷之三

PLAGE DE LA CONCORDE, PARIS



シヤンセルゼーてふ廣街をすぎ衝当ふる彼のチュロリーの宮殿の前ある廣地を占め苑中巨大の石盤の中心より水を噴飛し且石造の大像は盤の傍に建立す又此苑の中央に埃及國より遷したるオプリスキてふ塔ありて高さ二十六メートル蓋し紫紋の一本石古代に造りし塔にして埃及國の奇品あり然るに地底に埋没して甲斐なきものを拿破崙一世深く惜みつゝ、機械を以て掘出し此地にわざと持歸り建立したるものと云ふ此園畫は明沙よて雪かと思ふ斗あり又大小の緑樹あり三伏熱暑の時として嵐をおもりて以と冷涼且層樓や傑閣や

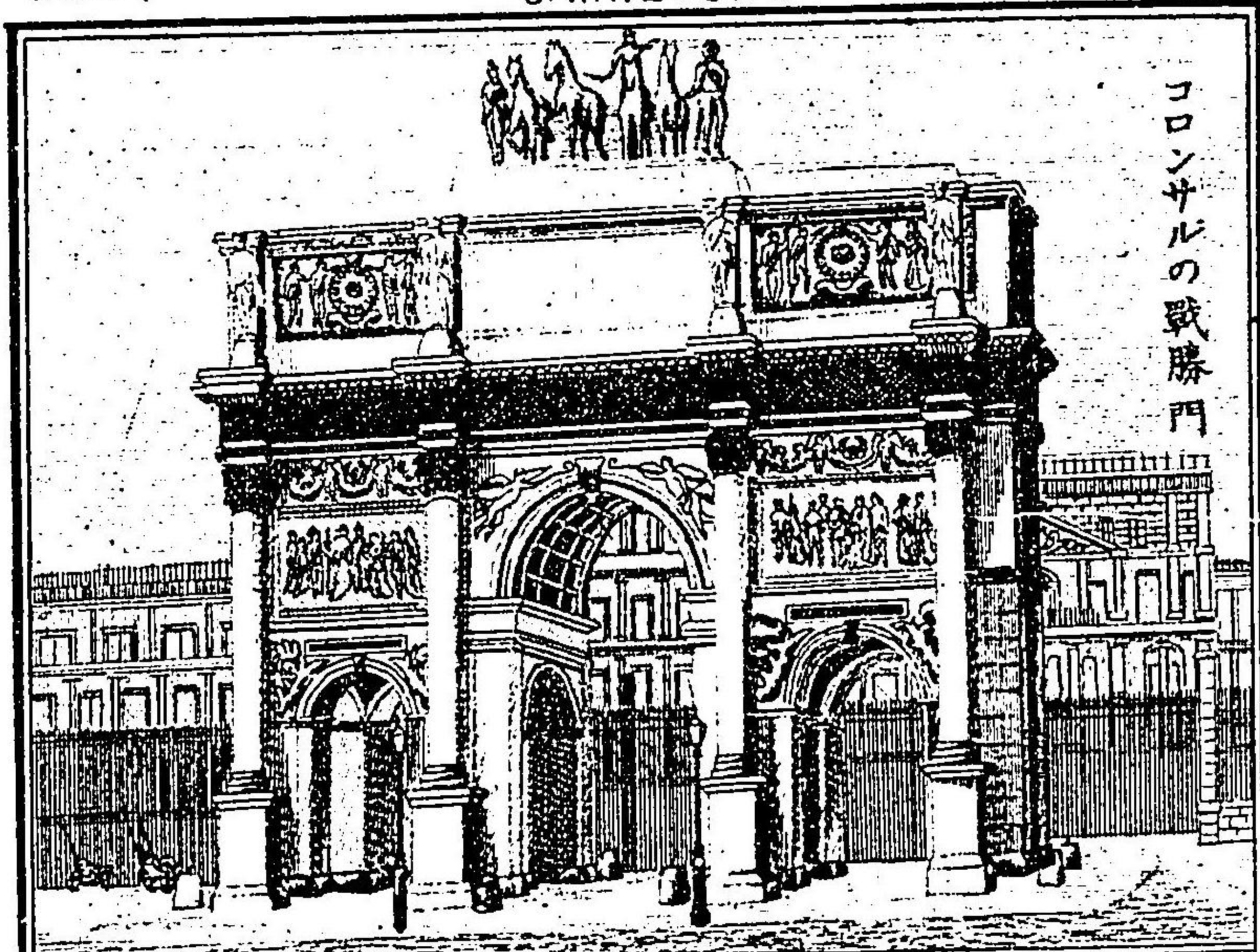
ARC DE TRIOMPHE DE L'ÉTOILE



四十メートル余然り而かして正面の幅員二十メートル余側面の巾十メートル門の中央十字形の道を通て其地面総て白石を敷きつめり又西面の石壁の外は総て神人を描き鏤め殊に其戦の勝を畚したるは彫刻精密極まれり其景象の壯麗は巍然として聳立し状觀る者喫驚せざるをば此門の造營は彼の拿破崙一世經營せらせしものにして路易非立てふ王の代に前の大統領たりしチエルの深を尽力し漸も工作を竣めたり故に落成したるより四十余年を経たるのみ

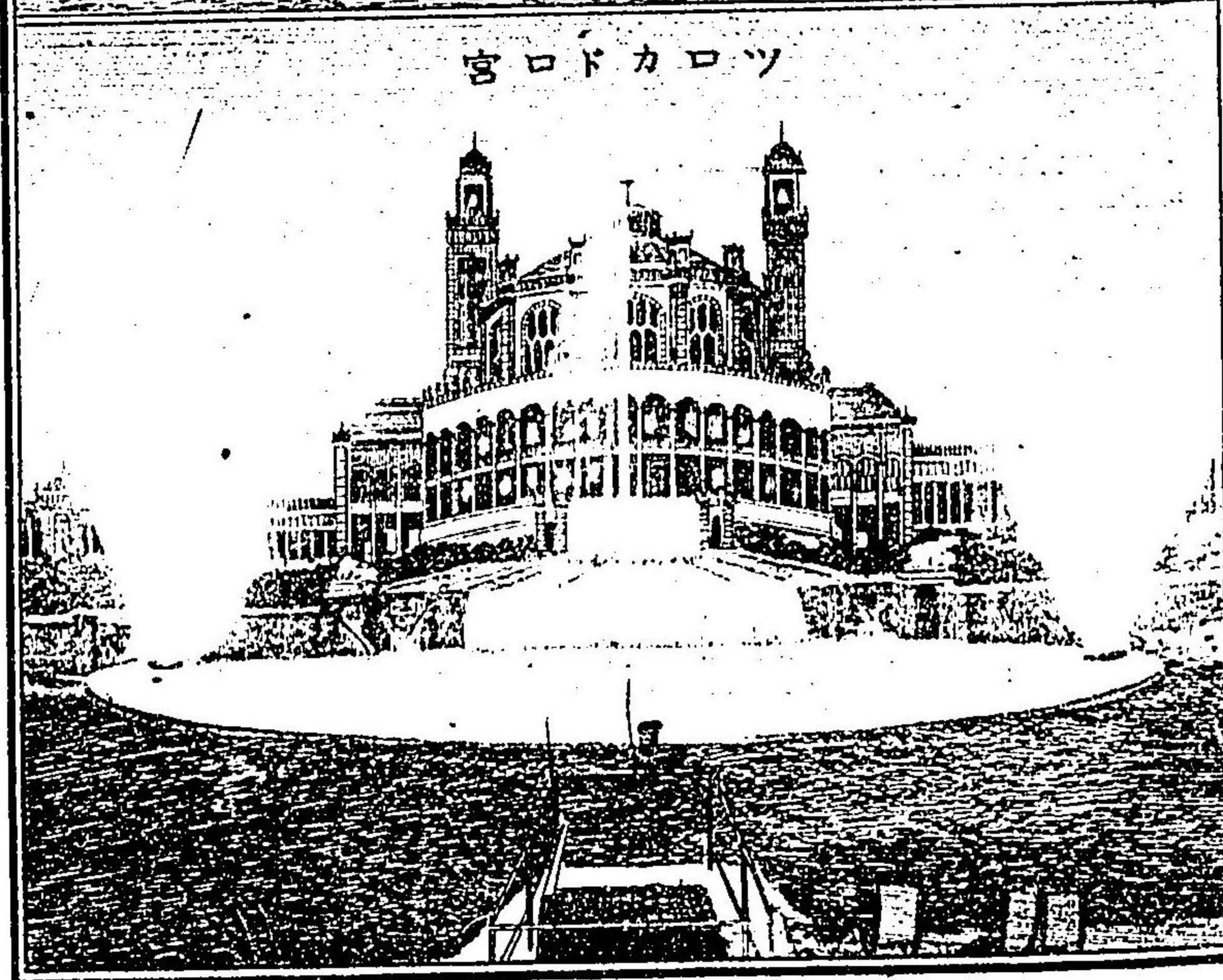
ゴンゴルドてふ公苑は凱旋門の正中より

ARC DE TRIOMPHE DU CARREUSEL



コロンサルの戦勝門

宮ロドカロツ



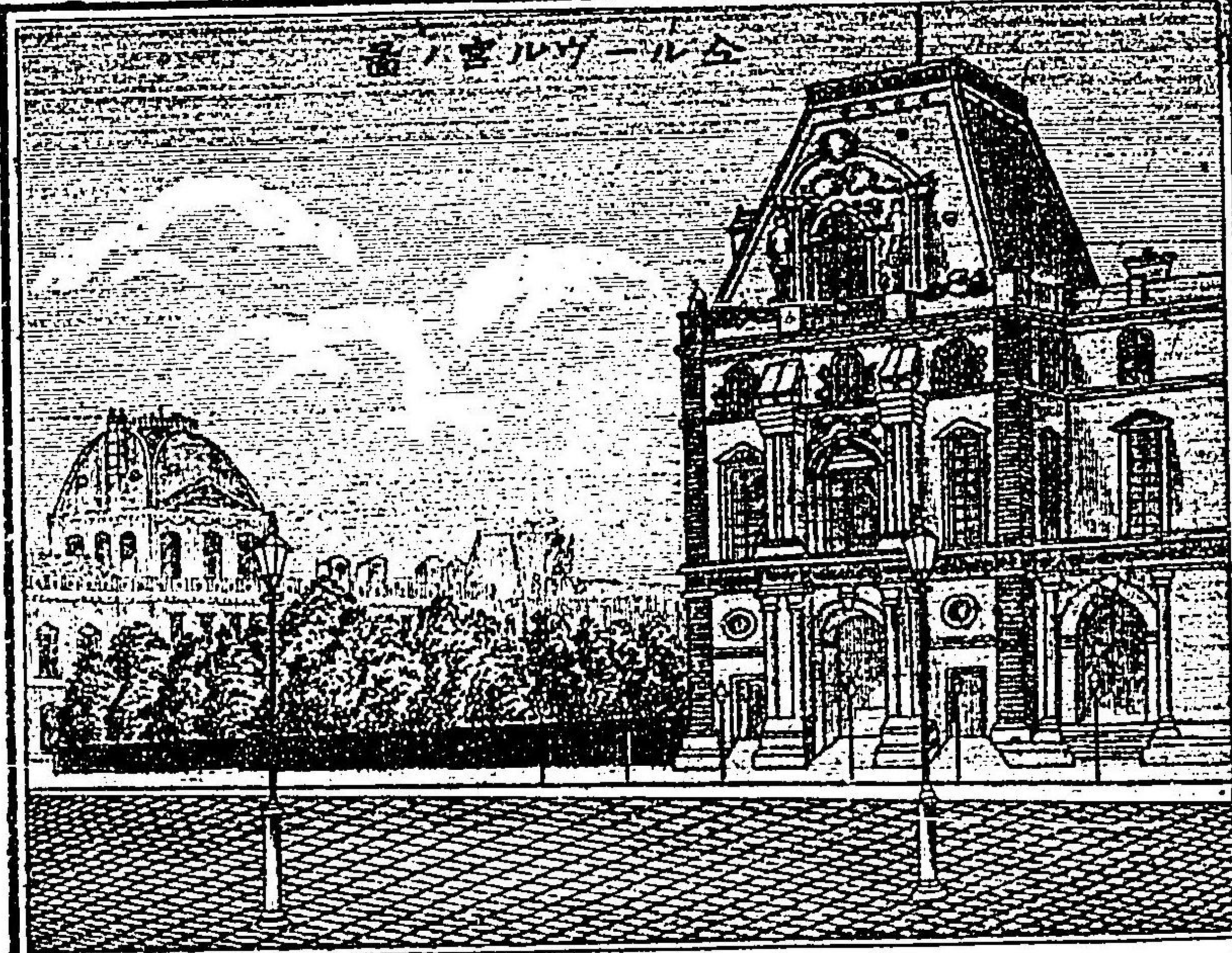
LES TUILERES

宮ーリロエチ黎巴



樹の抄上は露を夜間氣燈を點せば彼の  
 の天球を倒し浸すが如く見ゆるあり  
 チュロリー宮は凱旋門正面にある巨宮よ  
 て是を世界に並ぶき宮殿と云はしらるる  
 し宮中敷居の花を抱き其造營の結構は鈍  
 き筆一つをさす此宮は有名のカクリ  
 ナテメジンスてふ皇后の創建するところ  
 其後顯利四世の代は尚も増築擴造し路易  
 十四世の御代となり莊美を極め皇居とし  
 爾后廢帝三世の拿破崙まで居宮あり  
 ルーヴル宮はチュロリーの背後またて  
 美觀あり路易十有四世の君創りて之を築  
 きしが彼の拿破崙第一世を修築改造

# LEUVEAU LOUVRE

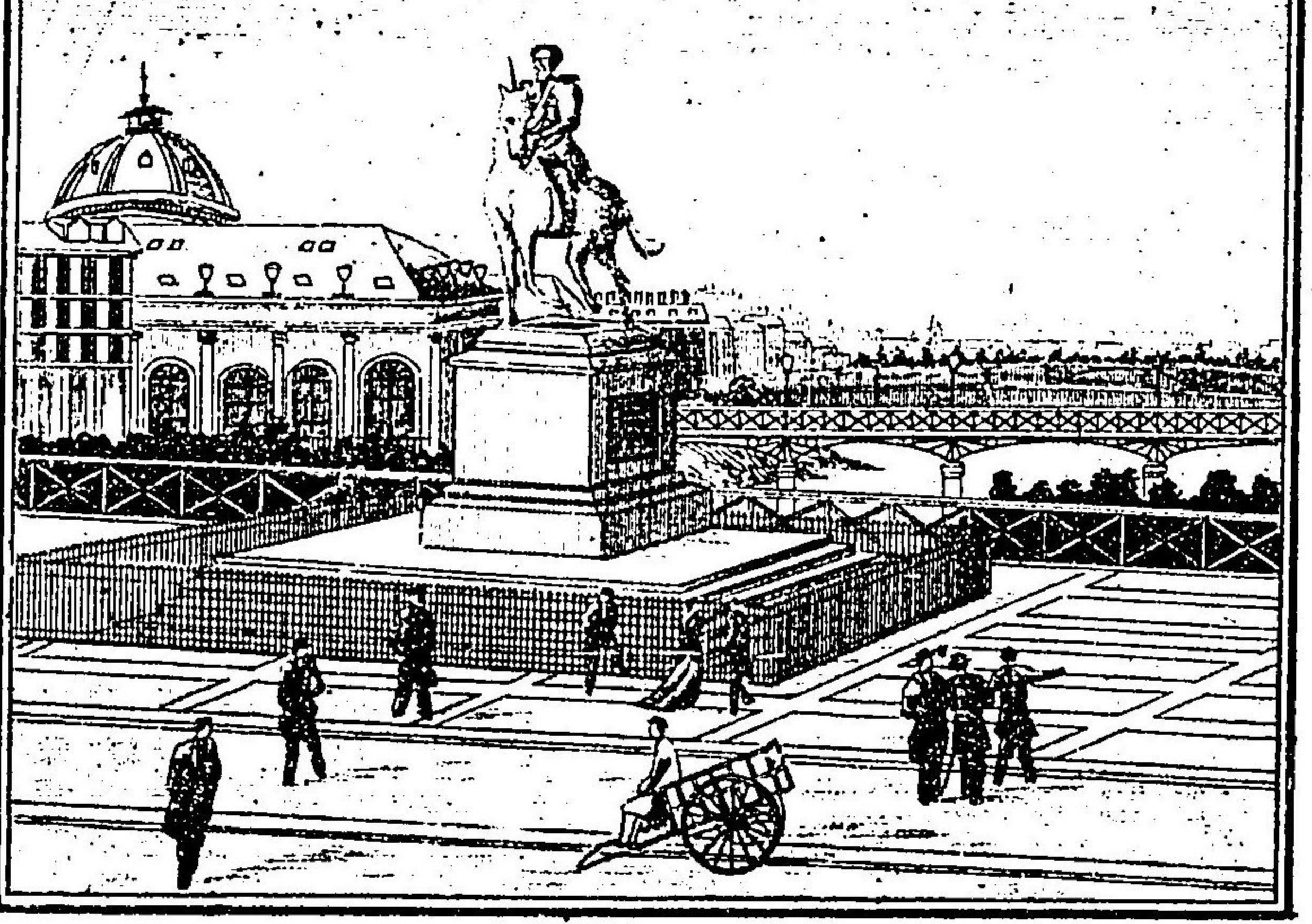


しチエロリー宮と連接す宮中一弁拿破崙  
 遺物名畫や雛形や古器諸機械を蓄へつ空  
 庫となして衆人又疑觀せむ其殿宇峻巍  
 宏麗其内部滿眼金華燦然たり  
 七月標は銅製で高さ十有三丈余頂上鑲金  
 の天人を安置す其世は名も高き革命亂の  
 其際人民頻に暴動し壓制邪惡を極めた  
 る其本元の惡むるきハスチールてふ牢獄  
 を毀ちて志士を救はんが爲め死したる  
 人民を埋葬したる古跡にてその愛國の以  
 さほしを永く子孫に傳へしめたる紀念の標  
 と知り給へ革命亂の事は後文ナポレオン  
 顯理四世の銅像は塞納河の二派とあり再

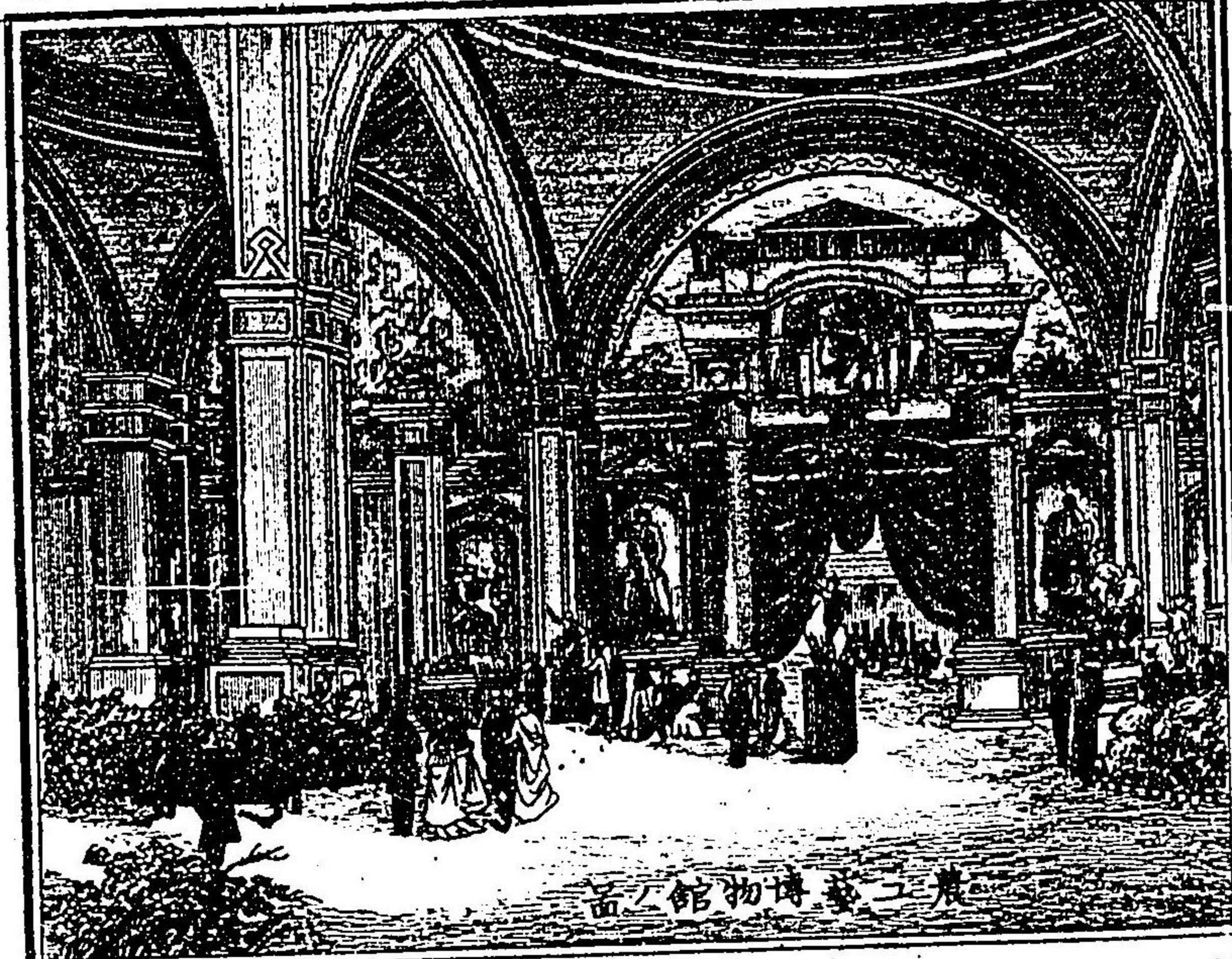
# OPELA HOUSE OF RIVER BANK PARIS.



COPPER IMAGE OF HENRY IV.  
像銅世四利顯

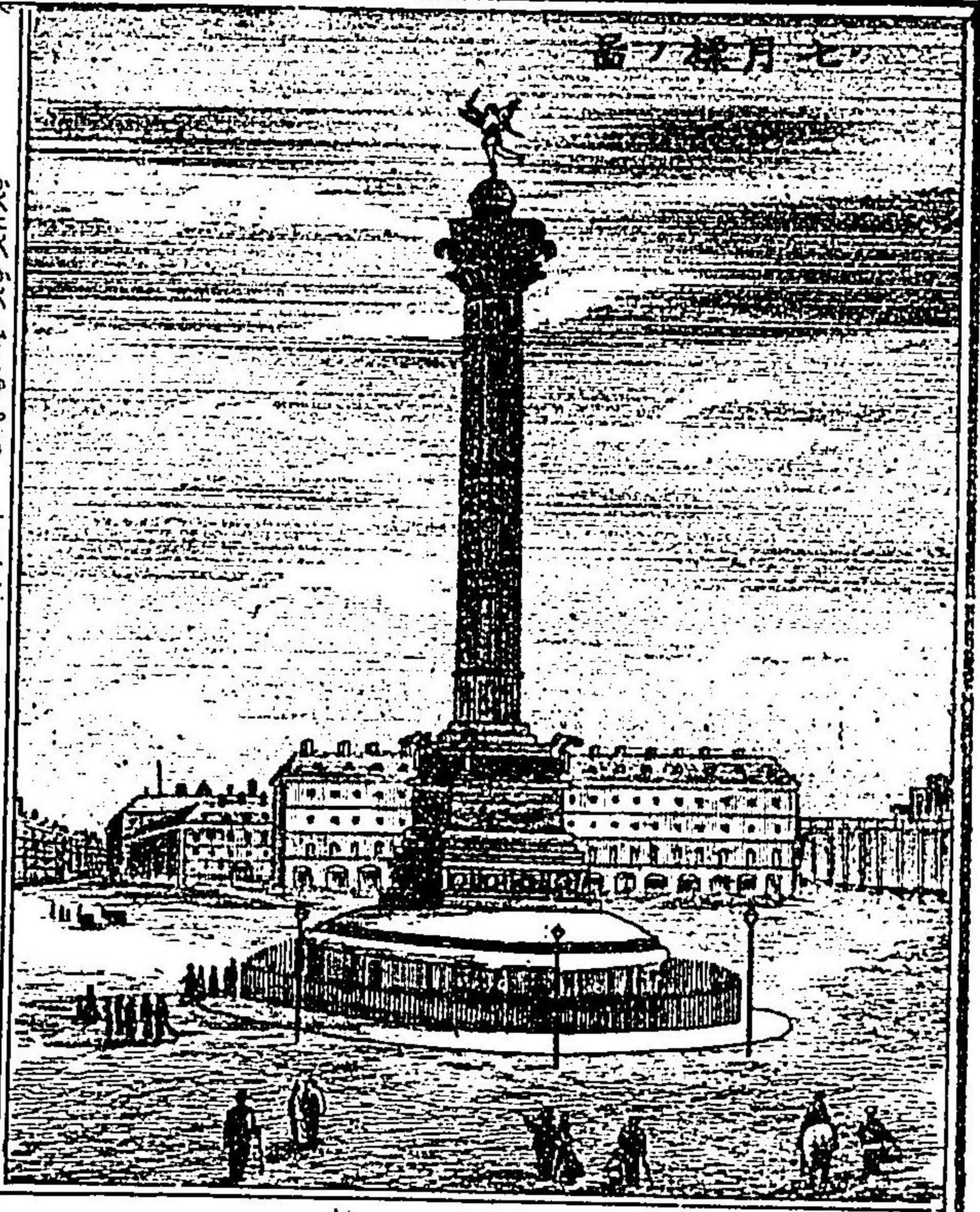


PARIS EXHIBITION OF THE FINEARTS GALLERY



至せば鋤犁鋤鉅や其ほか各種幾類の利機  
 と鈍具を取集め水車水碓風車の類風磨の  
 雛形相馬の品土質の品や百穀や穀限りお  
 き艸木の種子悉く備へあり又蠶をば數十  
 倍形を模造て其腸の機管を品しつ時又  
 蝶の形を造り出し側齒の種類をば陳列視  
 しつ其上層に紡織器械も完備せり陶器玻  
 璃器を製するの器具も皆此中よりありか  
 ばも玻璃を或器にて細き線を製造し綺麗  
 なる織たる錦あり工藝の奇其妙はまよ至  
 りて極きり此館にては毎月一一定の日各  
 科なる専門博士出で來り諸藝業の講義を  
 し市民は無料にて聞かしむと佛人眼より

COLOMNE DE JUILLET. 四十

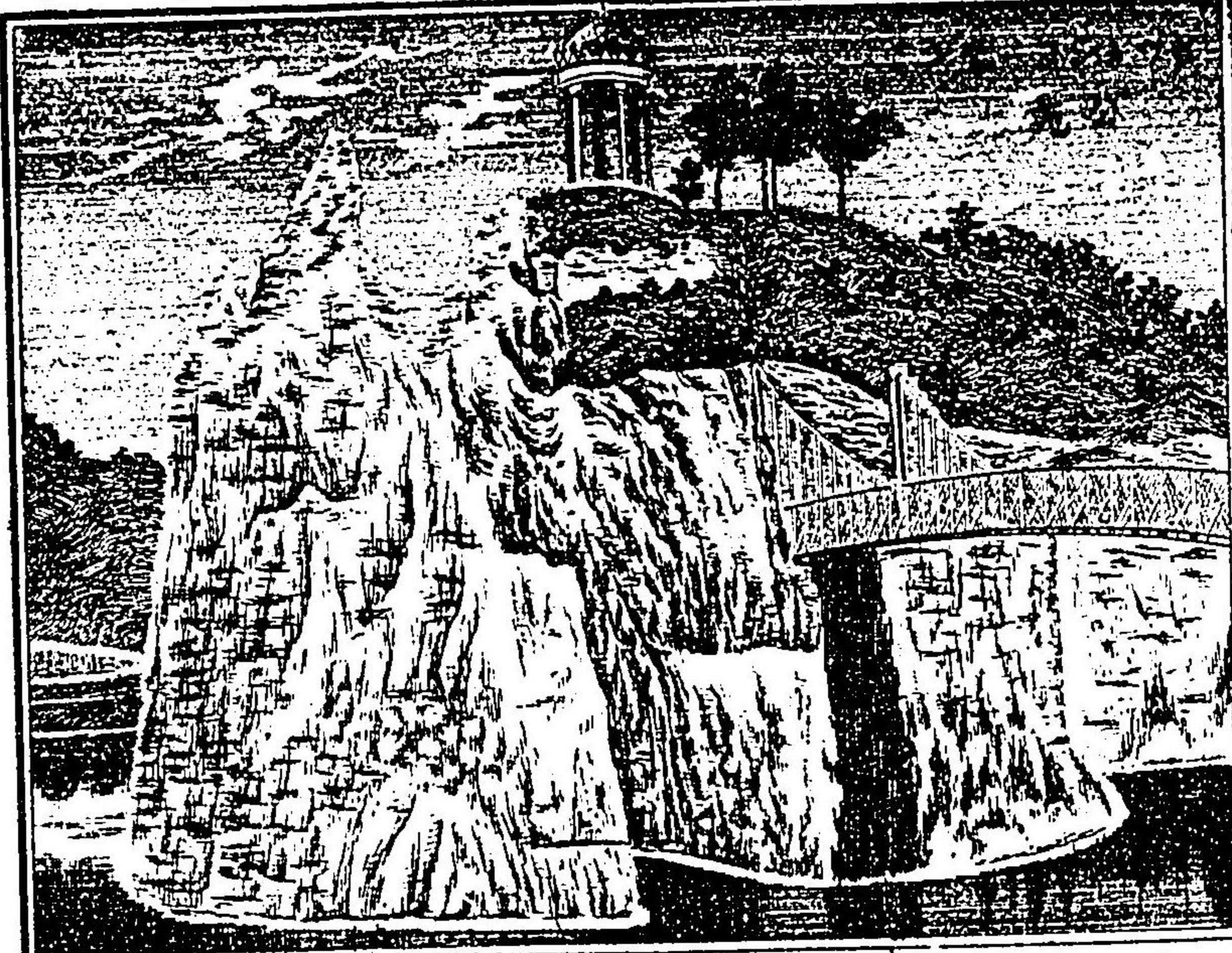


ありて各國各自主用の、數千百種を集聚し其粗なるに至りては東洋各國常用の秤の種類  
 に至るまで一も漏たるものはなく利害得失比較して一々評を加へたり又製鉄の諸器具  
 真個の雛形を造りたし其火爐の雛形は割るを疊むをからしむ又農具を陳列たる室よ

び合す不處たるホンニユフ橋  
 のかたわら威儀壯麗の巨像  
 まで景色頗る佳致ありき  
 農工藝の博物館政府の公建し  
 美館まで全體石にて造営す扱  
 此館は工藝や農業上の諸器械  
 精粗細大一として備らざるは  
 あらずりし今其秤衡を蓄へる  
 室は百種の秤衡の精は錙銖  
 を千万分爲するき精緻のもの







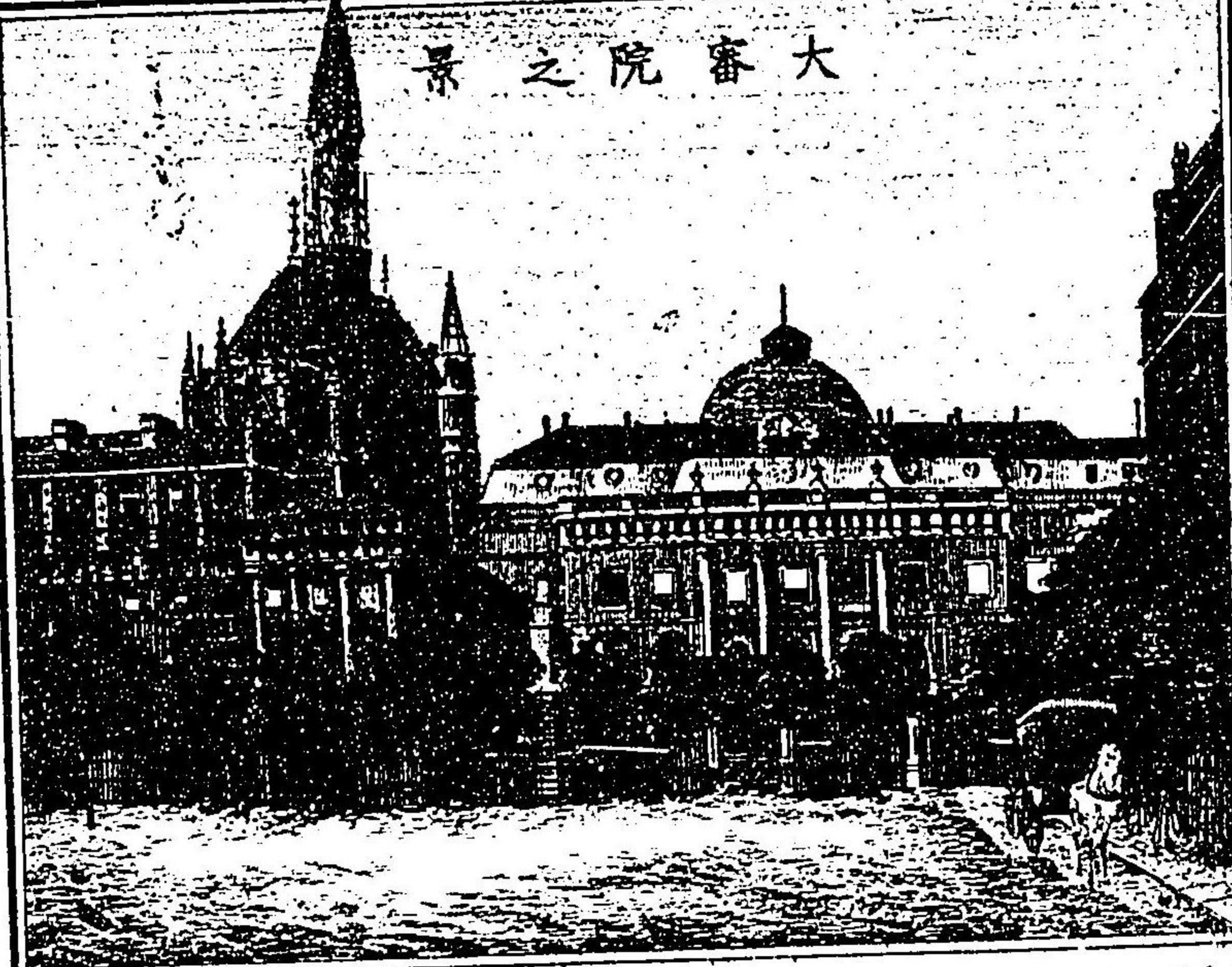
ピットシヨールモン公苑は第三世の拿破侖  
 巴黎府の生産工業を盛らふして其利潤よ  
 り八拾余萬鎊を費して此公苑を築造し職  
 工諸人の遊地とす地積一百エーカーあり  
 緑樹蒼草岡を掩ひ岡側岩石壁かし奇石の  
 巖々多るをなす又教犬の瀑布あり池あり  
 岡を環繞す瀑水之に注ぎ入り池上高車よ  
 遊亭あり鐵籠懸橋車よ架せり此より俯瞰  
 する時は巴黎府市街は一面に我目睫の間  
 に落つ眺望廣濶山水の奇韻雅致多る他は  
 比ふし其他公苑多けせや繁は渉をは路す  
 べし  
 大審院は佛國の裁判所の首としてセイ

跡焼宮ールクンサ



サンクルー宮跡は府の近郊にある邑とし  
 てセイム河をば前としつ長岡を負ひ庭苑  
 ありて高きよ據りて宮閣を建て一千六百  
 年代に拿破崙第一世共和政治のコンシユ  
 ルとなりたる時は此宮を政府を設け爾後  
 は王の避暑せし游豫の地最も名高き旧跡  
 不然るは先年兵燹の爲めは烏有と化した  
 りき今は地基や石級や殘礎石像等を視る  
 され共苑の光景は猶遙遙に宣してて巴黎  
 にもあるもの休暇には塞納河を下り来て茲  
 には休憩散步しつ晩涼は棹し歸るとり猶浪  
 華の櫻宮や向黨の東京よかけるがぶとき  
 きまぞかし

COURT OF JUSTICE, PARIS



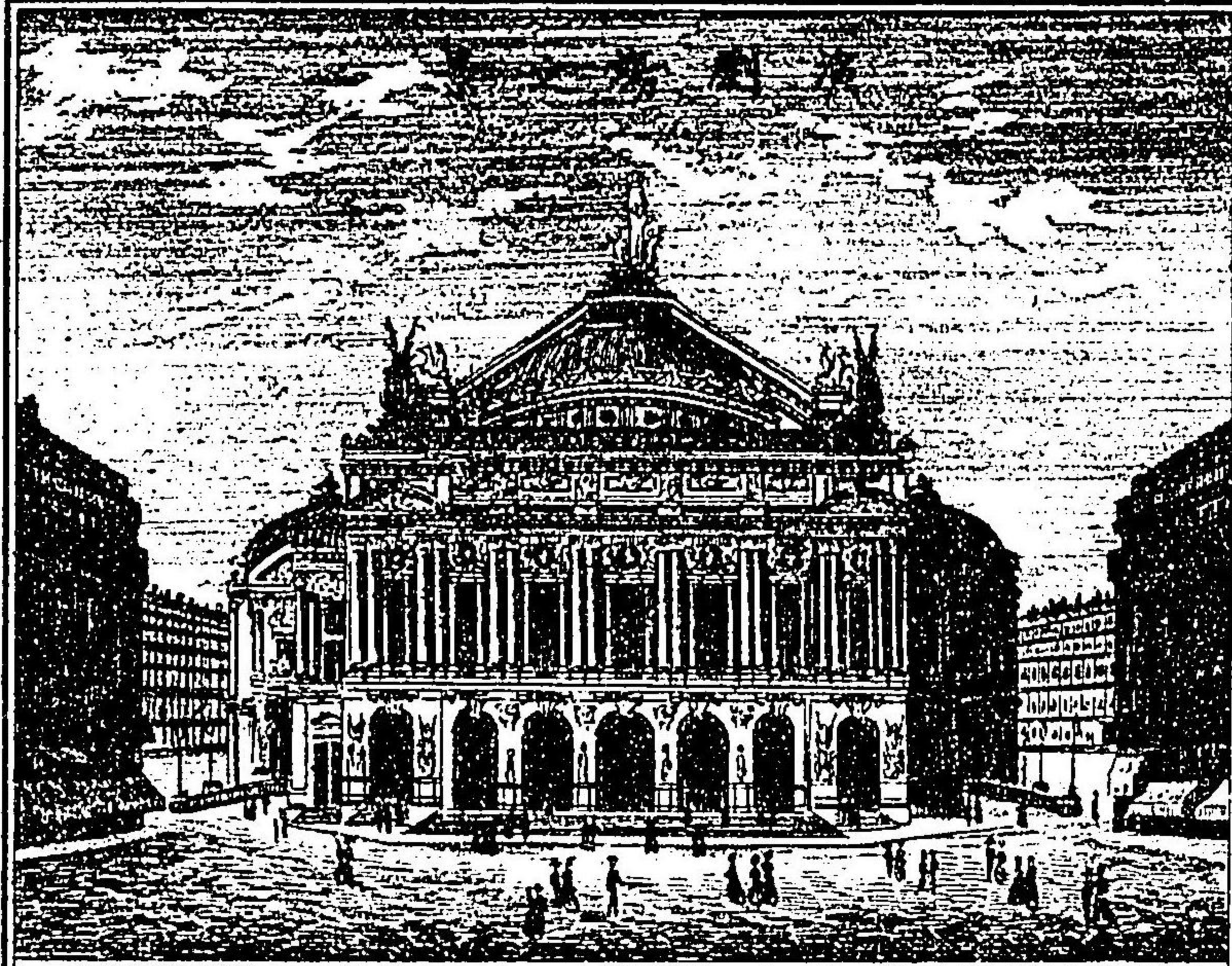
大審院之景

此牢獄は巴黎府中至大の三階造りにて地積廣潤我國の七千五百有余坪七方面より輻輳す其中央に説教壇を設けて法僧ども囚人教化に尽力す然るに囚徒が宗教も種々の異同ある故に法壇各別設置せり獄中書庫や讀書室最も清潔よしつらへて書籍を與へ讀ましむと在牢中も役を課す他國と敢て異りふし、

○演劇場は巴黎中大小數棟あるをせや今上より二三を掲出し併せて演劇の仕組をば聊かお咄致するし其劇場の構造は面を視て推知せらるるし、

扱演劇の藝題は種々様々の別あせと元

PARIS NOUVEAU-L OPERA 十二



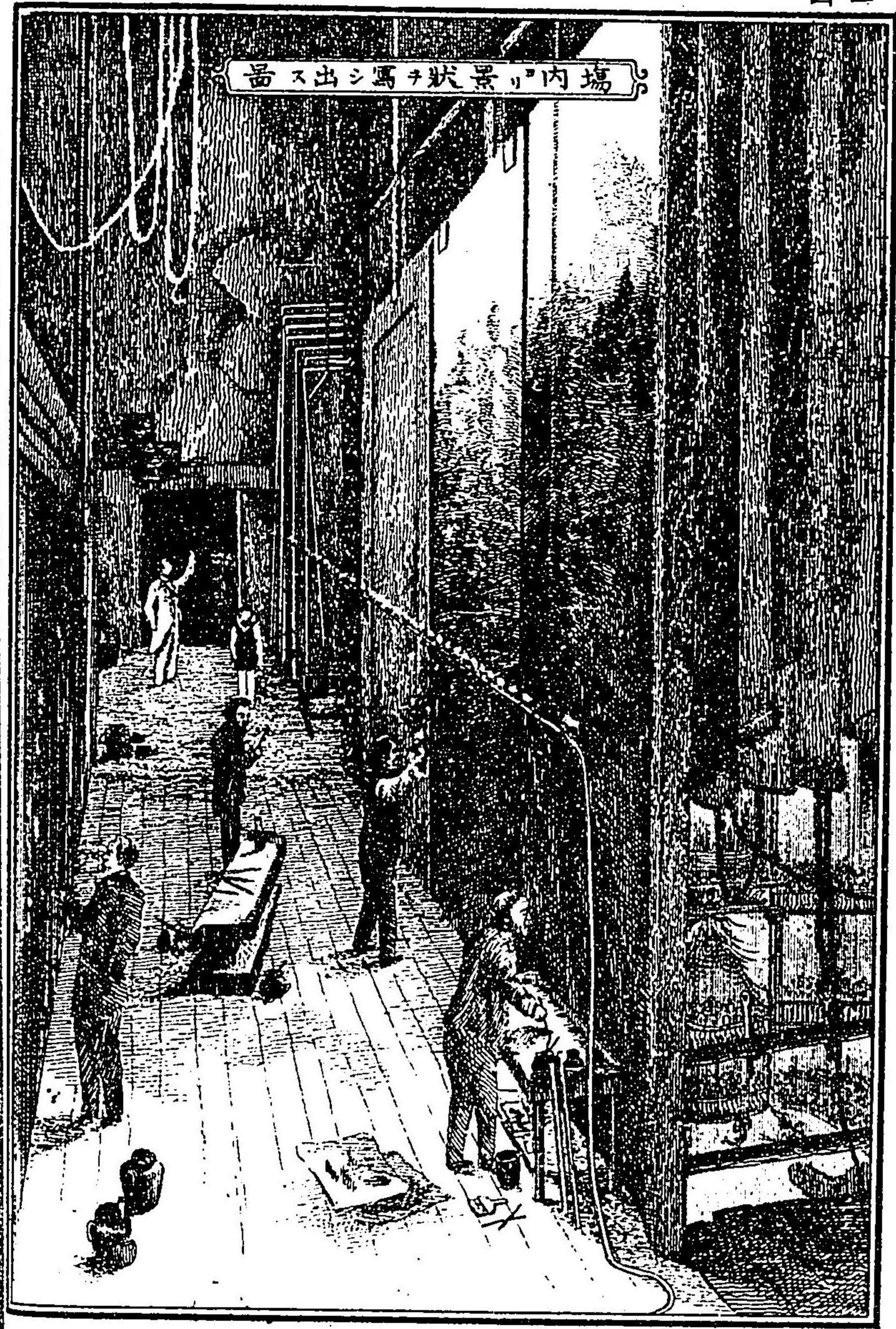
河島の上より今より四百余年前羅馬のカドリーキ宗教の全盛極めし其時佛蘭西自國の富強を輝かして造りなり其構造の莊麗なる筆紙名状すなからず満室雕績其光華實は目を眩す汁あり柱壁藻鏡美を尽す此は古代を行ひし慘酷刑の状を畫き時昔のさまを顯はせり木を抱き壓挫するもあり首級を斬りて飛すあり烙して殺す刑もあり焼あり裂あり縊るあり後來の刑を蒙る役人どもの戒となす裁判所の正堂は禮拜堂の設けあり欧米諸國の例とふす蓋し誠を善ひまし訟事を判決するよよ





ても憎しとす彼を今来らば余は將よ其面  
 よ唾せ女而かして彼を黙視せばボクレン  
 家の榮譽ハ忽ち地よ墜ちんのみと無此演劇社  
首尾家ニカ  
イドランホシレンノ西家務リツルカ事故アツテ祖先ヨリ送ヒニ敵視シ動モス  
 トハ闘争ニ及ベリ而シテカイドラ家ニ一女子ガシレン家ニ一男アリ私カニ屬  
 ノ思ヨキ事ヲ嫁送セテラスト由臣西家職ヲ任セテ結フ不能ヲ以テ互ニ未  
 世位權ヲラント約スル勢勢トシテモナリ而シテ右邊ニ出テタルユ一ガ  
 ヲシゴトシテ二人ハ何レモカイトトシ 既よしてボクレンの家  
 臣は両士の語を聞きて忽ち此處よ出で來  
 り憤怒よ堪へず問て曰咄汝余が面よ唾す  
 ると言や夫き如何ボクレン家臣ハ名ゴータン答  
 へて否余は唯人面よ唾せんのみユ一ボツ  
 ク進み出で、モースよびるを問て曰汝が争  
 鬪を好めざるや果して然らば吾輩は汝の好  
 敵手たらんのみモース憤然答よみ汝能く

内場ノ景ヲ寫シ出ス



余が腕力に抵抗し得る者たらんやと双方一喝同齊に大刀を抜き劇闘す未だ教合おらずしてカイドラングの夫婦来つカイドラングは急劇に大聲一喝呼でいふ汝の輩胡為を丈夫を如此なる誰かある余は刀を遣せ其婦諫めていへるやう這ハ是を奴輩の一獠狂瀧かよ小勇を闘すのみ何を良人の宝刀を所すは足らんやと夫猶且呼でいふ刀を遣よ刀を與せ老賊ボクレン今將は此處よ来るべし時よボクレン婦と俱に從者を幸ひ出で来り大聲疾呼しつへるやうカイドラングよ咄汝猥りよ余が途を遮りて胸首處を異にして後悔する勿きよとカイドラング答ふらく汝老賊恣長舌揮ふ事勿き余今其根を切断し復る將は汗声を聞かざらんと欲すあり双方既よ刀を抜き互に奮闘勇戦す時は橋の向より警譯聞へて羅馬王侍從を数名隨へて徐々然と来王ひつ橋背に立高聲に両士の名を喚び寄り王も兩人喫驚三退四歩方よまゝを去らんとす王は嚴布沮め王ひ大罵り曰ハハ咄汝不遜なる敢て公街を憚らず國家の為めよ不良を番り市民の治安を妨害す朕將は汝等を寸断すは易すけきと汝の輩は恩は恩は恩を啖り動もせハ其上を陸深し愧を知らざる微蟲のみ朕若し刀を下さん其



汚穢限りまし且汝が父祖どもハ皆國家の功あきハ其罪を特赦せん若他日復暴舉せば死罪以て償ふも猶ほ免さざるべしと両士沈黙齊同に三拜九拜罪を謝す王は侍從と去り至ひカイドラングも從踵し帷幕の内へと入りよけふ後よ妻よボクレンの夫婦と並ぶボクレン臣よ問ていふ汝チユンを見ざるやとチユンは別ボクレンの臣家臣答へて言へるやう微臣早起城西に散歩せし時旭日ハ未公昇らず朝露尚ほ繁として林風ハ層を襲ひ單衣は冷氣を感ず其時よ一個の少年樹の間よ逍遙徘徊すあるを眸を定めて熟視せば即ち儲君チユンありし臣以為談時ふは黎明然るよチユ

ン君の林間あるは必ずや特種の事由ふきを得ずと乃ち疾歩進踵す既よし又以為  
 恐るば又チユン君の心事を妨害せん事をと因て行立し稍暫時公の舉動を覗つり須  
 臾よしして又終る其御姿を失へり今は何きよ居給ふや微臣知る由ありとボクレン  
 小首をうちかたけ再び臣は言ふらる彼を賤息黎明を侵して連朝樹林間彼方此方  
 徘徊し東天旭日昇る頃乃ち家立立歸り窓櫺を鎖ぎ又深を帳帷を下して諸人と相見  
 かるを嫌忌せり彼をチユン蓋何事を愁苦てか其き如此なる余未だ夫を之を審知す  
 る能はずと此時遙か向よりチユンの姿眼に見へて龍鍾然と水流は浴ひ杖を曳て出  
 来るボクレンハツト心附き聲を低めて臣を呼び汝且敷實情を探りて以て余は告げ  
 と此場を懸して婦とも暮の内へと入りよける  
 家臣モースは打領きチユンを喚て立禮し儲者幸は恙なきや朝露未だ乾をふし恐る  
 バ王趾を濕し以て邪氣の尊體を侵すあらん請ふ自愛せよとチユンは徐々寄り来り  
 雲髪垂きて肩に付き紫衣長々膝は低き金整の刀を帯び銀釘造りの靴を穿く一瞬瞭  
 然問ずして其豪族の子弟たる詳知するを得べきなり愁然として臣は問ふ今はそを



何時ぞとモース答へて閣上の時辰九時を  
 報じまは幾くも過ぎずとチユン嘆息し曰  
 へるやうに猪粉々神乱を愁情切々何ぞ夫  
 せ一日の永きやとモースはチユンの顔を  
 覗て問てふ何者の怪物あつてか尊君の  
 心緒を煩悶せしむるや請ふ幸は奴は語を  
 臣不敏と魚又以て慰藉す所の策あらんチ  
 ユン曰を「黙の心は懸る者ふしとモース  
 推知し言ならく貴君の憂ひ王ふ事微臣既  
 よ熟知せり蓋し戀慕の一念の外あらざと  
 恐察は果して然らば他の花を別園は探り  
 以て之を遺却す可き也微臣為は奔走し蕃  
 の牡丹か盆栽の小櫻若々は雲中の梅花か

或ハ空谷の幽蘭唯夫を尊君の命は従ひ探るべし請ふ幸は明指せよ微臣敢て願ふの  
 みとチユンは其言を聞き畢へず心將は言ハんとし口未だ遠び得ず聊か耻ぢる色あ  
 つて漸をモース言へるや「汝の忠情余之を陳謝するは餘りあり然りと雖ども一  
 天下恐らる余の意は適するの花とはあかざるべし」と手を拱きて首を低せ「三歩一嘆  
 愁然と橋を過てぞ去りよけよ、モースは主君を目送し佇立久しや而してあたりを眺  
 めて歎じぬる噫不解の者は夫を戀情あふかなと鼓一齊鳴り響き觀客拍手喝采の  
 声と共に幕下るコレニテ一幕閉タリ此時三幕中観客酒ヲ嗜フ命アルモノアリ旋道所ニ走ルモノアリ或ハ又眼鏡ヲ以テ核  
 影ヲ映シテ眺ムル長アリ欠スルモノアリ仲スル者ヲ千狀驚愕人ヲ言々サト叫ハシムルニ至リテ其語聲ガ如ク維道歩  
 致テ異ナリトコトナシテ

此時一の合番あり早既は燈燭は光を放ち燦然と音楽合して幕揚る時は舞臺の正面  
 ハ老樹蒼蒼淡烟の之を裏みつ缺月ハ朦朧として濃雲の方よ之を吞む如し左よ一の  
 高樓あり藤葛之は纏被せり右の方よは圮墻あり藓苔之を掩匿す音楽歇みて一声の  
 疎鐘は速を微雨を曳き四顧凄然夜将さよ三更あらんとぞ忽ち見ふ両手よて籬を排  
 し半身を露出する者あるを其人兩衣を身よ纏ひ笠を載き而して長劍帶徐々然と樓



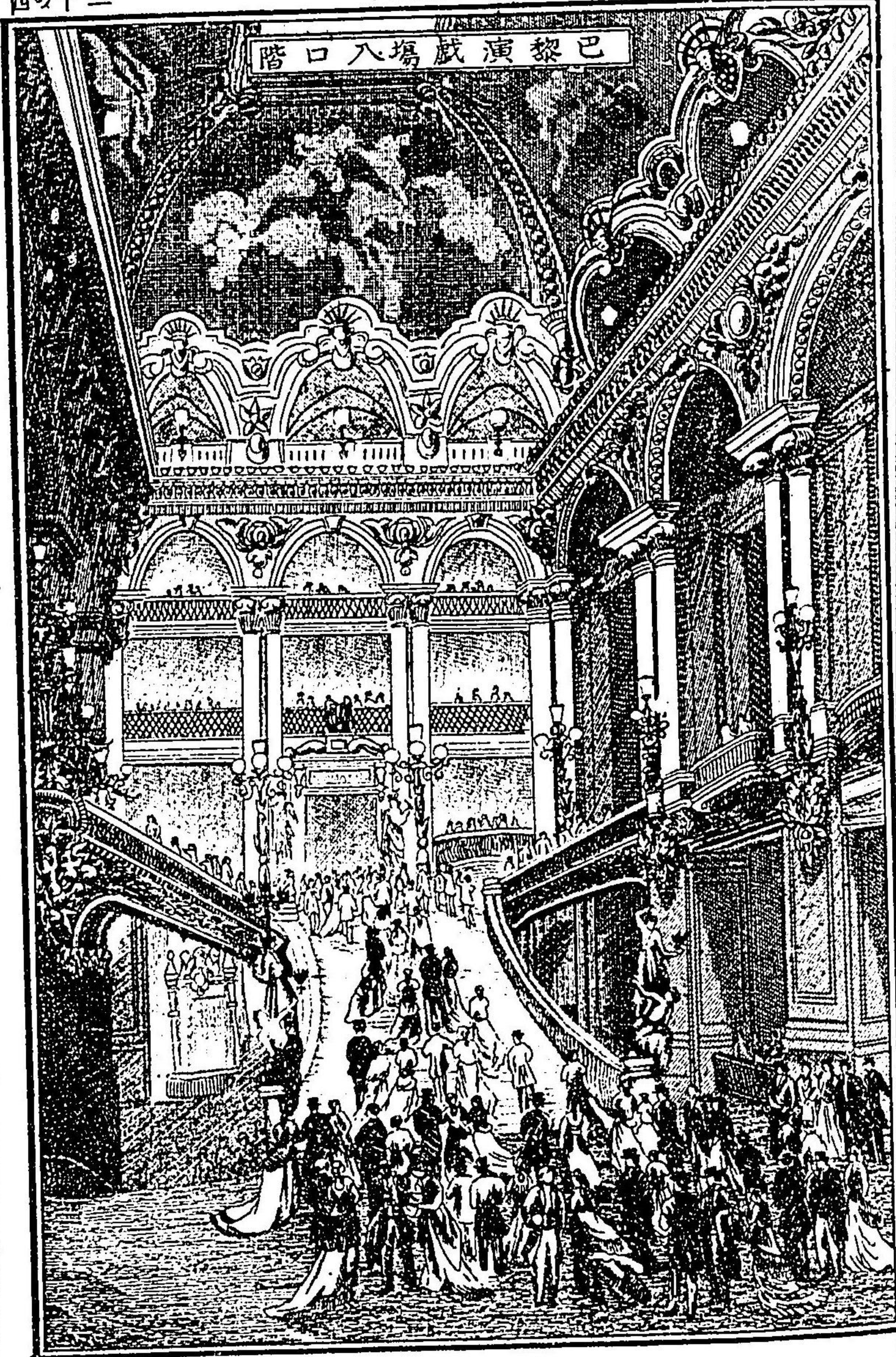
下の傍は出来る此時樓上一麗妹現せ出て  
 櫛は梵る年齢二八可あり白衣白帶鬢髮は  
 雲の如く背後は垂き姿儀整齊蜂首蛾眉艶  
 麗にして濃ならず清ふして又淡ならず淡  
 眼愁を舍の状彼の海棠の露は泣風情の如  
 く傷し、此時樓下の一人は兩衣を褪り又  
 涼笠を脱ぎ是をさむ以前のチユン氏あり  
 樓上の燭光を仰視して心私か想へらる  
 今繡帳の燈光を漏せしものは何人か硝子  
 戸を開けしは相違多しと此時淡雲僅か露  
 せ缺月又微を漏すチユン眸を凝して樓上  
 を熟視すせば日頃我思ひあがる、サツク  
 ラが、サツクは則チ獨語天を仰をあり其声耳采



聞ねど恰も心事を訴ふ如し千ユン茫然として佇立せりサツクラ獨語をし畢り俯して忽ち認め得る吾樓下人あるを頭を延べて熱視せば何ぞはからん日頃我戀慕ふ君千ユン氏あり錯愕乃ち呼んで曰ふ郎君々々何處より能く致し來せりや圮墻高を起へ難し且つ郎君ハ妾が家の擊敵させバ家臣若し一覽せば郎君は生て再び郎外み出て玉ふ事能ふまじ千ユン答へて言へるや余鳳鸞の翎を籍り比翼の羽は騎し以て一飛土墻を超へ去らん級令教丈の高きだも争てか余が切情を隔つる事を得可けんや又生きて今の世は夫婦なる事能はずは死して來世の伉儷を契約せんと欲すのみ豈に余一死を恐怖して情を疎す事を得んやとサツクラ曰を然せども彼輩若しや君を見れば君命詢は危険あり是を妾が敢ておぼ憂慮する所以ありと曰を若余を彼の輩と認めらる事あらば我を奮闘して死せんのみ是を却て生命を全ふしなから卿と又隔離する事勝らん歎曰を郎君誰より妾の此處に在る事をよくおる知るしめされしやと曰わを他本し唯戀情能く余を誘導したるのみと曰を郎君若し妾が前の獨語を聞えあらば恐らば妾を捐棄せん其語や言々少女の差と為べき處あり而

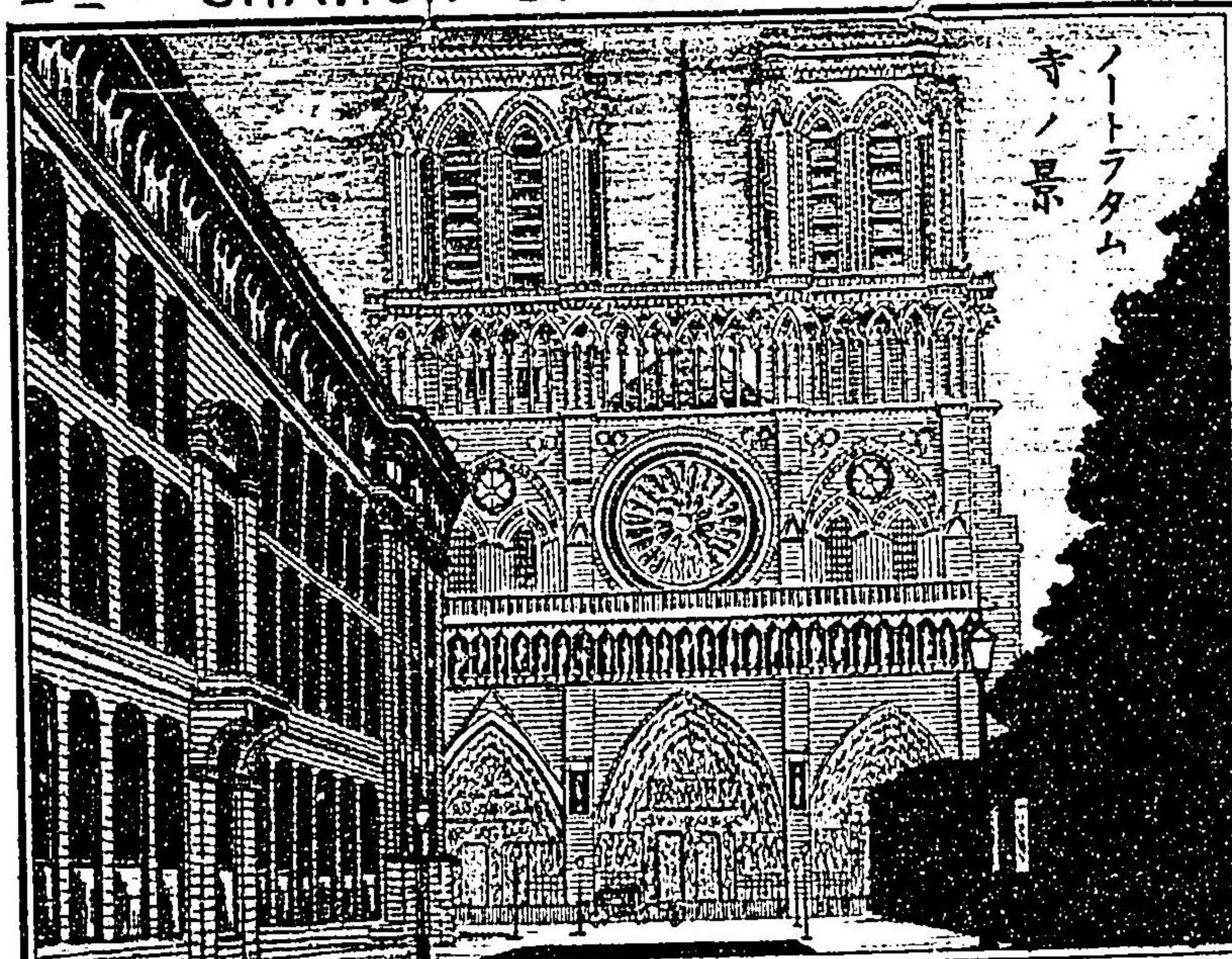
るは妾敢て之を吐き所以のものハ其情の切なるは因てあり郎君尚ほ若し情あらば情好綢繆膠漆も音あらざるの語を番せよ妾固より知る郎君の諾せらるゝを而して妾其言を信ずるし然りと雖ども世の男子多しハ則ち風情水性其は神明と矢て以て千代八千代夫婦の約を結ぶべし歟郎君若し眞に妾を愛せば請ふ妾の輕々情を訴ふを咎め玉ふ事あかき蓋し思ひ内は在る時は言外に露るふりと千ユン聞き了つて林頭を月を指し余ハ彼せよ誓つて二ふきを表さんとサツクラ遽然止め曰ふ請ふ月を對して誓ふ勿如何とあせば姉妹ハ盈缺變易常ならず或ハ恐る郎君も亦彼の月を似ん事と曰を然らば何よ憑り以て矢をたてんやと曰を請ふ君誓ふ勿君若敢て意あらば君の心神を誓ふべし君の心ハ妾を妾の日々を構せる神ぞかし妾信ぜざらんと言ふと欲するも豈に得ざる事あらんやと此時千ユンは誓ハんと將さよ我手を心頭と及ばさんとしたりしがサツクラは又止め曰ふ請ふ誓ふふよ輕卒に此等の事を行ふハ猶電光の如きよて忽ち見ハせ又失す且つ夜ハ將さよ曉けんとす人目も觸せて大事をバ誤つ勿せ君よ君請ふ再會を期すべしと千ユン憚りして曰やう卿の別を促がせ

階口八場戲演黎巴



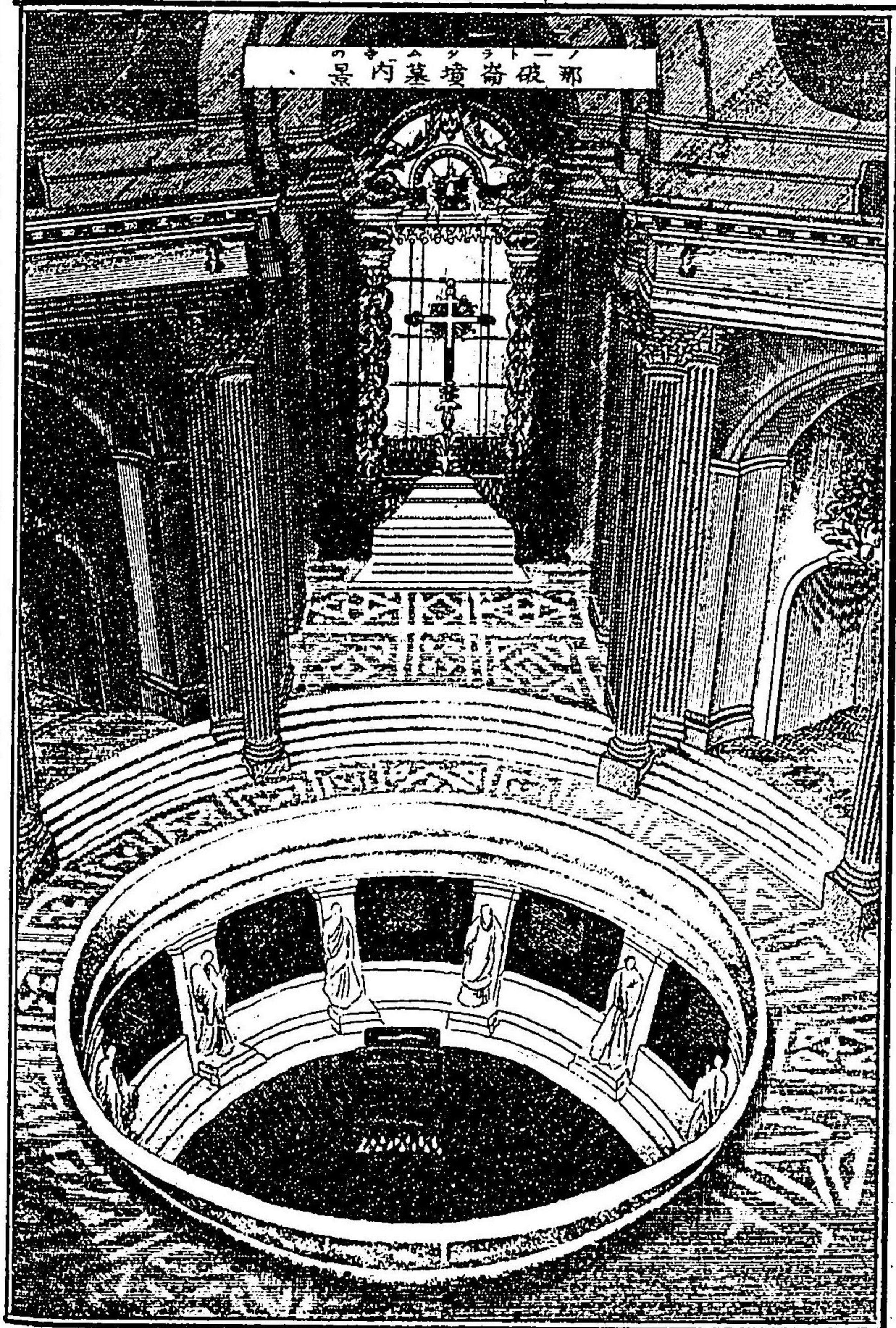
何ぞ此を其を速るふやと曰く妾ハ別る、を欲して然るも非ずかしと此時樓中聲  
 ありて、サックラを喚ぶサックラはチユンに向ひ待女妾を呼ぶ請ふ小門待てよと勿  
 忙樓中に入れば、チユン嘆じて曰く今夜は是を何の夜ぞや幸ひ相逢情緒をば吐露  
 するを得るりしも唯恐る是を一場の春夢も非るからんやとサックラ還た樓上よ  
 出づ樓中又呼んで曰く尊姐尊姐よと曰く今將も行べしと其言未だ訖らぬ樓中又た復  
 た呼んでいふの、尊姐々々とサックラ將も樓中に入らんとして呼んで曰く郎君明日何  
 時を期して以て會せんやと答て曰く午後九時と樓中又呼び樓外又喚ぶ彼せハ女を  
 呼び是せハ男を喚ぶ、一呼一喚呼る、人異にして三声の三度齊しと相呼べり既よし  
 てチユン把掃を超ゆサックラ別顔惆悵と五躰も殆ど裂けんとし、一声泣飲轉轉して  
 倒せぬり、満場の観客一齊に拍手喝采地動く帷幕下りて又上り再び下つて燈滅す  
 編者曰く猶後又數幕ありと虽ども右よて略其景状を盡したれば又茲に贅する  
 を不要其詳かなることハ巴黎劇場新報に就て見るべし

CHARCH OF NOTELARDM



ノートルダム寺 巴黎府中、第壹等の巨利  
 まで、セイン河濱の西にあり、前面雙尖の高  
 塔を築て、外壁彫刻美を盡し、精工風致を極  
 めたり、其内景の輪奐は、藻繪滿面目を眩  
 ぼす、佛國はカトリック、宗教を奉むる者  
 多し、故に寺院は皆美あり、之に反す、英米  
 は、プロテスタント、新教の信者多し、故に寺院  
 は華美ならず、畫像偶像は十戒を犯すもの  
 として、嫌忌せり。  
 拿破崙第一帝の墳墓はノートルダム寺  
 の結構美觀の柱置あり、此處拿破崙破崙匹  
 夫より起り、佛國の帝位を昇り、十數年歐洲全  
 土を蹂躪し、威名を母界に轟し、蓋世の英雄

THE INTERIOR OF NAPOLEON TOMB

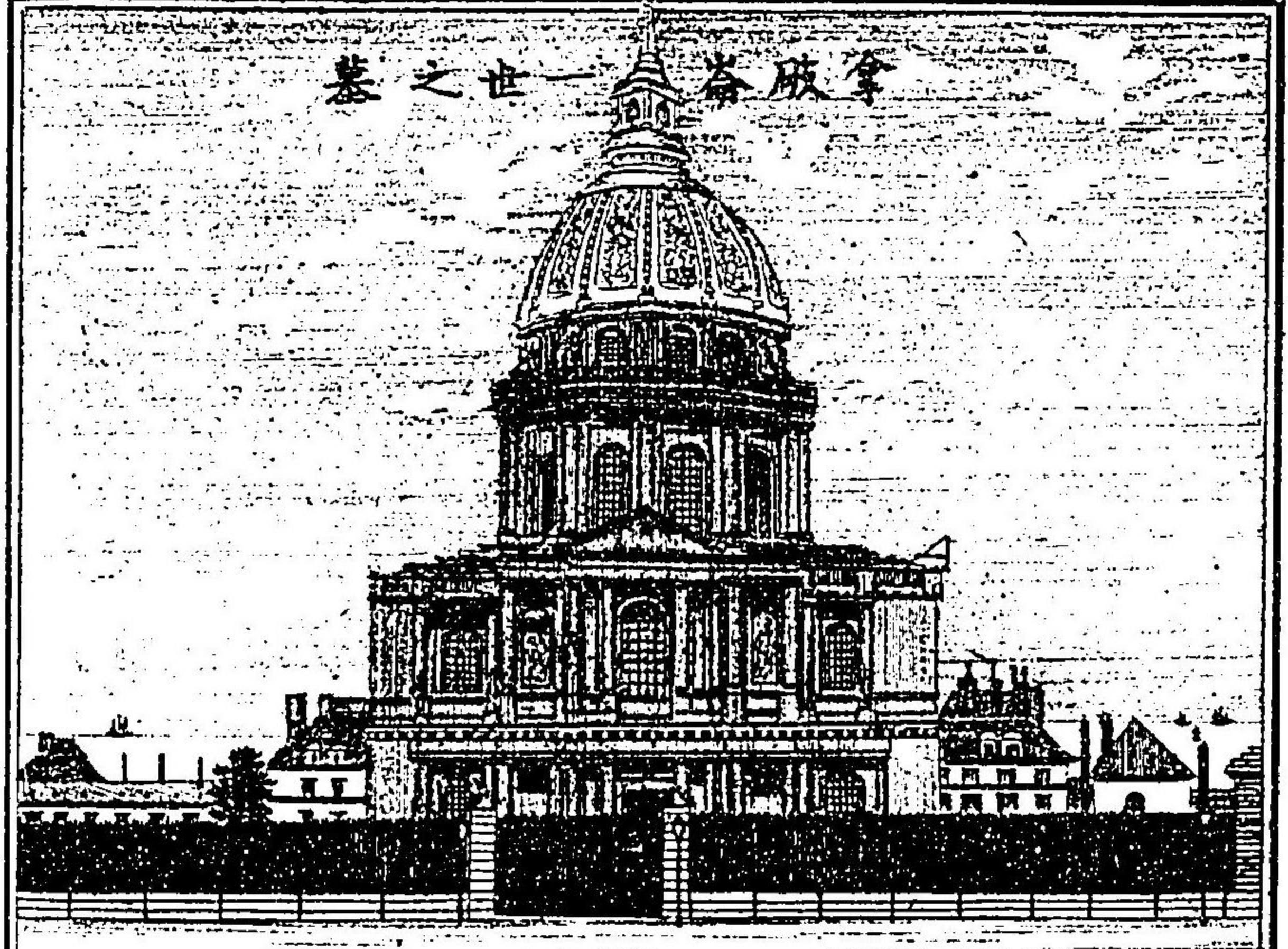


拿破崙之像



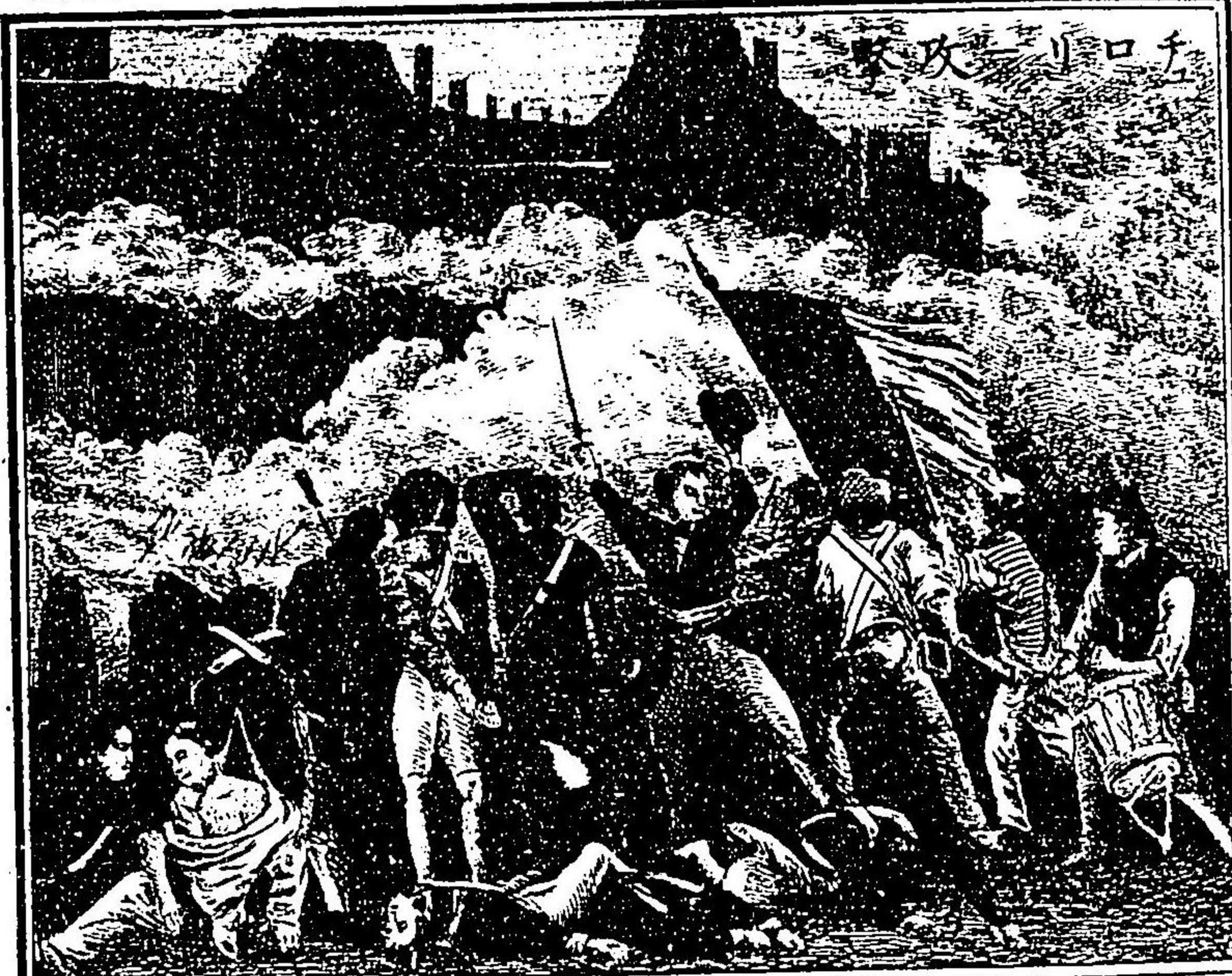
亂世今其源因をなづぬるは一千六百四十三年の路易拾四世の時代は國力富強隆盛に文華甚を盛ふりし殊に國王華美驕奢官闕土工を營みつ巴黎の如き歐洲中第一等の都府と云ふ國王倍々奢を極め漸を傲慢生じきて熱心封土を擴めんと頻に兵を徵集し隣國を併吞すは於て加各國は皆其驕恣を嫉みつ獨て英吉利和蘭や西班牙國ら協力し佛蘭西國は抗敵し數年戰爭息まざりし為り巨萬の財を費し且苛政を行ひて庶民を虐げ徳義を内は奢侈に限り外は兵馬に從事して晩年國力疲弊しつ稍衰微を顯はせり路易十五

拿破崙之墓



と云ふ知らず其來歴を略述せむ  
拿破崙保那巴壹千七百六十九年噶爾西島に誕生す父は查理保那巴母をルチシアラソリノセ云ひ氏は其第二子にして幼穉の時より將來の安危盛衰を兆まふ堪へたる戦闘を嗜むるの性を有し而して倨傲にして且下らざる志氣を表し勇氣滿つ十歳の時父母は請ひブリエンヌと名も高き兵學校に入りたり其人と為り英敏は略多を衆に勝つ氏は算學を特學し教頭忽ち屬目す遂に轉じて巴黎に行き兵學校に入塾す十八歳にして卒業し砲兵一聯隊の長と云ふ然るに此時佛國は古來未曾有の大

# ATTACK ON THE TUILERIES



の大牢獄（別ル城なり）を撃破して大騒亂と  
 為りよけり  
 ロベスピエールなる者は、過激党の巨魁と  
 して最と殘忍の所為をなし、暴逆無道の事を  
 なし、國王及び王妃等を獄に繋ぎて弑殺し、  
 貴族は捕へて盡く其場で首を刎ね落し、凡  
 そ平民をば苦めしと自ら信ずる者あせば、  
 盡くして殘す處なし、此激烈なる惡逆党終  
 一政事の權を執り、國體忽ち變化して、合衆  
 政治となり、よりきぎせども私党分烈し、軌  
 轢戦争やむ間なく、ロベスピエールの惡徒も、  
 他党の為め、盡く殲滅せられ、昨日迄華美  
 を極めし巴黎府も、今は積屍の山をなし、内

# ATTACK ON THE BASTILLE 四三



一一大騒亂を起さんとする兆候の已に顯せたりしかば、一千七百八十有九年大集會をう  
 ち、閑き國內貴族や萬民の名代人を呼出し、集議し以て流弊を改良せんとしたりしも、其説  
 遂に一致せず、此時反て幾種の私黨起りて軌轢し相互に争ひて、動亂已まず遂に彼の巴黎

世の御代となり、國勢一層衰  
 弱し、拾六世の御代となり、國  
 運衰頽限なく終に亂世とな  
 りたりき、ルイ第十有六世は、  
 仁惠深き君なれども、此國古來  
 の弊風より因り、貴族と僧官威  
 權張り、門閥格式ある者は坐  
 して榮華を極め、常々賦税  
 を重として庶民を壓制せし  
 により、國民政府を深怨し、將

NAPOLEON GOING BACK  
TO FRANCE FROM MOSCOW

七三

拿破崙敗歸國圖



是より以後數年間、獨逸、魯西亞、瑞典、西班牙等の諸國皆々倍々協力、佛國は抗敵する者頻り、然るに一、拿破崙兵士の運動自由、て鬼神の出没する如く、向ふ所敵なく、終つて諸國を平定し、或は之を屬地とし、已が親戚功臣を分封して、不圖主とす。因て歐洲大略は、己が屬地となし、るに然る。又英國は、一小島嶼の國をせど、君民一致協和して、海軍殊に強き故、容易に攻めず。故からず、こゝに於て、手拿破崙、露露一聲各國に大陸條例頒布して、彼の英國と各國と通商貿易嚴禁し、英國をして自ら疲弊せしむる計をなす。然るに魯西亞は、此令を反古と

NAPOLEON ENTERING CAIRO

六三

拿破崙及埃及國



亂終止む事なし。時、拿破崙保那巴以前兵將として、伊太利國に侵入し、屢々兵撃破して、又埃及を征伐し、戦ひ未だ休まざるに、本國動搖止まずと聞き、ひそかに大志を抱き、國に歸り急ぎ、又合衆政府の党員を驅逐し、已せ自ら佛蘭西大統領となり、政治を總理し、全國の威權を掌握し、るにけり。此時歐洲各國は合併協力兵を擧げ、當佛國に攻め入るを、拿破崙善之を伐ち、佛の國體泰然なり。此時君は國中に忽ち人望遍りて、壹千八百零四年、終つて帝位に即き、玉ふ、茲に於てか君は又拿破崙一とぞ號しけり。

BATTLE OF WATERLOO

争戦大一口ルト一ウウ



へて刺戟す魯軍終に敗北し府民よ令して糧食や財貨を遠地へ輸送し率ひて京城を逃せしむ佛軍既に京へ入り府下の各所を巡視しは寂寥人跡更にあそその夜忽然街頭に火の起りて其火勢彌益熾まり佛人務て撲滅よ力を竭せど甲斐もあを連夜各地よ出火して焰々天を漲りつ四晝夜を経て墨斯科は灰燼とまりありき拿破崙は糧食の便宜を失ひ兵士らを休憩せしむる屋も亦も薪水自然に缺乏し窘窮極めし據る衆に魯兵四方に屯集し佛の糧道遮絶せり加之天寒を積雪脛を埋没し凍風皮膚を裂かんとす天授の豪傑拿破崙退避す谷

NAPOLEON MEETING HIS SOLDIERS ON HIS RETURN FROM ELBA

ス陸上ニ國併ビ再峯破拿



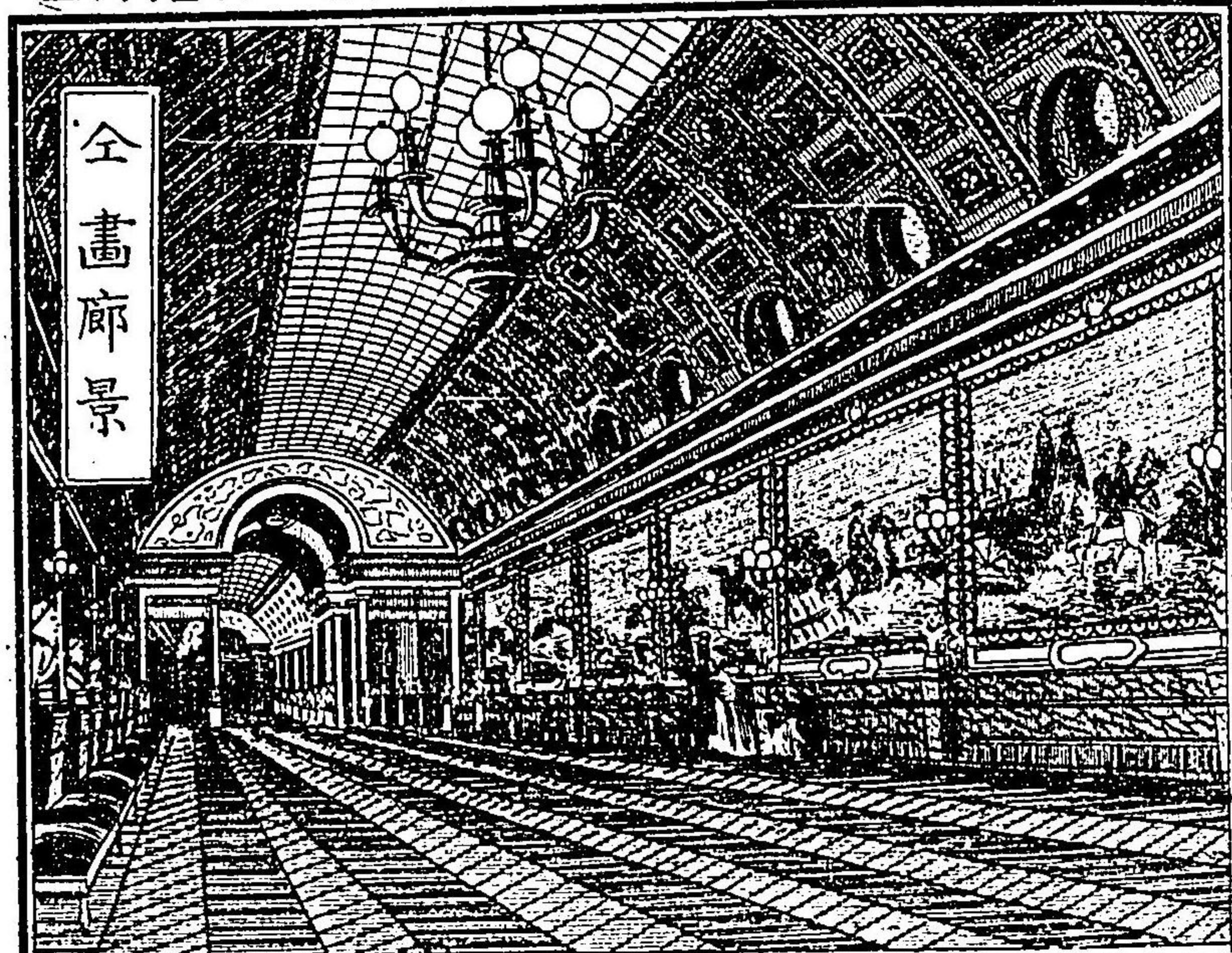
見做し違守せず拿破崙は憤歎し一千八百十有二年魯西亜を伐つに決定し忽ち起す兵士の數四十六万有余千大軍一時に進行す將士揚々魯西亜を視る児童の如く踊躍まり魯王亞歷山は大軍既に國境へ入るを聞きし守備嚴し將士を會して軍議せり時一將進み出で奇策を建て白す様我坐らよ佛軍を屢撃すまよ若をましと國王之よ從ひて兵を戒め軽忽に鋒を交ゆ可からしむ却て説拿破崙疾風破竹の勢で連戦連勝城堡を取り深を内地に侵入し敵は遇はざる日や多を直ち墨斯科府へ逼る此に於てか魯の宿將十三万の士を督し之を邀

るの際に至りて我軍を班さんとする機は臨み魯軍來りて急を伐つ我兵拒戦し死亡  
 する幾何万と數知ず鮮血淋漓河をふし四方の積雪色紅し四十余万の軍勢も魯境を  
 出し殘兵は僅に三万余千の數拿破崙も漸をよ又殘兵を率ひつゝ走て巴黎に入る息  
 魯の一敗は拿破崙威名は頓に挫折して歐洲各國一時皆佛に背きて國勢を舊に復  
 すの念起る幸王は首として魯に結び瑞典日耳曼兵を擧げ普魯國に與したり之を聯  
 邦の兵と云ふ一千八百十三年拿破崙又三十有五万の兵を徵聚し魯と戦ひ大捷す  
 然るも奥も英國も聯邦の軍を加勢して其數二十三万騎佛の兵數十四万互に劇戦勝  
 敗あり三日の後佛兵は遂に大敗此より十余年間拿破崙攻定しるる邦土皆忽ち  
 叛て敵とふる尚も屈せず新兵を頻に募り聯邦の一百萬騎と劇戦し佛軍一連戰勝を得  
 たせ共敵は山河は流瀟し都城は既に敵軍の陥る所とふる聯邦の各帝王は相議し  
 以て先帝の弟を迎へて佛帝の位に即かしめ既にして拿破崙の位を廢し地中海の一  
 小嶼エリバ島に配せけり此に於て各國は全權公使を奧都あるウインナ府に召集し  
 佛の侵地を復したる境界論を關議中拿破崙は吾手兵一千餘騎を從へてエリバ島を

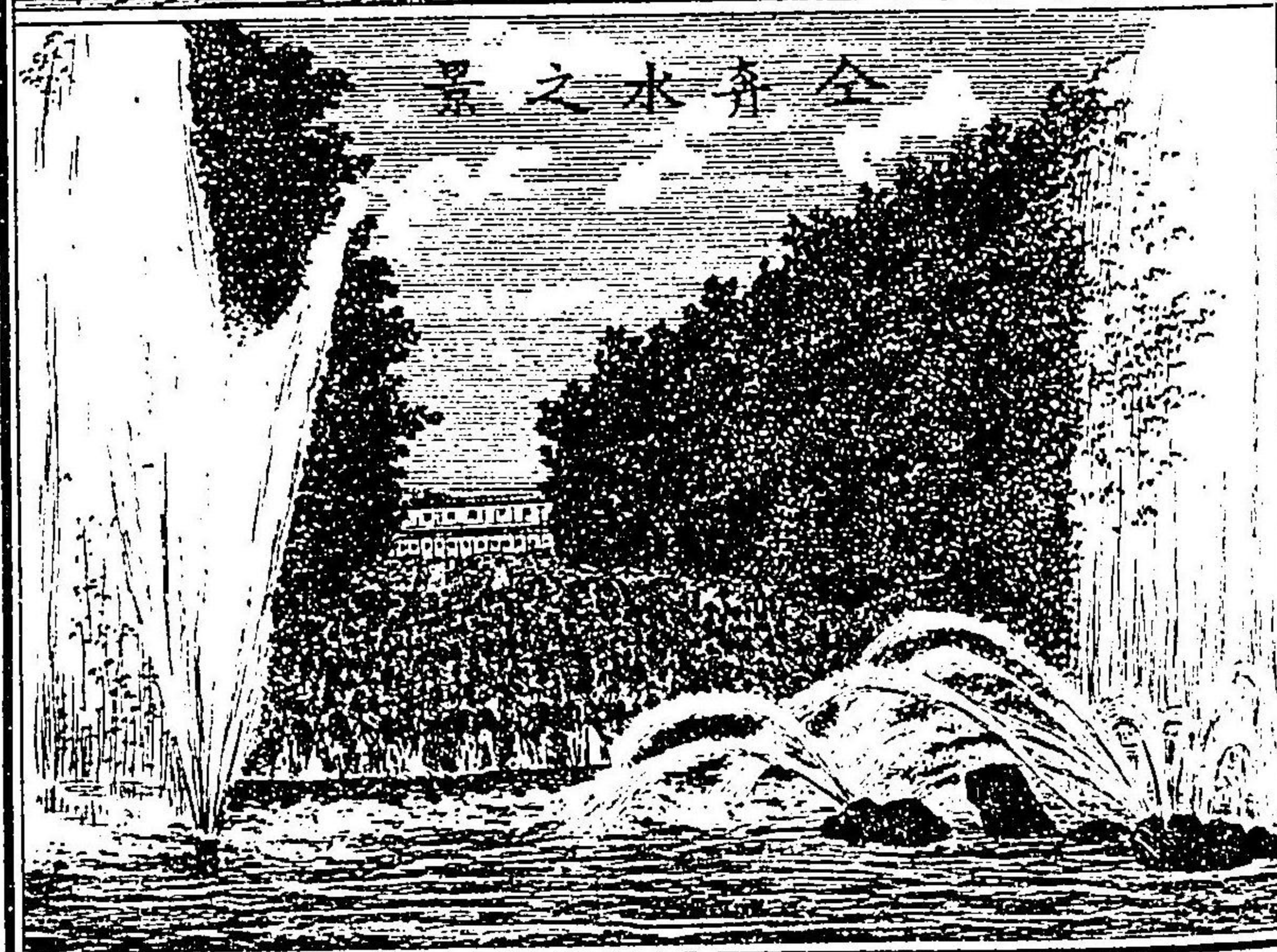
潜脱し佛蘭西國の南岸に上陸してぞ旗を擧げ佛民間知來會し兵勢忽ち振起して一  
 戦の勞を巴黎を取り復佛蘭西の帝とふる國內令して兵を徵し二十余萬を得る  
 けり聯邦諸國之を聞き報を傳へて各國の兵士を募る其總勢一百二十余萬騎あり以  
 て佛を滅せんとす拿破崙は敵軍の來會せざる先ちて魯國に入りて會戦す終之  
 ば破却して窩德路に浸入し英の軍と劇戦し殆ど之をも破らむとす會ま魯國の軍  
 兵は背後より出て英軍と三方面より襲撃す噫惜哉佛軍は全く茲に敗ぬし死亡葬を  
 拿破崙又巴黎府に歸りたり聯邦の兵復巴黎に入り再び帝位を褫奪して大西洋の一  
 孤島三厄里那に竄せらる是より拿破崙島中を獨り住する六ヶ年終其地は没すと  
 云ふ時年五十二蓋し君が其初一將師とありしより再び帝位を退け其間僅々十  
 九年匪夫も起りて歐羅巴大略已が屬とふる各國一時其武威も服従せしは實に六世  
 不蓋世の英雄豪傑と賞譽せずして可からんや尤も霸業の其為に幾十万の生靈を損  
 害せしは嘆ずべしされ共君が去り出で彼の旧弊を一洗し新規の法を後世に垂せ  
 學術進歩し文明も開化を進む其偉功逐一舉るる遺ふし



VIEW OF PORCH IN PRINS  
VIEW OF FOUNTAIN IN GARDEN



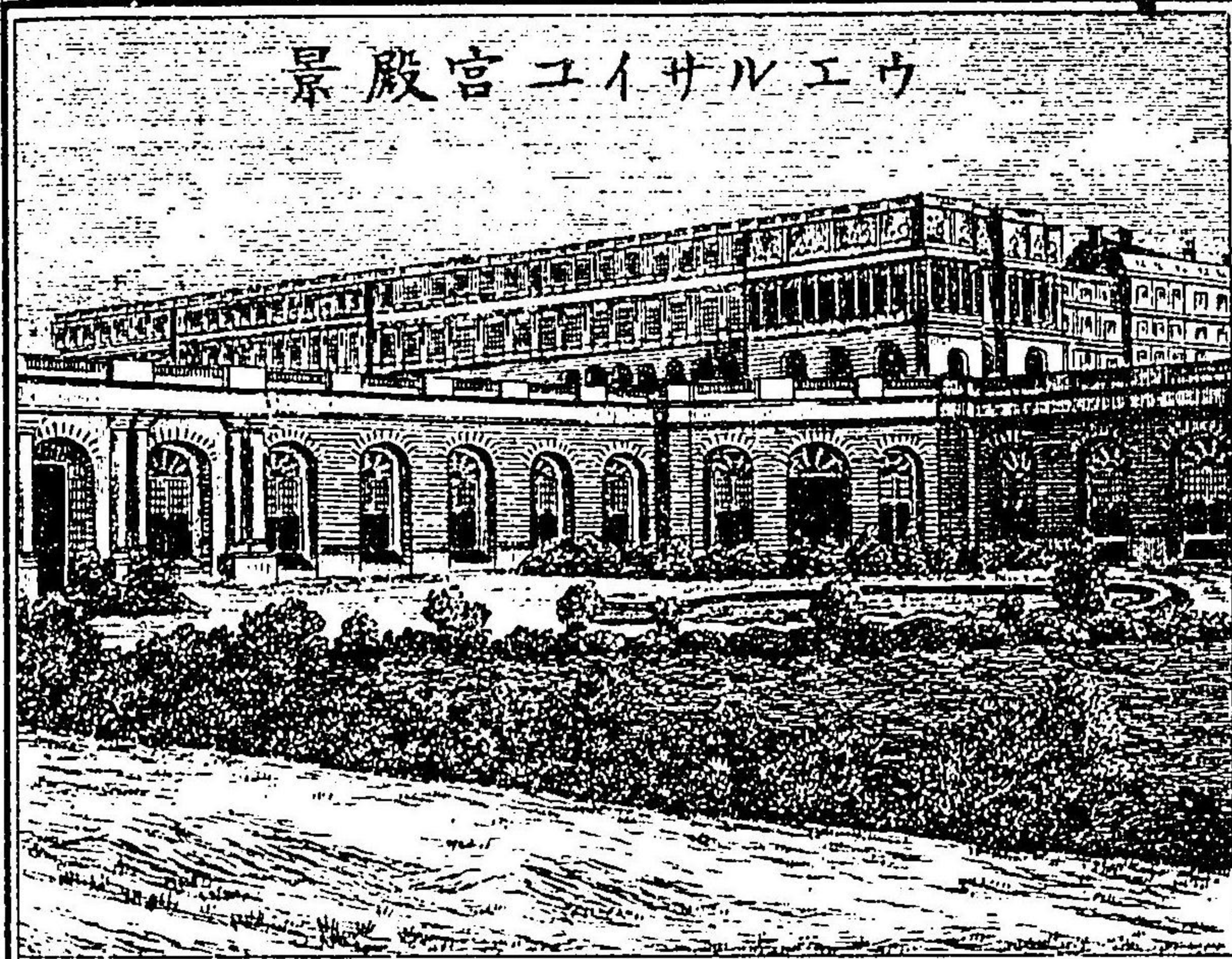
全畫廊景



全水之景

THE PRINS OF VERSAILLES 二四

景殿宮ユイサルエウ



ヴェルサイユ府之記  
 ヴェルサイユは巴黎より西南四里に位して人口四万四千余市街家屋の形象は巴黎と敢てかはりおし府と同名の宮殿あり路易十四世の建つ所結構頗る壯麗に内部光彩爛々とありまばゆき斗あり殊に畫廊美を盡し古昔の名畫を張つめつ柱楹天井総て皆彫刻精を極めなり殿宇の周圍は庭園にして池水之を繞らせり樹木鬱蒼清雅よて噴水奇工の設けあり滝器を以て動静す此宮殿は數年前空物貯藏の場となり佛國歴史の記事名畫其他美術に關係の寶物夥く蓄積す

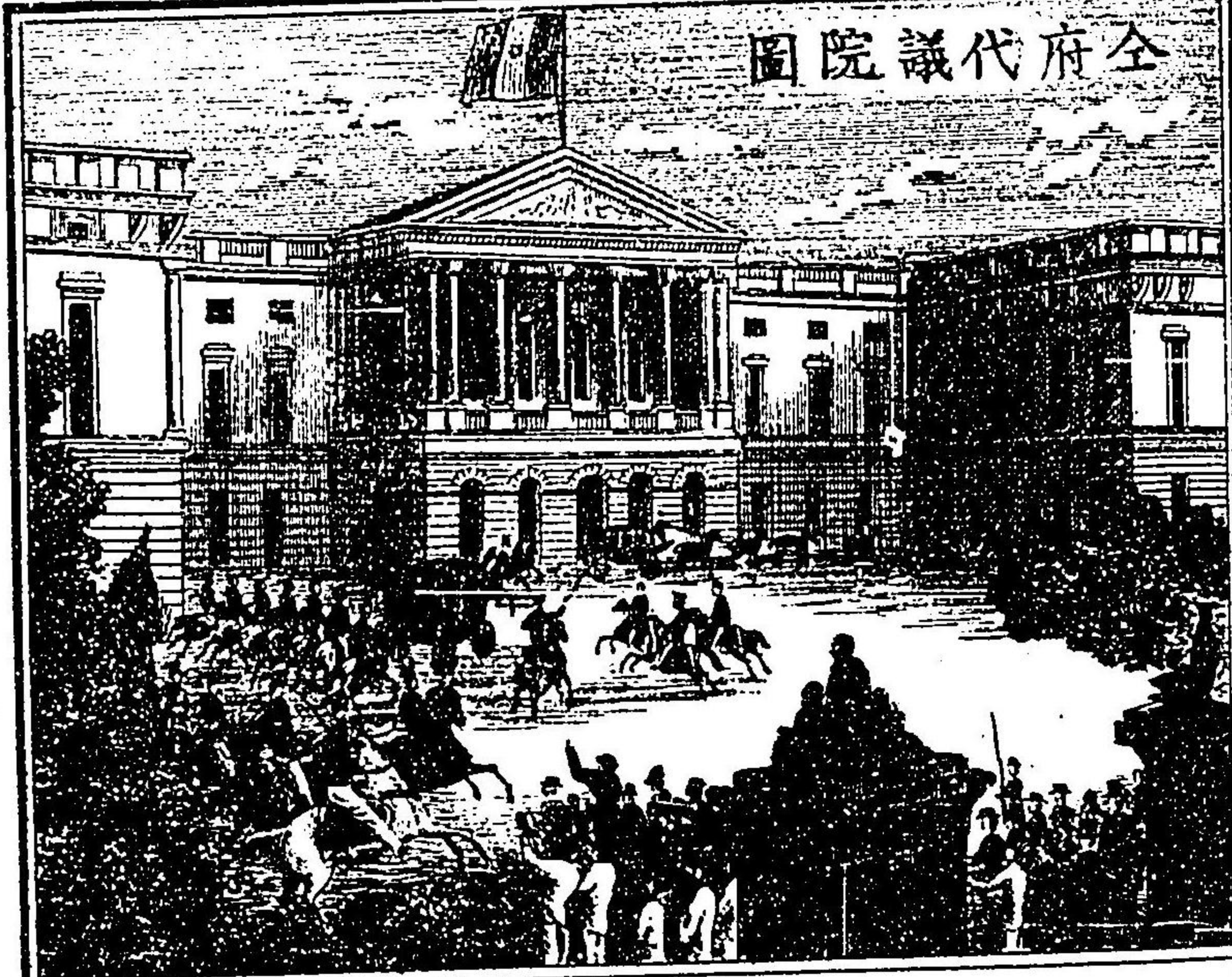
圖之造製璃玻



緻密品美あり工場総て十一字何せも磚瓦の圓蓋あり圖の如くして製作す一職工も童數人此兒又能を技を熟す佛國巴黎府の需用品多を是地より供給す又石炭礦處々あり多を平地に鑿出す其地は海腦德列日那慕等を最とす又鐵礦も處々あり國民一般旧教を信奉するべと深し言語は大略佛蘭西語北部の民は和蘭語の稍轉訛せよものを用や又或る都府の人民は英佛兩語を兼用す宗教言語の佛國は同じきを以て國內の風俗佛に髣髴たり國民健よ善を戦ふ小國をせども大國の間

白耳義國之部

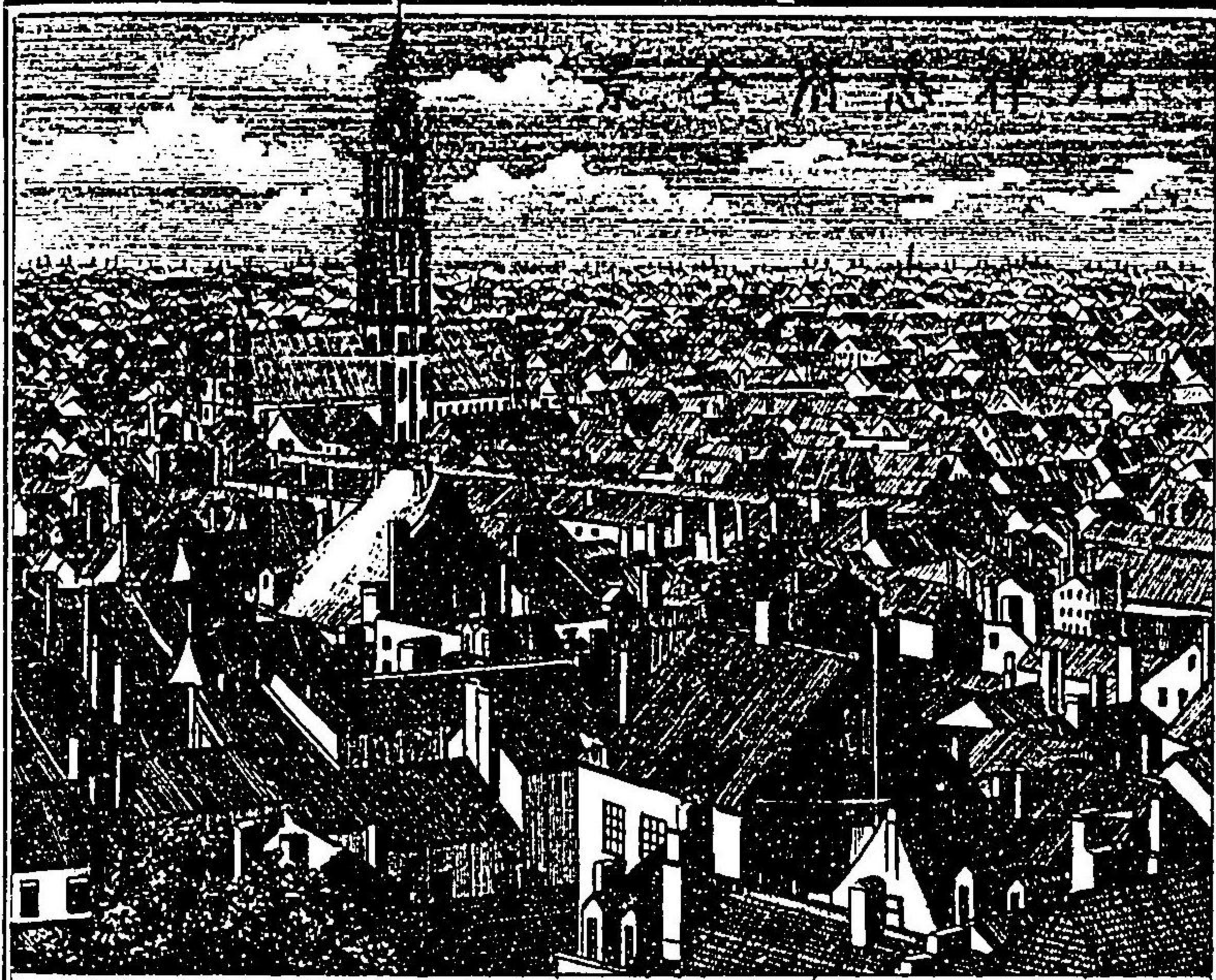
白耳義國は佛蘭西の東の方より位す一小立憲王國なり北は和蘭と相接し東は普魯士に隣して西北海に濱したり面積一萬一千と三百七十三方英里人口五百五十八万五千余に過ぎずとす此國は歐洲の強國間を介立し英世屢々各國の侵略所屬を變換す地勢平坦なる故に兵馬を用ふる便なれば古戰場の其遺跡一々枚擧げ違ふし國內九州に區別せり地勢低地も多けれど田野あまねを闊墾し氣候温和に地味豊饒國中水利の便はよもシケルデ、ニューズの二大河は運漕最も便利なり○又國民の生業は農事工業基本とし航海術は不振なり故に商船無數にて陸地の貿易主とす水路は概ね他の邦の船舶多を輻輳す○國中製作盛にて、巴班地方産出の綿織の如きは歐洲の各國各地に傳播し其精巧を稱美する上品に至りては寸を以て算をよつ畜養貴顯婦女子は飲をべからざる者とせりウエルウィール列日府の毛布産出數多を麻苧麻布糸類や鐵金銀器等年々産出多額あり其他玻璃の製造はソーラ村に名も高きワルサル會社の妙技あり、コブ酒壺藥瓶や酒瓶並に一切の房室飲食器具等精工



全府代議院圖

と、  
 白耳義の人常は謂ふ苟も我邦國は自主の  
 同胞乏しくは国力自然に衰弱し國家を保  
 存し難しと故に政體法規みる自主の力を  
 養ふを目的とし上下みな一致協力粹勵  
 すざれば國域小おせど國富兵は強をして  
 外は以て能を拒ぎ内は生産興起して其富  
 業の實力は世界に名高き英國や佛蘭西國  
 の上に出ず是を益し白耳義の君民一致協  
 和する光徳と社申ふし、  
 又此國の四境は強大堅固の砲臺あり防  
 衛最も嚴重あり

比律悉府之記



を介して國光を宇内に耀すや自ら守るを  
 主とあす全國地勢平坦は佛國兵を東す亦  
 やメヅスタラスボル之に險隘ありて進軍  
 便ならずせば進路をば此國に取るると  
 せり故に戰時は血戦のちまよとあろおせ  
 ぶあり近年歐洲列國の會盟に於て此國を  
 進軍線路とあするを堅を禁ずと約しあり  
 然りと魚ども戰時は互に殺氣熾めて其  
 間能を中立を守るは至難の事おせば平素  
 四境に抗する所の銳氣なめんばあらずとし  
 國民皆能兵に慣せ射的の集會行け國民一  
 般武を嗜む其兵役に就む時や意氣最も剛  
 壯に其技術に熟せざるは他の大國も及ばず



景之宮王

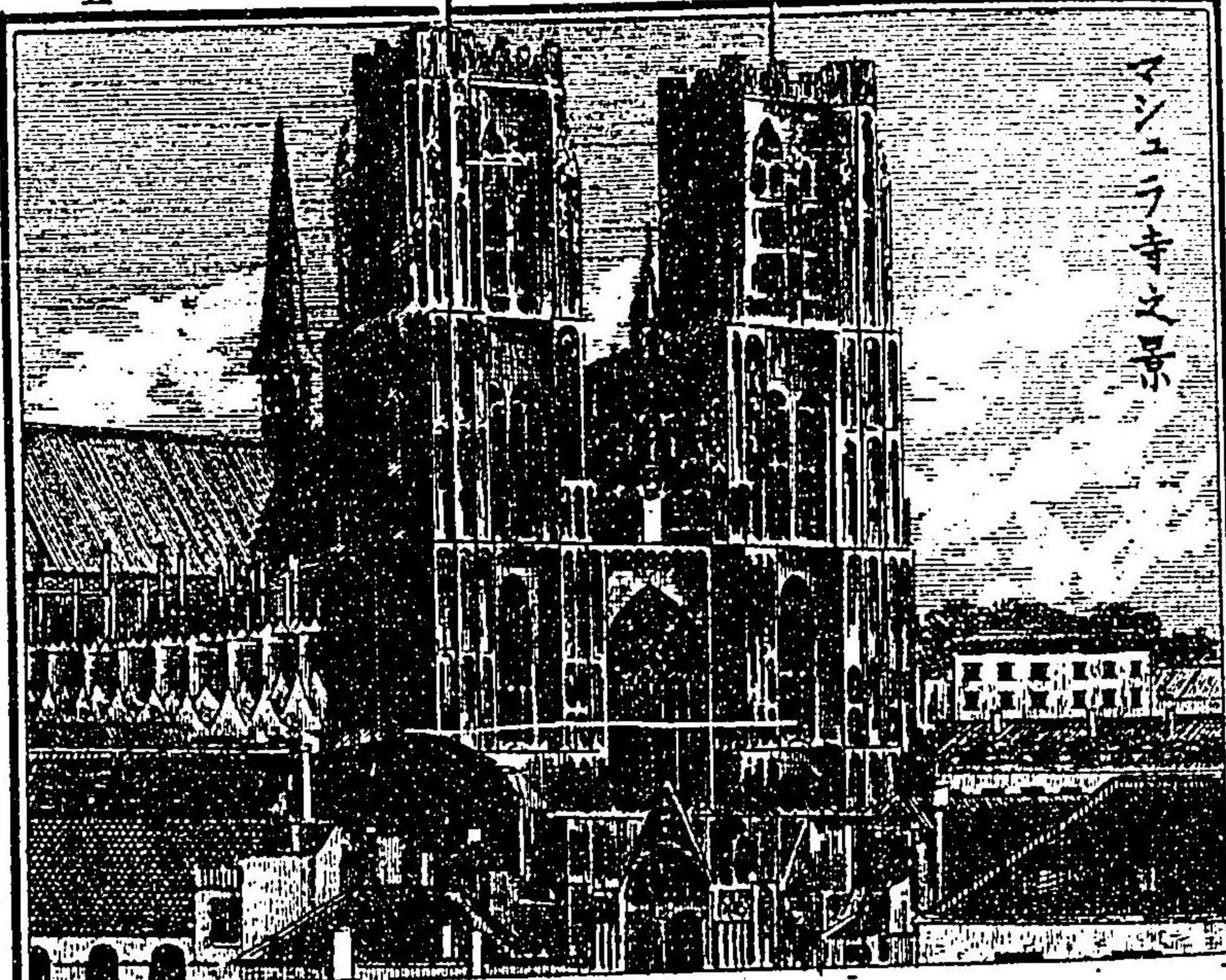
の如し、西人此府を呼んで云ふ、小巴黎パリス  
 ぞと蓋し行人絡繹し、街衢肆店華美にして、  
 富且つ豪氣の象あるは、巴黎と大差なき故  
 ぞ  
 ○王宮は府の新部南の方より位せり、外窓眼  
 は三層に煉瓦石にて築成し、白鉛垂灰を塗  
 抹せり、端然壯麗白石の構造あるかとあや  
 しまる又宮外は廣衢あり、滿地は總て梵石  
 し、數万人を屯せしむ而かして、前は廣苑あ  
 り、樹木陰森繁茂して、數條の道路を繞らせ  
 り、中は梵池をとり設け、至大の噴水飛跳せ  
 り、周囲は鐵の柵ありて、柵外及樹間には白  
 石の彫像を羅列せり、蓋し此園勝地にて春



景岸河全

比律悉府は巴黎より鐵路百九十七英里、巴  
 班洲あり、此處は王の京城にて、人口十有  
 七万と一千三百余人あり、其地形の勝れた  
 る歐洲美府の一は居る、府を新旧の二部は  
 分け、人家丘陵を跨りて、高を低を參差たり、  
 市街の清潔勿論、高樓大厦連接し、且つ處  
 々寬濶の土地多々、巨大の銅像銅標あり、又  
 寺院の巍峩として、遠美觀る可きもの多々、  
 殊にセントヒユベル街、上字を玻璃にて蔽ひ  
 たるは、佛國中、兩雪の日とて、も街上より一消  
 滴をうけずして、便利猶且美觀あり、  
 街上金銀細工物、錦繡絹帛、其外は百貨を賣  
 る肆店多し、軒を駢べて、其景狀宛も蜂の房

VIEW OF MASHUGA ABBEY

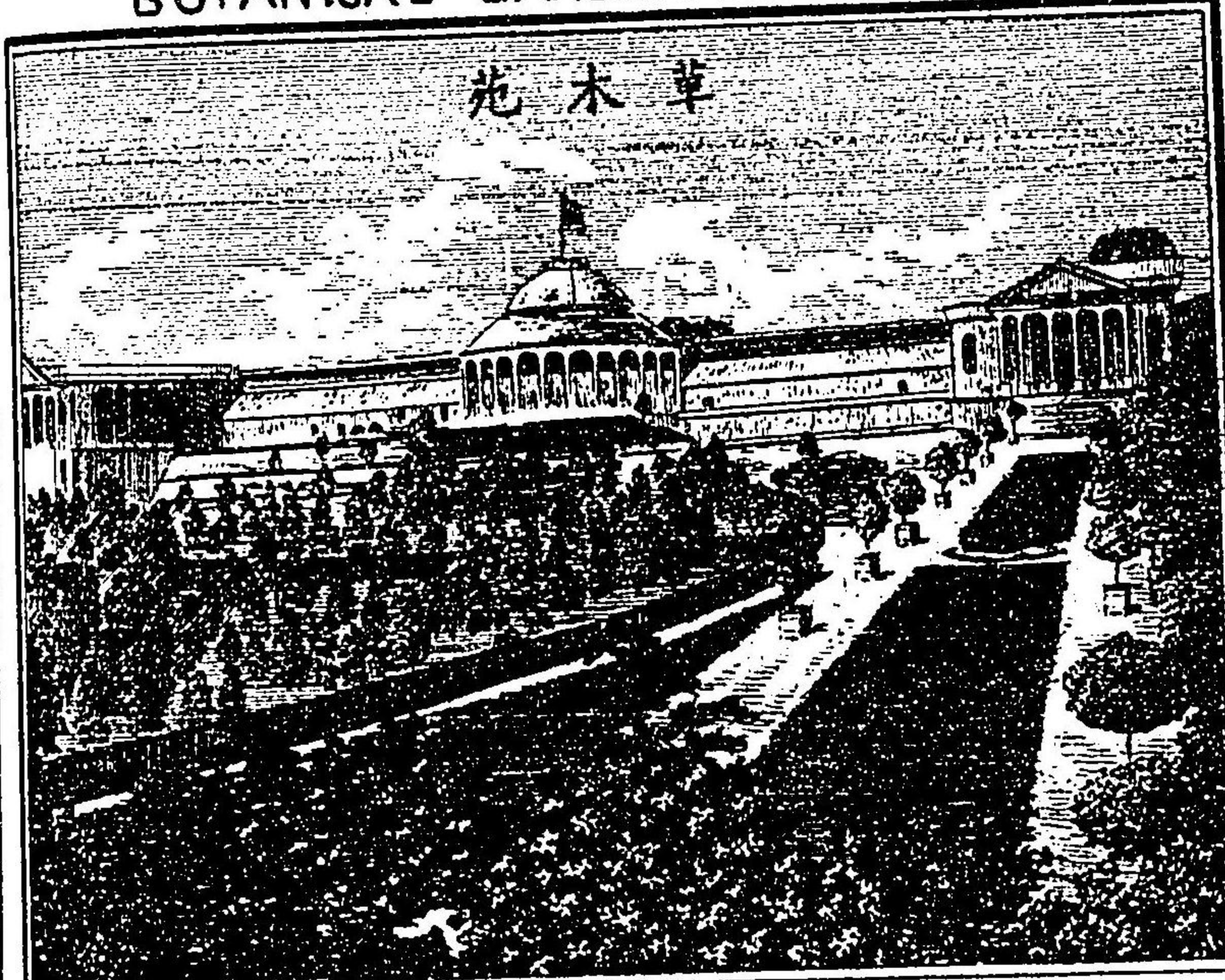


マシユラ寺之景

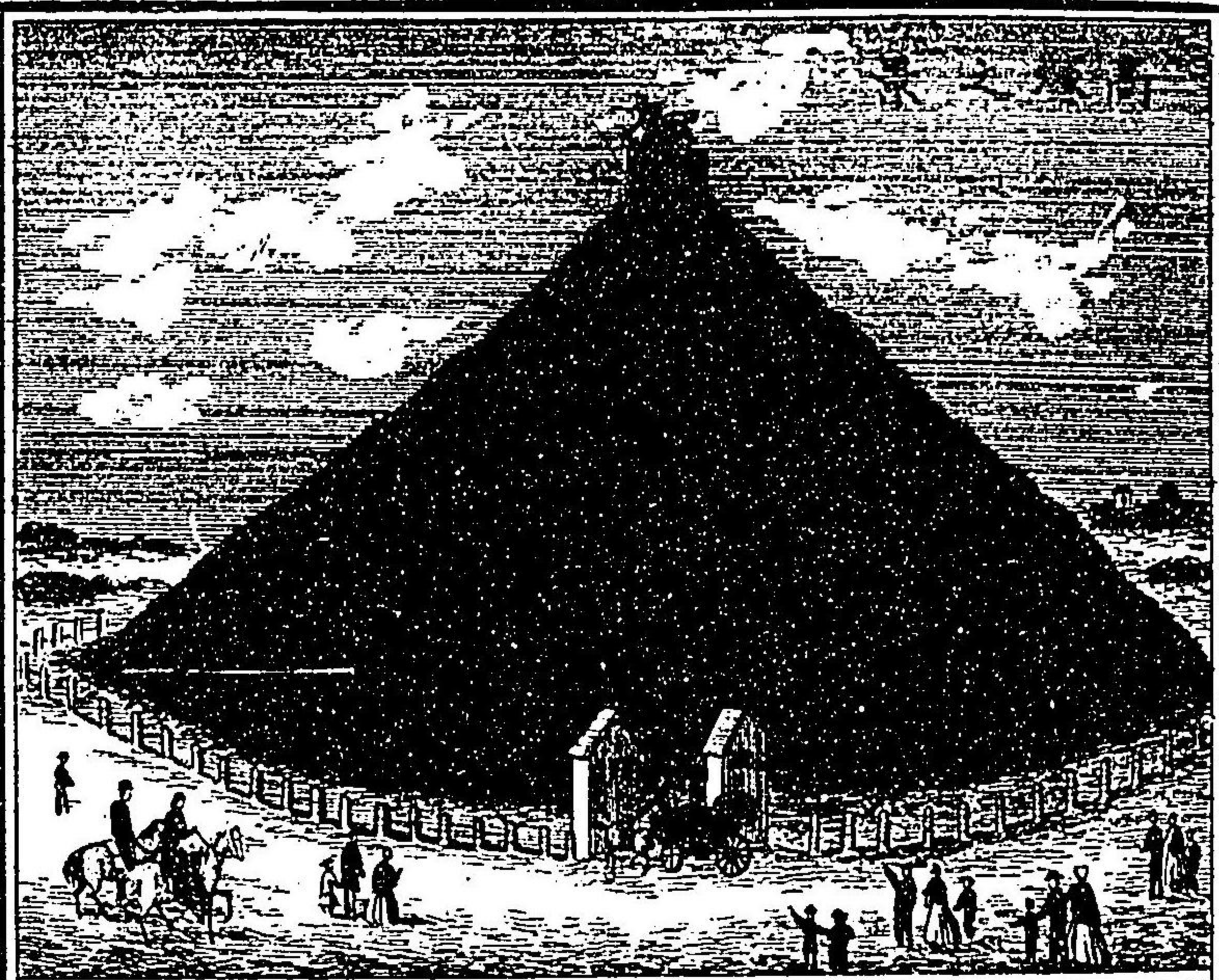
マシユラ寺は府の中、第一等の巨利にてカ  
 ドリック教に属す也し  
 ○ウートルロー村當府より西方十有二英里  
 あり、一千八百十五年六月十有八日は英の  
 大將ウエリントン、彼の佛帝拿破侖第一世  
 を破りたる、此とも名高き戰場あり、本年六月二十  
 五年に於て執行せ  
り是は、刺撃、特按、全  
 全耳、蓋、自、各、生、存此邊平坦原野にて、漫波起伏  
 し林村あり、數百の農家連接す、村中大なる  
 寺院あり、是を蓋し英將のウエリントン氏  
 が本陣と、おしたる一の名所あり、此處より  
 南五町余の野中の一の高塚ありて、是、は  
エ、フ、ラ、ハ、シ、ユ、ラ英佛白將の雄雄を、決せし死屍の山海を  
 血しはの中心に、一千八百十八年此塚を

BOTANICAL GARDEN, BRUSSELS

花 木 草



の初花秋の月、夏の緑葉冬の雪四季の眺め  
 倫はりて、雅俗遊覧群為、靚粧連歩樂地あり、  
 又此苑の西方、南北貫を、廣街あり、ルエウロ  
 ーヤル街と云ふ、新部の西界線として、此よ  
 り西は其地形、遠に低下し、全府中連、幾、湧、が  
 如く見ゆ、街上巨大の銅標あり、府内第一の  
 眺望よき、爽街ありと知り給へ、  
 且又是處よ、いと廣き草木園の設けあり、玻  
 璃の巨窓を築造し、山岡又谷坡に連亘す、密  
 中草木粉雜し、周覽す、益を愛するし、又集、蓋  
 院の設けあり、蓋し白耳義國の畫は世に名  
 高き妙技にて、往々名手輩出す、此院注目す  
 べきあり、



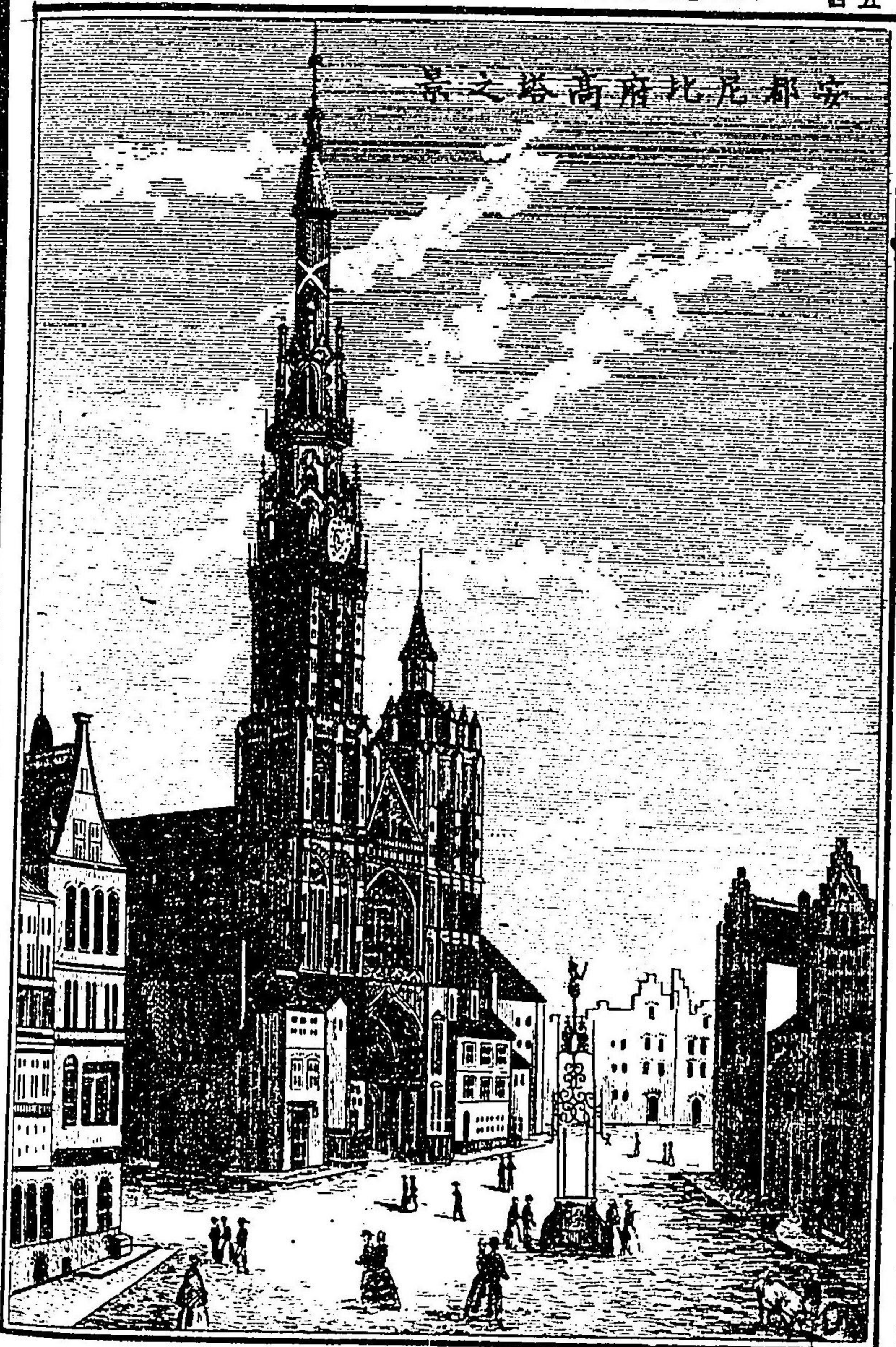
安都厄比府之記  
 当府は都の東北方鐵路二十七英里蓋し本  
 國物産の吐納ふせる要衝にて人口十二万  
 六千六百余シケルデ河の口あり都は亞  
 げぶ都會にて一千七百年代は佛の領地と  
 ありし時拿破崙は注目し歐洲中は有名の  
 貿易港となしあり其時築きし船廠や至  
 大の砲臺今もあり其他見る可きもの多  
 府中名高き大寺あり高塔七十四間余歐洲  
 三位の高塔ぞかし又諸術の学校や畫學校  
 等盛なり此府の周圍は堅固なる城堡を數  
 個繞せり皆近年は造築す上部は鐵の板を  
 以て装置したる丸形の砲臺數個配置せり

景之村オロルトウ



さて其蹟を後世に表せざるものぞかし塚の  
 高さは級をつむ二百貳拾五にして其頂上  
 は遠くを望み獅子の銅像其重き四万六千磅  
 あり(リ)府の製造家英人コレ石基一丈八尺余砲丸を  
 踏み西方の巴黎を睨む其顔色雄壯最とも  
 快美なり佛國人は此像を深き憎悪をると  
 人爾後白耳義の人民が和蘭と劇戦した  
 る時佛人白耳義は援兵し克捷の後佛人  
 は此獅子像を毀たんと一度は火薬を伏せ  
 るも白耳義人民より保護し遂に毀たし  
 めざりき故に今に至る迄佛人此所を訪ひ  
 来らずされ共日耳曼英國の人民弔古をな  
 せざる日々絶へず来るとぞ

景之塔高府北尼都安



和蘭國之部

和蘭國一名を尼達蘭と稱すあり蓋低地と云ふ義あり是又一小國にして長さ一百六十英里廣サ僅かよ一百英里面積一萬二千有六百四十方英里而して白耳義佛蘭西の兩國塚よ小さきあるレキセン堡を兼領すおせを合せば其地積一萬三千五百十四方英里斗あり人口四百十有七萬二千余人のみ

きは去ふがら此國は三百年の以前は海外諸國に航通し威力も余程熾て屬地も多を有せしか爾后裏亂の難あひ折角己が所轄せし領地も漸々英國に占據せらせ

て減じしも今猶東西兩印度及び亞非利加兩國に六十八萬二千と七百九十二方英里

人口二千六百有八十四萬一千の屬地を所轄し就中瓜哇の如きは東方の府庫

とも稱す富地あり又和蘭は今をざる二百余年の以前より我日本に航通し毎年一隻

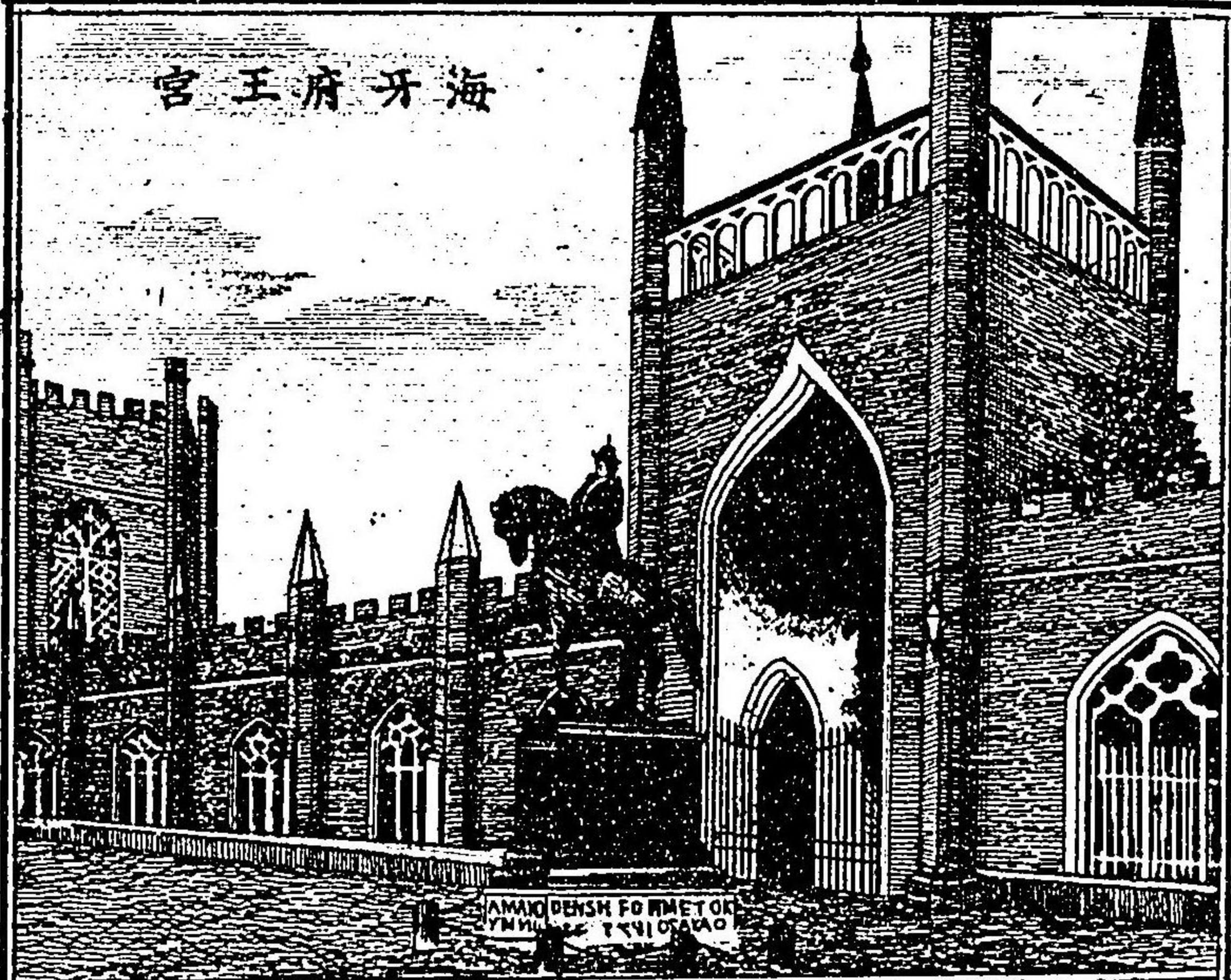
商船を送りぬるも彼の右の瓜哇より仕建てし船ありと叔其当時我國は外交総て拒

みしも獨り和蘭國のみは渡航を許し日本の産物総て彼の國と貿易したる事ありし

故に我邦産物を歐洲に傳播し其力和蘭ありとア申べしおせと同時巨利も又彼

本國五十  
七倍余

宮王府牙海



謀多民心は感ずるも尚余りあり氣候寒冷  
 蘭は我日本の筑前筑後肥前肥後四國に比  
 すべき人口よて而も塗泥の其中に富庶を  
 有是蓋し天然に平均を持すもの多る歟和  
 て天利に儉ふる其ものは人の力に勉むる  
 嗚呼天然の利に富むものは人の力に情り  
 多故為めは費す金額は年々壹百八十万也  
 百里の海岸堤防修理をなし常之をば護  
 交もく激衝時は崩壊す事免せず故に数  
 を盛りて海水を巧みし防を法あせど波瀾  
 或は巨大の盤石を海邊に沈め杭を建土石  
 や其他南海週廻等比々此設けあきは多し  
 故をあり哥羅威州及び非里薩蘭の海岸

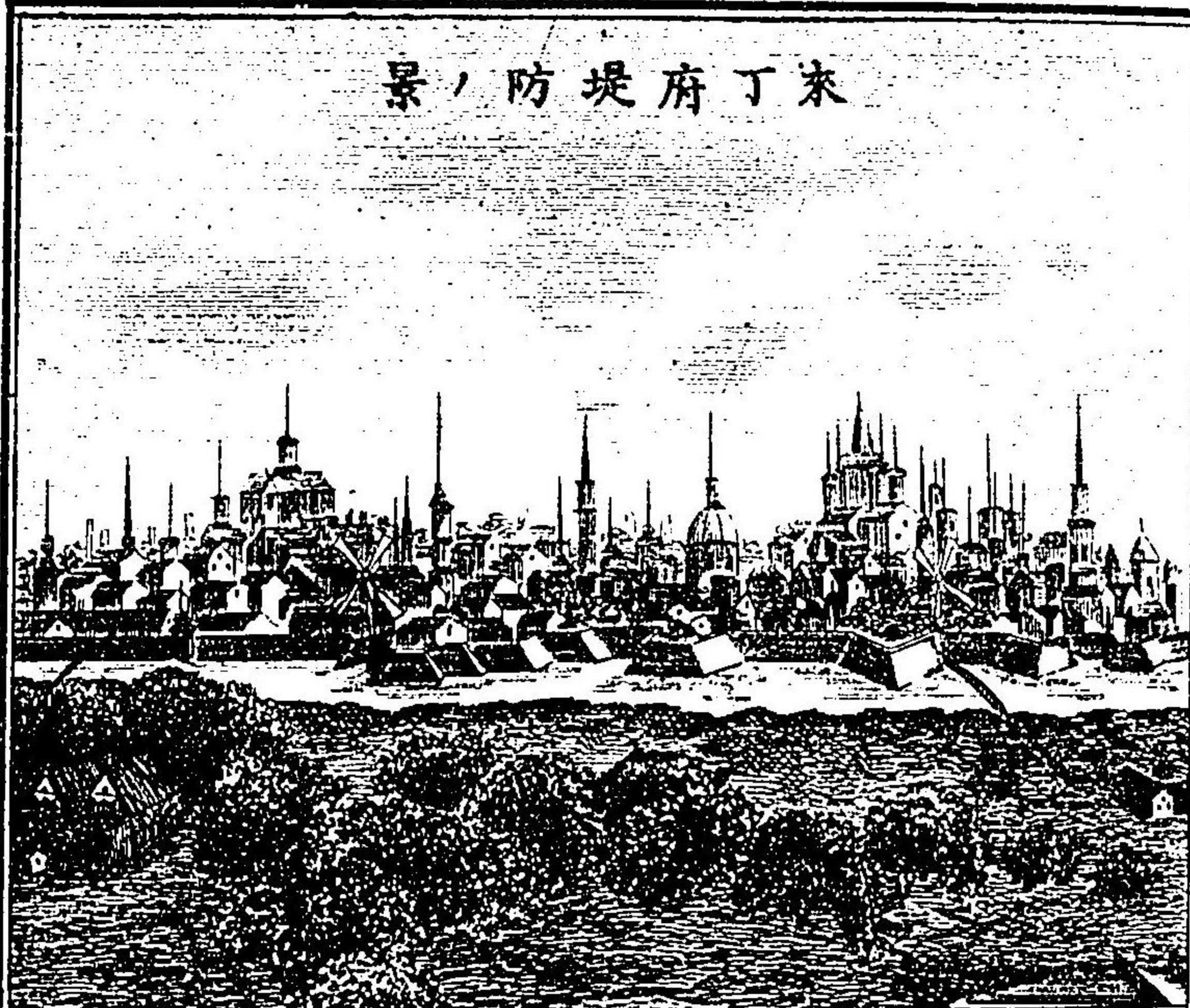
景之防堤岸海



其の占める事多良む  
 又此國の宗教はプロテスタント  
 君民共治の政令は名實皆か  
 國富饒其文化治ぬ内地は行せ自由の  
 幸福を得ぬ多民光輝を外よかやかす花  
 也實也多美園たり  
 其國塚西北は北海に濱しをり英吉利國と  
 對岸し東の方は日耳曼と塚をあして南方  
 は白耳義國に隣接す地勢はまべて平坦  
 世界に名高き低地にて往々海面より低き  
 あり堤防を築き漸く海水の浸入をば防  
 ぎたり堤防基礎の廣きもの七丈余は出づ  
 あり而かして高かさ三丈余堤上道路を

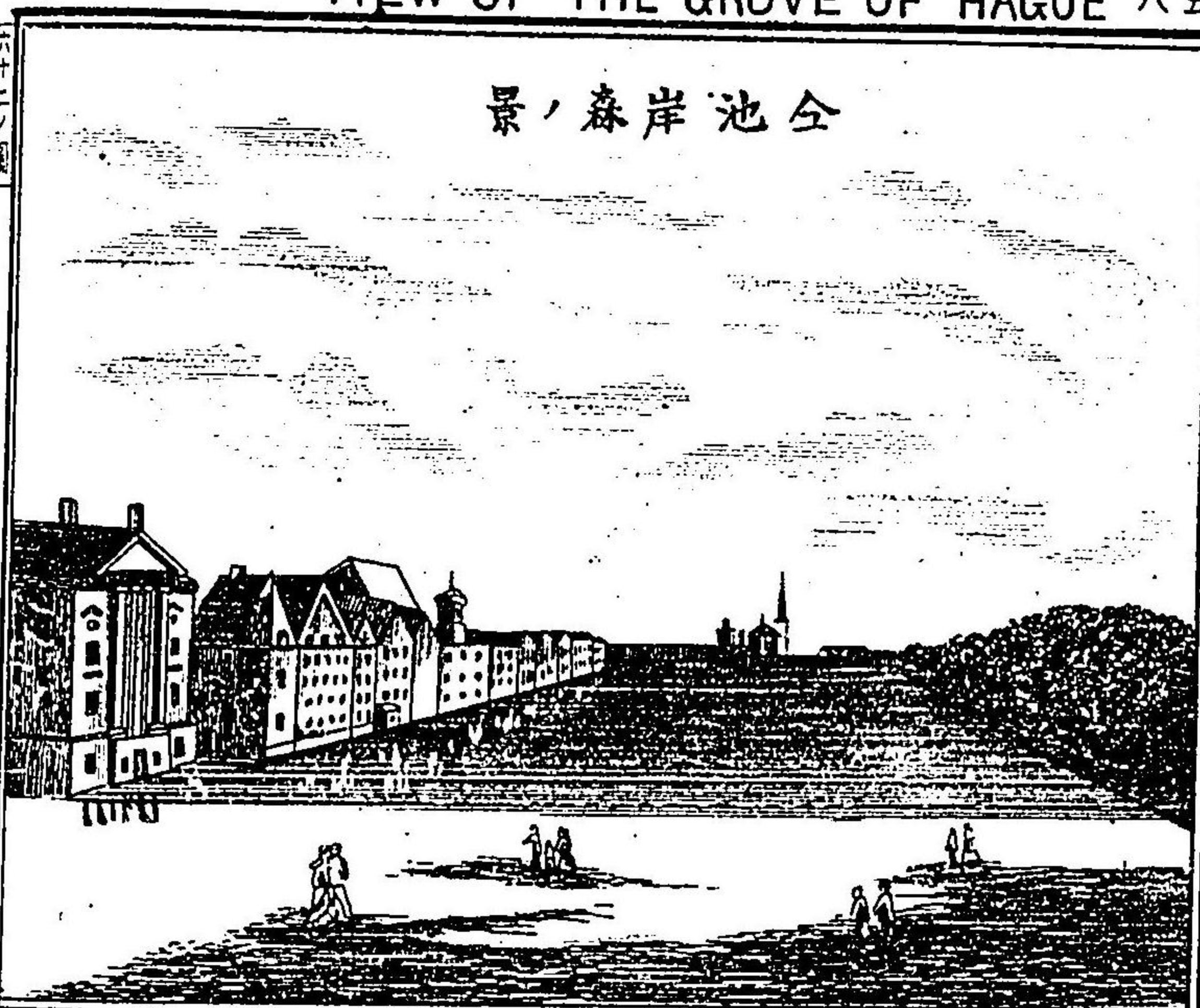


景、防堤府丁來



よして一奇觀と申すし  
 鹿特坦府之記  
 安都厄比(アンデルダム)の西北位鐵路五拾二英里、  
 此國第二の都會あり人口十有二万余貿易  
 熾盛の要港にて商船夥々出入し殊に三十  
 年來は次第に土地繁昌し旧都安特坦府と  
 犄角の勢あらはせて末々のもしき氣象あ  
 り街衢清潔家屋皆溝渠の水に鑑みて轟然  
 として仄立す然せども大厦並屋は余り多  
 く見當らず溝渠の岸には樹を植へて街路  
 の境界とあしたりき車行少く歩行多し  
 河道交錯漕舟を以て重車は少くは代へ  
 りき故に架橋は其中腹に鏝活をば施て上

景、森岸池全



其土質稻田とあき谷から走む甘蔗も棉花  
 も又生へず礦金石炭石材もあし山林迎も  
 更にあし而るは國民勉強し儉勤にして昔  
 界中富國強兵の一をなす實は蘭人の心も  
 て東南亞細亞に住ましめば幾百万の蘭國  
 を顯出するに至るを  
 前番犬を便役して泥澤中は粹勵する蘭人  
 農家勤勉の景狀ありと知り給へ  
 又國民の総体は貿易牧畜木業あり製作工  
 業之に次ぎ農事は主とせざるものあり輸  
 出品の重なるは牛羊豕や牛酪や烟草毛布  
 麻布之類抄紙鋼魚火酒等也上欄にある字  
 真圖は毛布にあつる原料を剪採せる状



運般犬を使役す

五十七回

府中車馬は稀少にて終日喧囂の声聞かず、  
其家屋はは仄濶の窓眼開きて全家み姿  
よして談壁は積瓦を以築造し石造屋は少  
をも美麗の館第多あり其建築の方法は  
自ら英に異あせり市街の閑法又異し街路  
の錯雑多處其幅僅か二三間兩車馳す  
るに足せるのみ街頭處々廣域あり石像  
銅像環立し植ゆるは緑樹を以てせり廣街  
樹木よを茂り沙潔長き苑をふす蓋蘭國樹  
よ乏し故に甚金愛惜す老幹槎牙あるもの  
多し  
王宮規模稀小は建築宏壯あらざらず構造  
一種の異形にて英佛諸國の王宮と甚異

全市街



横且桿を植へ船の来をば之を開り船去  
せば又之を閉つ又處々風車をば設けつ  
水を引き落す又府の西方は公苑の設けあ  
りて遊地とす其他造船場もあり一々記す  
は違なし

海牙府之記

海牙は呼んで「ツグ」と云ふ鹿特坦府の北  
の方鐵路二十英里余あり蘭國の京師にて  
國王此地に居住せり人口総而九万余府中  
處々溝渠あり水滲として渠は満ち樹木  
鬱葱岸を匝る蘭人潔癖あるを以て樹は廢  
枝多を河水は塵芥一も流るるを街上一  
片の塵も多し其清潔なる思ふべし

街市坦特鹿



老樹深鬱幽邃、都人遊歩の苑として殊に  
 夏日は軍樂を奏しつ士女は群集し遊樂を  
 ば極むと云ふ、  
 來丁府之記  
 來丁府は海牙より北に當りて十英里、此國  
 第五の都會たり、人口三万八千余、府中の街  
 路は廣かゝらず、修刷甚か潔にして、大街溝渠  
 を狭みつ、水清くして、穩流、河岸に樹を  
 植へ、道路は、磚瓦を敷きつめ、行人は、兩岸  
 街上歩行せり、車馬の喧鬧は、少く、會車  
 不遭ふ時は、轆々遠きに至る迄、耳は聞へて  
 知らし、此府貿易盛あらず、殊に清潔極り  
 て、眞に講文の郷よし。

圖る捺り剪を毛羊



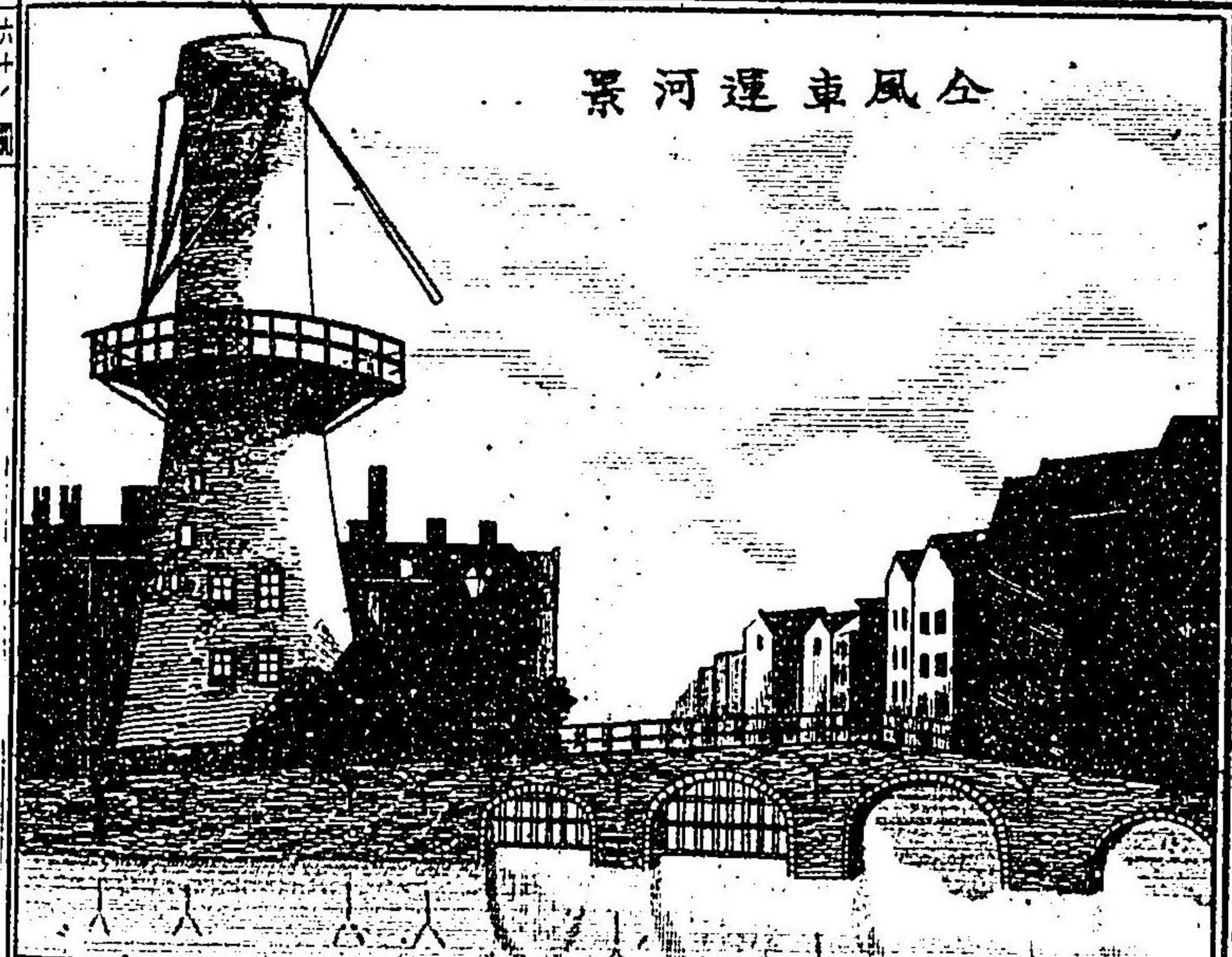
ふるところありて、共森樹の風積は、刃刀  
 として、平常に夾氣を送り、内景の粧飾、清礎  
 を主とし、彫飾等は、更にあし、然るに、此園  
 畫工は、一種の妙技、倫せり、淡墨以て、限と  
 し、人物を、画き、陰陽の、映射を、摸する、巧あり、  
 此画を以て、壁に、懸る、少し、離れて、見る時  
 は、白石に、彫刻せし、如く、人物儼然、表面に、隆  
 起し、最も、奇し、諦視の後、非せば、其畫たる  
 を、辨知せず、一二の、房室之を以て、悉皆、粧飾  
 ありたり、き實に、名工の、精勵せる、石屋より  
 かと、疑はる、此畫術は、隣國の、日耳曼地方に  
 流行す、  
 訣官は、傍樹苑あり、之を、ハーゲの、森と云ふ、

VIEW OF THE STEEP BANK OF RIVER  
LEYDEN



水天舟行  
 此府より二百余年前、西班牙國王非立の御代に當りて其國は勢力最も強大な世人稱して西班牙は日没多しと言ひし時、（西）和蘭國を大軍で征して以て己が威を逞ふざる能はざりし蘭國一の美談也。當時西班牙非立王已が國內回教の徒を多し殘害し、プロテスタント（新）新教教徒の當蘭國に兵を遣り、蘭氏舉て西班牙の力ドリックキ宗教に轉宗せざれば忽ち汝が國を殲滅せんと。此時來丁府人民はプロテスタント宗教の得意とあせふ一致心、何ぞ西兵を怖せんや、忽ち來聚協力し、非立王に拒みぬり、西兵何ぞ猶豫せん、大軍一時は攻めかゝり、慘刺奇虐を極めたり、來丁府人民小教に、西班牙國の大軍に抗る可もあらざせど、神は祈りし精神は、一死何ぞ惜む可き、遂に西兵を撃破して、至大の寇を卻けたり、政府其時來丁府の人民に問て云何を以て其偉功を賞せんと、府民皆云ふ、學校を起して以て末世

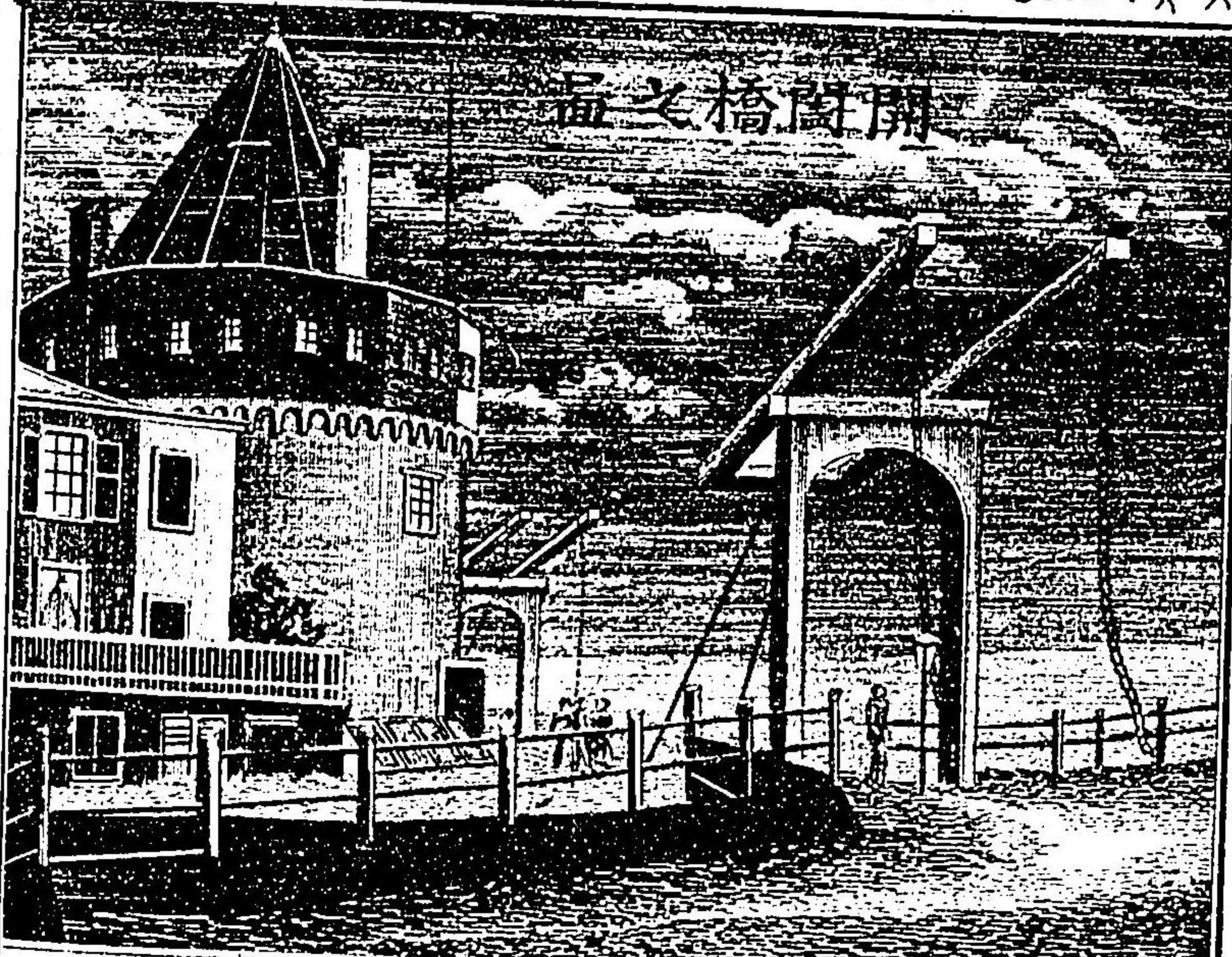
VIEW OF WIND WHEEL IN CARRING RIVER 四六



全風車運河景  
 此府より二百余年前、西班牙國王非立の御代に當りて其國は勢力最も強大な世人稱して西班牙は日没多しと言ひし時、（西）和蘭國を大軍で征して以て己が威を逞ふざる能はざりし蘭國一の美談也。當時西班牙非立王已が國內回教の徒を多し殘害し、プロテスタント（新）新教教徒の當蘭國に兵を遣り、蘭氏舉て西班牙の力ドリックキ宗教に轉宗せざれば忽ち汝が國を殲滅せんと。此時來丁府人民はプロテスタント宗教の得意とあせふ一致心、何ぞ西兵を怖せんや、忽ち來聚協力し、非立王に拒みぬり、西兵何ぞ猶豫せん、大軍一時は攻めかゝり、慘刺奇虐を極めたり、來丁府人民小教に、西班牙國の大軍に抗る可もあらざせど、神は祈りし精神は、一死何ぞ惜む可き、遂に西兵を撃破して、至大の寇を卻けたり、政府其時來丁府の人民に問て云何を以て其偉功を賞せんと、府民皆云ふ、學校を起して以て末世

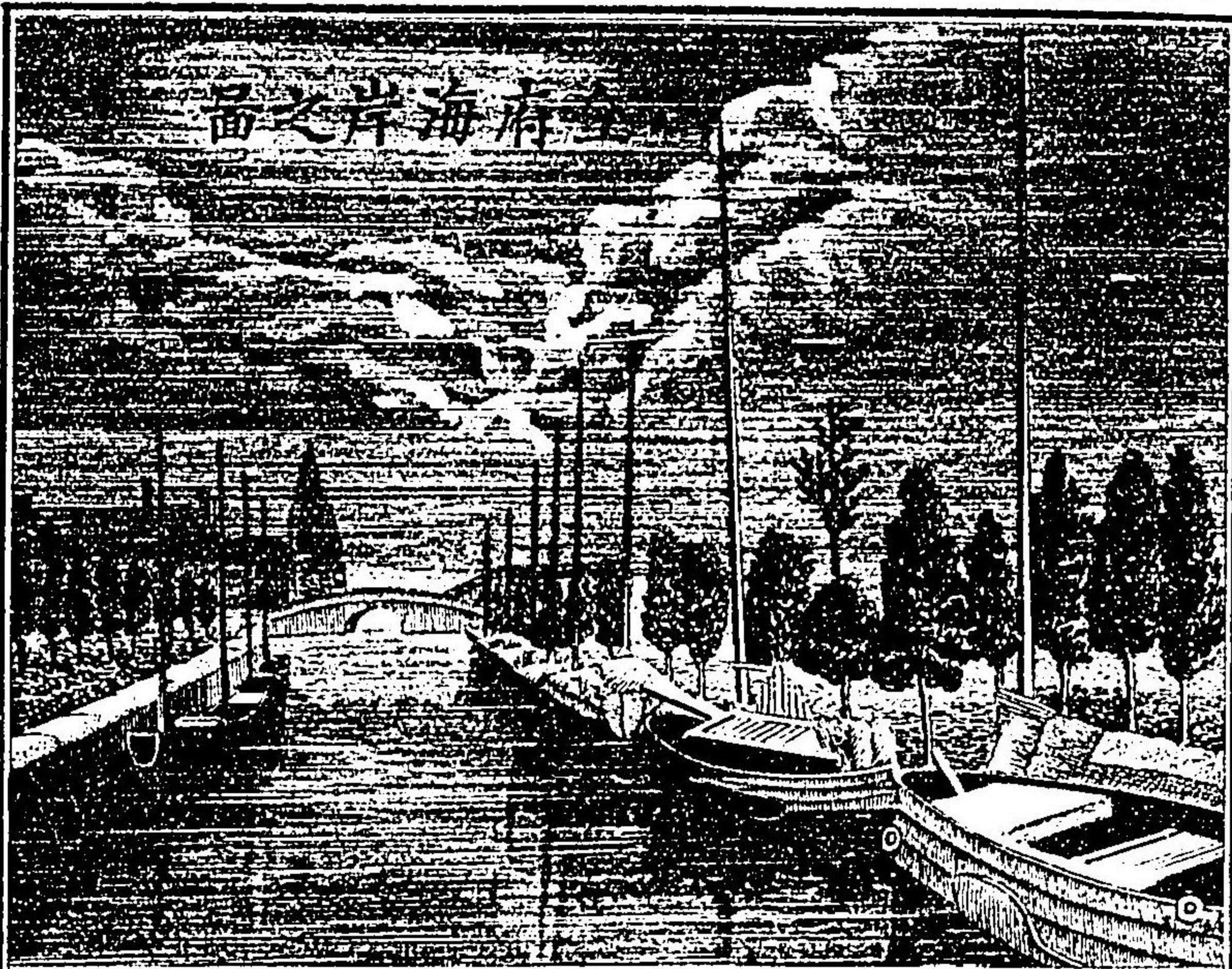


概して木橋のみをせど其中門は天秤の仕  
 概を設け橋板を閉閣あして溝渠をば漕す  
 系船を通ずあり是和蘭各都府の橋制あり  
 と知り給へ蘭國前にもいふ如く石材更  
 産出さるる当府の市街行を處石を礎して  
 路を修し石造館も多々見る其又二三の街  
 衢は美佛中にも名も高き市街は一步を譲る  
 あり又港内は船舶の出入頗る多と云ふ王  
 官は府の中央に長さ四十有餘間幅十有七  
 間の白石橋然る雄麗館元は此府の町會  
 所蓋し平常國王の居住さるる非ずして  
 別宮ありと知り給へ(皇居は前文海軍府)宮の内景金色  
 の眩爛たるものあらざせと窓明かき室潔



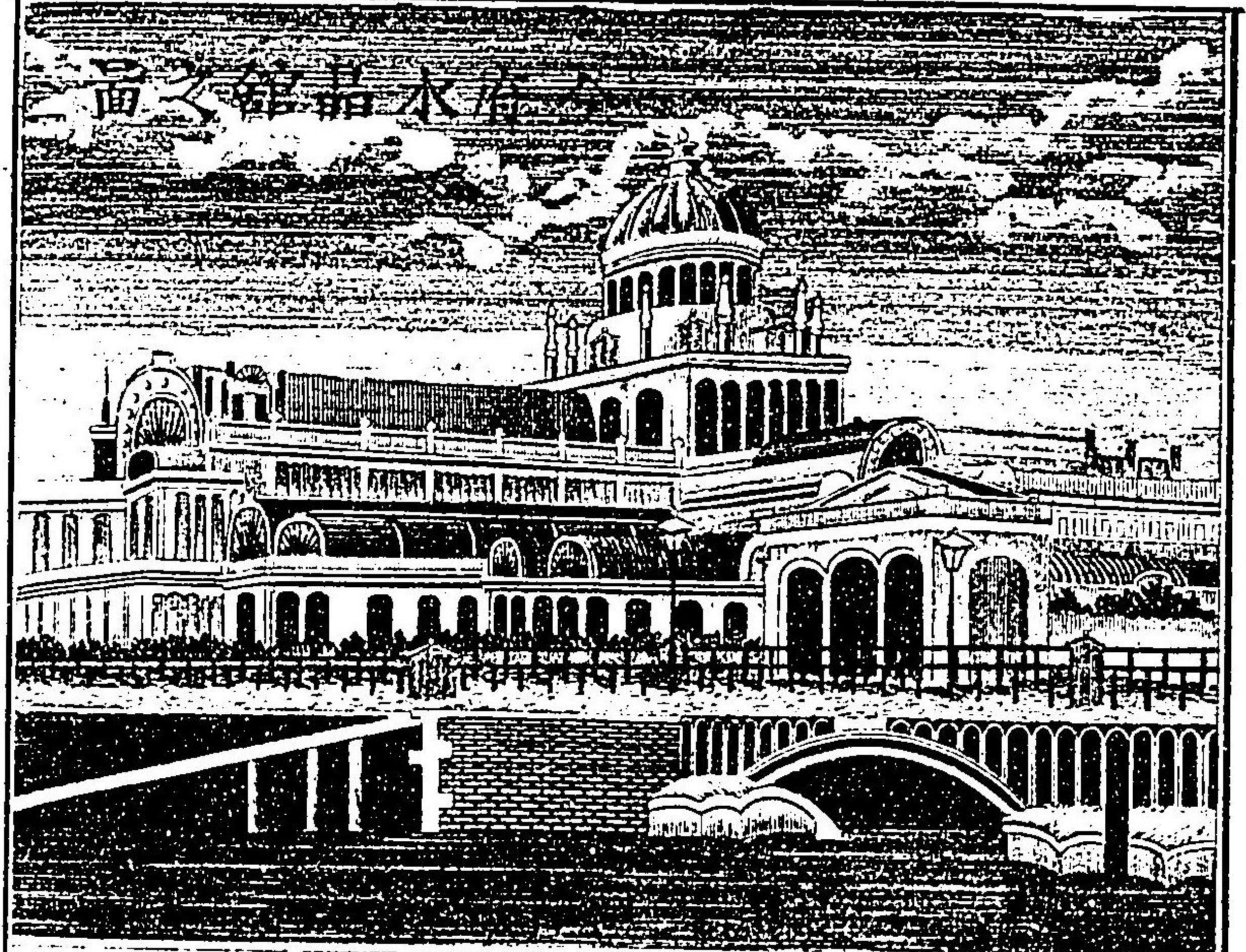
は惠せん事を冀ふと因て政府は其民の望  
 に従ひ此校を建設したる事ぞがし宗教  
 の徳勿論は愛國民の其功感ざるも亦余  
 りあり矣

奄特坦府之記  
 奄特坦府來丁の北方鐵路三十英里和蘭北  
 部の首府にして人口二十七万余地勢はシ  
 ンデル海灣を扼へし當國第一の繁華極  
 し都會あり歐洲中は切要の貿易場と知  
 らせり故に昔は此國の王都とせし  
 もあり市街家屋の構造は前府と大同小異  
 耳アンステルダムてふ河の小流府内を縦  
 横しおせよ三百有餘の橋梁を架し連通す



面之岸海府

其正面樂壇を設けつ時は奏樂あり  
 都人雅俗麇集す且又廊の兩側は酒茶咖啡  
 を販賣あり畫房の設け最も美し種々の名  
 画を羅張しつ有益なるもの最と多し  
 金剛石の磨鑿場世界一の名場あり歐  
 洲各國近世は金剛石の流行し追々盛む  
 成行けど是を磨琢し粹玉に成する他で出  
 來多きを皆此場に持來り依頼せざる事ぞ  
 かし叔て此場は今をさる五十有年前コ  
 ストルといふ人ありて佛國より領事た  
 り其後同氏は故ありて此名場を建起せり  
 金剛石ハ明者ニツ色ナキ者ト又黄色色色等アリ大類の者  
 ハ容易ニ得ルハ大者ニ寸以上ノ者アレバ帝王ノ冠飾ニ用テ萬國トモニ  
 貴重ナル所ナリ且此石ヲ鑿鑿スルハ此石ノ細粒ナキ者ニ因リ故ニ其形鑿  
 ン者ハ更ニ一層ノ重要トス亞王ハ一八六六年分額一十二分ニ其價ハ一千五  
 百圓ナリト云フ



面之館晶水府

却て清麗の感をあす畫額を飾する美室  
 あり丈絹張を不壁もあり或は十有七間の  
 全く白き大理石を以て造作したる内殿あ  
 り其中尤も廣敞は會食堂を最とあす正  
 高塔の下もあり其穹宇の高き事壹百尺の  
 上に出づ其頂心より金製の長鎖を以て瓦  
 斯燈の大叢枝をば釣下せり又該宮の全牀  
 は寄木板を張りつめて圓活足を失はんと  
 す  
 水晶館は当府中鼻目ともあす美館にて遊  
 行場ニ供すあり中心巨塔突起して全屋鐵  
 以て幹とあし玻璃を以て之を覆ふ皎瑩  
 し又淨し館中廣廊の設けあり木板以て下

日耳曼列國之部

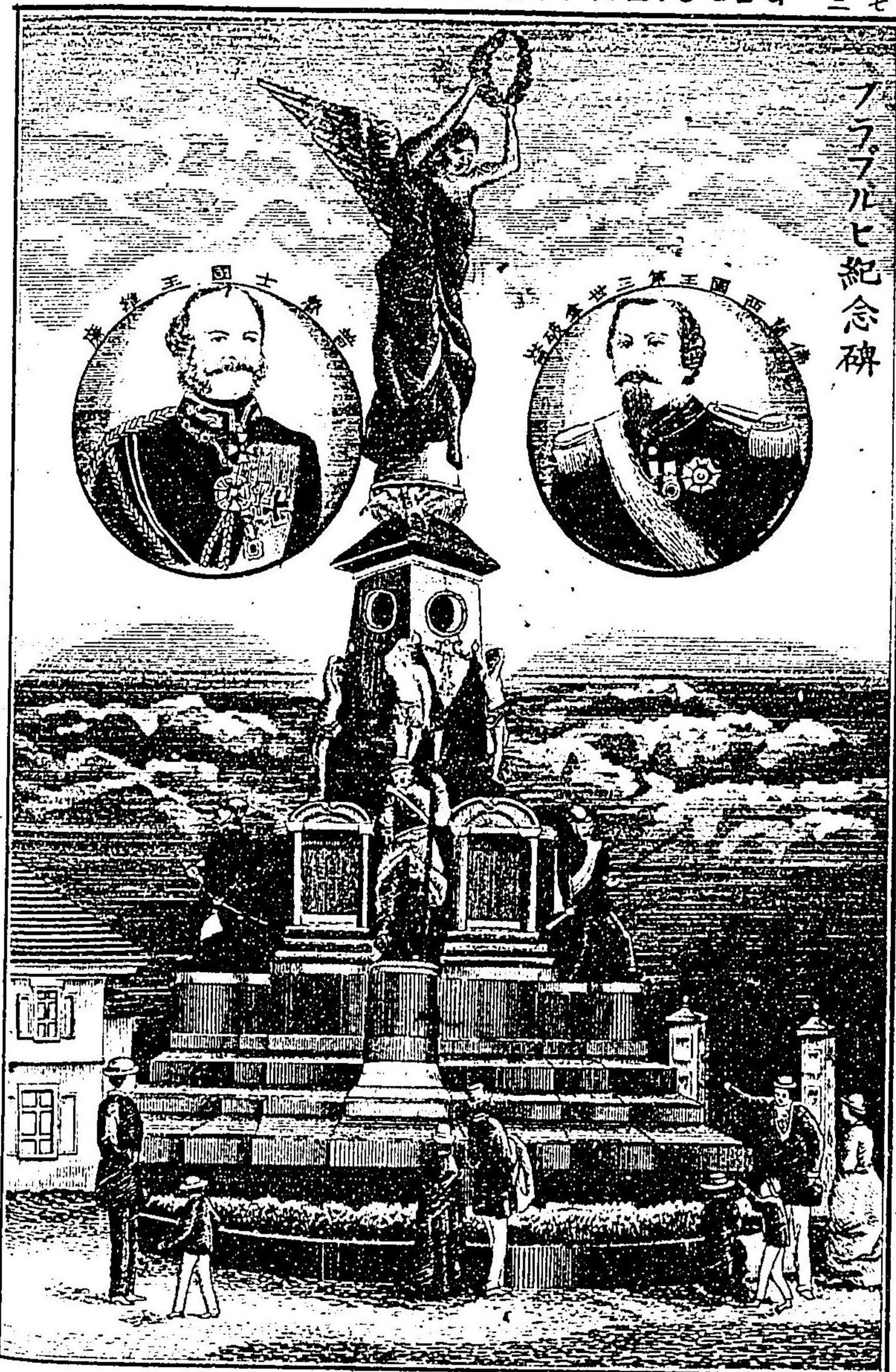
日耳曼一名獨逸と云ふ以上二つの名稱は、歐洲中央部分ある總稱なりと知り給へ  
 其地東は魯西亞國、匈牙利國に隣りしつ、西は佛蘭西、白耳義や、和蘭國に接して南方  
 伊太利、瑞西に界をなして而して、アトリヤ、チツクに濱しあり、北は北海、波羅的、西海  
 によそ枕面す、今左に日耳曼列國中、普魯士威權熾よて終に日耳曼總稱の帝位を得た  
 る略史をば聊か陳述致さん

右の域内往昔より大小許多の邦國に區畫をなして各自みち獨立國でありしなり、  
 其數三百有余國、其中大なる邦國は、埃地利、普魯士國、然るに一世拿破崙大之を  
 騷亂し、國勢為りは一變し、其數大に減ぜし、今より十有九年前、埃普の戦争以前迄  
 三十二邦ありたり、此數國を總稱し、日耳曼同盟國といひ、列國何れも全權の公使を  
 夫々撰出し、佛蘭克佛に會同し、埃を盟主とし、普魯士國は之に亞ぎ、其他は大小強弱  
 で順序を定て、日耳曼の全部に關する國事を商議するの制ありき、蓋し古代封建の制  
 度の如く見せ、其實互に自立して更之をば統轄する心の連あらず、非ず也、然るに

同年埃と普は或る事件より刺戟し、普國全勝したりけり、是に於て手埃國を再び日耳  
 曼同盟に加へぬ事となしたり、然して其他の諸國をば南北二大部に區分して、乃ち  
 北部の列國は普國に屬し、而して兵馬の權を委任せり、南部は全を普魯士に未屬す  
 るあけを共、ハノーブルや、ナツソウヤ、ヘッス、カッスル、其ほか、フランス、プロシヤの  
 數國は亡びて全を普魯士の版圖に入りて、其勢甚盛むよりありき、然るに佛蘭西  
 普魯士の兩國大に戦闘し、一千八百七一年、プロシヤ、普魯士全勝したる故、終に日耳曼皇帝の位に即き又  
 南部ある諸國も版圖に入りたをば、益大に日耳曼の全部三分の二を占む、右の如く普  
 の王は、日耳曼帝位に登りしも、普王の號は廢す、即ち普國は王として兼て日耳曼  
 全國の帝號を持すことす、只其國勢盛よて、全權を握りて全國を統轄せる其故  
 により、今日耳曼といふ時は、普國を主とし、其他は管内諸侯と見做すなり、(但、獨逸ハ)  
 右に述べぬ普と佛の大戦争、事柄を後世に示す其為、フアラブルにてふ土地より、大  
 美麗の紀念碑を、近年建設したりけり、左の真圖を熟視せよ、此後普魯士は百萬人を養育せし、佛國は其  
 勢を失ひ、普國は三十年の時、皇帝トシテ、三十三世トシテ、

リ、然るに一千八百七十年、明治三年、五月十八日、宣戰、普魯士は二月二十六日佛國と手結、日耳曼同盟、フアラブルにてふ土地より、大  
 美麗の紀念碑を、近年建設したりけり、左の真圖を熟視せよ、此後普魯士は百萬人を養育せし、佛國は其  
 勢を失ひ、普國は三十年の時、皇帝トシテ、三十三世トシテ、

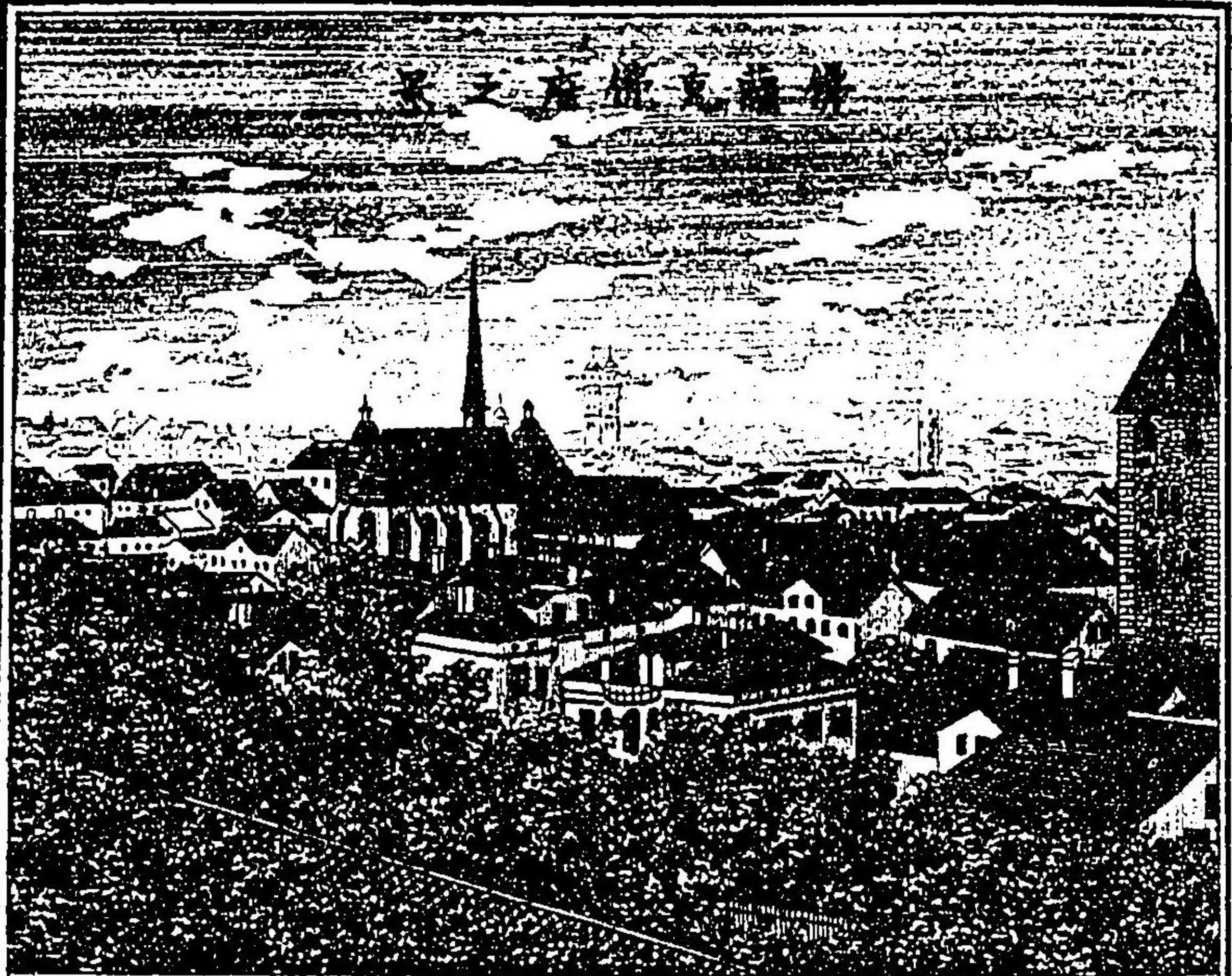
フツフルヒ記念碑



却て説く日耳曼の國內甚る廣きゆへ地勢地質も自ら異同すを免せず故に寒温土地より甚る殊異するところありやせ共氣候一般に人の健剛を害はず邦土大略豊饒にて産物夥を生出す其中央や南部は一般葡萄を培植し酒釀の業盛にて殊に來因河近傍の産品最も佳美とす北部の平地も肥沃にて大麦燕麥産多其得る所國內の需要に餘り隨て麥酒の釀造亦熾盛且森林は全國の三分一を蔽ふ如く其良材を伐出し河流は落し他の國に輸出毎歲巨額あり又礦山は此國の殷富を為せる源にして石炭殊に産多く鐵銅亜鉛之を並ぎ金銀朱を産出し礦物種類概略は倫らざるはあらずとす○内地温泉各所も大約五百有余あり何せも藥能ありといふ○製造場は各地とも盛に起り近年は歳を逐ふて増加しつ普魯士並に薩索尼地方に於ては麻布木綿毛布之類を夥れ出し薩索尼の陶磁器は世に名も高き美品あり又波希米の地方も亦玻璃の製造盛大に品位頗る精密にして世界に及ぶるは及ぶる彼の巨大なる千里鏡此處より出で、其名譽遠く宇内に傳播せり

又此國の貿易は内地無數の運河あり鐵道延長數千里運輸交通自由にて魯士亞伊太

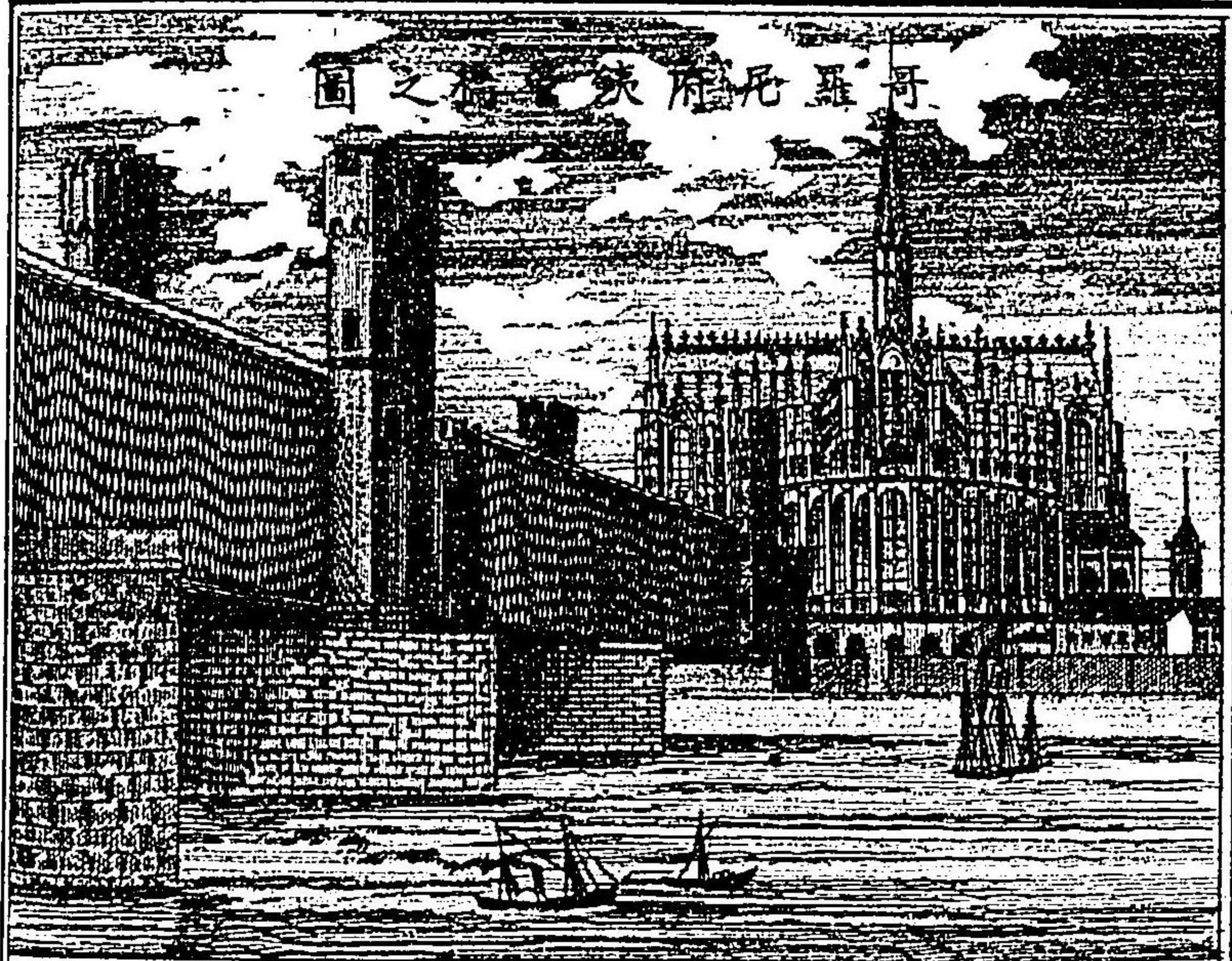




落成せずといふ其結構の壮安を以て推知す窟きあり又來因河に架設せる鑄管橋は巨觀にて氣車を通じ其線路白耳義國に連落す河岸府中を眺望むせば人家速り河に沿ひ巨利の尖塔鐵橋の前は聳て佳景ありやせども市街蜿蜒し加之幅狭く旧屋廢宇を散見し對岸より眺望する如く美麗あらざる場所多し府下香水を産出し毎年輸出數万瓶之を哥羅尼水といひ冷く世上に傳播せり、

佛蘭克佛府之記

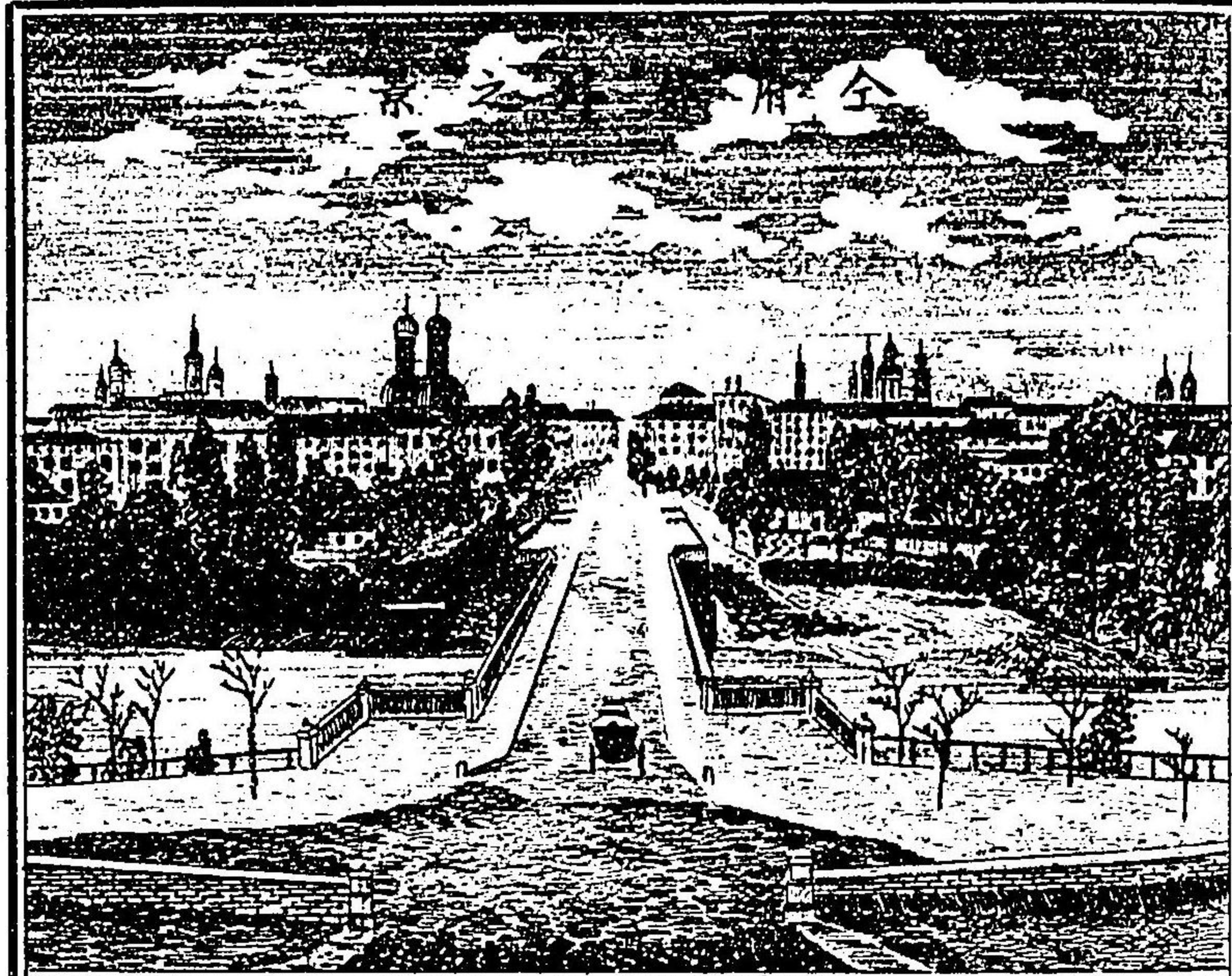
佛蘭克佛は哥羅尼より東南鐵路百五英里余迷尼河岸に濱したる人口九万九百余の



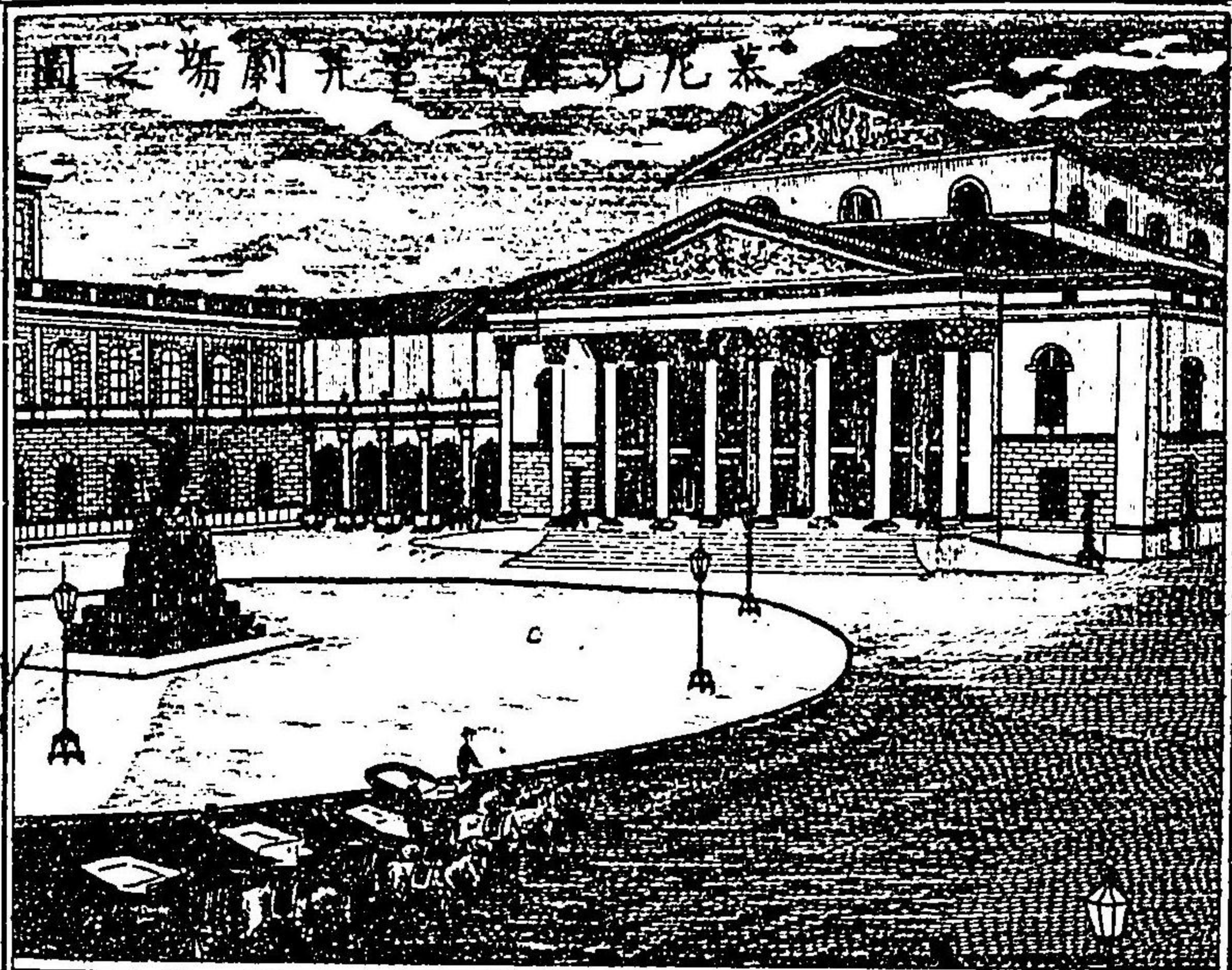
利佛蘭西や填地利は和蘭通商最も熾盛なり○國民総て堅忍は百折不撓の氣質あり風俗苟も淳朴は能く作業を力りあり殊に文學盛行し教育最も洽なく鴻儒陸績輩出し文化夙に開けや々當今日の出の國をかし國の政治は立憲の政體にして宗教はプロテスタントを主とす

哥羅尼府之記

哥羅尼府は列國中第三等の都會にて奄特坦和府を距る東南鐵路九十有八英里あり其地勢來因河に濱しなり人口十有三万余此地は名高き大寺あり今より六百余年前之を創建したりしが兩來積年盡力し今もほ



慕尼克府之記  
 慕尼克府は前府より東南方ニ位して鐵路  
 一百八拾英里人口拾有七万余地勢高原上  
 ニあり東南アルプス山脈のチロリーニ連  
 接す春冬二季はアルプスの山風烈しく  
 寒烈ニ夏月炎熱堪へかしく加之此邊は樹  
 木稀少なる故に心氣の快暢を害すあり  
 王宮並ニ劇場は府の中央の衝ニあり名け  
 てパレローロイヤルといふ新築宏麗粹白  
 あり先王マキシミリアンの御代ニ創めて経  
 營し高廠三階造りあり演劇場の門前ニ兵  
 士屯守あり居せり  
 府の中央の市街は旧屋多き道路狹隘し



一小盛都と知らせたり元來此府は獨立の  
 都會を以て此州は共和政治の制を以て  
 彼の聯邦ニ加盟しつ且日耳曼聯邦の政府  
 も此處ニ設けしが今より十有九年前普  
 滅され當今は其州縣ニ隸屬す蓋此府は日  
 耳曼の中心として貿易の要衝とあり鎮臺  
 や政廳設置具備したり鷹中奕世帝王の肖  
 像を掲げ美を盡す市街清潔富豪の家屋駢  
 列貿易の事業昌を行ふ又當府は猶太人  
 多き住居し富有者甚多き珠は彼の今昔  
 歐洲大陸中第壹等の富豪家ロツチルス氏  
 の居宅あり氏嘗て此府ニ業を起し方今は  
 各國大都ニ支店する其數甚多しと云々

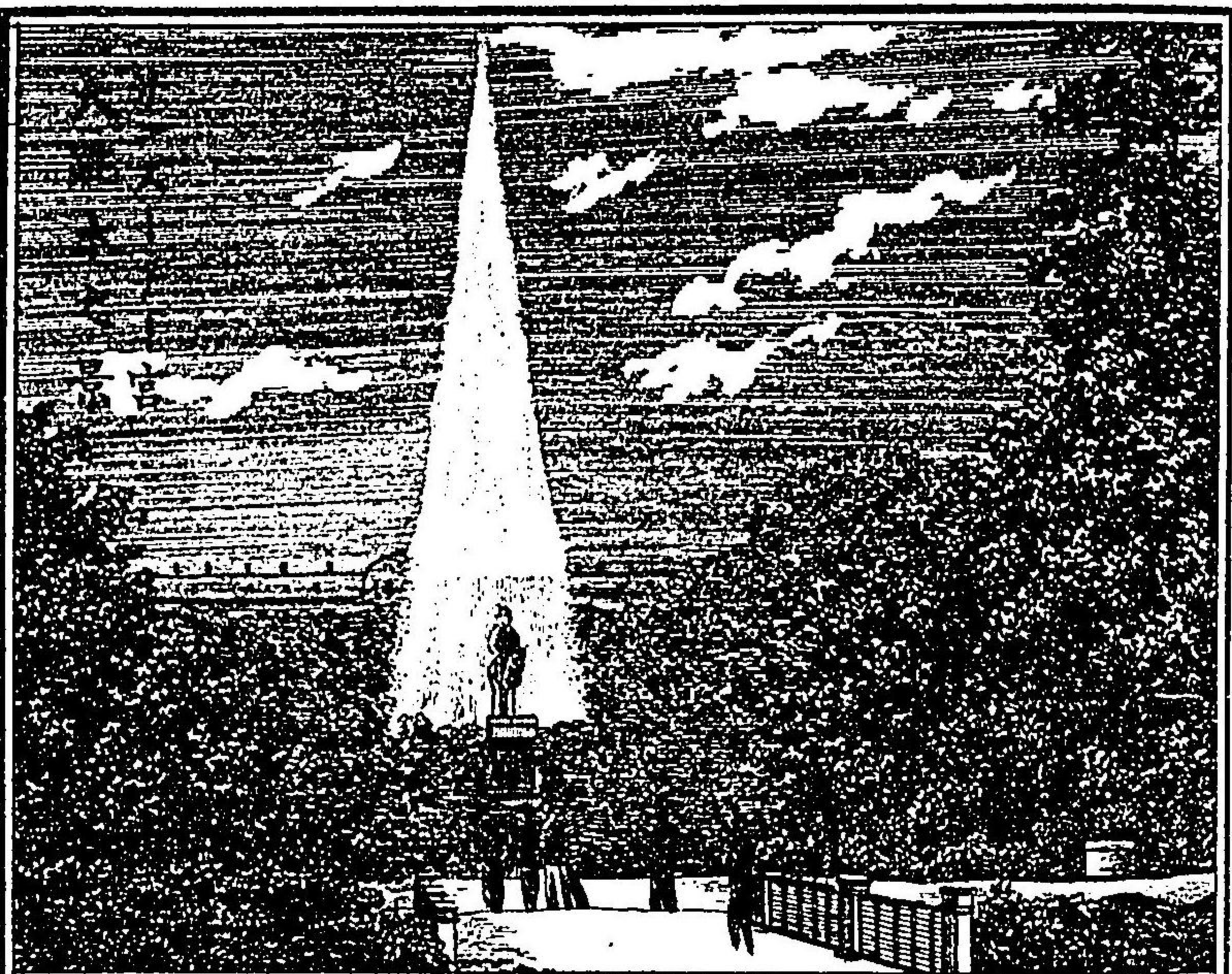


大銅像は府の南方一の高地は安置せり此像五十二年前始めて鑄造し取かゝり拾年間を費して遂に成就多りとりき高さ五十八尺余幅員八尺有余なる女神の一大巨像あり左手は草の穂を執り首上は高を擧げ右手は大なる剣を持ち一大獅子は倚りかゝる石臺高さ三十尺像重量八十噸像の内部は空虚にて螺旋階より登るべし臺上守人番をたし來觀諸人燭火を與ふ執て級を陞ふこと總て壹百三十段面部の兩側楯ありて各左右は突出す是を則ち兩齧あり此處は六名坐し得るし其咽喉の大さハ犬ふる人も開が首を俯向するを要す



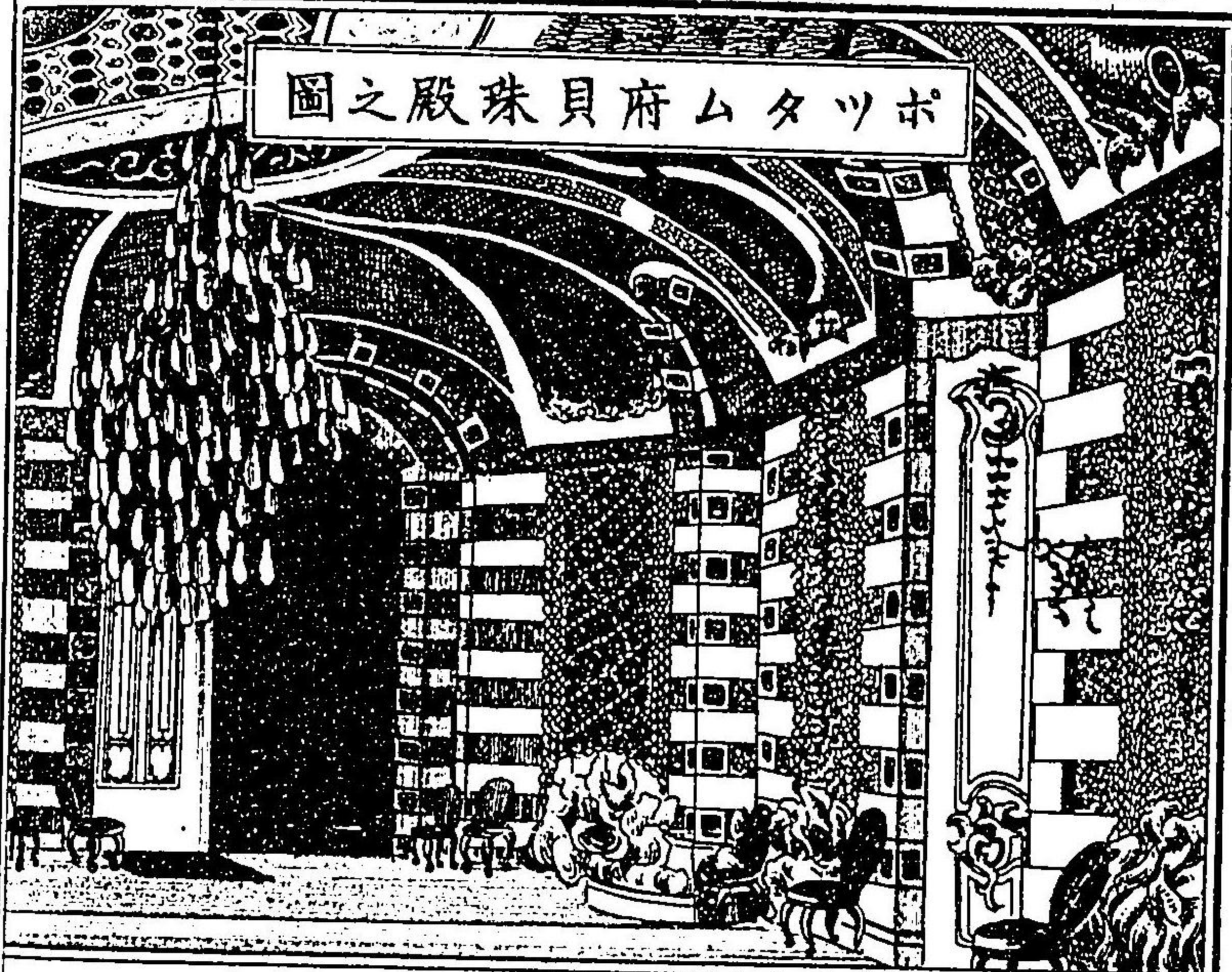
やせ共周圍は散布を及新築家屋は稍羨あり又博物館の設けあり名畫古筆の書藏館巨大の文庫や各國の製造品を聚蒐し百物學科の器械等概して備らざるはなし又大學校設けあり日耳曼屈指の規製とす此府望遠鏡及び精緻の器械を製出し其名世上は響せあり舞踏の會は歐洲中一とも盛し行は英佛最も昌んあり然るに當府の舞踏會はセフレルタンツと相唱へ一種奇異なる舞踏にて晴昔りの習慣あり我日本は行はる盆踊りも類せり矣

VIEW OF GRAET FOUNTAIN, SANS-SOUCI.

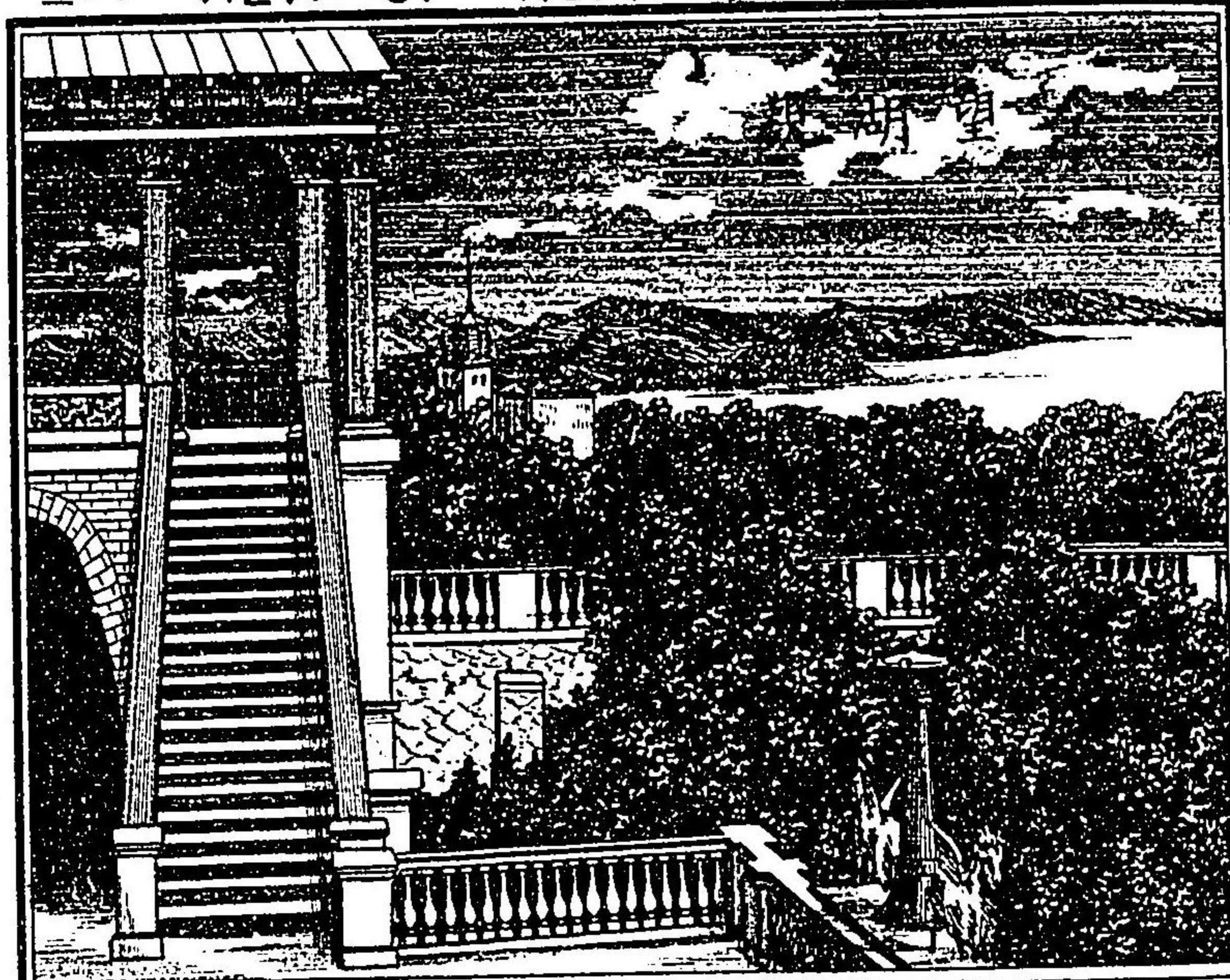


地殊多き故國王貴族紳士みま此地陸  
續杖を曳き湖に沿ひ又岡を占め王の離宮  
敷棟あり、  
貝珠殿はフレデルヒ第二の御世に建築す、  
宮中房室二百余庭園中四百余の石像を  
建て最大の跳水みごとく噴飛せり  
正面の堂柱壁は総て貝以て裝飾し中珠  
玉を嵌めふあり夜間燈火を點すまじ貝面  
光輝反射して炫爛燦然美觀あり  
サンスーチーの宮殿もフレデルヒ第二世  
の造営さきし居宮にて今より九十九年前  
一千七百八十六日此宮殿を殂し玉ふ王は平  
日質素にて死後には一の新しきシヤツ一

VIEW OF PEARL PRINCE. POTSDAM. 十八



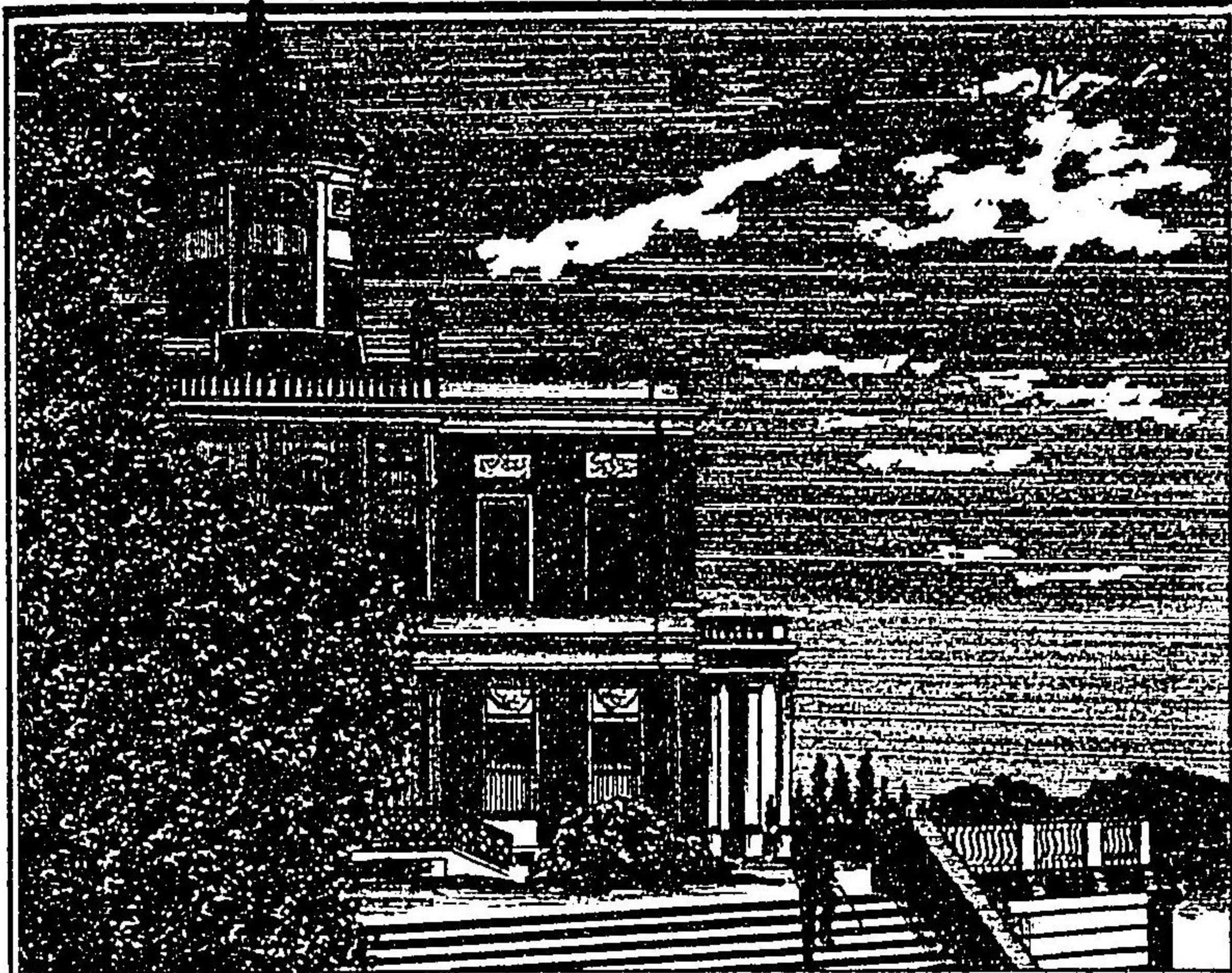
多々眼睛及び口孔より明をとりて此孔よ  
り府中を一眺する時は府の勝景を望む  
る歐洲數なき巨像也  
ポツタム府之記  
ポツタム府は前府より北方鐵路三百英里  
普國ブランデン堡州の首府にして人口ハ  
三千七百九十人、普國王の祖先なる某氏此  
州に候たりしとき此府に居城を建設し最  
も繁華を極めたり爾後ベルリンに遷りし  
も此府を離宮となしたりき此邊丘阜起伏  
て沼湖各所に環繞す普國の地形ハ総て  
平野多き殊に首府伯靈近傍平野にて山水  
明媚の勝あり然るに此府は幽雅にて勝



マールモル宮は前面、湖水を見晴を其勝景  
 我國琵琶湖も童あどむ正面石階層々、小  
 園ありて遊ぶ、園を降りて東すま、藏  
 畫館の設けあり、圓穹形の美宇はして雕績  
 頗る華麗あり

伯靈府之記

伯靈府は日耳曼の首府京城と知り給へ、ポ  
 ツタム府より東北方、鐵路二十英里余、人口  
 八拾三萬あり、其全地二十五方英里、我皇ス  
 プレー河の上流あり、一百九十五英里の内  
 地、壯宏の名府あり、歐洲中第周圍は、匣ら  
 す、塹壁は長も拾有一英里、拾有六の関門あ  
 りて、往來す家の口とあす。

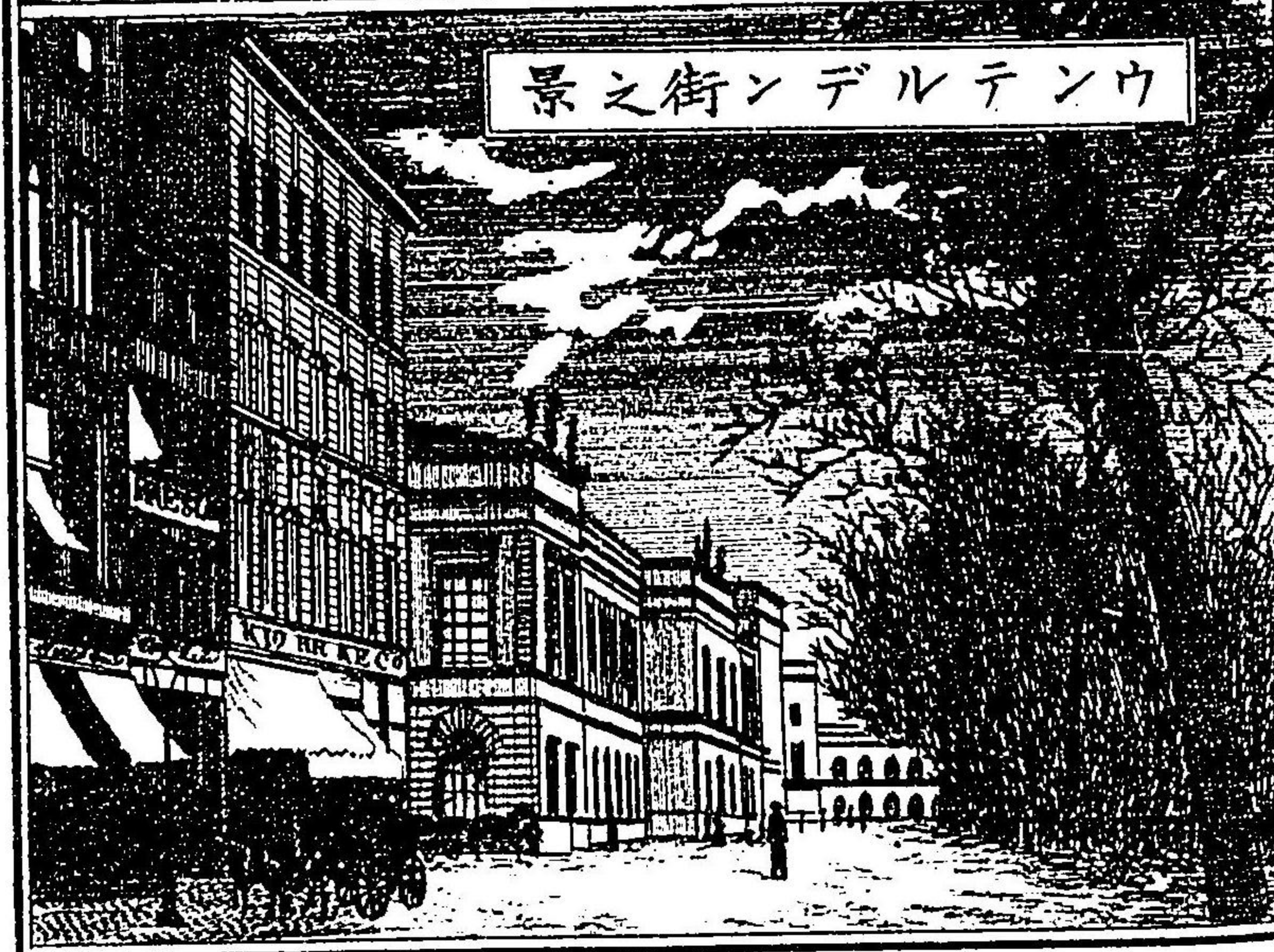


枚、贅蓄へず、侍臣を諸物を献上し、葬儀を  
 執行し、ありとぞ。○此宮殿の西方、頗る名  
 高き風車あり、今より五拾余年前、フレデル  
 と維廉第四世の時、談官を、修繕あせ、其時  
 右の風車は、宮園の景色を妨害せる故、  
 車主、命じて、遽かみ、取除けす、危しと、嚴達  
 す、車主、泰然答へ曰ふ、伯靈府は一人の法  
 律家は、非ず、歟と、更、ま、ま、ま、を、除却せず、此事  
 遂に大政府の會議、諮りしが、其結局、縦ひ  
 國王の權として、漫り、み人の家産をば、取除  
 けしむ、能はずと、遂に輿論、決したり、風  
 車、ハ、今、存、在、し、一の美談とあり、ありき、蓋  
 し、風車は、其家の、子孫、傳へて、室とす、

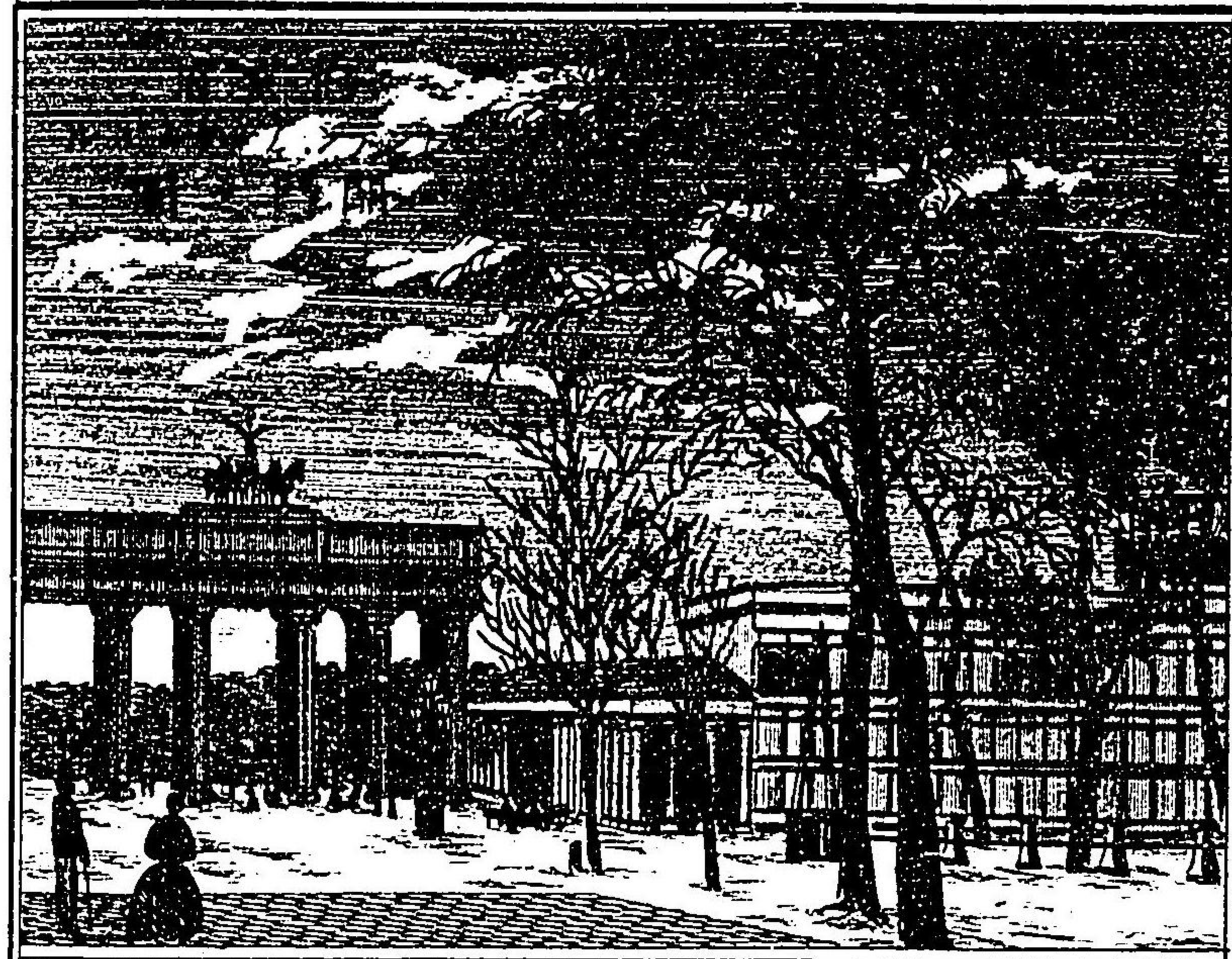
VIEW OF ROYAL PALAOE  
五八 VIEW OF UNTER DEN LINDEN



景之街ンデルテンウ



VIEW OF BRANDENBRUG GATE 四八



府内を五部ニ區別して第一を伯靈本部とし、ニをコローン、オンセ、スプレーとす、三はフレデルヒ、ウエルデン、四をドローツェン、スタットといひ、五をフレデルヒス、ダット

以ふ  
上欄に掲げし城門も、第四區内の耳目にて、ウンテル、デン、リンデン街に巍然たる一の美觀あり、彫鏤したる石柱ハ高さ四丈二尺あり、上は女神の駒馬に駕す銅の巨像を安置せり、此城門より一直線王宮殿に達すべし、大道幅員廣くして、高樓大廈路を挟み、商店駢列繁華之象、一目觀察す可きあり、各屋檐柱題上、石像を立て飾りとす

ROSALIEN FESTZUG IN PALERMO  
ZUR SEIT DER BOURBONEN.



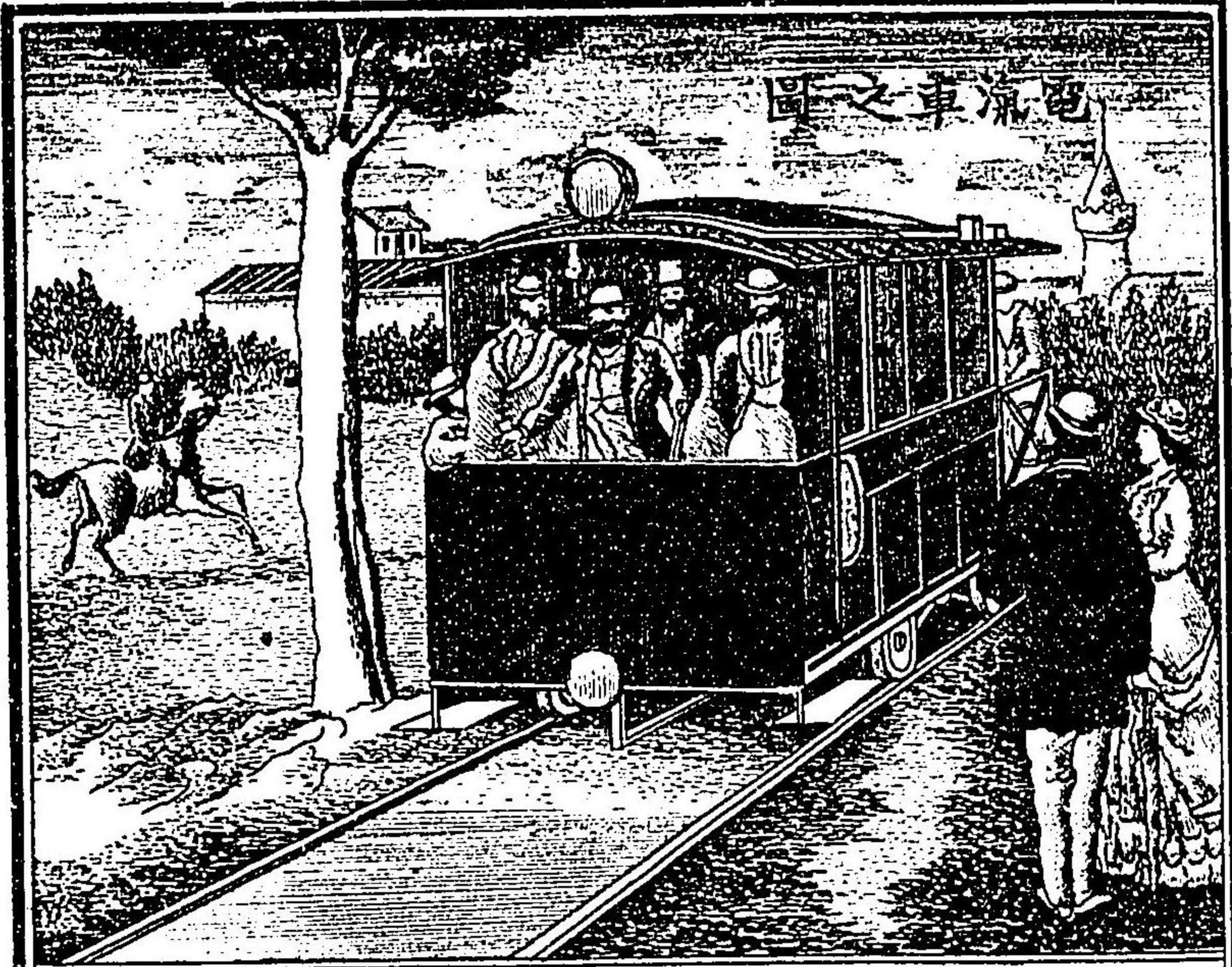
麗を極めたり、第一第三両区は、運河縦横便利より、スプレー河の本支流橋梁四十余  
有、總て普國の兄弟ハ男女麥酒を嗜好して飲量他國に超越す、吸飲一頓快をとり、街上  
高吟朗誦し、或ハ路傍に便溺す、且淫風盛ん、よて識者は實に感額し、并に制防の良法を、

宇内各國に廉訪す、某街上の  
寫真店公然春畫の寫真をば、  
賣鬻をふる者もあり、寔に取瑾  
と申すべし  
パレルモてふ處は、毎年  
一の祭典あり、其行列の模様  
ある、一種奇異の觀として吾  
國京都祇園會の彼山鉾、鬘  
鬘たり、ローザリーといふ人  
の靈魂を祀るものありと、

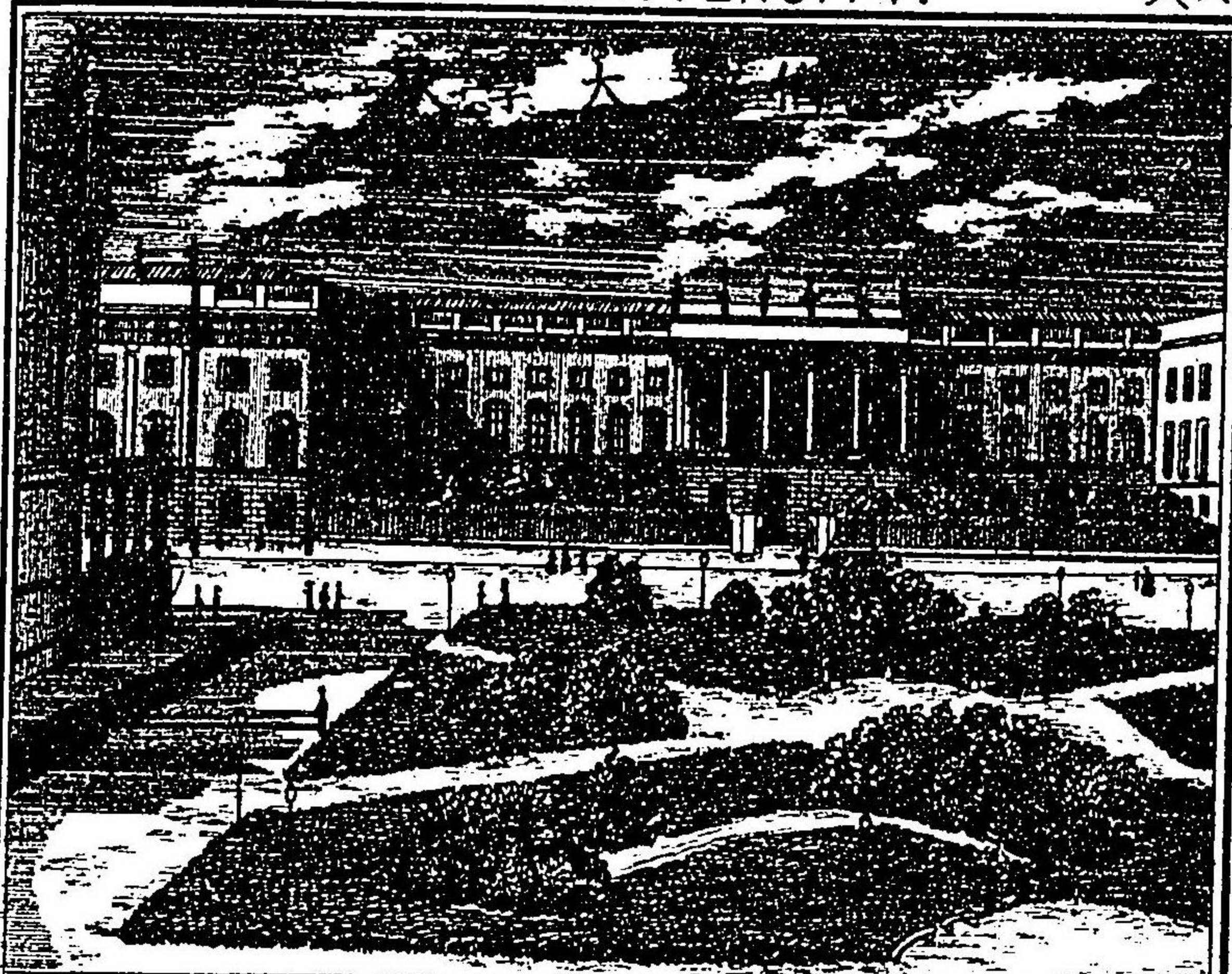
HOPE OF OPELA HOUSE 六八



王宮は第二區あり、河岸に濱し、景色よ  
く、殿閣結構悉く、華煥を極め、つ前面は彼の  
フレデツキ大王の騎馬の銅像安置せり、又  
内庭に園圃あり、王宮附屬の寶庫あり、名畫  
古器を陳列し、諸人は縦觀せしむと、あんな  
街衢は總て整潔、長程直線幅廣く、往來四  
條に區別つ、故車馬行人ハ隨て混雜す事  
更にあし、且つ左右には、尽く綠樹を植て、一  
雙の長苑を、あし遊地とす、地面総て煉石也、  
花剛石を密整す、然るに當府の屋造ハ、石造  
等ハ稀にして、自國の産は巧みある磚瓦を  
以て粧飾す、亦價ある大厦あり、  
劇場のある街は、四周の市塵屋宇皆、いと道



右の學校は附屬する巨大の文庫其外は動物  
 植鏡の博物館蒐蓄最も富あり其他陸軍  
 大學校醫學校や女學校建築物産諸校あり  
 教育完全具備したり  
 府中製作盛よて鐵器木具章華やら絹帛毛  
 布麻布之類金銀鑲飾器具等巴黎府も及ば  
 ず  
 就中今より百年前建築したる有名の電氣  
 は精妙華美よして近年上欄の品の如き電  
 氣機車發明し市街も多を布設せり石炭を  
 不用電氣力よて駛走す近年文化日は驛み  
 月よ盛よ赴々は是を教育の徳多る乎



大學校は普國語の所謂ユニヴァルシチーよ  
 て世界に其の名校ぞ生徒を以てて貳千人  
 教室廿有五ヶ所教員六十五人あり學科ハ  
 文學法學や理學化學は醫學あり天門數學  
 や有機無機神學心理修身や古物學は歴史  
 やら博物經濟社會學其他の學科盡く備ら  
 るるハあらむとす何れも碩學諸博士互に  
 分擔高等の學生諸人を教育す其諸學科の  
 學術は精微溫與高尚は他邦に卓越する  
 以ふ當國碩學フヒシテヒ一嘗て揚言して  
 曰く我日耳曼聯邦の文明をして將來に歐  
 洲諸國のそが上は冠絶せしむる者と云へ  
 ば其只大學に頼るのみと



VIEW OF THE

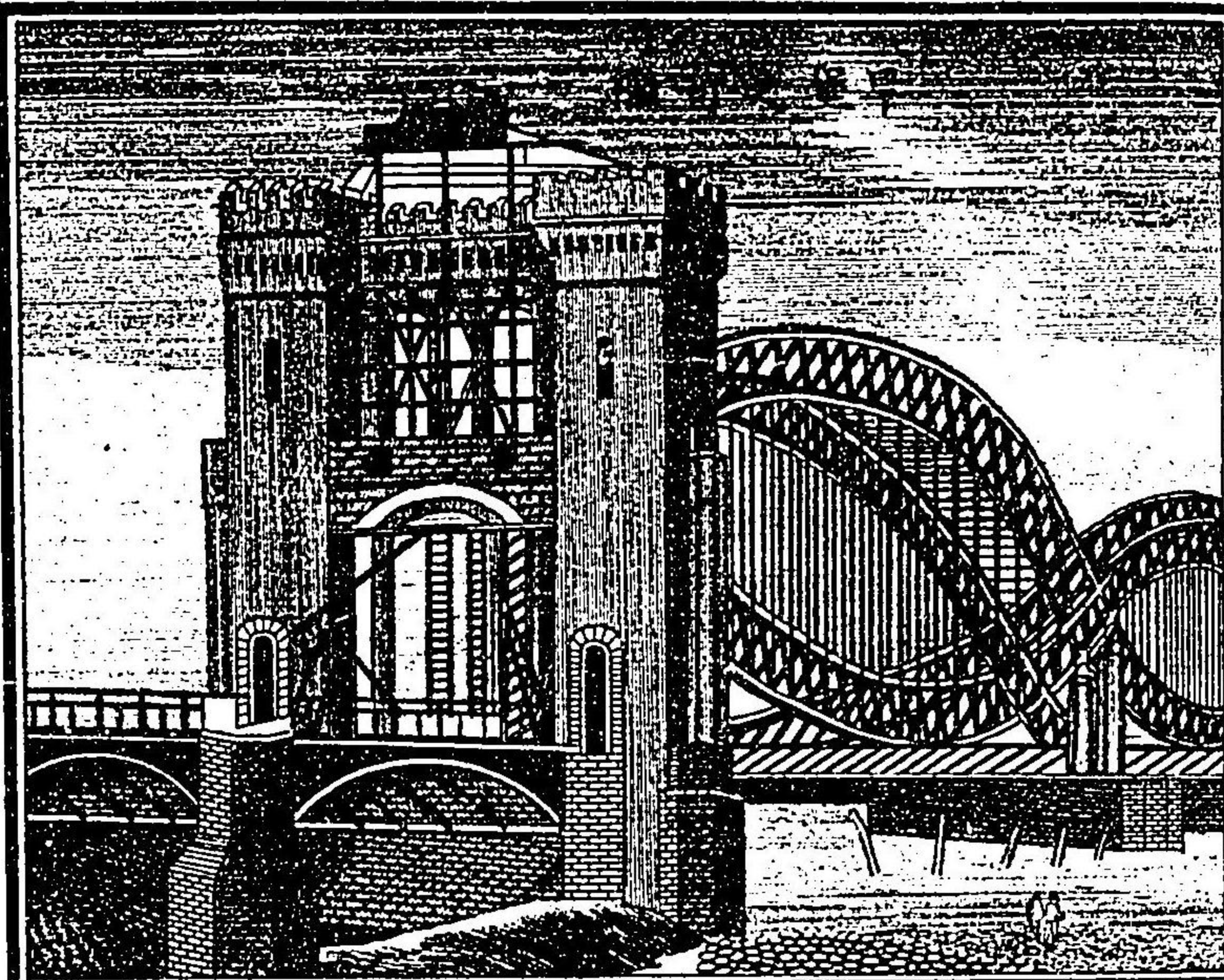


を附して齊列す各人綺羅を競ふさま翩翩々  
 且又嬋妍と衣裳は薫じて艶美あり男女手  
 又手を取り併ハせ足又足を合同し數人一  
 隊足車一步進で二步退き旋轉度あり而し  
 て動作節あり離きては還る合し合してハ  
 再び離る其様は花圃の痴蝶と一般に異香  
 芬然鼻を襲ひ狂奔風顔吾を忘る然る足  
 は四つ車男女互に情通じ心は蕩け氣もそ  
 る節度乱きて足は虚に或ハ前を踏ふあ  
 り又はしりもち搦もあり千舞萬踏映蝶の  
 落花を追ふは異ならずかゝるところハ一  
 声の喇叭高き響を時舞罷み笑声置々と天  
 を動す正よまき颯風忽ち静止して怒濤ハ

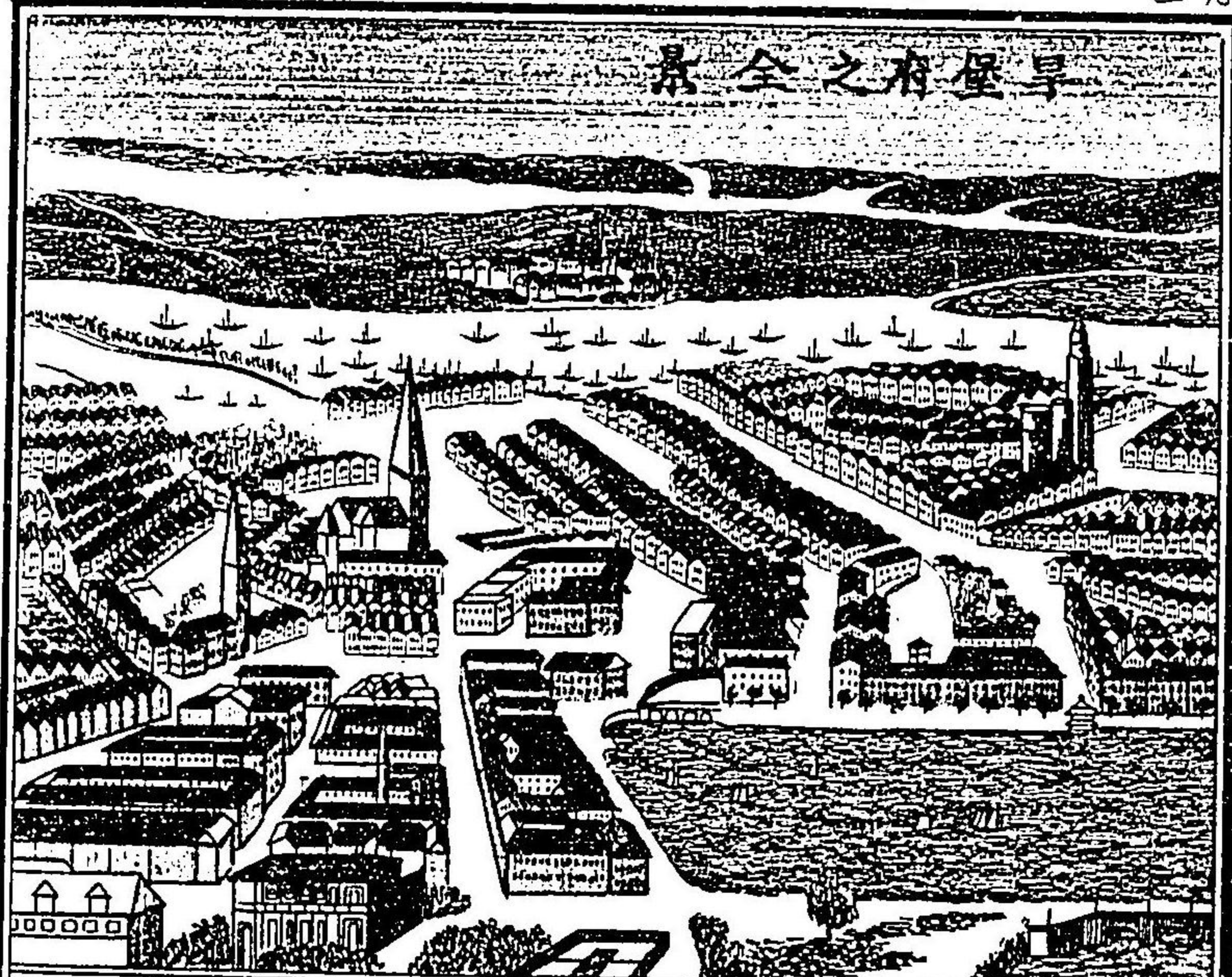
DENCEASSEMBLE



舞場は京師の一仙洞佳人の會する處より  
 冷郎の遊ぶ處より豈に往かずして可あら  
 んや豈に遊ばざらめやは場の周廻かこひ  
 して中は教棟の棧敷あり茶亭酒舗の設け  
 あり時刻到きは早々見る門前人の輻輳ハ  
 王車に乗じて來るあり肥馬を鞭ち來るあ  
 り或は自轆車半層車門外立雖餘地やあや  
 或は歩武且爾爾し酔て來る者もあり或  
 は威儀又整齊と醒めて來る者ありて見  
 るく遊客場内は娼集繩屯喧塵の漸を揚り  
 雑踏し塵至陸續人の山人の海かよあやし  
 まる右を穿ちつ左を衝き漸を舞場に入る  
 時は舞人男女數百隊各自靴は小さき車

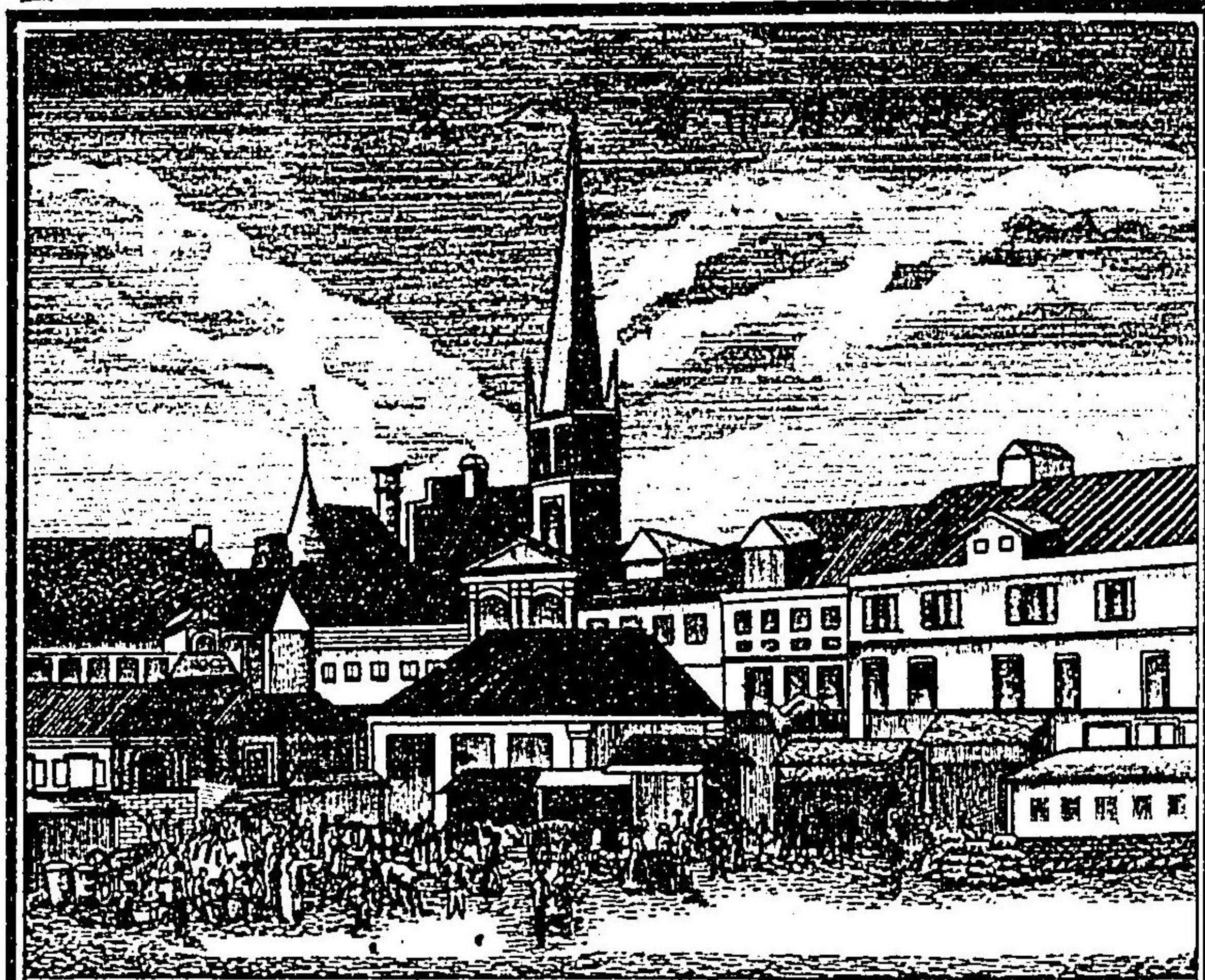


鱗次して諸貨の商店連接し萬貨輻輳昌か  
 市中一の大寺ありセントニコラス寺と  
 以ふ蕪格風の建築あり、  
 奇橋ハアルステル河に架したる一の奇觀  
 あり深車道人道區別あり橋欄上の番の如  
 く篋紋形の鐵を以て編成したるものよし  
 て他國に類なき美橋あり、  
 府の西北に花街あり娼妓を公許し宏大の  
 妓樓を設け繁昌す歐洲各地往々處賣淫お  
 きはあらざきとみあ街上を徘徊し客を私  
 商に誘すのみ公然花街を開けずは獨り此  
 府のみありき



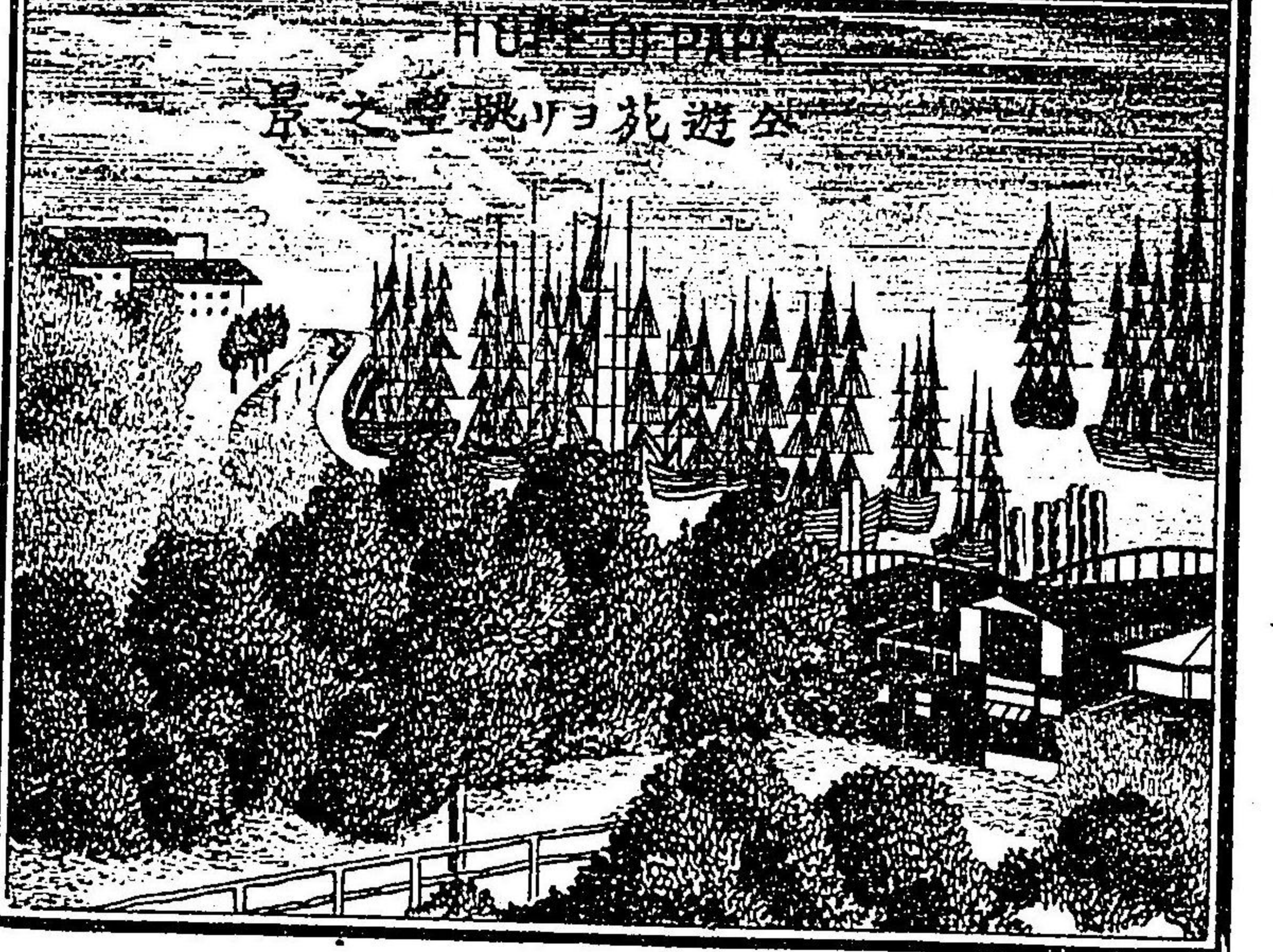
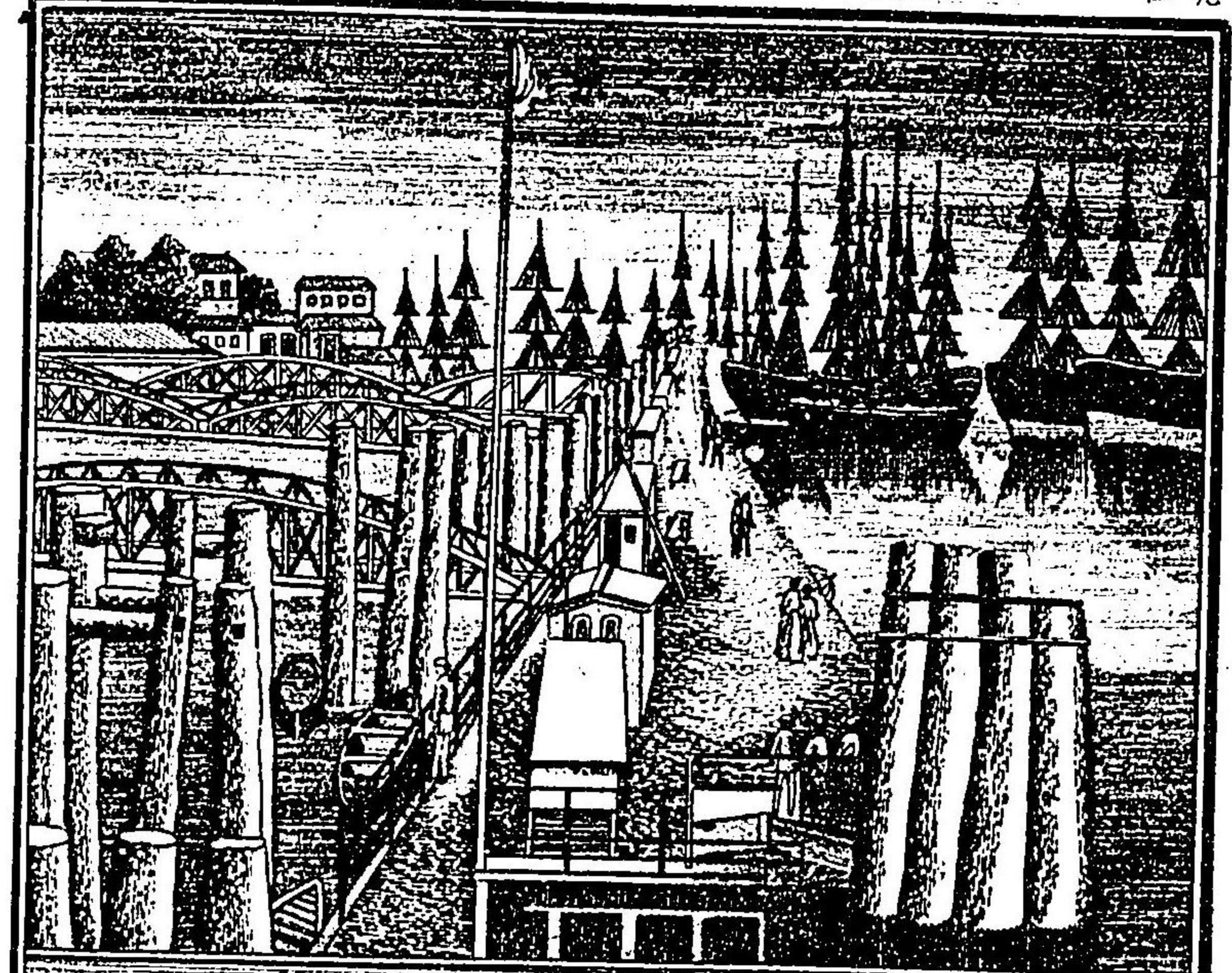
尚彼の鞆の聲を刺すに似たり危  
 早堡府之記  
 早堡府は伯靈の西北方に位して鐵路百六  
 十五英里余エルブ河岸に濱したる人口二  
 十四万余日耳曼列國其中に第二等の都會  
 ありやきと貿易最盛に推り日耳曼第一  
 此要港多りと知らるべし往昔佛の拿破崙  
 第一世が英國を窘めんとしたる時此港及  
 び不来の二港を塞ぎし事ありて歐羅巴の  
 大陸中主眼とするところあり、  
 市中に大なる池ありて形方正三面は市街  
 に接し一面は瀟車を通じ而して池上は船  
 を浮ぶあり遊園もそう勝地あり市塵掃比

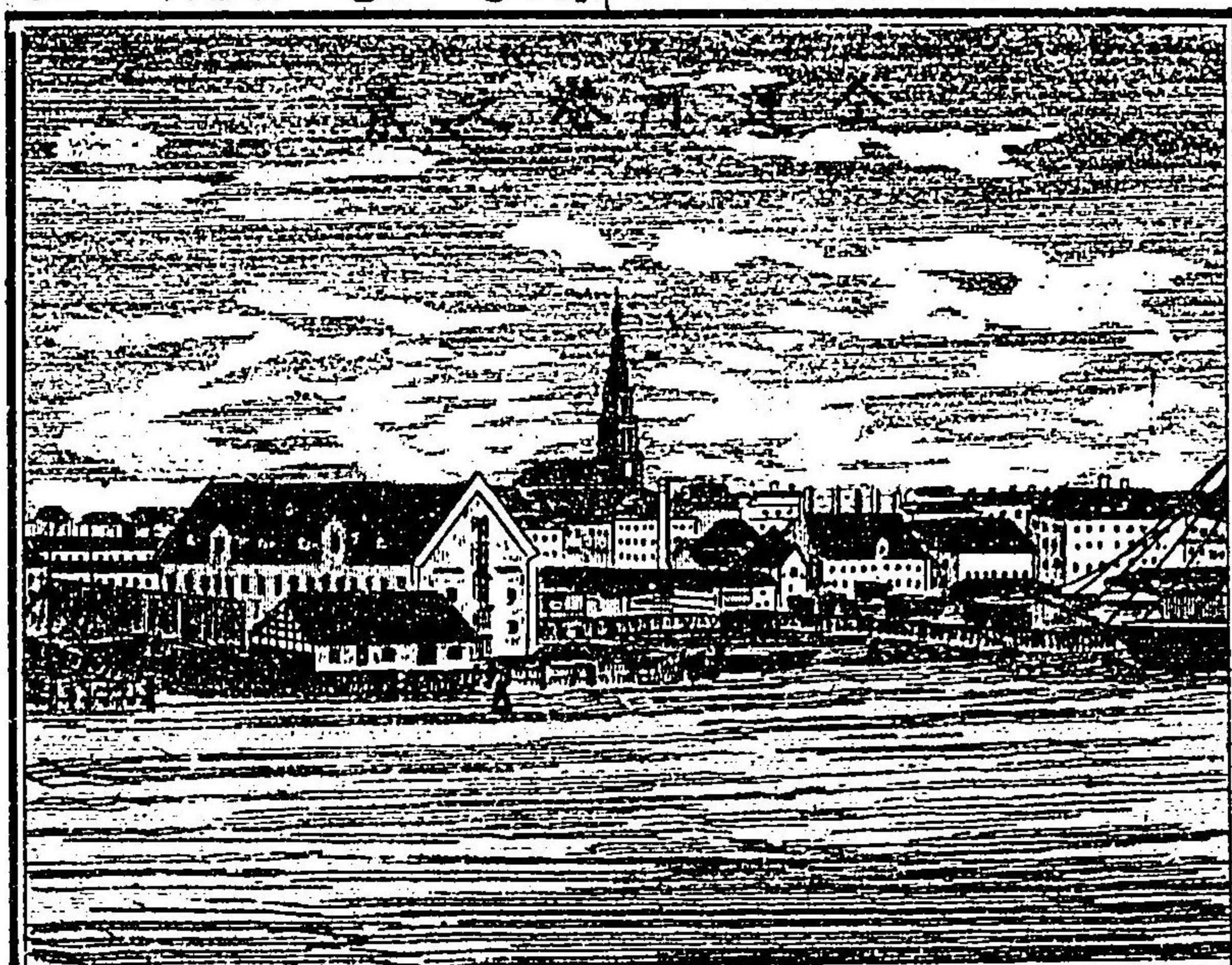
CITY OF LUBECK



エルプ河の下流ハ商船常ニ輻輳シ碇泊  
 松ハ林立の櫛を養め走松ハ烟を噴き帆を  
 張りて彼此交錯照燿を眺望最も恢朗あり  
 然るニ河流緩ニして兩岸不修流水ハ渾濁  
 多して其河底淤汚穢往々ニ掀泥船を浮  
 ぶたり  
 河岸ニ棧橋の設けあり乗船の便をあた岸  
 上ニ大道は路修りて清潔あり路傍ニ一の  
 丘岡ありて古城ありしを方今は公苑地と  
 あしたりき  
 律比克府之記  
 律比克府ハ前府より東北鐵路四十余英里  
 人口三万余りあり地理波羅的海ニ通じた

VIEW OF THE STEEP BANK OF ELBE RIVER.

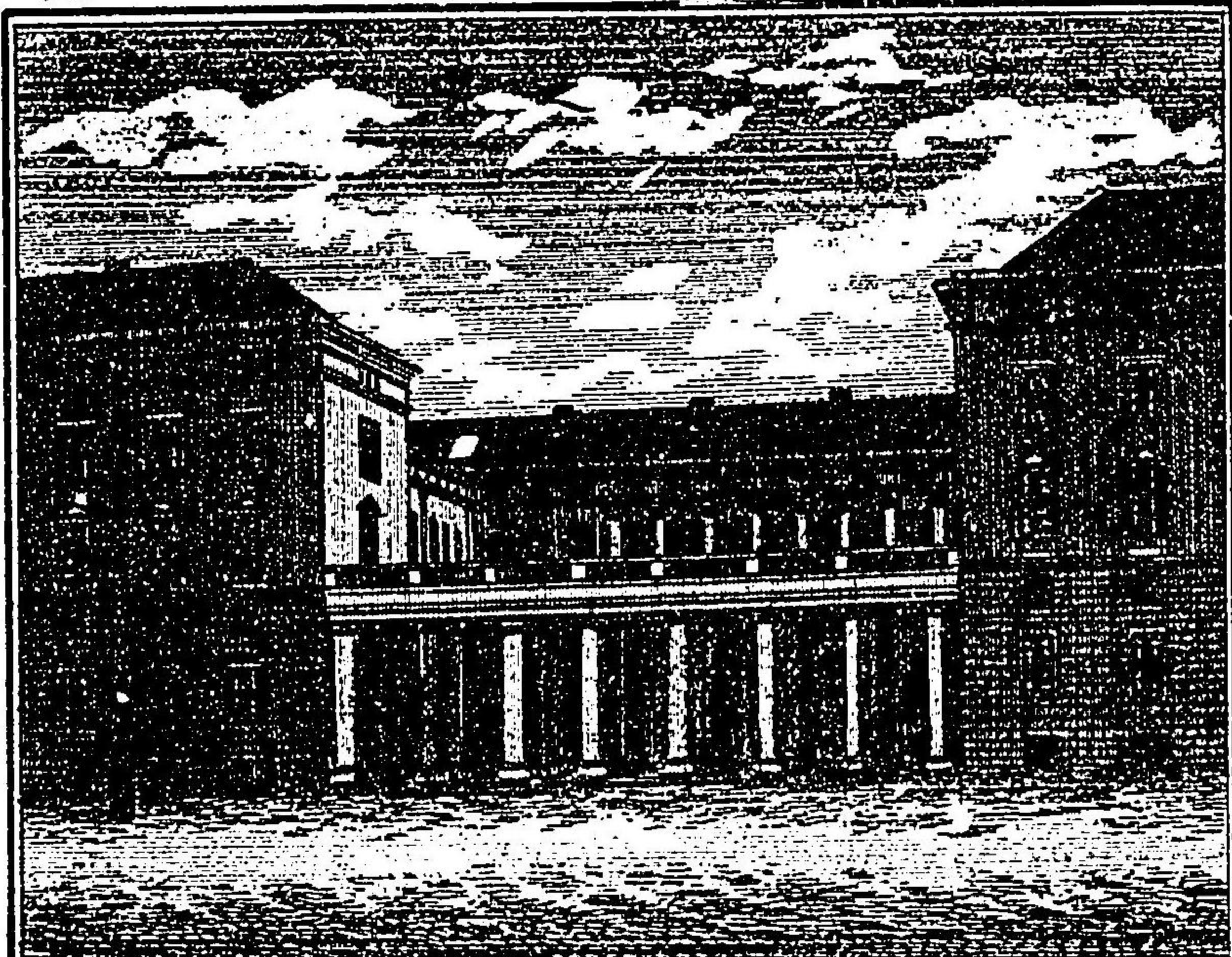




所屬の領地あり、  
 國人昔時猛烈くして、歐洲北部に強力を振  
 起爲しが、爾後ハ世の開明趨くに従ひて、  
 性忽ち進化して、剛毅法を守せるの良民と  
 ころありたりき、今ハ僅かハ佛蘭西の巴黎  
 一府に及ばざる人口にして、能く大國の間  
 立ちて我自主を全ふるハ其民性の愛  
 國心の充満し、業勵みて撓まざる不屈の  
 精神に富むよる、  
 地勢概ね平坦、處處々低窪の地は、屬し、  
 甚多しとす、殊に東部の地方は、堤防を  
 築き海水の漲溢するを防禦せり、今より五  
 十八年前海嘯の爲め、災害を被る事非



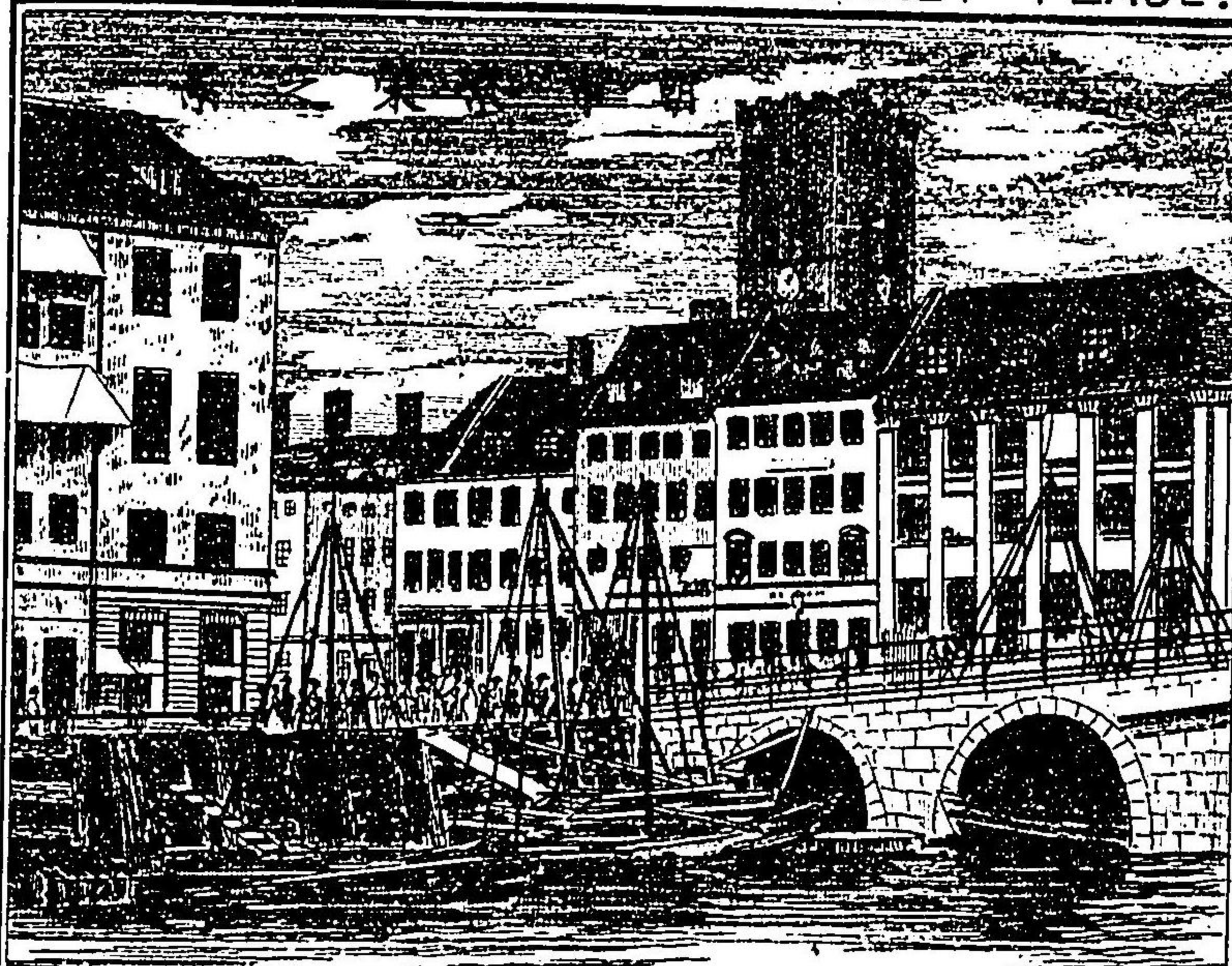
是通商盛人の都府ありき、市街は前府と大  
 差あり、其共近年衰へり、  
 噠馬國之部  
 噠馬國ハ波羅的海入口にあつた小國にして  
 一の半島地ありとす、東の方ハゼーランド  
 島及び大小五六島何れも附屬の島嶼あり  
 東北二方は瑞典と一帯海峡隔て、相對し  
 西北海に濱臨し、南は獨ては連れり、本部の  
 面積一萬四千五百五十三方英里、人口壹百  
 八拾万然して、外ハ北洋中、アイスランド、  
 ヤハルス島、グリーンランドの三屬地、猶且  
 外ハ西印度セントコロイク島及びセント  
 トーマス、セントジジ、入口三万七千口、何れ



哥卑合給府之記

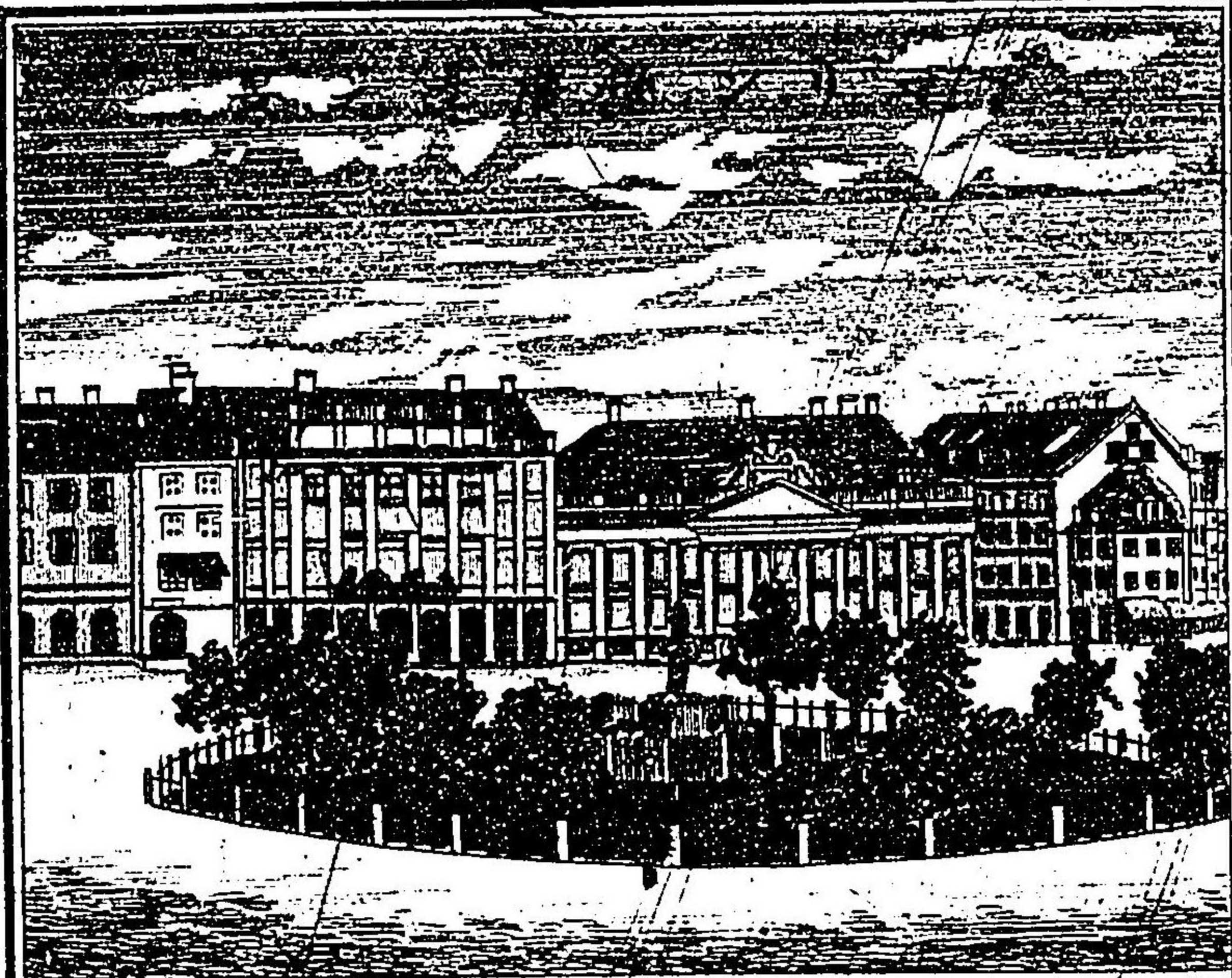
当府は前の律比克より海上一百六拾五英里  
 里セーランド島の東にあり瑞典國と峽水  
 を隔て、以て相對す人口十有八萬余不規  
 則圓形郭をまじバルチックの海水を引き  
 溝渠を回し海面より壘墩砲臺設置せり又陸  
 地はも岩壁あり此府の港灣廣くして千艘  
 余の船舶を入れ猶餘裕あり港口も甚全  
 狹も只僅か一隻往來あすべきあり○此府  
 昔時ハ比耳義と和蘭の人民移住して建起  
 したるものなれば方今までも近郊の農民  
 蘭語を使ふあり

府中を新旧二部に分け、旧部の土地は繁華

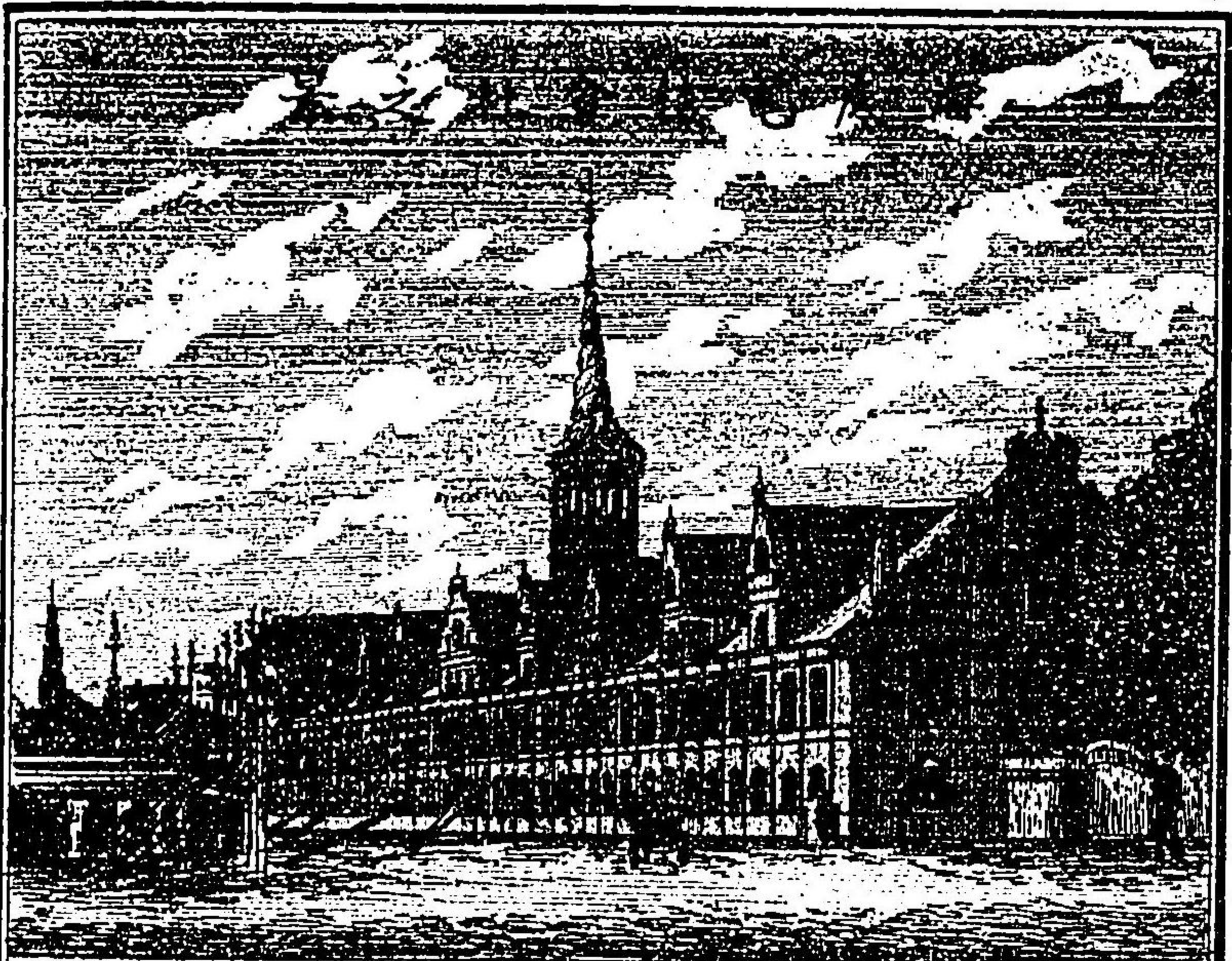


常て右の堤防も崩壊し海水平地は浸入  
 し多數の人家を喪へり其リムヒヨルドの  
 如きハ本ユトランドの部多りしが終に分  
 きて島嶼とある

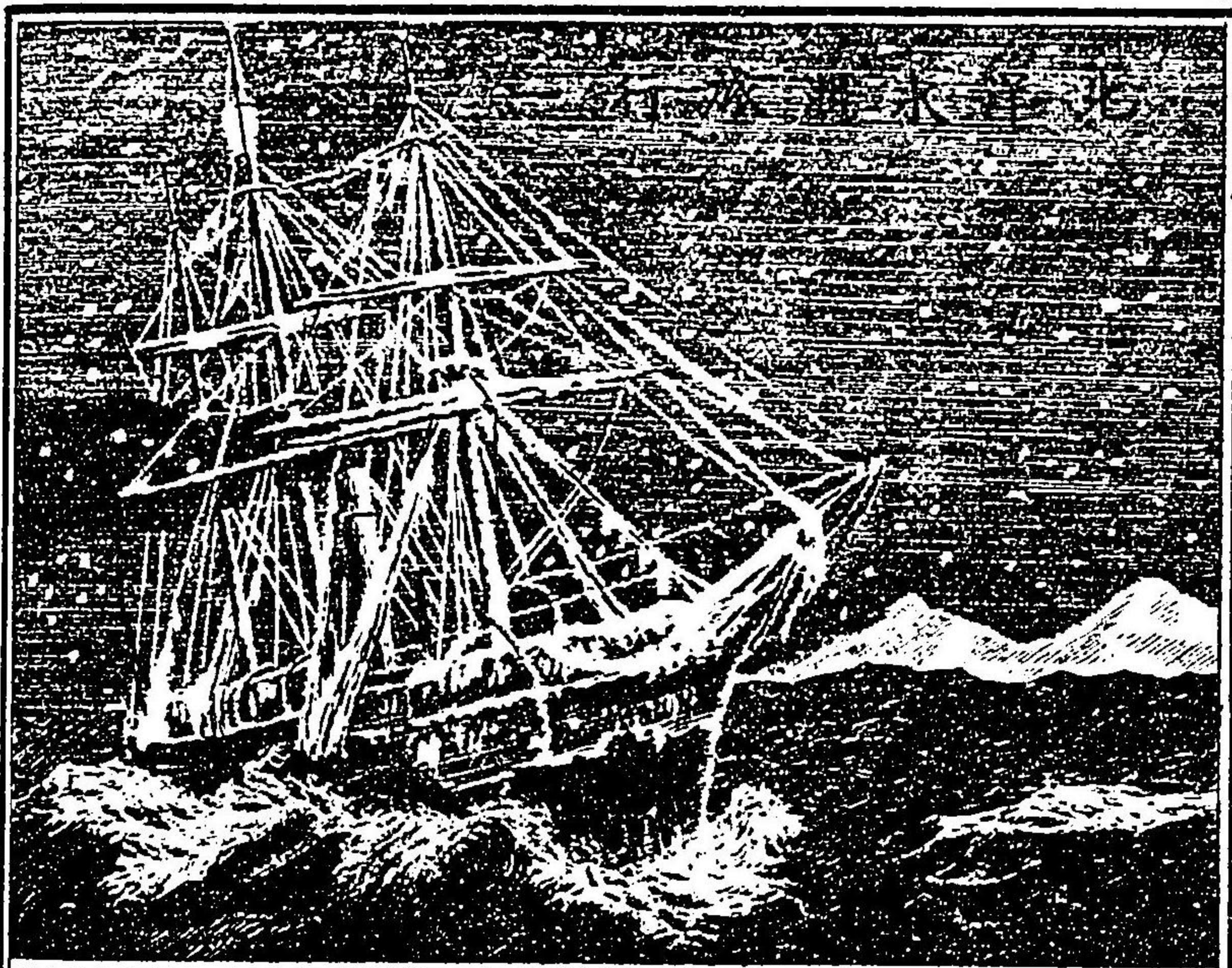
政治ハ立憲政体なる宗教ハ彼のプロテス  
 タント教の一派ありルーテルを深々信仰  
 せるとある王ハ必ず此教を信する人に限  
 るあり國內五穀富饒大麥小麦豊かあり  
 且牛馬の牧養盛んて輸出品の第一あり海  
 濱漁業の利も多し但し礦産更にあらず製  
 車業も自國の需要を足る目的とす近年國  
 民一般は質朴にして業は勵み奢侈の風は  
 濠せぬハ歐洲一と稱すなり



も名を冠し全面白石を密装し中央花園の  
 設けありブレテツキ第五世の騎馬の銅像  
 白石の臺上より安置せり達の四周ハ王族  
 の居邸多々連接す○此國兵士強健けせど  
 小國多きは屢々他の大國に悩まされ辛  
 苦を嘗めしが國人の意氣倍々激勵し文武  
 共に秀でたり人民生業は勉強し且交際も  
 信義なり、  
 编者曰緒言も聊か陳述せし如く北洋  
 中のハルス島アイスランドの氷島グリ  
 インランドの三屬地萬古融けざる氷洲  
 よてエスキモにて小人棲み其他奇觀  
 多ほけきど今之を述ぶ前此せらの島を



よて通商貿易盛なり新部の土地ハ王族や  
 貴顯の邸宅多しとす歐洲北部の麗都也  
 王宮ハ此國の富盛ありし其時より建策  
 したるものよして構造廣大ならざれど内  
 景頗る美麗あり宮内宝物又多し  
 上欄は置したる電信局世界は轟々大會社  
 我日本の長崎より支那の東部の上海へ架  
 設せられたる電線ハ該會社と定約し設けら  
 せるものぞかし會社の構造美を盡し螺  
 旋の尖柱突起せり、  
 アマリンボルクは新部もありブレテツキ  
 第五世の関き王ひし廣達あり街衢の線路  
 みまむるは轉集したる所よてハ辻ヶ原と



発見なる海路並に船將の千辛萬苦を嘗  
し事聊か諸君に語るべし蓋し無益にあ  
らざらん

北海開路之記

夫き北海は通路をバ開かん事を企圖せし  
ハ今より四百余年前各國々の有志者が頻  
りに熱心尽力し數々着手あしたりき当時  
殊更勉めしハ航海術は達したるホルトガ  
ル人スベイン人然り而して抑も始めむを  
企圖せし目的ハ西洋各國商船の東印度  
に達するに亞非利加洲を迂回てハ頗る遠  
路ある故に今北海は一線の捷路を発見し  
たらんハ貿易通商繁盛なる論を俟たざ

るところと是に於てカスペインヤホルトガルの兩國續々航海者を遣り以て通路  
を発見せしめし氷の爲めは辛苦して或ハ死亡し逃走し目的容易に達し得ず或る  
歴史家の語を聞かば英吉利國も亦夙に此の目を着け今を去る一千年の昔ある英王  
オースル皇帝の御世に始めて航海者を遣りたる事ありと云ふ其後十有五世紀に  
三年倫敦商船會社より航海者を遣りしが此船は東北に通路を開らん事を期  
し出發せしが其年の九月に至りて凍寒はラプラントの海岸にて船舶氷に閉じられ  
つ船將水夫皆死せり其翌年の春となり魯の商船之を看出したり然るに其船の中一  
艘ハ幸ひ無事ニ英國へ歸航したきと目的ハ又達し得ざりしと其後英ハ復更ニ西北  
方に通路をバ開かん事を企て二艘の船を派遣せり此ハ實に今を去る三百九年の  
昔にあり此時女王エリサベス自ら海岸に出で至り出帆の時乗組は懇懇別きを  
告げ至る此船其年七月に漸々グリーンランドに到達しラプラントの海岸を  
始めて発見せしるに其後九年の星霜を過ぎ英の船將ジョンデビス同じ目的相定  
め西北方に進みしがグリーンランドの海岸は同じを達し歸航せり又三年を経てジ



漸々和蘭に歸國せり後三年同氏又航行せしが此の度はスピッツベルジウムてふ島を始めて見發し其年の冬を凌ぎて翌年の春に至りて歸航の途船中にて死亡せり蓋し此パレンチ氏銳意北海に航行し始めて冬を送りたる歐洲人と云ひ傳ふ又一千八百六十九年の頃チャールソンといへる人同じく北海に航行し異に航せしパレンチが冬を凌ぎし小屋などを見当りしが其中に鍋や時辰儀や武器の類其他の器具猶存じチャールソン氏ハ見たりとぞチャールソン氏ハ其後如何なる處を詮索し如何なる所に至りしが詳かならずと云ふ又魯西

ヨンデビス再び航す此時ハグリインランドの海岸を北へ北へと進航し北緯七十度半の處に至りて通路をば索ぬる際水夫中反を謀き者ありて不幸多ふ加ふ氏ハ遂に水夫を殺させ而して船艦迄も奪ひ去り斯の如く有志者の陸續輩出したたりしは遂に当初の目的を達す事を得ざりし也是に於てか一般の輿論ハ到底北海に通路を開き目的を達し能はざる事と云ひ何れも大に失望の思を以て中止せり然るに其後二十有八年を経て豪邁の二千六百名高きバヒン氏あり此人北に航行し北緯七十八度の處に届りて其海をバヒン海とぞ名け、及同氏ハ亦勉むむと海面凍氷沍寒の威風肌は透徹し進み得ずして又遂に目的を達せず歸航せり此頃和蘭國も亦夫の英國の爲す如く北海に航路を開通し已に商權を掌握らんと數々航海者を遣りしが其中同國首府あるアムステルダムの商人ハパレンチと云へる一人の豪邁大膽の航海者を船長に撰びて以て西曆の一千五百九十四年七月初四日アムステダムを發港し東北方に航路をば發見せんと航行し北緯七十度半の處に漸く到達し木材以て小家を造り其年冬を送りて後



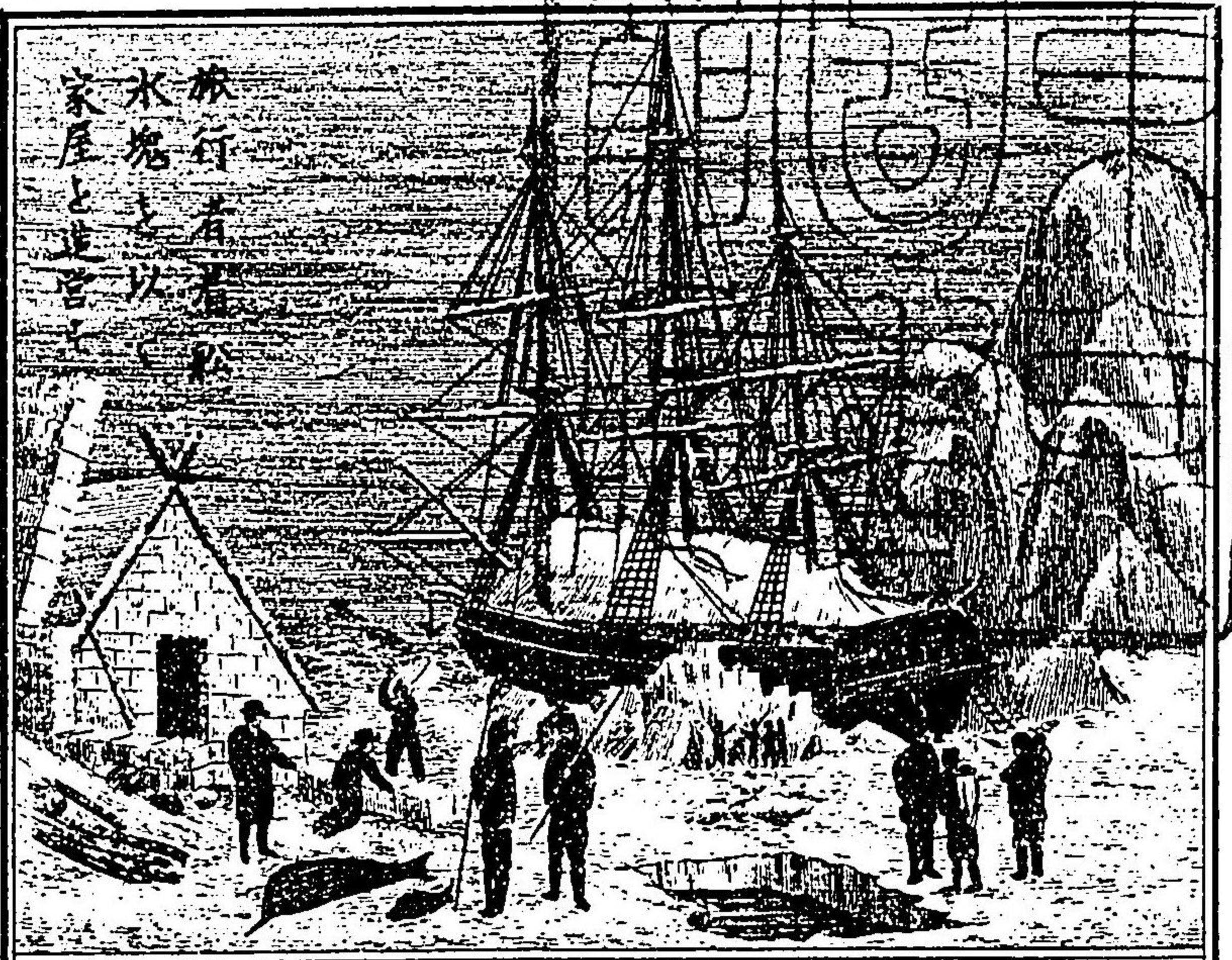


北極洲  
 後九年の星霜を経て、千八百北地に住居せし土人イスコマクス告げて曰、四五年前より一艘の船此處に來りしが、其船氷に閉らせて乗込一統無慘にも凍死せしを見たりしが、是を或はフラングリン氏の船にては非ざりしかと然るも彼の搜索に遭らざりし數艘の船舶は處々方々を廻るう支期せず圖らず亞細亞洲と北亞米利加との間ある彼の今のベーリンと云ふ處に出で得たり是に於て平世の人は始めて知る北海に此通路のあり事を蓋しフラングリン氏は豪邁不撓の氣力以て北海開路に熱心せしが遂に目的達し得ず半途不幸に死したきと氏

亞國も此事に深々熱心注目し十七世紀の終より斷へず航行せしめし未だ目的達し得ず然るに從來北海に航路を開かん目的ハ全く前にも言ふ如く商權掌握せむとする一途ありしが西暦の千七百七十有三年頃に至りてハ目的忽ち一變し全を學問上は付き北海航路を詮索むるの事と志をはりぬりき乃其年英國ハ二人の航海者を派遣して西北を指し航行しめり兩人北緯八十度半の處に到達せり此處ハ夫の一百六十六年前航海者の達したる處より北の方二十五英里あり而わして一千七百七十八年ハ彼の歐洲は名も高きキヤピテンコックと云ふ人若し此航行余等をして亞細亞に出ずる能はずば死すとも還らざ云々の誓を立てて出發するも遂に北海氷結し又目的を達し得ず誠は遺憾と云ふ言ふあり其後有志の人々ハ續々航海致せしが遂に進んで北緯線八十有三度半に達しり今より三十四年前英吉利國の大家なるフランクリンと云ふ人航行せしが此時ハ同氏年齢六十歳氏の本國を出でしより二年の星霜を経たりしも何の音信あらざれば氏が家を遺りたる妻子大に心痛し多量の船舶を派遣して廣ろを搜索せしめし遂に見當り得ざりしと

搜索する船舶が通路を発見せしめきば、取もなほさず故人なる英國フラングリン氏  
 が発見したると同じとす故に同氏が名譽は後世に傳へて馨し、  
 亞米利加人も是より先き航海者を遣り探究しドクトルケーン氏の如き一千八百五  
 十三年に本國を抜錨北海の處々を檢査し學問上大に裨益を與へたり其後ち一千八  
 百七十一年にホールと云へる航海者紐育府を出發し北緯八十二度余の處に達して  
 十分の檢査を畢りて歸國せり又一千八百七十八年より同八十年の間は於て米人シ  
 ヤツカと云へる人北海諸處を巡航し往昔より彼の歐人の航せし為めは死亡しつ或  
 ハ逃走せし後の遺物を蒐集歸國して大に北海航海者の歴史上の証據をバ明して以  
 確めり如斯く幾度か熱心家の尽力にて北海上の西北に航路漸く開通し又殊に彼の  
 北緯八十三度の處まで景狀明知するを得學問上は利益得しハ實に偉大なり然を共  
 嚴寒太甚しき為めは商業上はハなほ未だ多く利益を得べからず  
 編者曰北海航路開通の歴史ハ尚詳細を不竭と雖余り冗長は渉り及て本書の主  
 意は昔くの恐れれば先右之如く大畧を述て擱筆すむし然り而して今其の次は掲

可憐國の屬島たるアイスランド及ハルス島等の奇觀所謂眞の小人島の風俗人  
 情並に東西洋に絶なき事柄並にスイデンノルウエー國北方氷室内住居衣食住  
 ありさまや其他の珍らしき事は勿論殊に年中數百日は夜にして又數百日ハ白  
 晝の處等奇事妙説不少と云ふも本書の紙數既に超過して百廿ページの多きよ及  
 びたぎは詳出する不能故上欄二三の圖を掲げ以て本國驢馬よりグリーンランド  
 への航海の景狀を示し且氷洲へ上陸して將に旅行せんとする直狀を供貴覽置  
 き其記事並に内部の事情は第四卷に盡さんとす是蓋し已不得ことよつき看官  
 請ふ幸よ之を諒せよ



旅行者者  
水塊と建宮  
家屋と建宮

世界萬國名所圖繪第四卷

南枝 醇校閱

青木恒三郎編輯

噠馬國屬嶋哥里蘭一名噠馬屬之部  
 哥里蘭ハ亞米利加洲極北にある離島  
 疆域廣々北方ハ鐵留華盛頓といひ  
 伯理多の岬を以て北氷洋に涯りとし  
 西の方ハケンネヂー海峡及び巴芬灣  
 大關峽より界しつ南はフロレウエル岬  
 東南モルツク及びダンニ岬を以て名も高さ  
 大西洋に瀆すあり  
 其幅員と人口は沍寒不毛の地ある故  
 詳しを知る事難けきを近年推算りし表據は

世界萬國名所圖繪

全五冊

- 一ノ卷 亞米利加洲の部
- 二ノ卷 歐羅巴洲の上
- 三ノ卷 歐羅巴洲の中
- 四ノ卷 歐羅巴洲の下
- 五ノ卷 亞非利加洲亞細亞洲の部

- 合衆國
- 英吉利
- 佛蘭西
- 佛蘭西續
- 日耳曼
- 哥里蘭
- 希臘
- 葡萄牙
- 比耳義
- 連國
- 瑞典
- 以太利
- 奧斯利
- 瑞西
- 亞牙
- 和蘭
- 北洋
- 土其

明治十七年十二月二日版權免許  
同 十八年十月 刺成出版

定價金三十錢

編輯兼  
出版人

大阪府平民

青木恒三郎

南區安堂寺橋通四丁目  
六十一番地

世界旅行萬國名所圖繪

全五冊

- 一ノ卷 亞米利加洲の部 合衆國
- 二ノ卷 歐羅巴洲の上 英吉利 佛蘭西 佛蘭西續 葡萄牙 亞牙
- 三ノ卷 歐羅巴洲の中 日耳曼 比耳義 和蘭
- 四ノ卷 歐羅巴洲の下 哥里蘭 瑞英 那威 魯靈 北洋 瑞西
- 五ノ卷 亞非利加洲亞細亞洲の部 希臘 埃利 奧斯利 瑞西

明治十七年十一月二日版權免許  
同 十八年十月 刺成出版

定價金三十錢

編輯兼  
出版人

大阪府平民

青木恒三郎

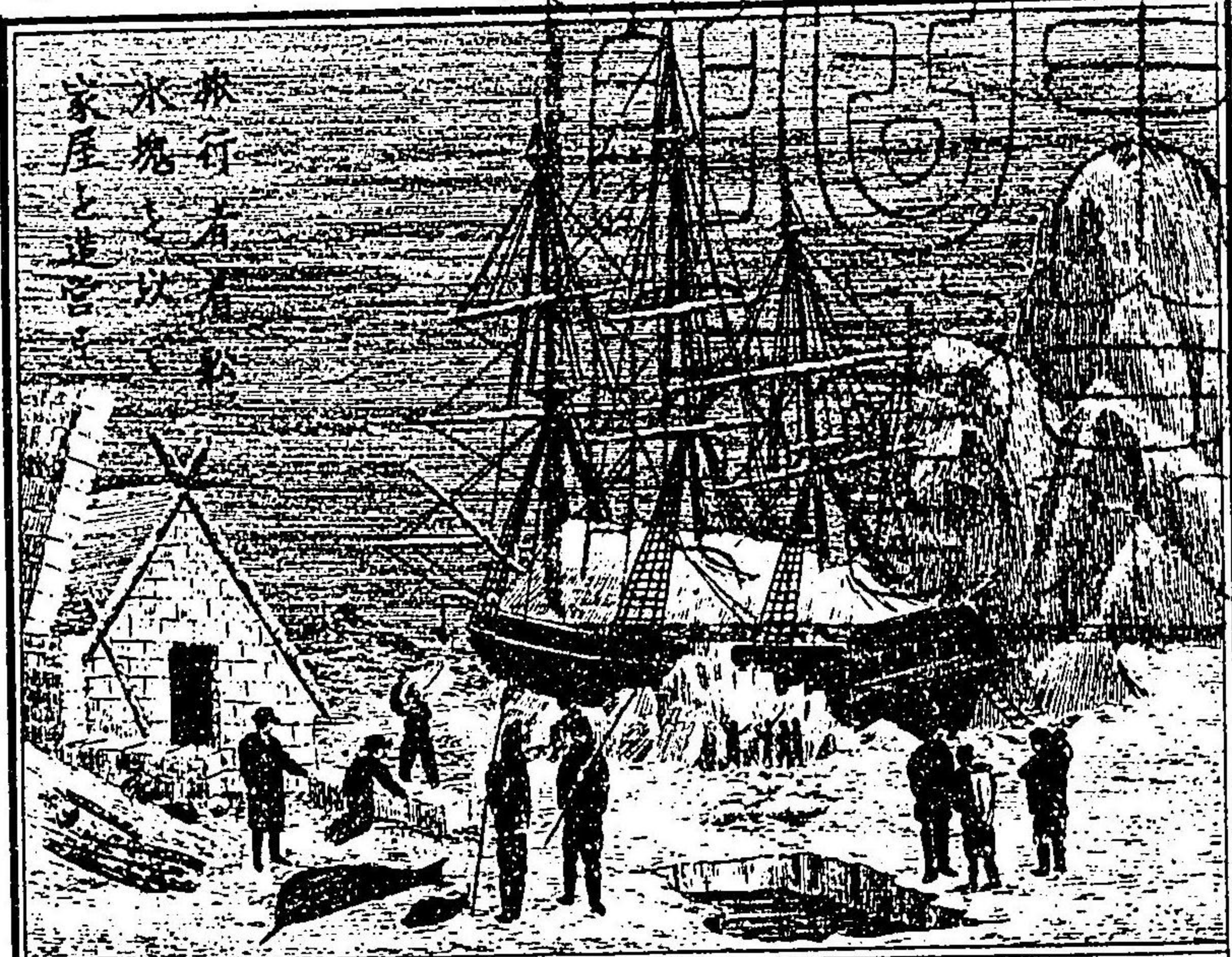
南區安寧寺橋通四丁目  
六十一番地

欠

MISSING

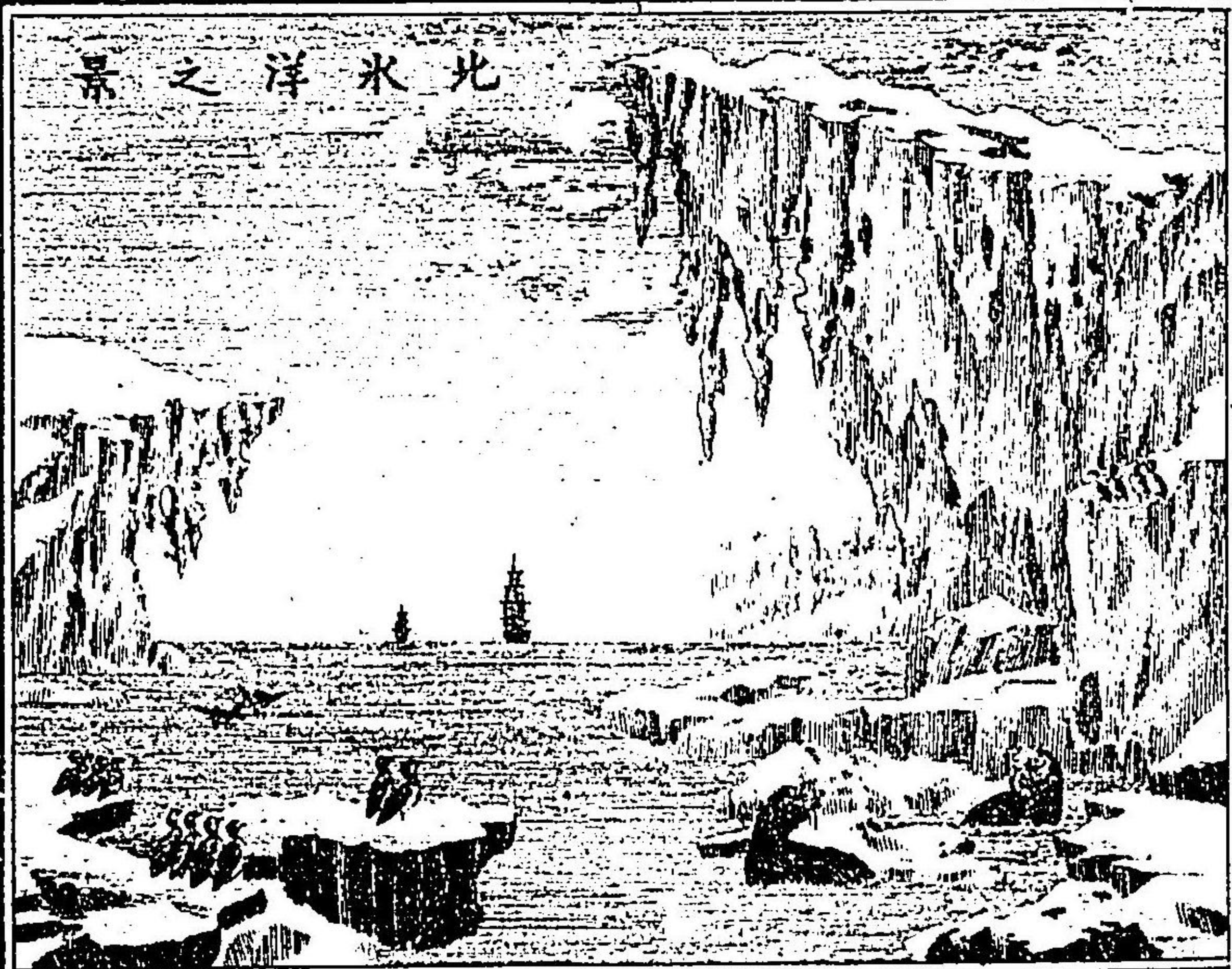
ARCTIC SEA TRAVELLER BUILDING HOUSE WITH ICE

七



世界萬國名所圖繪第四卷  
 南枝 醇校閱  
 青木恒三郎編輯  
 健馬國屬嶋哥里蘭一名曉屬之部  
 亞米利加洲極北にある離を島  
 疆域廣々北方ハ鐵留華盛頓といひ  
 伯理多の岬を以て北氷洋に涯りとし  
 西の方ハケンネヂー海峽及び巴芬灣  
 大開峽より界しつ南はフロレウエル岬  
 東南モルツク及びダンニ岬を以て名も高き  
 大西洋に瀆すあり  
 其幅員と人口は海寒不毛の地なる故  
 詳しを知る事難けき近年推算りし表據は

北氷洋之景



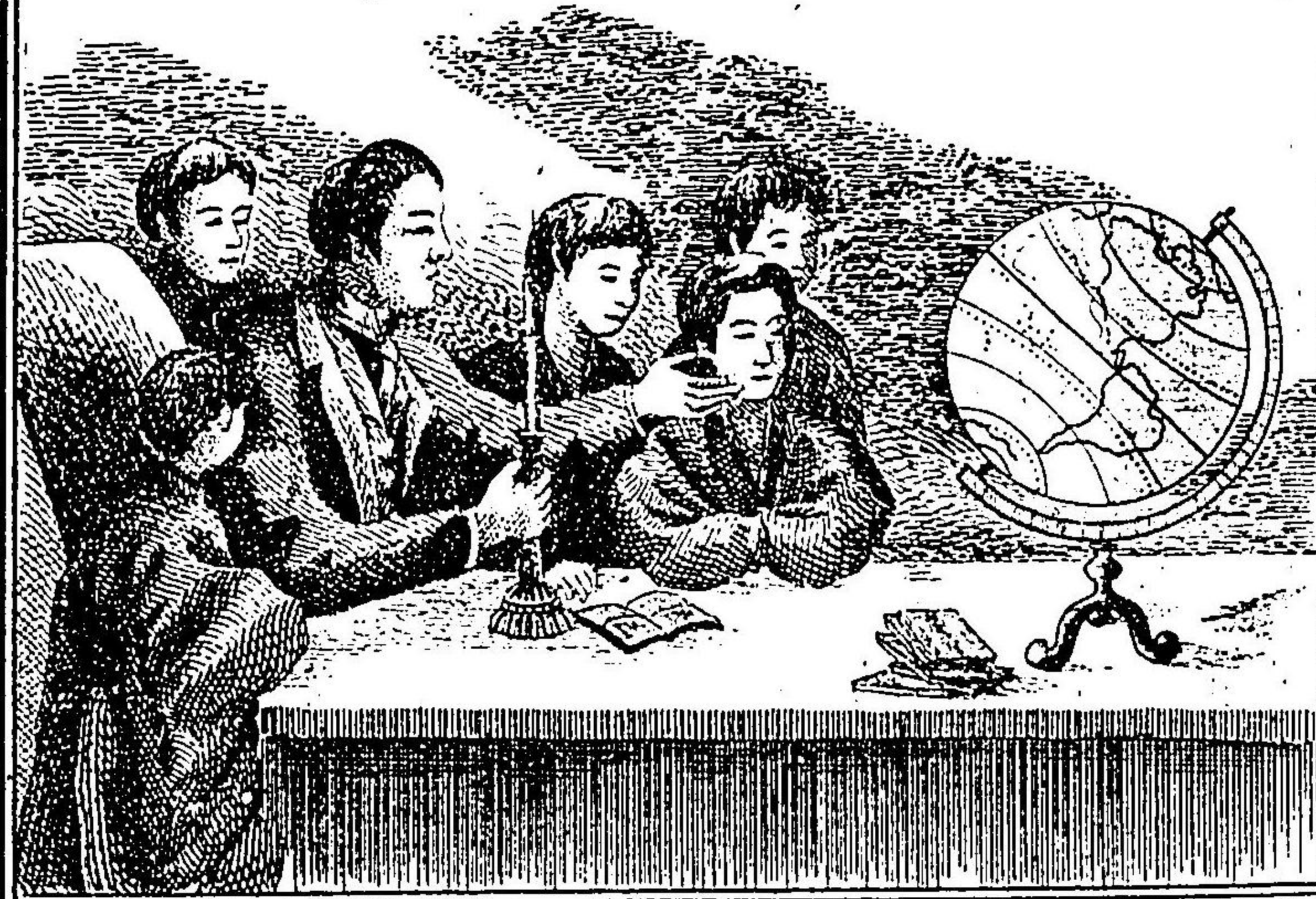
十の八九は凍へ死し歸らざる者や数多し  
 必ず氷野數百里・一白の地と推想あり  
 一ケ年中降雪の絶ゆるは七月のみを  
 然りと雖ども海水は二月に至りて凍結す  
 ハーレンハイト近傍ハ一月頃の寒暖計  
 華氏氷點下四十余度は沈降す  
 七月頃に至るせば急昇りて八十有  
 四度に至る事もあり如斯く差違あるは  
 世界中に比類なし  
 茲に一つの奇異なるは毎年十有一月より  
 踰て明年一月の十有五日頃迄は  
 太陽没して出づる星の常は顯れて  
 最しく長き夜とある土人ハ鯨の油を照し

内地へ進出の状



其幅負の大約は六万八千八百英里  
 我日本の二倍半然るは人口僅かよて  
 九千三百五十人地面ハ渾て高々して  
 巉巖多々中央より一帯貫て曲江あり  
 自ら地勢を兩分し西岸一大山脈は  
 内部の門口を扼したり全島沿海周圍みお  
 岬灣大小數多あり西濱属嶼又多し  
 氣候北方冱寒ヲ四時氷雪絶るなく  
 山嶽巔頂みお總て太古以来の積雪を  
 以て之を覆ひあり遙か之を眺望せば  
 銀山劍峯峙ちく氷野雪海渺乎たれ  
 故に内地其奥は探究するの道やなし  
 罕は豪膽勇猛の人あり往て探せども

池球儀は燈火を照し夜の國を示す



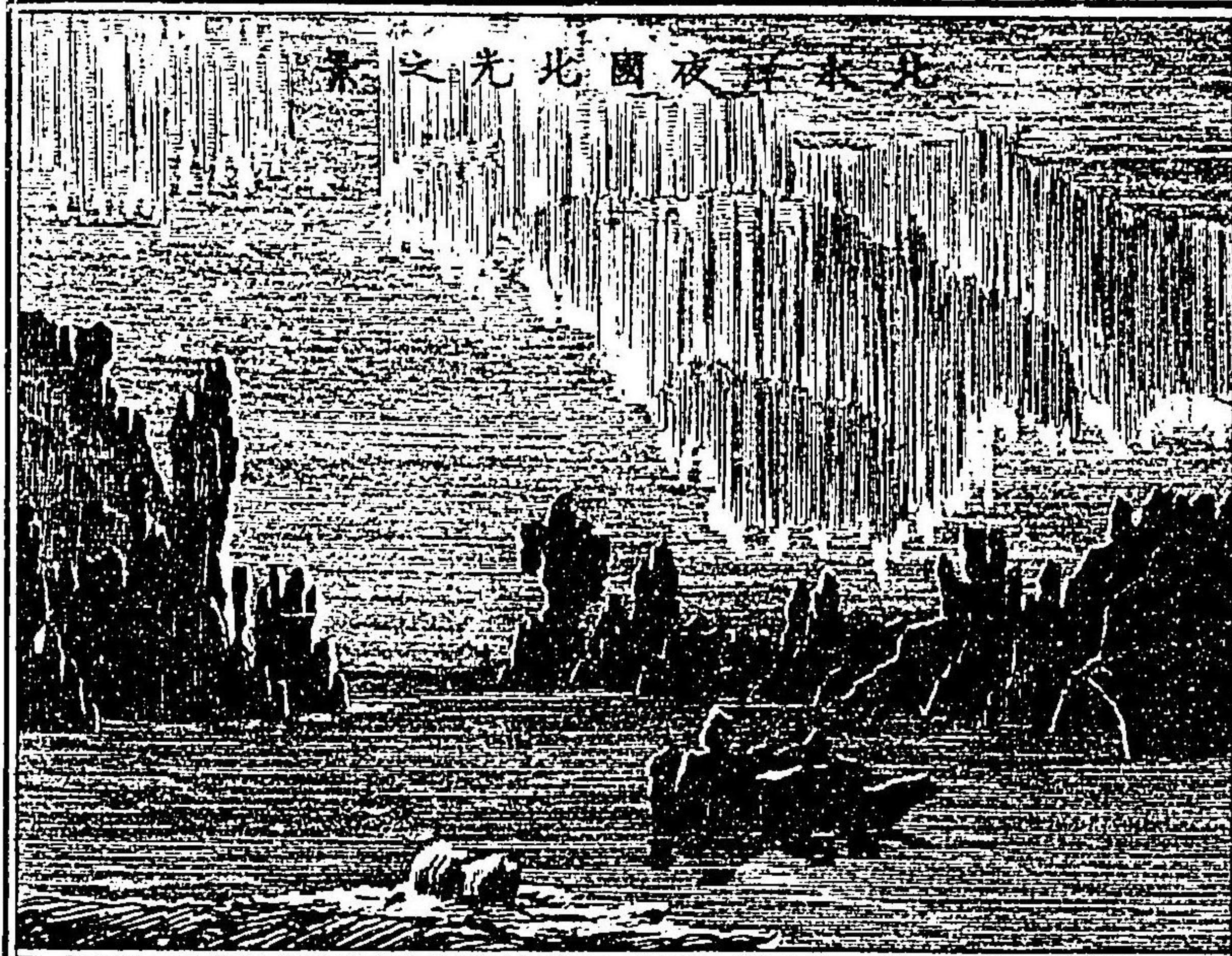
月鏡

夜國の理由

抑も我々同胞の住居する此世界ハ圓球して一日一周西より東より自轉し復一年一回太陽の周圍を回轉し其太陽より光熱を絶えず受けて或ハ晝夜を成し或ハ四季を作す其太陽は面する處ハ晝となり之は背く處は夜即ち陰となる其四季及晝夜の長短あるものハ元來此地球が獨樂の自轉する如く直立するもの非ず稍傾斜二十三度する上圖の如し故に地球は常に傾斜し則第一圖地球甲は在るときハ太陽赤道以北の地を直照す故に此地は晝にして晝永く夜短し北極地例之は其一處ハ北緯二十三度に在ては正午太陽を見るときハ恰も其頂天に懸るなり即ち夏至 我日本東京の如きは此

卷之四

北極夜國之光景



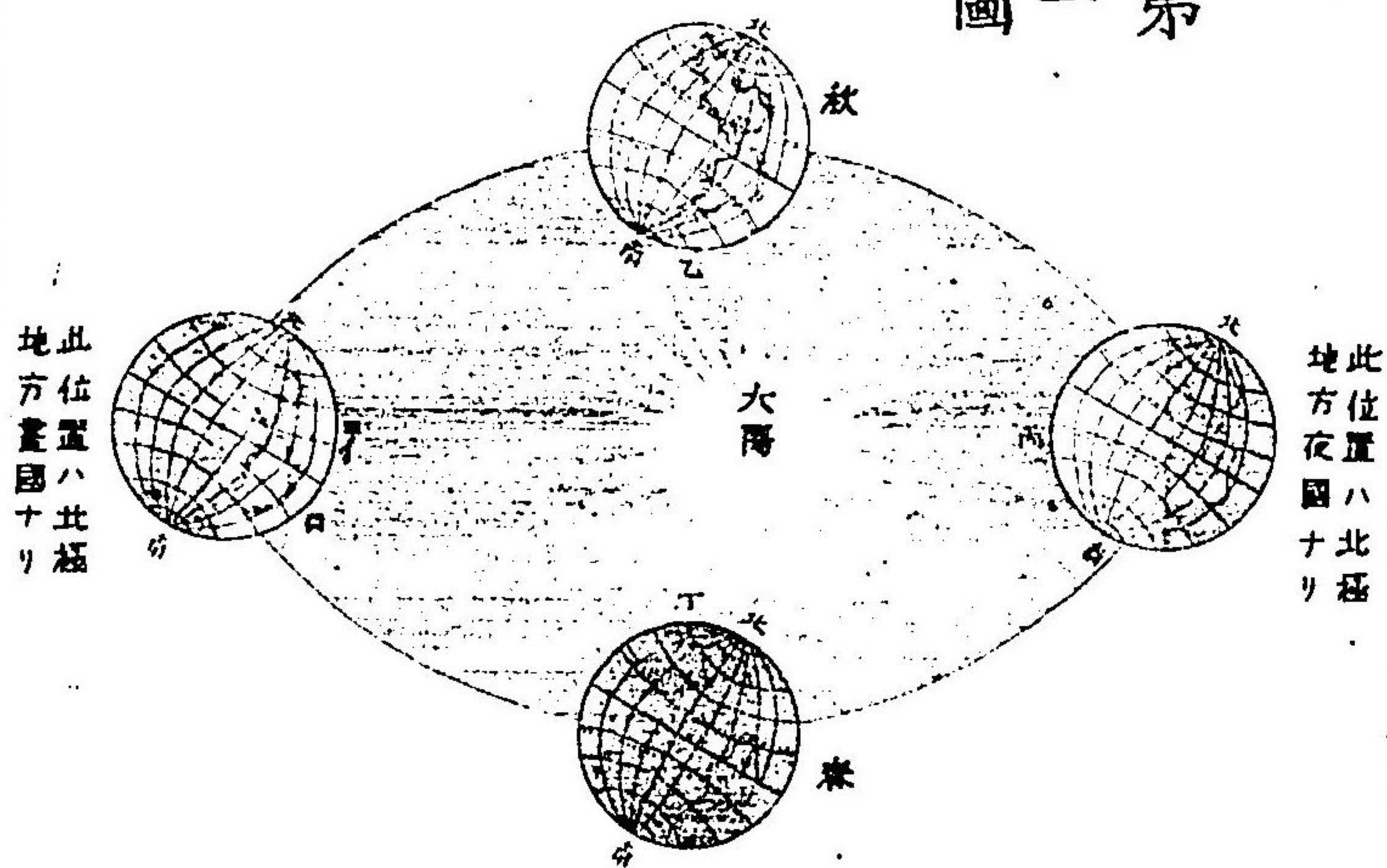
以て日光又代るあり此間又朦朧なる月光鏡か照すあり又北極は北光と稱する一の光輝あり電は似く聲はあし看官番を見て知玉へ之を一名曙光といひ時々氷野に反射せり  
 渾て此國冬の季は年中九月十月イ  
 直りて春秋更なる夏季七月太陽は  
 出でしまよて没す於晝斗りの時とふ  
 豈に奇ならずや奇事や蓋し之は道理あり  
 次の理解を讀で知き不夜の夏季は山海の  
 堅氷漸々溶解し其大塊洋面を  
 逸し出で、程速く大西洋に流き來る  
 之を冰山といふ。

夜國



地球軌道

第一圖



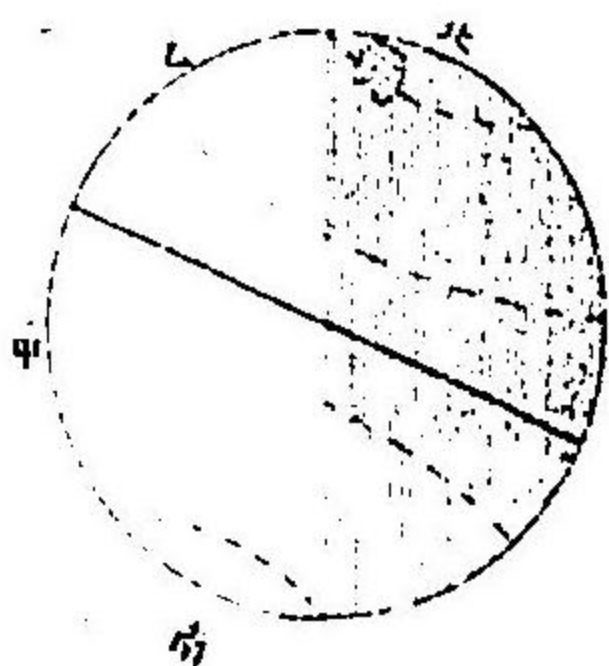
此位置ハ北極  
地方晝國ナリ

此位置ハ北極  
地方晝國ナリ

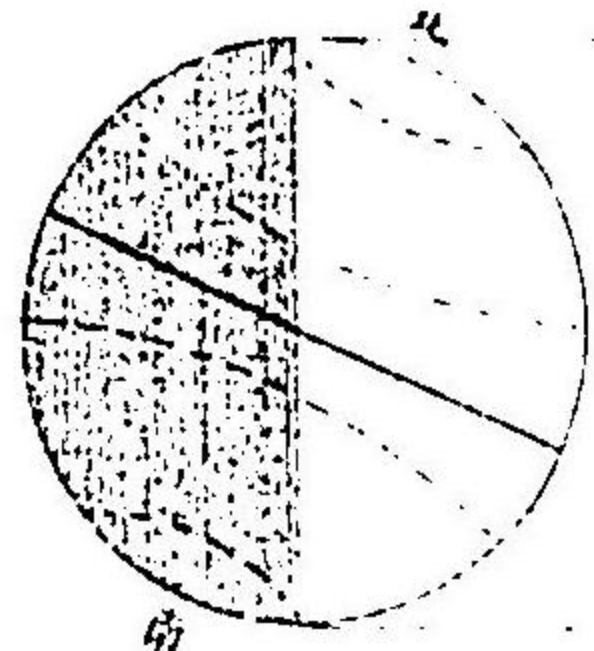
處より稍北十五度ニ當を以て其日と雖ども太陽を稍南に見たり然れども赤道以南の地ハ太陽斜照す故ニ此處は冬にして夜永く晝短し例之バ(口)南緯二十三度ニ在ては太陽を見ること余程北方ニ望むなり又地球廻轉して至れば太陽南方ニ移るが如く赤道直下を照す故ニ赤道以北及以南の地は氣候溫和にして晝夜長短なし

九月廿三日又地球回轉し(丙)至れば太陽南秋分即彼岸又地球回轉し(乙)至れば太陽南半球を直照し北半球は斜照す故ニ南半球は晝にして北半球は冬となり夜は永く晝は短き一甲處ありしときと反對なり此時北極地方夜國十二月廿二日即冬至なり地球尚も進んで(丁)至るときは(丁)處ニありし時と同一の景況なり即之春と云

第二圖



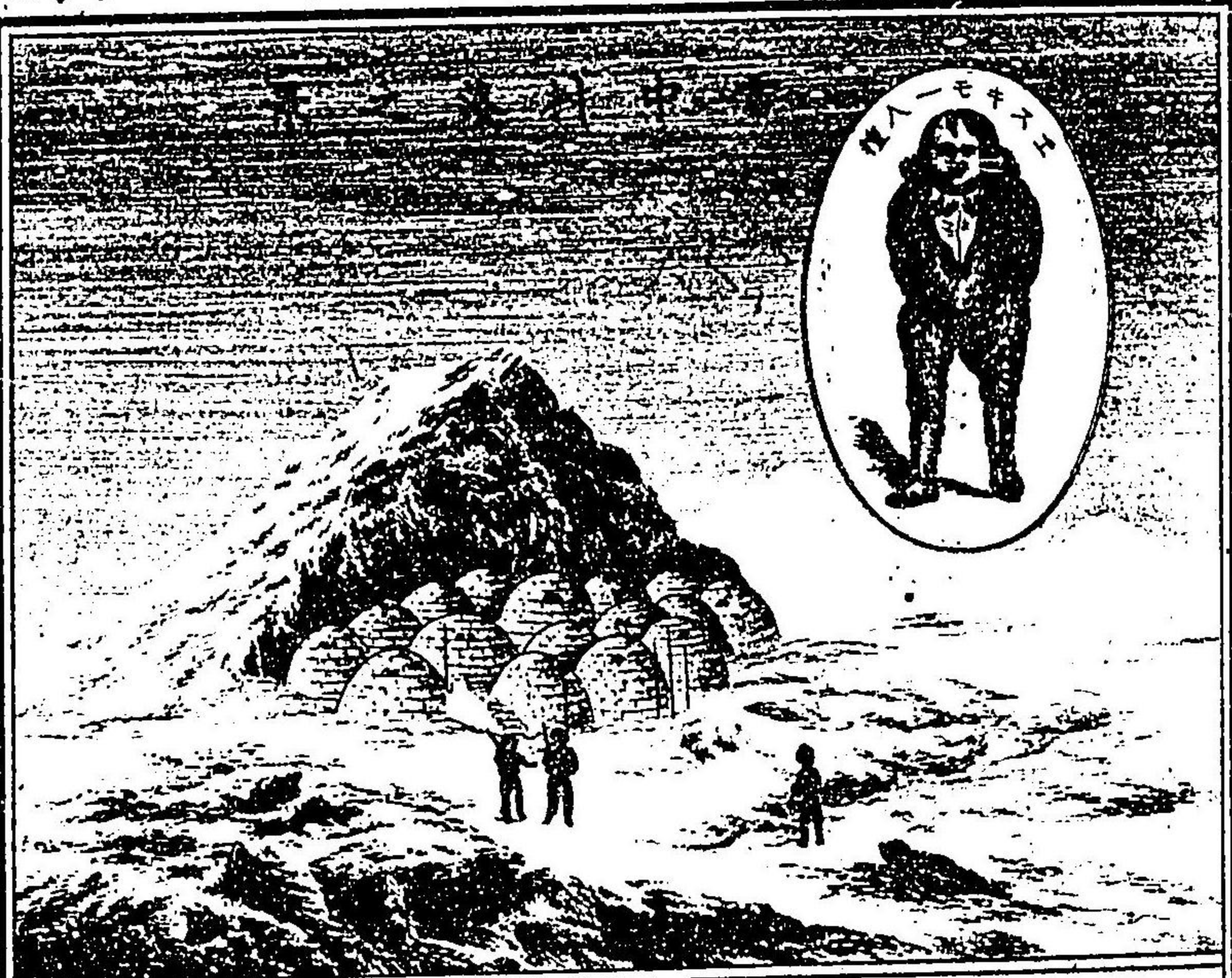
第三圖



三月二十一日之ニ因て考ふるときは四季及晝夜の長短亦地球より太陽を望むの位置ハ各處同時同一なる一なし故ニ夏と云ひ或は冬と云ひ其緯度を同するの地のみ同一にして時間の如きは各地寸尺を異にするも皆同じからず此層の各國異なるを知るべし

然れども右ハ赤道より離るる各六十六度三十二分以内の地ニ就て云のみ即ち此以内の地を温帯地と云ひ其中央の赤道直下を熱帯地と云ふ其以外の地即ち兩極地方ハ四季ある一なし此地を寒帯地と云ふなり第二圖の如く赤道以南の地(甲)於て太陽を見るときは之を頂天と見るも漸次北進して(乙)至れば太陽は少く東

南より少しく西南へ入る故に晝は僅時にして夜は尤も長し然れども尚北に進み極地内に至れば冬月太陽は地平上より出るべく温帯地方日中なるも只僅く日出前の如き薄暗きのみなり即ち此處は大地上の障りられたれば地球何如程自轉すも毎に太陽を見ることなし如此きと九ヶ月尚前後一ヶ月半は僅く太陽を見るのみなり此を夜國と云ふなり又地球廻轉して第三圖の如き景況に來る時即ち赤道以北の地毎日となるときは此夜國變じて晝國となり太陽朝六時前東天より正午南天より西天より午後六時夫より北天より此時は日本又東より南より如斯く太陽四周を廻りて地平下に入らず故に凡そ二ヶ月程は夜あることなし故に一年中一度日出を見一度日没を見たと云ふて其らんや而して此夜國の間は長く晝國間の短きは太陽の位置の地球軌道の正中にあらざりしは原因するものなり猶緯度及び赤道の和解は本書第一卷地球圖解を參看すべし



其狀恰も大山の游泳するが如きあり此時土人ハ海に出でて多々の鯨を捕獲して冬の準備を営めり若誤りて氷山より觸る、あらば其漁船忽ち破摧するを以て漁人深々恐懼せり。

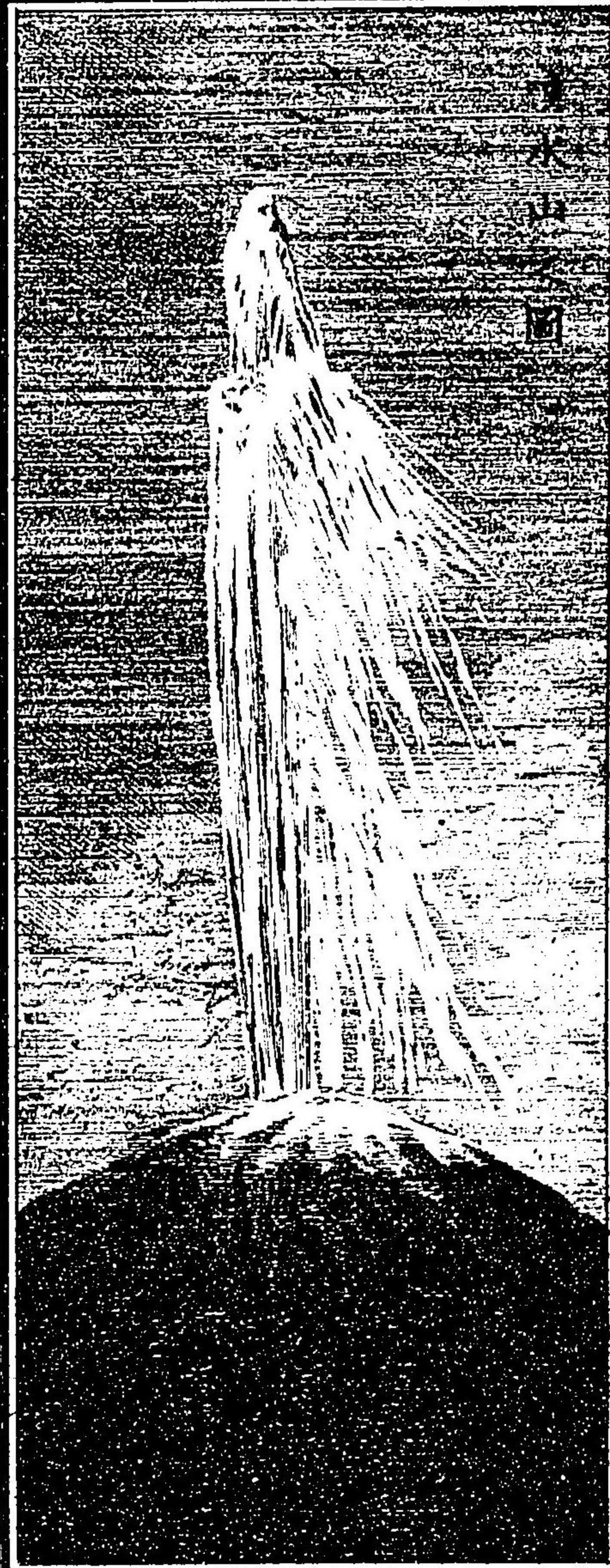
○此島人民三種あり一は「唎」の白人種二をエスキモー人種とし三はエスキモー人種と印度種の混濁とす其三種の人民は西南方の海邊より部落を築きして鯨魚又海豹等を捕漁しつ野には豌豆柳菜や蕒菜は大根人参や馬鈴薯や大麥や小麥等を耕作すきと土壌石磨よく氣候も甚だ寒く力作するも其勞を



家とあして住居しつ。海獺鯨魚や桃の實や海豹等の肉を喰ふ。特は脂油や酒を嗜む。歐洲人は此地まで酒と諸物と貿易す。彼を小人大醉し。死に至るを不知すと云。衣服は獸皮を着用す。冬は圓形き玉簪を作。堅氷鍊瓦の如くして其上部を構ひせり。婦人は巨犢を飼養して楯を産かしめ以て彼の快鹿狐熊等を獵。犬健よして能を馳り耳短かくて鼻靈あり。其性甚多伶俐よく氷野速を奔走ども必ず其途を失はず。土人平常の生活上犬の力をかふる多し。第三種のエスキモー。印度兩種の混淆種の事業ハ総てエスキモーと異同ありせど婚禮や

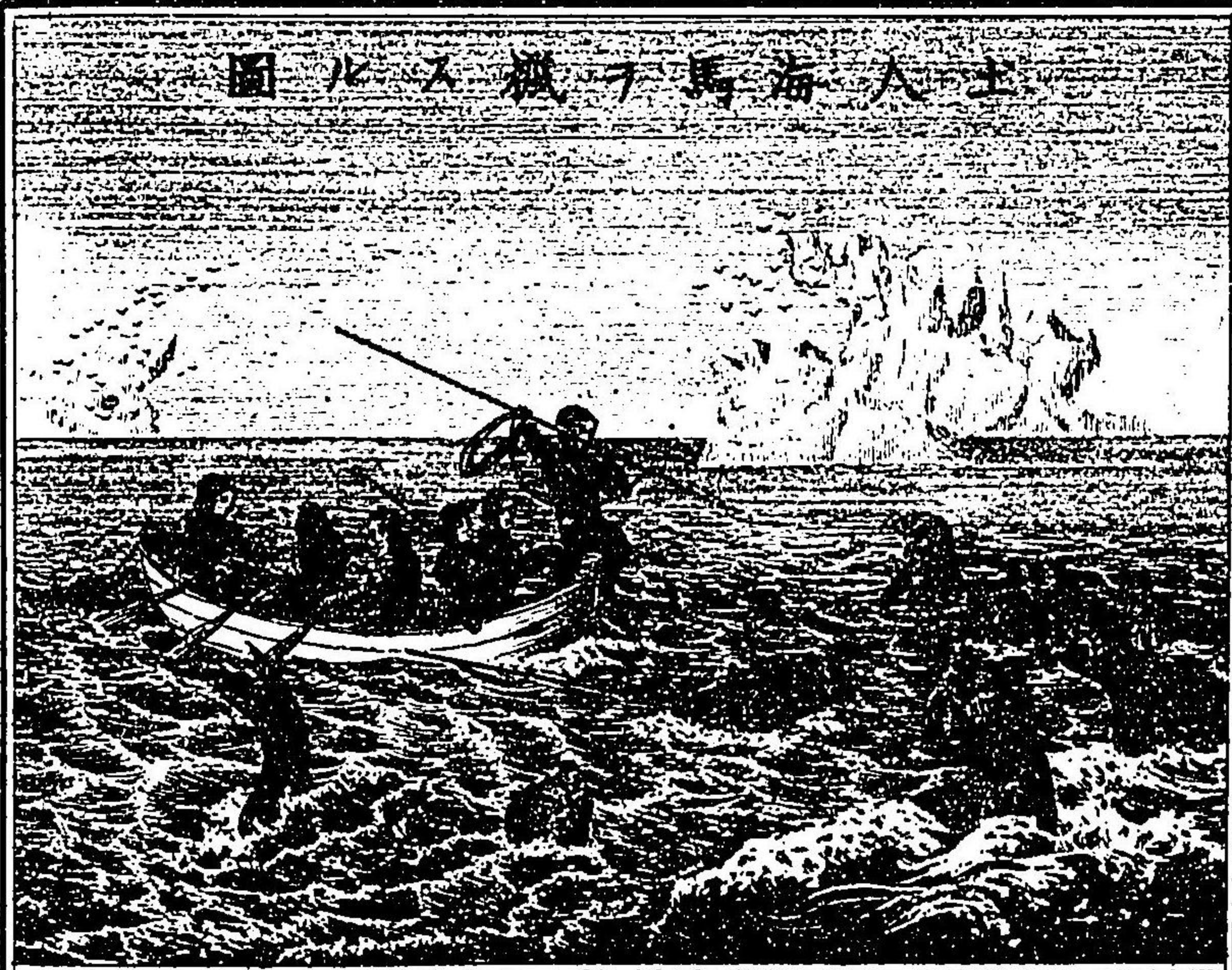


積ふは足らずと云ん。エスキモーてふ人種は是き本来の土人よて頭大きく顔潤く。色ハ総体淡黒々。鼻ハ低く身體は甚多を以て小く。総体よ能を肥満せり。之を予則ち真正の小人よて吾世界十億余万の同胞かと思へば。必しも可愛らし。此人種多きは西岸のフエスケルナープてふ處に棲息散居せり。質朴よして強健あり。又東岸に住るあり。氣候少しも暖か。之を又同じを醜男を憐憫よて外人を排斥するの色を見る。風俗夏ハ狗沙魚の骨を以て柱とし。其皮を張り天幕として



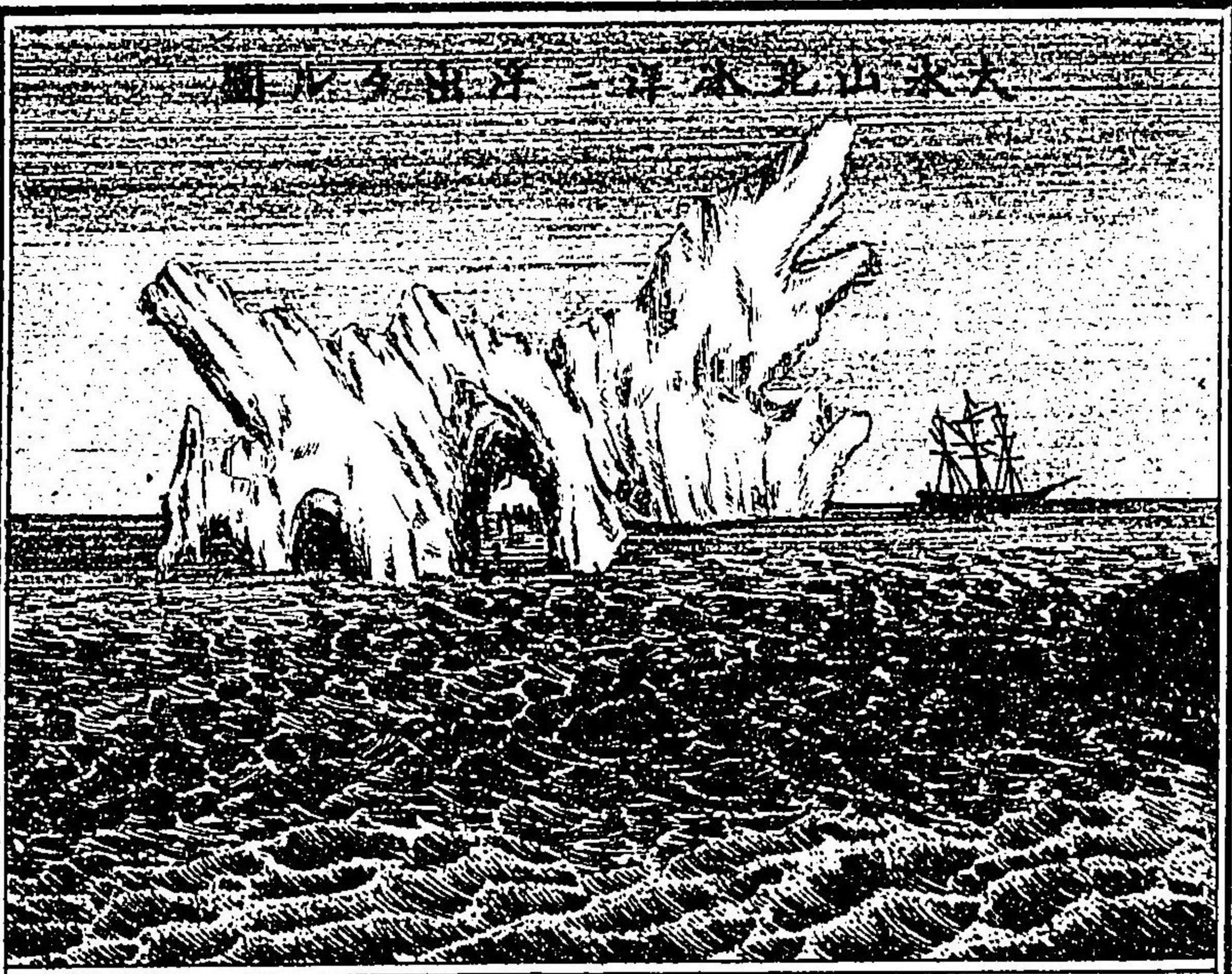
クリスチヤンシャープ又エッジマイン等之ノ垂アツヘルナウキハ美邑ノ歐人多ク之ニ住ミ  
 北極中ノ第壹ノ開化を成せし處あり。  
 邦ノ宗教主人ニ異教を奉じ偶像を拜し以て崇めしが、噠人殖民セリ以來  
 モラウビヤン派ノ宣教師之を教化し現今は耶蘇新教ニ歸多き。  
 ○氷洲は隣島談島一の噴水山世界ノ類なき奇觀也。モンハケラノ近傍

圖ルム獵ヲ馬海人土



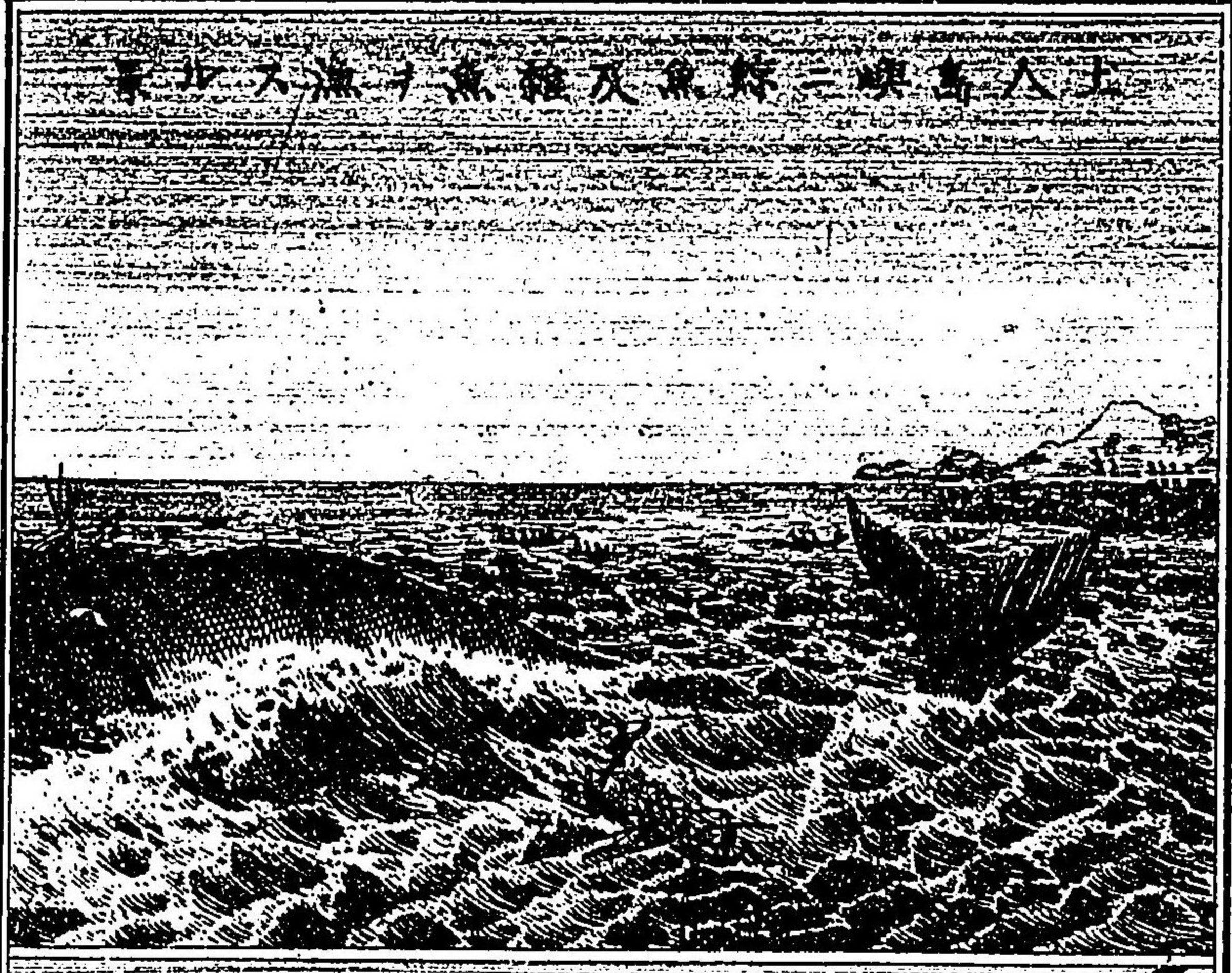
葬式衣服ニ至るまで噠馬ノ古風ありと  
 言語も噠ノ稍類す。  
 叔此島の産物は銅石炭ノ石材ヤ  
 「クレナレット」鯨油骨海豹の皮海馬の牙  
 其植物ニ至りては地質石瘠大雪降て  
 沍寒最も酷きゆ、桃楊柳榛馬鈴薯ヤ  
 大麥小麥等の類僅かに産出するを見る  
 噠國政府ハ此島を南北二部ニ大別し  
 二箇の官衙を設置せり都會の名義は附されど  
 其村落の大なるはシヤアンシャープを首とす  
 南部の督官是に居る次はゴットハブといひ  
 ブレデリッキヤープ之を要。  
 又北部の管内ハゴットハブを首とし

ICE MOUNTAIN IN THE ARCTIC SEA.



天然噴水夥多あり。グレートてふもの名高く  
 口經五十フット余噴飛直立四百英尺  
 島嶼の着名なるものハジスコ並みブリユウト島  
 何きも邦の西北部邊海嶺嶺盛よて  
 鯨漁人ハ輻輳し。蝶青魚や鱈の多  
 時々此邊に群集す。又鳥類は鴻雁の  
 外更に見當らず。  
 白熊赤熊快鹿や黒狐赤狐は海馬あり  
 白人銃以て涉獵せり。鯨油鯨骨上等品  
 海馬の脂油大牙も價値最も高貴あり  
 海豹の皮英吉利や並米利加國や和蘭  
 高價之を買取せり。夏季は以上三國の  
 獵船多く渡航して土人と競ひ捕獵せり

WHALE FISHING. HUNTING OF BEAR





其業甚だ危険なり。氷山は觸き其船を  
 破碎す事度々あり又鯨魚大にして  
 之を捕獲す至難也近年電機を利用して  
 容易に大鯨を捕獲す新機を發明せしと聞く  
 吾日本もて先づ頃此説を為し長州や  
 九州各地で試用せり此法追々擴まきは  
 鯨も詮方あかるらぬ

瑞典 那威 兩國之部  
 瑞典 並に那威ハ歐洲北部に位する  
 一大半島國にして一千八百十四年  
 兩國同盟合併す二國の王ハ一にして  
 其王位の繼承ハ兩國々會聯合し  
 之を議定す而して連帶事務は兩國の

人より成立つ内閣あり於て之を處理ふせり尤も以上の兩國を各々一個の政府あり  
 憲法ありて國會の議場は於て衆議員各自政務を電勉す

且此兩國を総稱しスカンジナ维亚と別稱す兩邦面積總計ハ二拾九万三千と

八百四十八方英里瑞典十七万九千七百七十九方英里 那威十三万三千八百六十九方英里人口六百四十有九万貳千一百余

南ハ北海及びバルチックの海灣に面しつ一帯の海峽を隔て、暁と相對し

東の方ハ波羅的及びボスニア灣を帯び魯西亞國に隣接しトルニヤ河にて分界す

スカンジナ维亚山脈は中脊に峻峻峻峻し綿亘す多事壹千五百五十英里の上に出づ

脈の陽より東部をば瑞典と名し山陰と西部を那威國と名す歐洲中は魯西亞の外

地積の比較すゞきあし

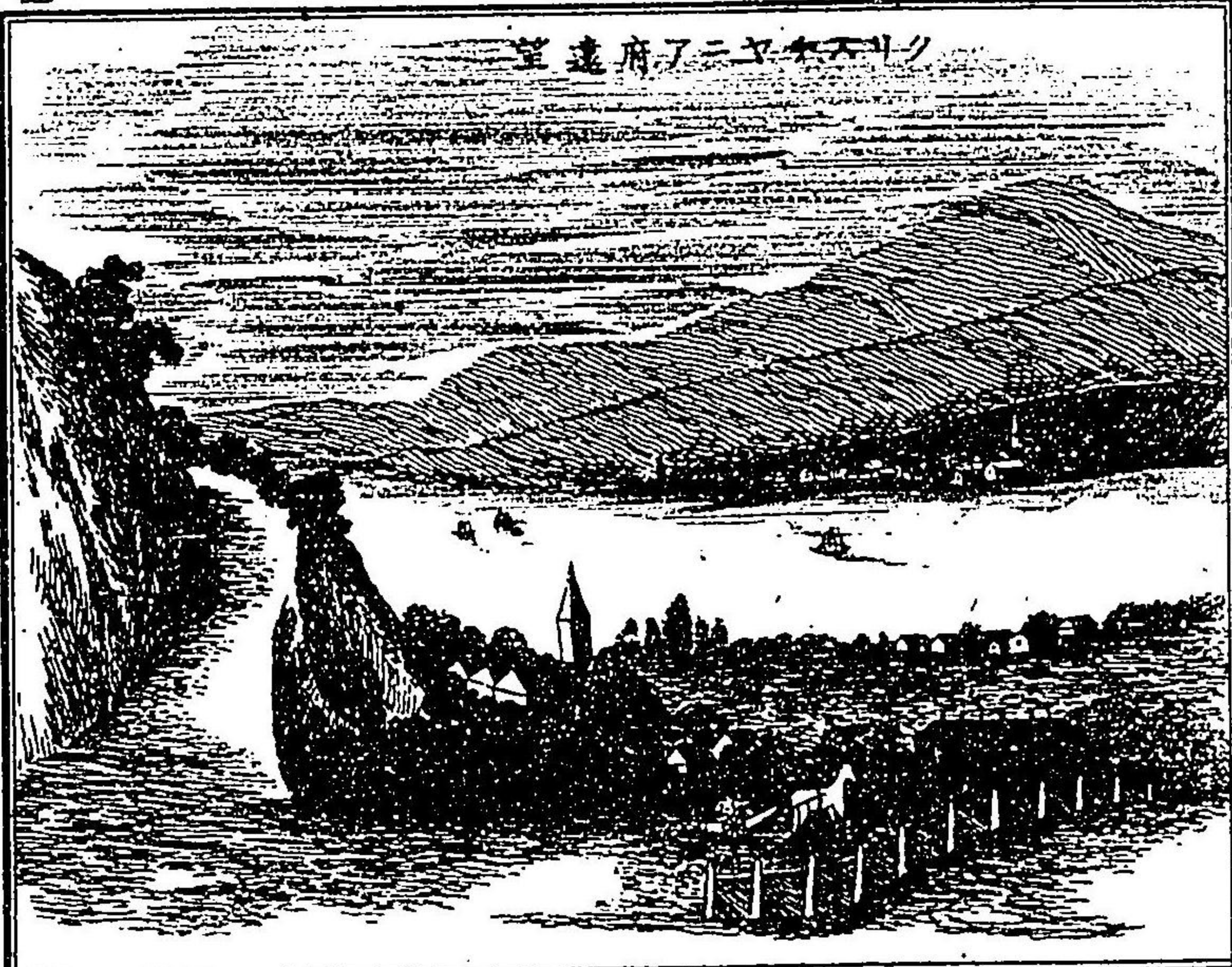
以上全國疆域中瑞典の地南部のみ平坦あきども其余ハ岡巒起伏し萃確よ

峻峰往々層嶺し險惡の地又多し且國內の漕運は、幾か湖水の利あき共

險惡あきば便あらず河の遠航するきものコロムメンの一あるのみ近年運河の利を興し

VIEW OF CHRISTIANIA.

望遠府アニヤホスリク



基督教ニヤアム  
 基督教ニヤアム府之記 北緯の口ハ三ハゲン府より  
 基督教ニヤアム府は那威の首府にして其位置は  
 クリスチアナ湾の北側アデルヒユース洲にあり  
 人口十有二万余 貿易盛人の都あり  
 二百六十餘年前 唎馬の王クリスチヤン  
 四世の建設たる府ある故 此名を命ぜし所以あり  
 街衢清潔幅廣々 周圍の景色絶佳あり  
 府内巨閣の建築は 那威府廳は王宮や  
 國會議堂を最とす 府の郭外往昔は  
 オプスロと名稱せし 都ありが今もあは  
 寺院銀行大學校 四十有餘の中小學  
 此處彼處に散在し 教育最も盛んあり  
 書籍館は百科の書拾五万部を貯蔵せり

A MEN IS HUNTING THE GREAT BEAR WITH DECEIVE.

士人て大熊を獲す



鐵道布設したきは 陸運の便稍々開き  
 氣候ハ一般に寒くして 氷雪久しを融るる  
 殊に中央以北の地 八九ヶ月は酷寒を  
 水銀爲め凝結す 且此邊は二季より  
 夏冬あまも 春秋あまも 麥作種子を蒔より  
 八週日なりて 秀熟す 又遅るとも十二週  
 間は必ず收穫す 三ヶ月間暖熱く  
 諸草木の發生は 非常早く僅かある  
 日数の間は山野に 緑蔭をみし又忽ち  
 枯かつ凋む故に 彼の米穀耕植便ならず  
 毎年他國の輸入を 仰ぐと云ふ凶年よりは  
 樹木の皮を粉末し 麵包に和して食ふと云ふ  
 那威邦之部

PEOPLE IS SERVICE BUSINESS ONLONG NIGHT COUNTRY.

七二



夏季よりひきかへ暗夜を大陽絶へて出づるあし  
 故に此府の人民ハ夏月變かよ歐洲の  
 新報を聞き貨物又音信等を通ずのみ  
 此地方も又快鹿を牧する最も多をして  
 内地に至れば此獸を使役せざれば土人みな  
 餓死せざるを得ざらん故に土人の資産をば  
 計算するは此獸の數に依て貧富を  
 評定するに至るあり且此獸の食物は  
 木皮若しくは雪中の蘚苔を以て足せりとす  
 噫真神の恩恵や夫き深ひ哉深ひ哉  
 此地方に居住する土人の稱はラズストとて  
 身體甚矮小やく風俗野蠻に幾しとす  
 家屋は上櫓の番の如し

PEOPLES IS SERVICE FARMING ON LONG DAY.

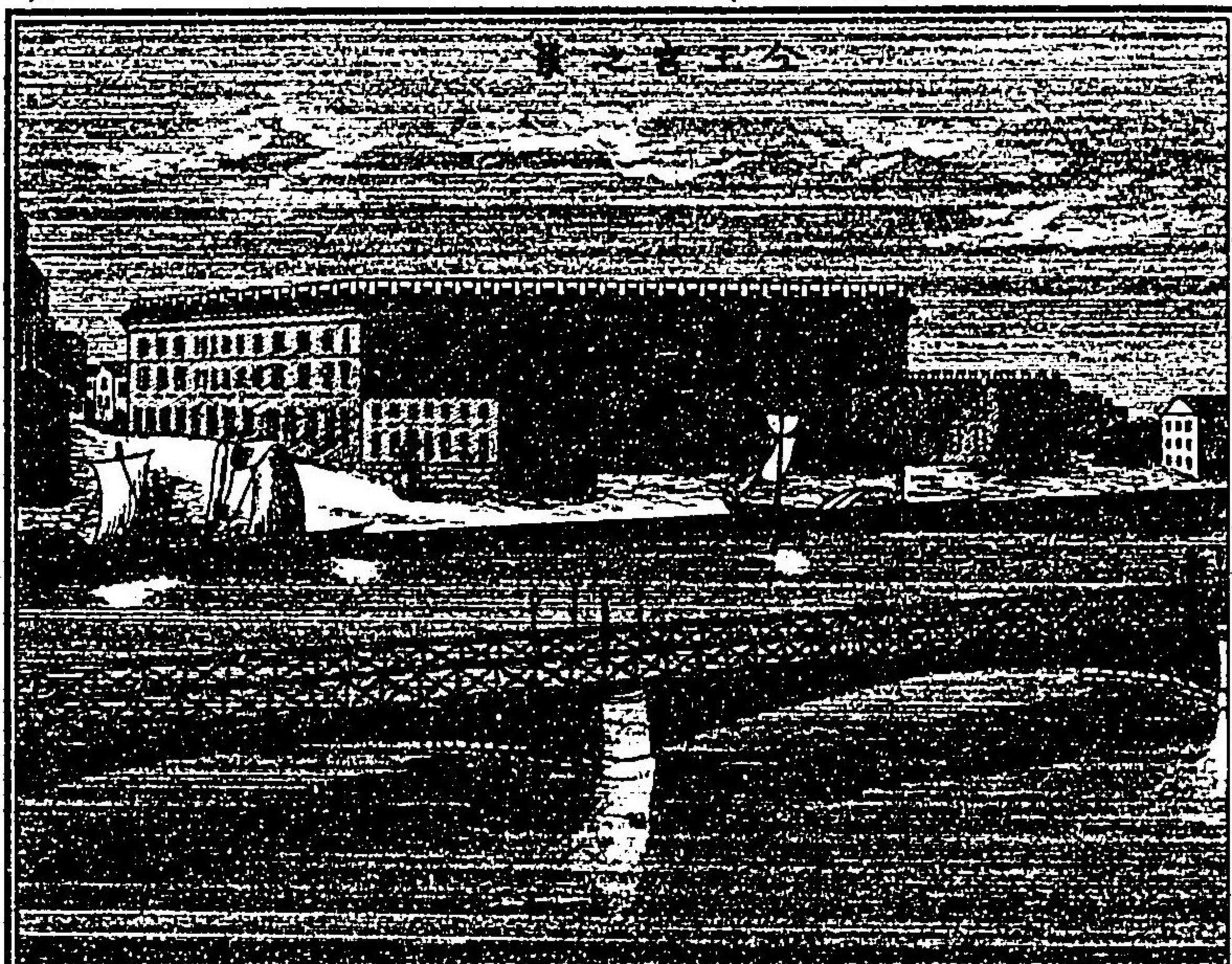
六二



当府著名の産物は木綿油や石鹼や  
 抄紙麥類煉火石・其他多くの製作場  
 穀物細粉場もあり且木材や鐵硝子  
 多々他國に輸出せり又当港より瑞典に  
 コツペンハーゲン其外へ定期の航海船あり  
 此府の他はベルゲン府・往時の京城ドントム  
 キリヤンサは貿易港・ブレリツクスハルト府や  
 ハンメルフェストは歐洲中極北にある都府にして  
 北緯七十度四十分盛夏の時は二ヶ月間  
 大陽常々没すなく温暖宜し異常あり  
 其間には魯西亞國の商船多々渡來して  
 手早々貿易為し歸る冬の初の短日は  
 何の暇もあらぬかし仲冬以後は九旬間

卷之四



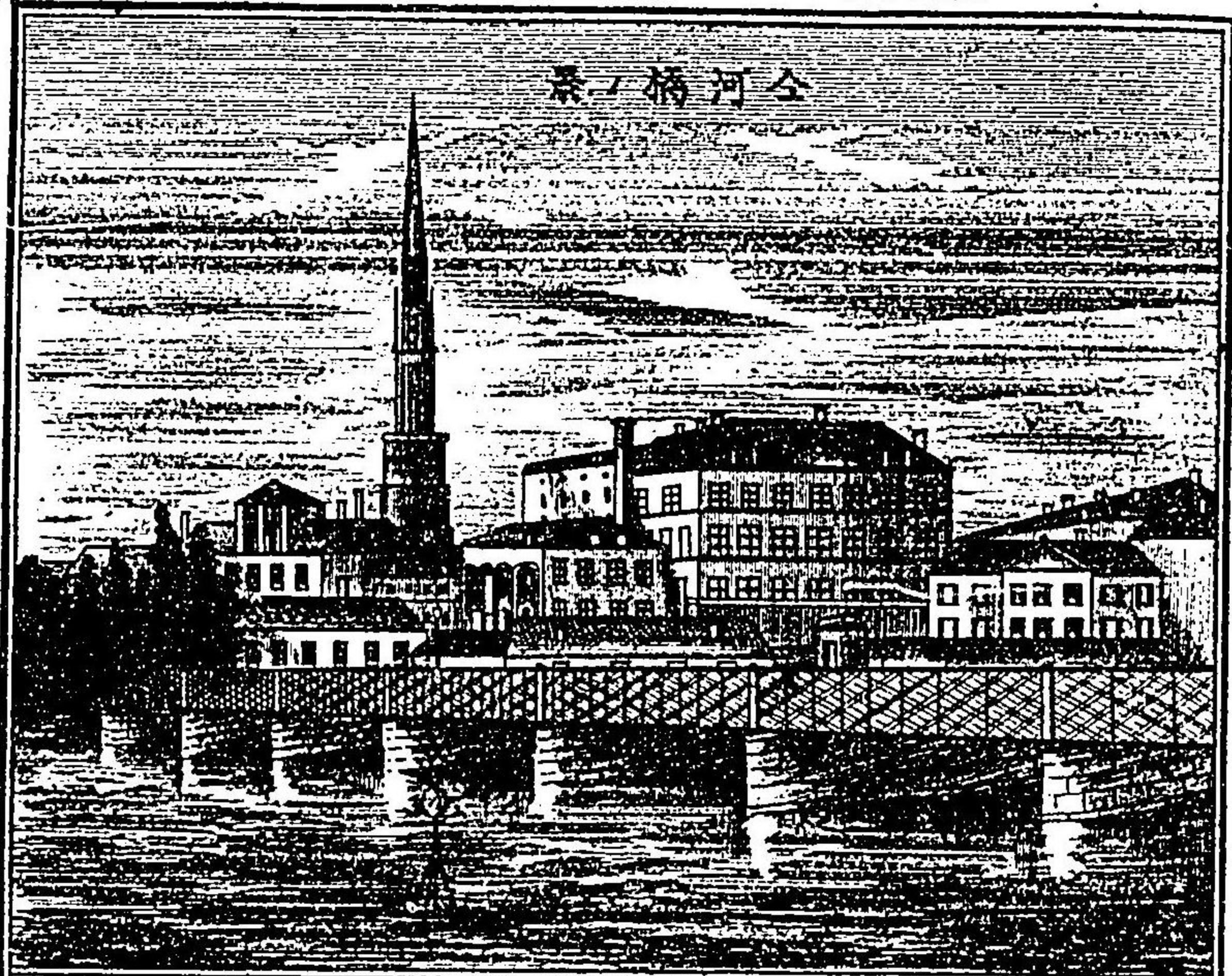


巨構の建物其間、聯綴せざる光景は  
 畫も及ぶ處あり、蓋し奇峰層嶂乃  
 親なきを恨むのみ。  
 王の宮殿府の中央、ルタテン島を占め起る  
 位置の結構、勿論、規模宏大闊高々  
 金華玉光清楚あり、前、石造橋梁あり  
 左方、あるは運上所、松林緑を粧ひ、く  
 佳木芳草園を掩ひ、白鷗空を乱飛して  
 船舶雲集するものは、公苑近傍の景色あり  
 瑞典那威の國王は、前、も略陳せし如く  
 國民撰擧の王にして、此習慣は、重、彼の  
 スカンデナヴィヤン及び北狄種族、行ハき  
 瑞典那威、馬、及英米皆是あり

卷之四

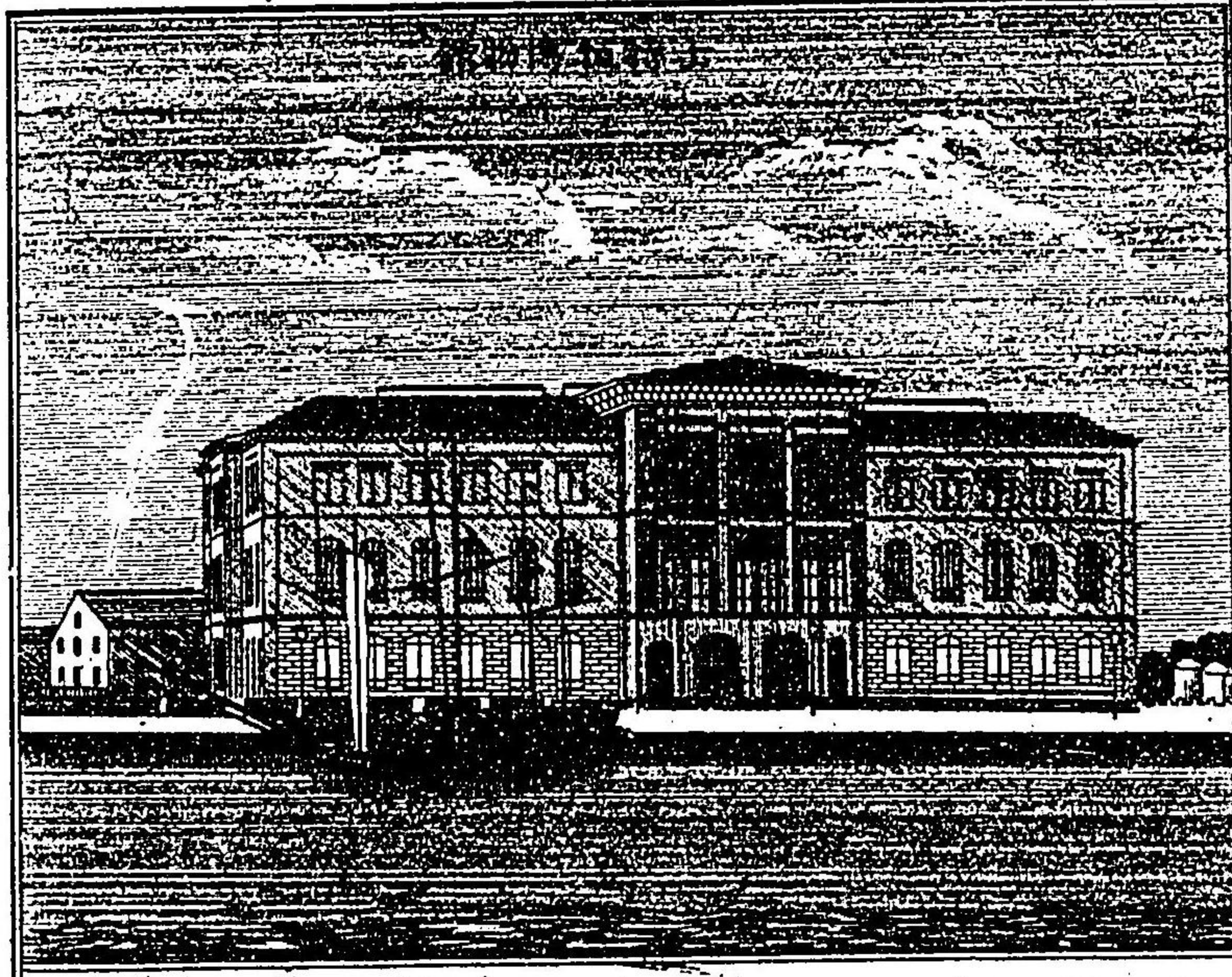


瑞典國之部  
 士特恒府之記  
 士特恒は瑞典乃、首府、て彼那威の  
 基督亞尼亞の東方、鐵道陸路合すきは  
 二百八十英里、余、人口十八万五千あり  
 マーラル湖の末、バルチック海口の上、あり  
 マーラル湖末は分裂し、全々九箇の島嶼とある  
 各島石橋を架設して、彼我とも、連接し  
 是、市街を建て、あり、此、辺、石材多き、ゆへ  
 家屋概して石造り、其觀甚、美麗あり  
 道路、総、体、石を礎、湖水開けて、又、分、き  
 府内、連、絶、其、半、は、陸地、湧き、つ、一半、は  
 各島、岬、不、接、立、す、王宮、官衙、寺院、等

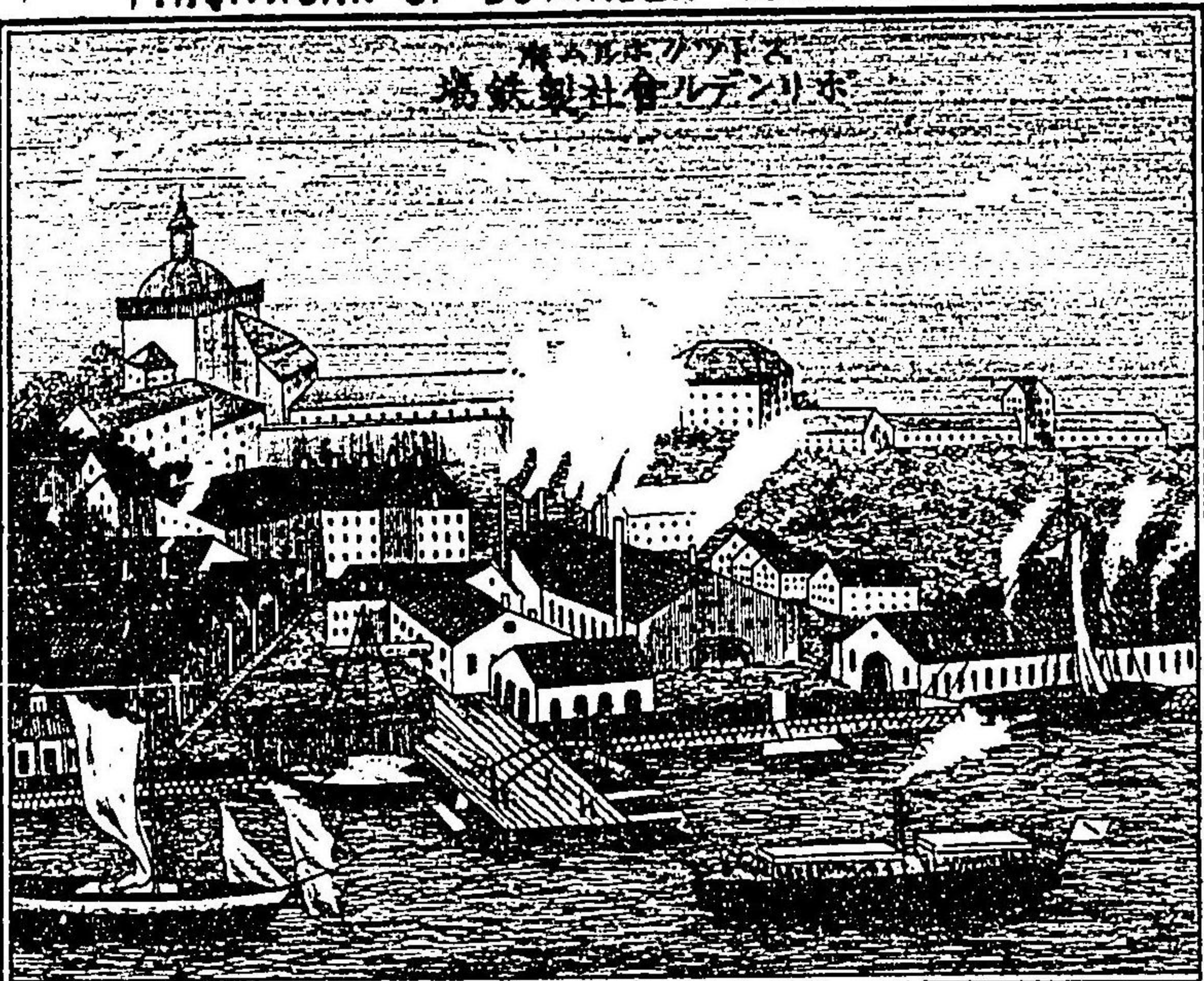


橋ノ橋河公

金屬ホカリシ證ト云々石器の時代一變し  
銅器の發明起リシト故ニ此場ニハ三千年  
以前の銅器を蒐蓄す。  
又一千二百年前ニ純金以テ造リたる  
胸環三個ありト云々是ハ古代の貨幣あり  
螺旋形ニ作りタル指環の如きものを折り  
流通貨幣トおしたりキ又或室ニ瑞典王  
セントジョージが馬ニ騎リ龍を刺シテ妃を救フ  
木像ありテ其龍の形狀甚ク奇態あり  
首は宛モ東洋ニ書ケル龍ニ異カラズ  
全身ハ稍々短カク脊ニ鱗ある蛇の如シ  
四足ありテ前足乃掌ニハ四指生シ  
爪も具はり圓形あり後足ハ人の足ニ似テ



和蘭白耳義兩國也又此義ニ倣ヘカト  
歐洲北部の風義也今帝オスカル第二世は  
オスカル一世の第三子一千八百七十有  
二年九月十八日・瑞那二國の撰舉マテ  
御位ヲ登即王ニ成テ特權を除ク外  
殆ド米利堅合衆國大統領ニ等シトゾ  
○博物館ハ王宮の對岸ニあり又羨あり  
造営宏大穹弧ある柱を以テ構成す  
内部ニ画彩の絳綺あり又此館ハ當國の  
振古四千余年前用ひしものを陳列す  
所謂スカンデナビヤンの眞の古物あるぞかし  
石斧石刀石鋸の類石鎗石鑿夥多あり  
是ハ往古草味の時代ニ用ひし器物マテ



ボリンダー社製鉄工場

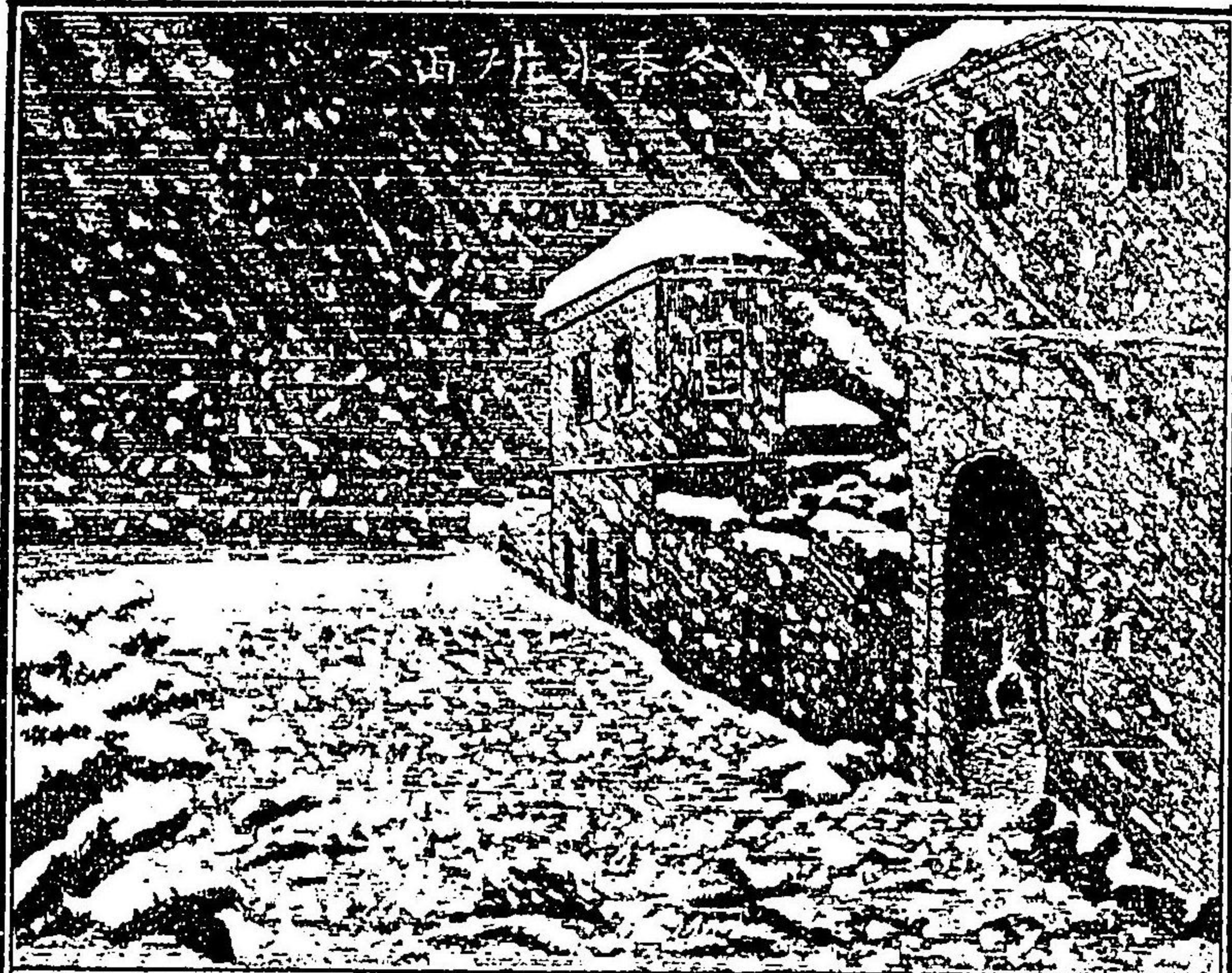
右と左に翼あり其状火炎の如くあり  
蓋し歐羅巴洲よても龍を説くものありとせば  
其真物あるもの乎尚列品多けきと  
略して茲に記載せり  
府中製造場より製鐵場を最とす  
当國産の鑛鐵は良質なるを惜み哉  
石炭乏しを已を得ず木炭以て代用す  
ペルクサンス造船場クリメン會社木材の  
製作殊に昌人あり此國木材の饒かある  
歐洲中よは一二を争ふ所の富地あり  
他國よ多を輸出す其他皮革の細工物  
帽子麻布毛織物産出甚だ多とす  
瑞典國は擱筆す今より魯西亞に渡航ん

魯西亞國之部

魯國は亞細亞の半分と歐洲三分の二を領し・全地球上大陸の七分一を所轄せり  
只英國の全屬地を合算したるを除く外・疆域廣き第一あり・其面積の總計は  
八百三十有八方七千八百拾六英里・人口一億〇〇と三十七万三千余  
普通地理家の説より其天然の境界以て二つに分つ其一是歐部魯西亞と名稱し  
内よ波蘭・芬蘭・其二は即ち亞細亞の部内よ西比利亞・高加索・中亞細亞國等とす  
さきども亞細亞の各部皆・茫漠無邊の荒野よて・土人は其間を散居しつ・疎々よ部落をなすあるも  
大抵草木榛々と・鹿豕狂々の礦土のみ・今此編は旅行の順序よより亞細亞部を記載  
せず蓋し西比利亞氣候風俗等・氷洲地方よ異ならす  
歐部の領地は較開け・面積二百〇八万八千四百十九方英里・人口八千五百〇  
五万八千五百あり・其疆域ハ北の方の北氷洋よ濱臨し・東の方ハ烏拉山  
烏拉川よて天然よ亞細亞の部と境せり・南の方ハ東海・黒海よ相臨み  
土耳其國は接しなり・西は普魯士や奧地利・瑞典・挪威よ隣接し・波羅的海及び

芬蘭の湾は凍す。地勢ハ一般平行ハ荒寒不毛の野地多ク山嶺少ク殊々その北部の地方ハ低地ナリ中央深林鬱蒼シ南部ハ多ク砂礫の野一望平々渺として天は速り涯カシ烏拉山とカリパシユの間ハ一の高原あり其他二三の高原はありと全モ全國中概して平坦なるを以て河流は甚だ緩み水運上は便利ありウオル河ハ歐洲中第一等の巨流ニテ源流二千二百英里余烏拉山より流れ出テ裏海ニ注ぐ其間ハ一千百英里余ハ漕運するを得べけれど氣候嚴寒河水氷り八九ヶ月は通じ得ず加之夏月より水又涸れて河原のみ變か春氷融解時一年中の積貨を以一時漕下すのみ然るニ近年鐵道を布設する盛ニテ一昨年の調べハ二万五千三百英里又芬蘭地方ハ七百三十二里ありテ其外軍用鐵道ハ六百六十英里あり陸運の便は稍開々魯國の汽車は薪を燃す寒暖全國一ならず北方各地は總体ハ氣候嚴寒冬季ハ海水氷結寒暖計零點より下る二十二度水銀為め氷結すされど夏時ハは熱暑ニ至り九十度登るあり北濱各所冬季ハはエスキモー種シヤクトビトの小人ども部落を以て氷中ニ穴居し漁り生活す

卷之四



且嚴寒ニハ雪少ク氷片を兩寸奇觀あり鏗々として地ニ鳴きり魯國の版圖や大なる廣漠無邊の荒地ニ人口稠密貿易乃繁昌する都府無教ニ只渺茫たる其中ニ聖彼得堡府幾富府並ニ荷德莎府要港以上の三所のみ内地に入りて莫斯科府ワルシヨ二府を除く余は繁華の所稀よし都府の名義は附らざる○政治は世界ニ名も高君主專治の壓制度貴族豪族や高僧乃威權甚だ盛ニテ資産富有の紳士等は最と壯麗の宮室中驕奢を極めて高尚の學術等を談ト又富貴ニ逸居なせるのみ人民概して貧寒ニ



聖彼得堡之全圖

只版圖大なると、兵士の多数を聞知して  
 大に怖るるもの、如し是を蓋し彼の國の  
 事情を詳知せぬ故に彼れ我を覬覦するも  
 彼數百萬の軍あるも、君民一致協和せず  
 内憂常に絶ゆるなく、自國を守るに足らざり  
 其國土又軍勢の大なるものは外觀のみ  
 我國近年進歩する、又昔日の比にあらず  
 何ぞ彼等を怖るべし、若我國兄弟が  
 國を愛せず徒らよ自治の心を失せん手  
 涎を垂る、は豈獨魯西亞國に限らんや  
 虎狼を以て外國を疑ふ時は何國か  
 みち虎狼ならざらん、我親睦以て交きは  
 各國兄弟ならざるなし、看官魯國の條を讀み



會冬時郵使物運載

智識乏しを舟楫まで貴賤の隔絶甚だし  
 全國中の人民が年々納むる歳入は  
 七億九千二百二十六万四千〇七十三ル  
 一ル一ブルは日本の七、海陸二軍に費せる  
 金額甚だ巨額にて三億二千三百七十二万  
 全國中の常備豫備民兵等の陸兵は  
 三百二十余萬人、海軍二萬九千人  
 蓋し至大に見られども國民総て無智無學  
 猪武者は多きごと、士官以上の士も乏し  
 故に獨逸の士を備ひ其缺をば補へり  
 我日本人中或は云ふ魯國は最大最強國  
 常に狼視虎歩をなす、我北境に覬覦しつ  
 我地方に垂涎す、戒心せざる可けんやと

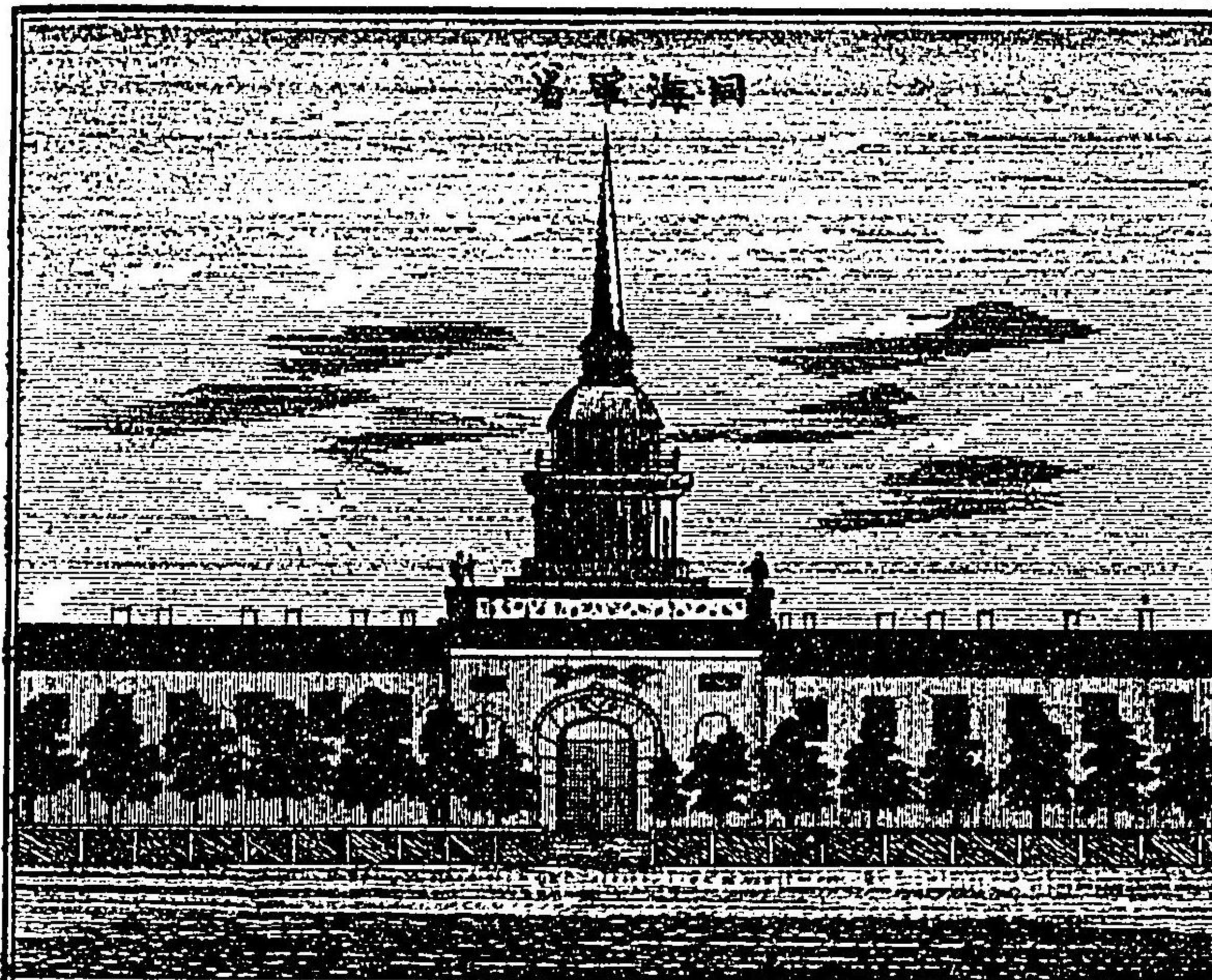
MERCHANT IS CELEBRATE, ENTERING HARBOR OF MERCHANT VESSEL.



商船入港市民之祝

從事するもの四分一・四分の三は悉々  
希臘人ヲ屬し居り之は魯國の旗を立て  
沿海航行させるのみ蓋し當國商業の  
微弱不振の有様は之を以て知り得べし  
聖彼得堡府之記  
聖彼得堡府は魯西亞國の首府にして  
人口六十七万余瑞典國の首府ある  
ズトツホルムの正東位海上四百三十英里  
芬蘭灣に濱臨し・尼瓦河の下流を占據せる  
運漕至便の要地也・さきにも九月十月の  
頃に至きは海水は忽ち凍て、氷結し  
河口の沖へ七八英里・堅氷厚さ五六尺  
人馬車行はさ・さきど船舶航行爲し難く

VIEW OF NAVY OFFICE.



海軍省

宜しと深察せらるるなり  
叔此國國教は耶蘇旧教の分派ある  
希臘教を信奉す・教旨甚だ陋にして  
人民の迷ひ又深く・一致の精神乏しくて  
人智の進歩を妨げり・彼の新教の米國や  
英の如き比は非ず・且此國の産物は  
五穀金銀銅鐵や・烟草政府專賣葡萄酒  
大麻亞麻や皮革獸脂然るは國民貿易の  
事業は深く熱心せず多く英と自耳曼乃  
二國よりして誘導す・自國の商船又微あり  
一昨年の調査では・汽船一百九十艘  
十三万八千噸・帆船の数は二十艘  
四十七萬七千噸・其中自國の商業は

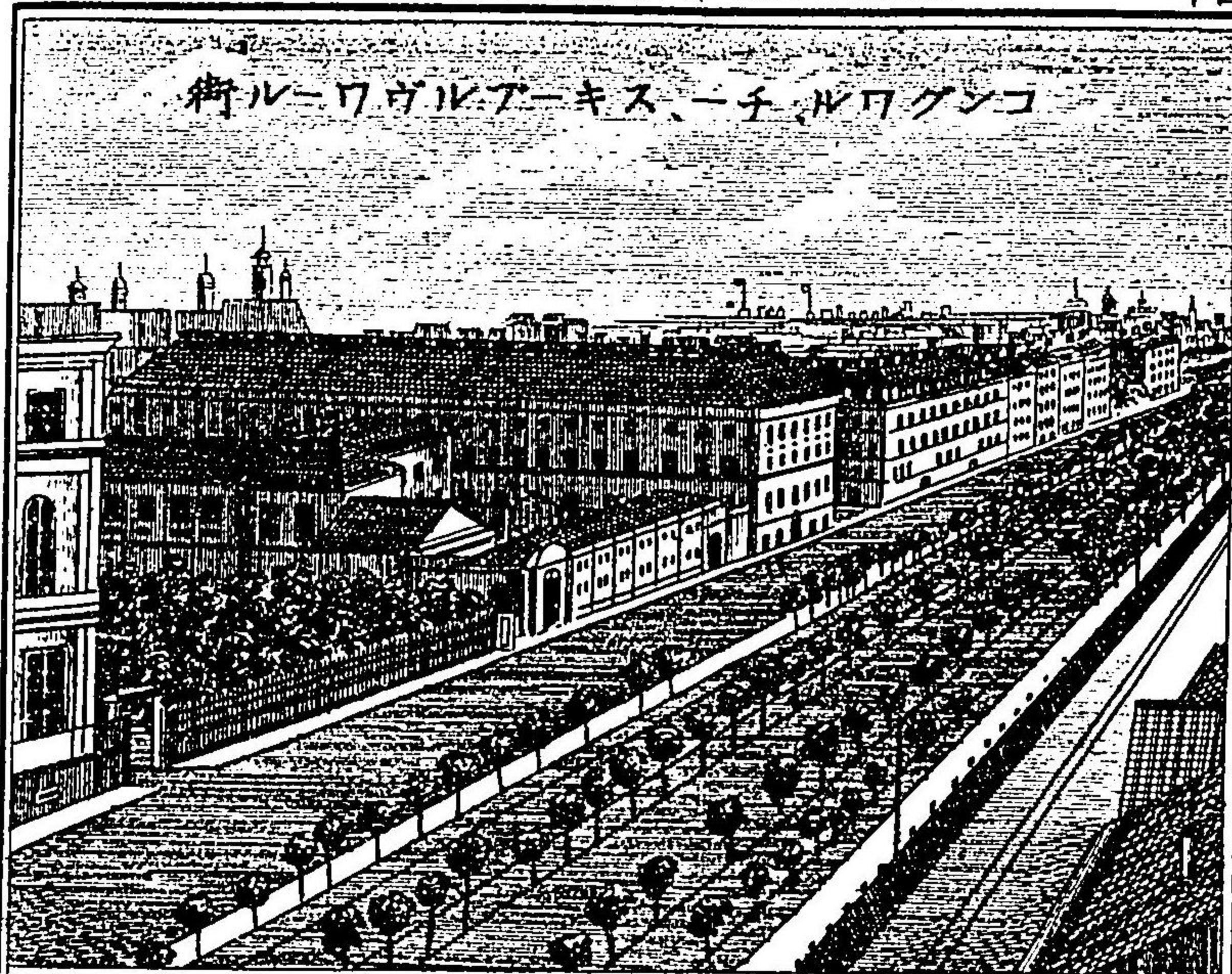
MORNING MARKET IN THE WINTER.



冬季之朝市

公因多く設置せり。道路は一種の異形にて  
 木材を截り其木口を聚めて以て亀甲の  
 形に造り布き詰り。  
 左上は掲げし廣街は府中名高き美術ありき  
 其中央は車道にて、両側樹木を並植す  
 大厦の商店櫛比せり。廊上萬貨を羅列して  
 商勢活潑賑し。  
 冬季魯人は皆獸皮の衣服を穿ちて雪を除け  
 併せて寒さを凌ぎ、中等以上の人家は  
 火爐を設けて平常は室内春暖の如き  
 中上社會の人々は、轡を以て馬車に代へ  
 馬に鞭を馳行せり。富豪家は馬頭を増す  
 多きものは五六頭、乃至八頭牽きもあり

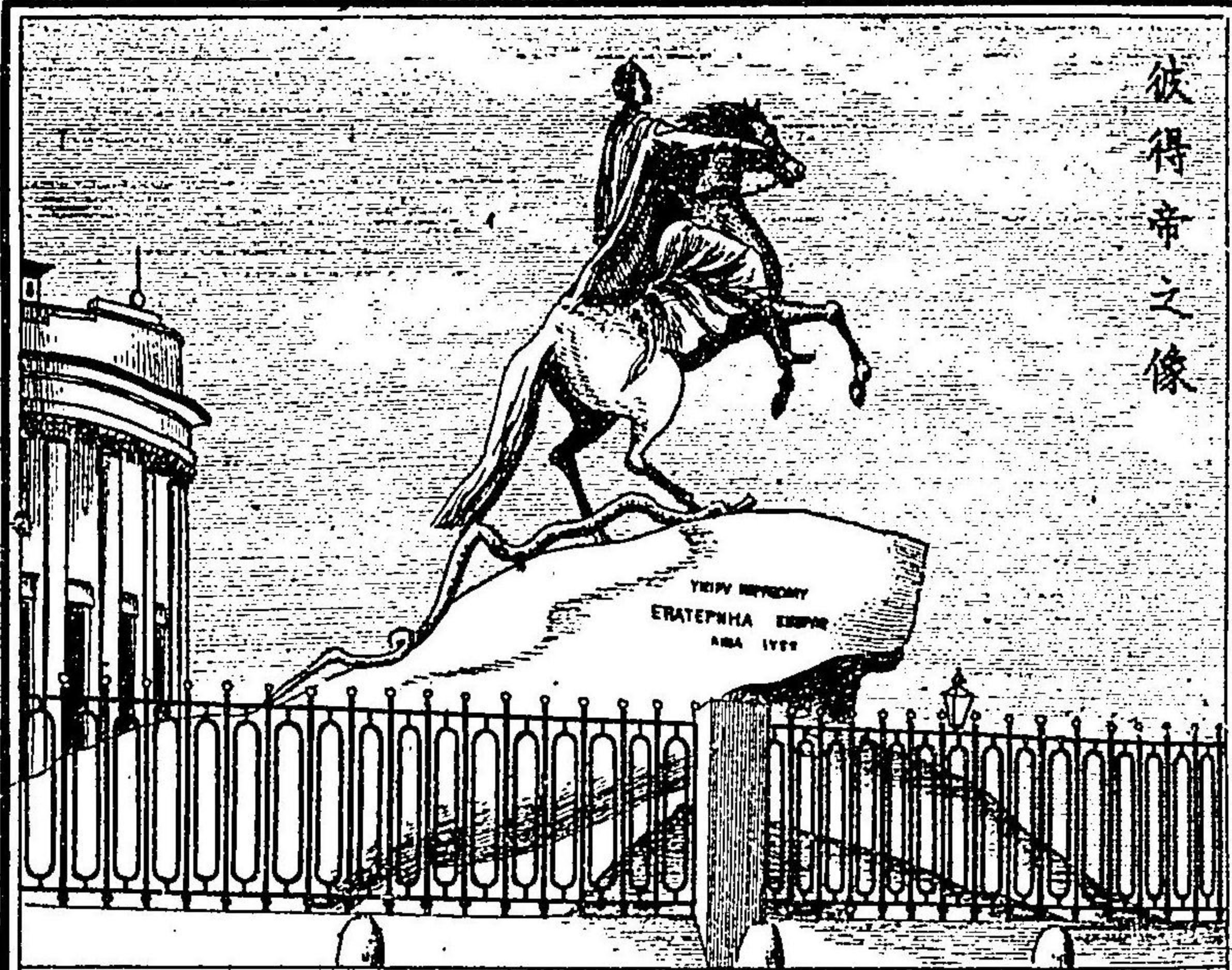
CONGUAR TIE SKIE BOURVOAR.



街ル=ワゴルア=キス、一チ、ルワグンコ

陸地の家屋は髪髻たり。明年四月に至りば  
 堅氷漸く融解し、氷塊海上に浮流あり  
 當時の航海危険あり。翌月中旬に至りば  
 其氷塊も又失て、各外國の船舶も  
 百貨を積載せ入津す。日耳曼國のリュベック  
 仕建の商船魁し。諸國の船舶次で入る  
 其光景や勇ましく、市民ハ港口に奇集ひ  
 船を迎へて祝聲を舉、府中祝祭を為すとある  
 是より諸國の商船は群をあつて各色の  
 旗章は日ならず翻々と尼瓦河の口は飄り  
 船楫林立昨日乃、返寒荒寥境界も  
 忽然化して熱鬧し。商戰繁華偉觀あり  
 当府の市街は清潔して、幅員廣く各所よ

THE IMAGE OF PETER KING



彼得帝之像

初春堅氷の融解る前・街上ある氷塊を  
 棧に積載せ河に捨つ・当府冬季の景状は  
 圖を見て詳知せらるべし。

彼得帝の銅像は・府中第一の美觀あり  
 當國人民全帝を仰ぎ尊び奉敬を  
 今同帝の略傳を・聊か陳述致すべし  
 叔も彼得皇帝ハ・ペートルエレキナウツ  
 ミチエロヴキツの第三子・幼よして父を失し  
 長兄フイナルト皇帝の養育をうけ成長す  
 然るに長兄フイナルト・臨終の際遺言して  
 異母弟彼得賢多きバ・以て位に即かしめよ  
 然るに異母兄宜万あり故に兄弟並びあつ  
 未だ幾ならずして・宜万帝は退隱す

CONDITION OF ROOM IN THE WINTER.  
TO EXCEPT THE TGE ON THE SPRING.



状之内室冬季



除取氷堅春初



PETER WAS DOING A SHIPBUILDER ON HOLLAND.



彼得大帝匠工の身と情  
和蘭の職工とふる

既<sup>レ</sup>位<sup>ニ</sup>即<sup>シ</sup>後<sup>ニ</sup>貴族を鼓舞して自ら  
之<sup>ト</sup>同行せんことを決定したり其時は  
一千六百九十有七年春の事ありし  
當時魯國の人として國境を超へ遠涉せし  
人物甚<sup>ニ</sup>稀<sup>ニ</sup>至<sup>ル</sup>此<sup>ノ</sup>舉<sup>ヲ</sup>を為すの志し  
英邁の企と謂<sup>フ</sup>べし遂<sup>ニ</sup>諸國を微行して  
和蘭<sup>ニ</sup>止<sup>マ</sup>る數年間掩<sup>テ</sup>坦府<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>く  
萬乘の君忽<sup>チ</sup>身<sup>ヲ</sup>を情<sup>シ</sup>して卑賤<sup>ナル</sup>職  
職工となり海軍の造船諸術を研究す  
帝職工とまりはりて親<sup>ラ</sup>斧斤<sup>ヲ</sup>を執<sup>リ</sup>玉<sup>ハ</sup>ひ  
精細耐<sup>ル</sup>忍<sup>ミ</sup>實際<sup>ニ</sup>は技術<sup>ヲ</sup>を試<sup>ミ</sup>玉<sup>ハ</sup>ひしは  
今尚掩<sup>テ</sup>坦府<sup>ノ</sup>サールダム<sup>ニ</sup>遺跡<sup>アリ</sup>  
爾後<sup>ハ</sup>全府<sup>ノ</sup>長官<sup>ヲ</sup>就<sup>キ</sup>て以<sup>テ</sup>地理學<sup>ヲ</sup>

PETER WAS ATTEMPT GREAT AMBITON AND REVOLVE VISIT WITH HIS NOBLE ANOTHER STATES

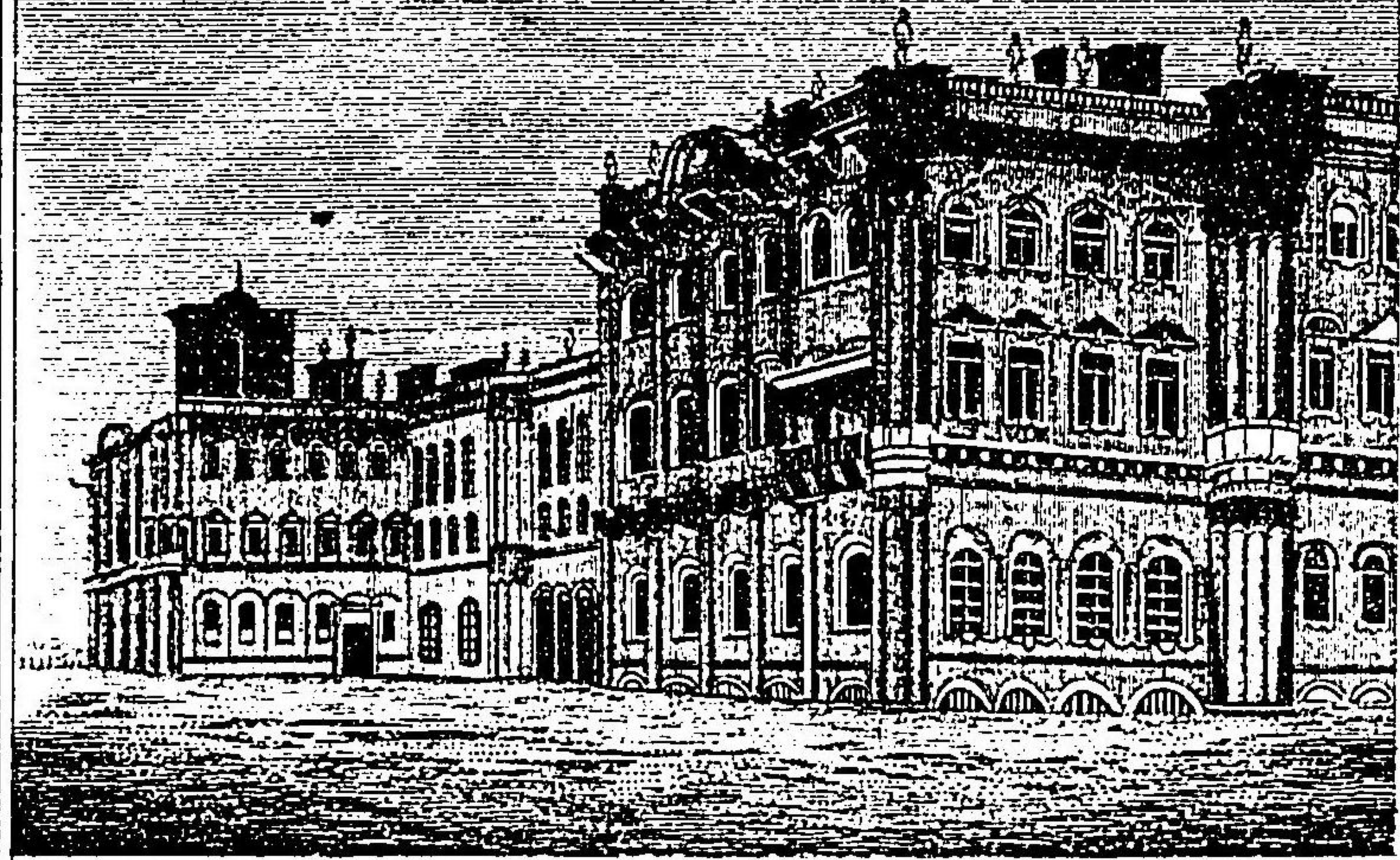


彼得大帝志貴族と各國外行

當時魯國の形勢は風俗野蠻凶暴  
文化は更<sup>ニ</sup>進歩<sup>セ</sup>ず器械の改良諸術等  
皆旧習を墨守して迂濶<sup>ニ</sup>失<sup>シ</sup>顧<sup>ミ</sup>みず  
天産物<sup>ヲ</sup>に依頼して諸弗哥<sup>ノ</sup>如<sup>キ</sup>地<sup>ニ</sup>  
稍貿易<sup>ヲ</sup>を為<sup>シ</sup>のみ日耳曼<sup>ノ</sup>和蘭<sup>ノ</sup>英吉利<sup>ノ</sup>  
人民來<sup>リ</sup>居留<sup>セ</sup>り  
初め彼得皇帝は莫斯科<sup>ニ</sup>在<sup>リ</sup>留<sup>シ</sup>  
蘭人<sup>ニ</sup>就<sup>キ</sup>數學<sup>ヲ</sup>を深<sup>ク</sup>學<sup>ビ</sup>つ而<sup>シテ</sup>  
歐洲西部の風俗や形勢等を傳聞<sup>シ</sup>  
自國<sup>ニ</sup>比<sup>シ</sup>て吾國<sup>ノ</sup>不進<sup>ノ</sup>原因<sup>ヲ</sup>を探究<sup>シ</sup>  
大志<sup>ヲ</sup>を懷<sup>キ</sup>て魯亞國<sup>及</sup>ば他<sup>ノ</sup>所<sup>ヲ</sup>を改良<sup>ス</sup>と  
普<sup>ク</sup>諸邦<sup>ヲ</sup>を経<sup>歴</sup>し自ら實驗<sup>ス</sup>せし上  
之<sup>ヲ</sup>取捨<sup>シ</sup>利用<sup>シ</sup>つ國家<sup>ノ</sup>富強<sup>ニ</sup>尽力<sup>シ</sup>

VIEW OF IMPERIAL PARACE

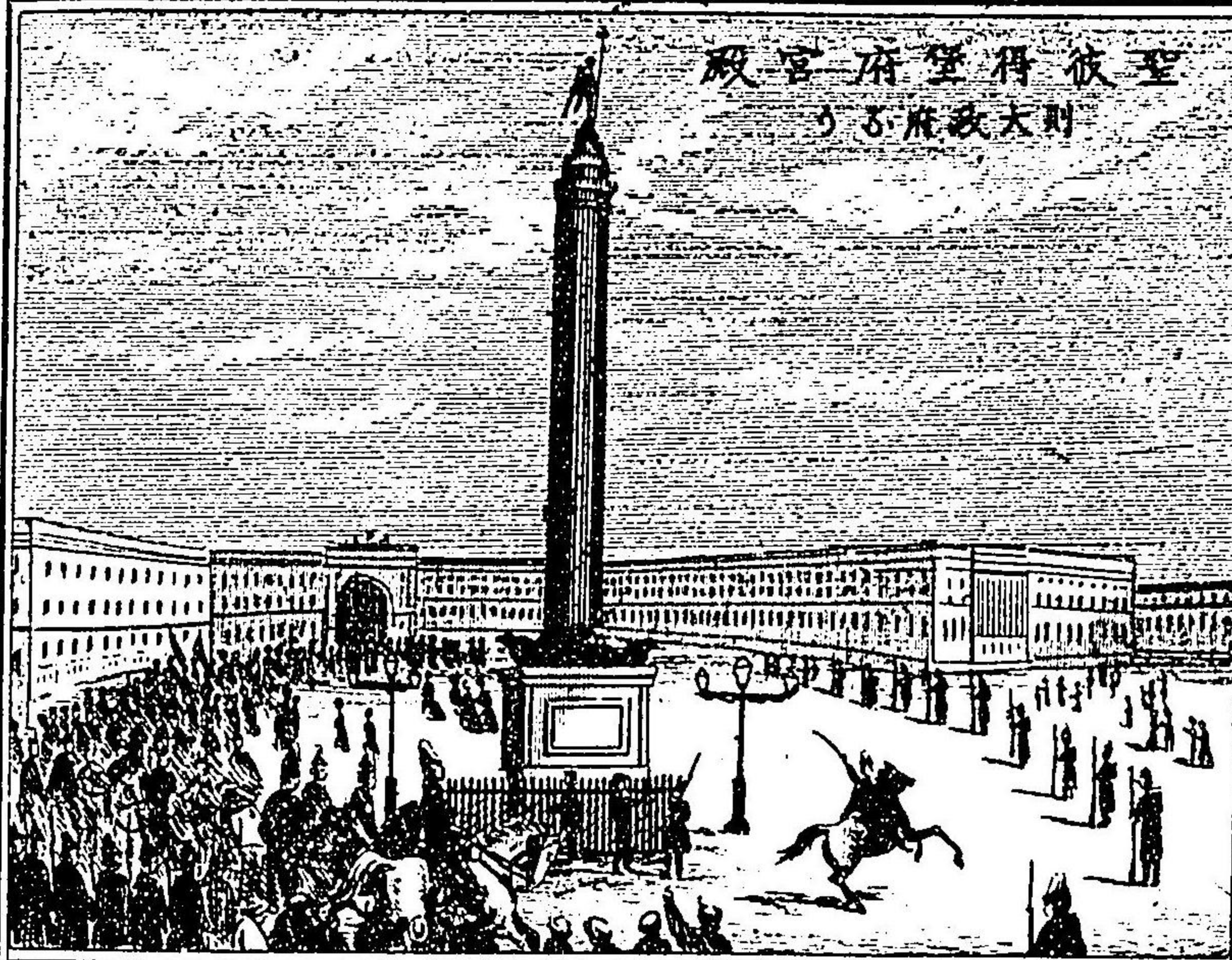
宮ワツニムジ



聖彼得堡(セントペテルブルグ)の宮殿は、今日イ  
 廣漠無邊の疆域を占領するも皆帝の  
 中興維新に起因せり。人民仰ひて大帝と  
 尊稱するも宜かりき。  
 帝宮背後に尼瓦河の最も濶き岸に據り  
 世に名も高き彼得城岸を隔て、相望む  
 諸魯西亞國の政廳は、該宮殿の中より  
 内外務省其他の官衙も皆此内よりあり  
 宮前総て白石の高閣圓規に築造し  
 中央大なる洞門あり。前は美麗な礎石し  
 大遠を為す且四面高樓周回したるを  
 廣達甚な濶さは、回望恢廓人意又  
 寔に快を覺ゆあり。今此氣象を觀る時は

VIEW OF THE PALACE OF ST PETERSBRUG. 六四

殿宮府堡得彼聖  
りる庶政大則



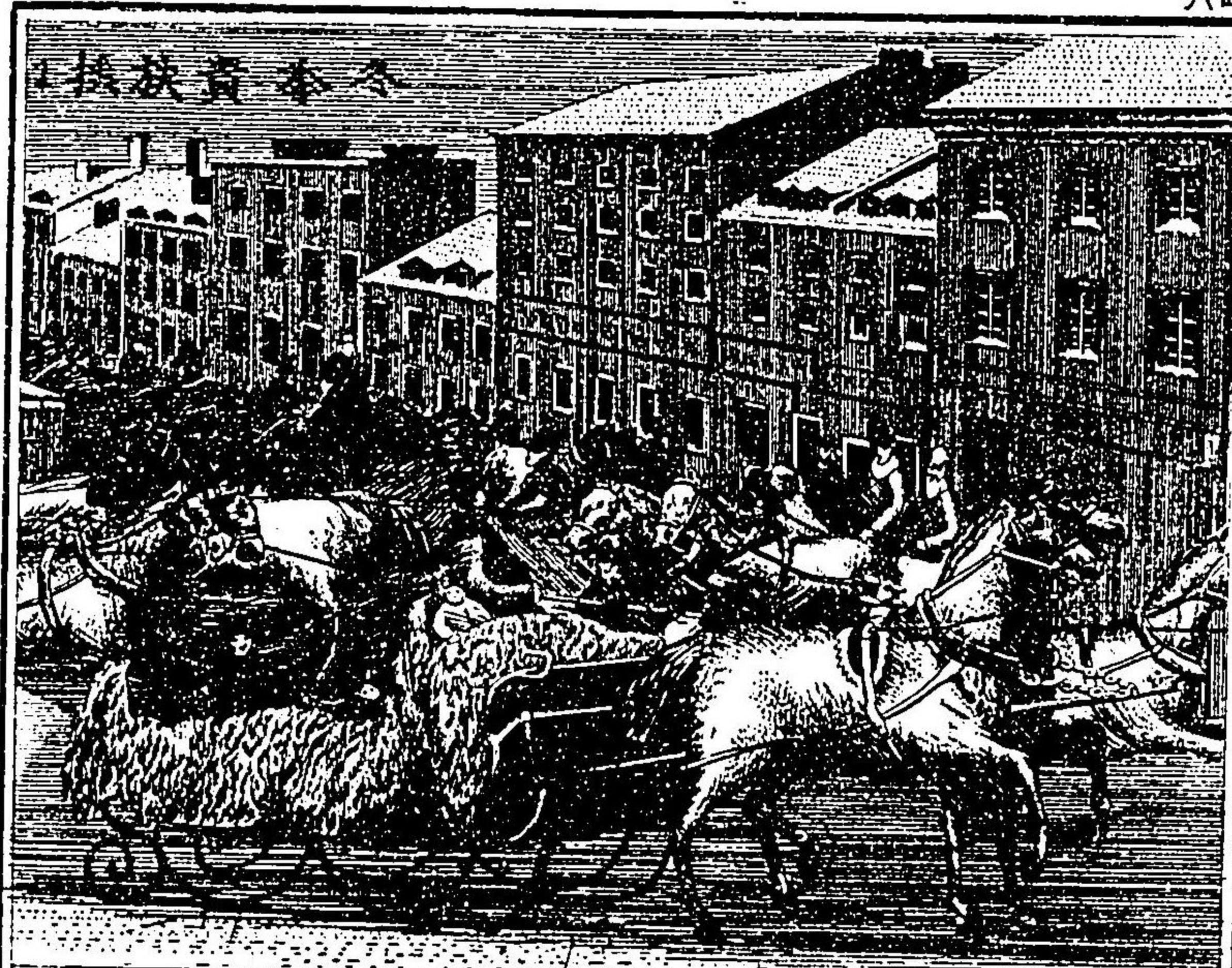
政治學をば研究し、業成りて後ち同行者  
 教人を將みて日耳曼や英吉利等を漫遊し  
 學術製造其他乃規模を隅々を周覽し  
 各地に於て學者又工藝人の吾國よ  
 益ある者を數十名聘して國に伴き歸り  
 厚を待遇為し以て國家の富強を期し玉ふ  
 是に於て半魯西亞國は學術治ねを行き  
 製造の業興起しつ。靡然進化し發風は  
 漸を去て文明の域に進むの象を觀ふ  
 又瑞典の王查理第十二世と戦争し  
 勝て擴めし其版圖。西北方より蔓延し  
 波羅的海の周圍を併吞して占領し  
 新に開きし京城は、是をきふん今の都なる

VIEW OF WINTER



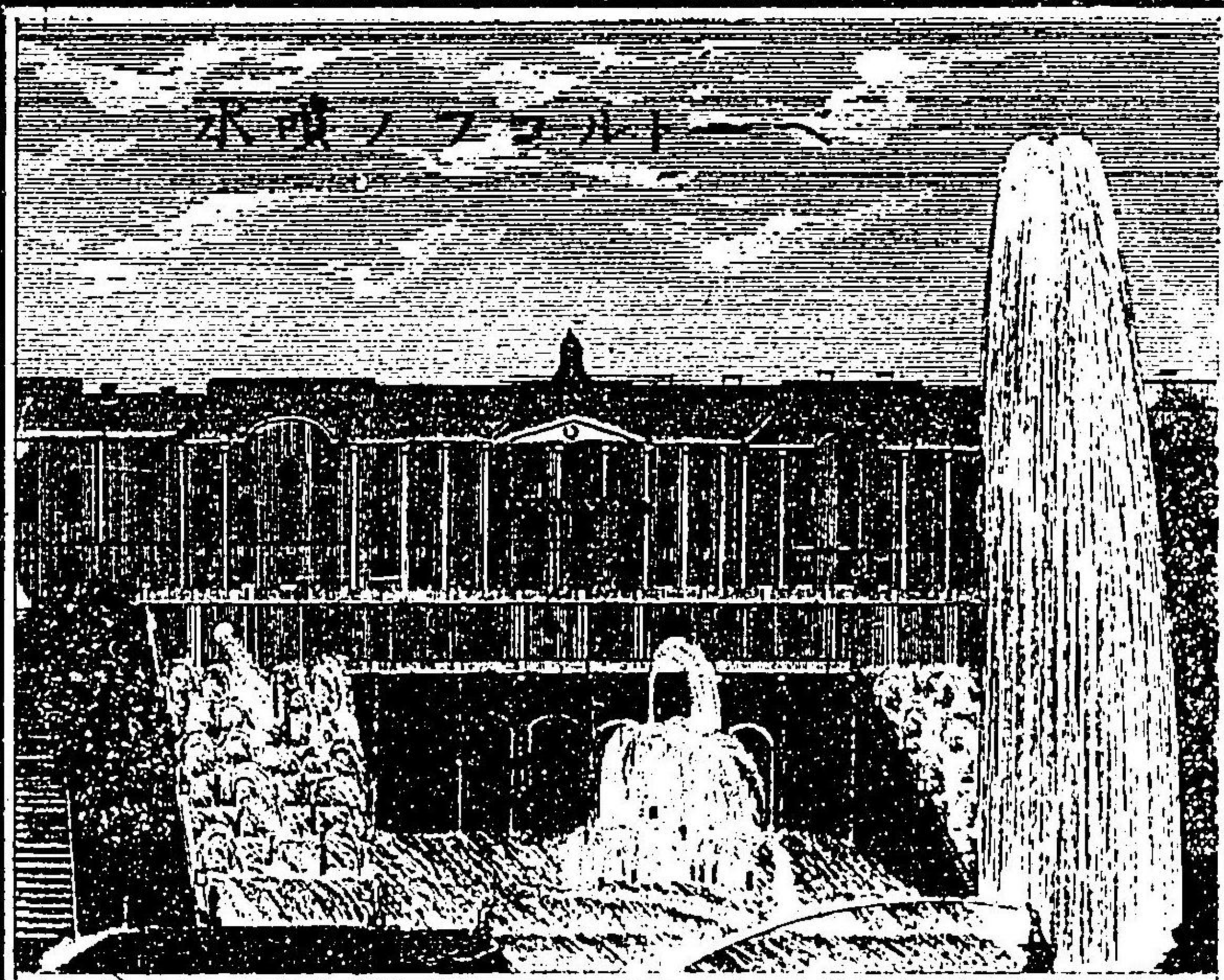
一千二百余萬圓・地・利・皇・帝・の  
 富修ふるも魯帝は三分一に過ぎずとす  
 英國帝の歳俸より比せば五倍の上に出ず  
 故に全國の民は僅に隸農を  
 免きたせども極貧にして自身を支ふるに足らずとす  
 蓋し隸農てふものは奴隸に均きものにして  
 土地と共に賣買をせらせし者でありしあり  
 右の如く人民は貧者の衆合体なきは  
 政府も常々貧しくて國債及紙幣高  
 巨額に達す二年前國債二億ルーブル余  
 紙幣の額は又多を六億ルーブル以上あり  
 故に紙幣は下落して銀貨一ルーブルに付  
 紙幣三ルーブル前後あり紙幣は信用なきは

SEASON ST PETERSBRUG



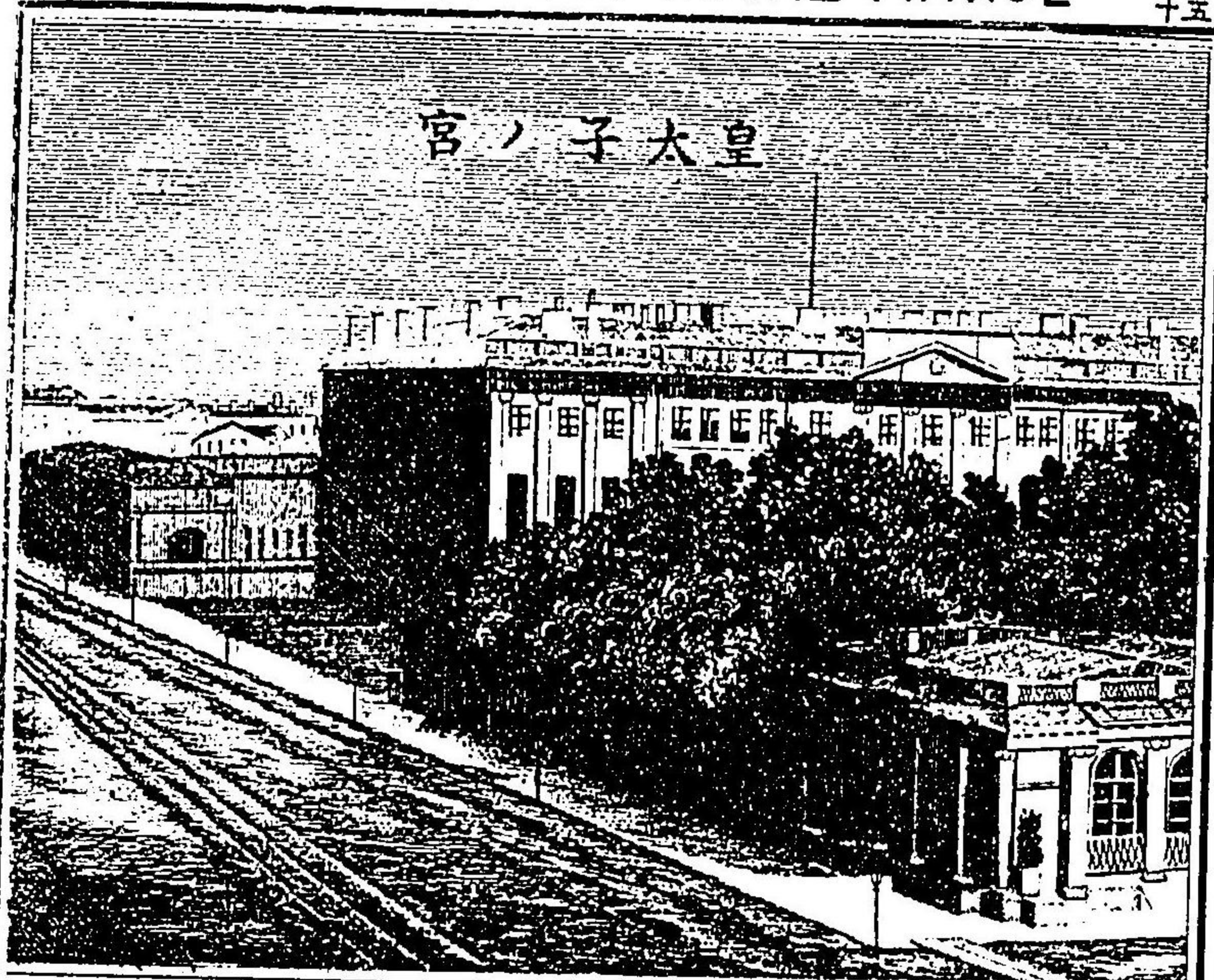
宏麗壯大世界中心巴黎龍動を除く外  
 其比を視ざる處あり廣達中央高塔を建つ  
 塔基は巨石を以て造り雲表より聳へあり  
 頂上は女神の像を安置此塔の基礎は  
 芬蘭の産物にて世に比類なき巨石也  
 魯國は歐洲列國中全を別種の政治にて  
 君主獨裁名の高き皆能を人の知るところ  
 抑も當國皇帝は歐洲各國中於き  
 最も豊富の歳入を收め玉ふ君主あり  
 帝室所有の不動産全國耕地森林の  
 三分之一を私有する其面積の概算は  
 一百万方英里又西比利亞は金山や  
 鑛山夥多私領しつ其他の歳入合すと

FOUNTAIN OF PETERCOHG.



水噴ノフコル  
 民權も又伸張し、四民の幸福限あし  
 獨し並み伊太利亞は貴族の富貴平民も超す  
 故に文物觀べきも、全國総体猶貧し  
 魯國は全く貴族等の関化したるものにして  
 人民は皆奴隷あり、財貨は上流社會より  
 包攬せられて専制の下に壓抑せらるゝも  
 此成形よりよるぞかし、故に魯國の貿易も  
 自ら振はず外國の商軍利孔を専有す  
 聖彼得堡府の属目すべき商店は  
 多く日耳曼商人の開店し多るものありき  
 英佛商店又多し、噫讀者よ諸君子よ  
 魯國は大なる國に似ず、をとなげざるも白耳  
 和蘭國も劣せざるは其原因何とあす

PALACE OF ROYAL PRINCE



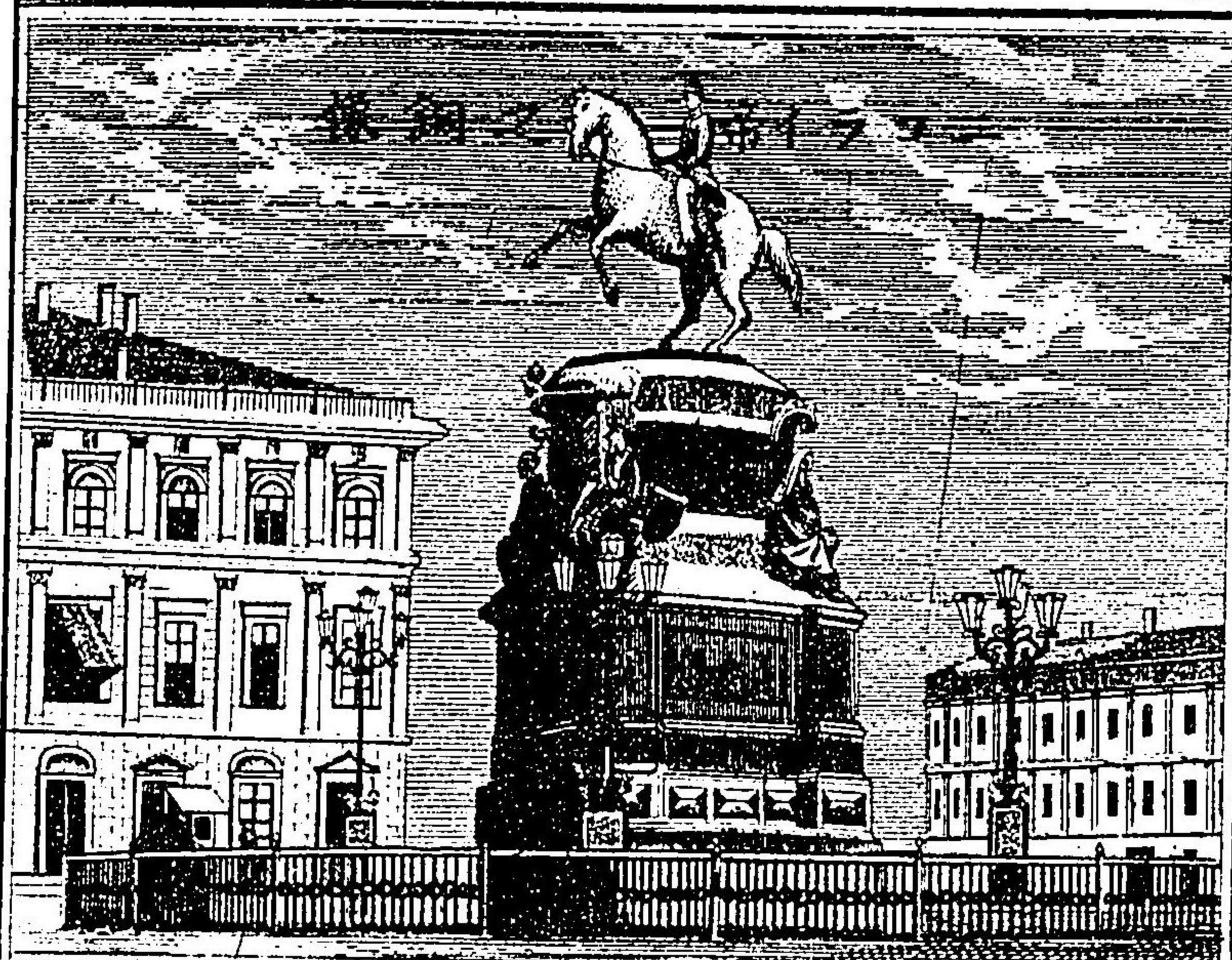
宮ノ子太皇  
 之を以て知り玉へ、紙幣の價値は安けきと  
 帝室皇族貴戚等の富は年々倍加して  
 甲弟傑閣雲連す。  
 荒漠たる彼野の面も聖彼得堡府  
 及び莫斯科府をつくり、金光石輝往く處  
 目を眩耀す故に府下六十万人の人口は  
 其を目的に商業す。  
 普通人民貧窮して愚鈍なるもの多しとす  
 貴族紳士の間には奢侈の風俗流行し  
 上下の懸隔甚多し蓋し英佛白蘭の  
 諸國に於ては平民の人々最も多しして  
 富豪家の多き事及び貴族は超過せり  
 故に全國一般に自治の精神治りて

BOATS' BRIDGE OF NEVA RIVER.

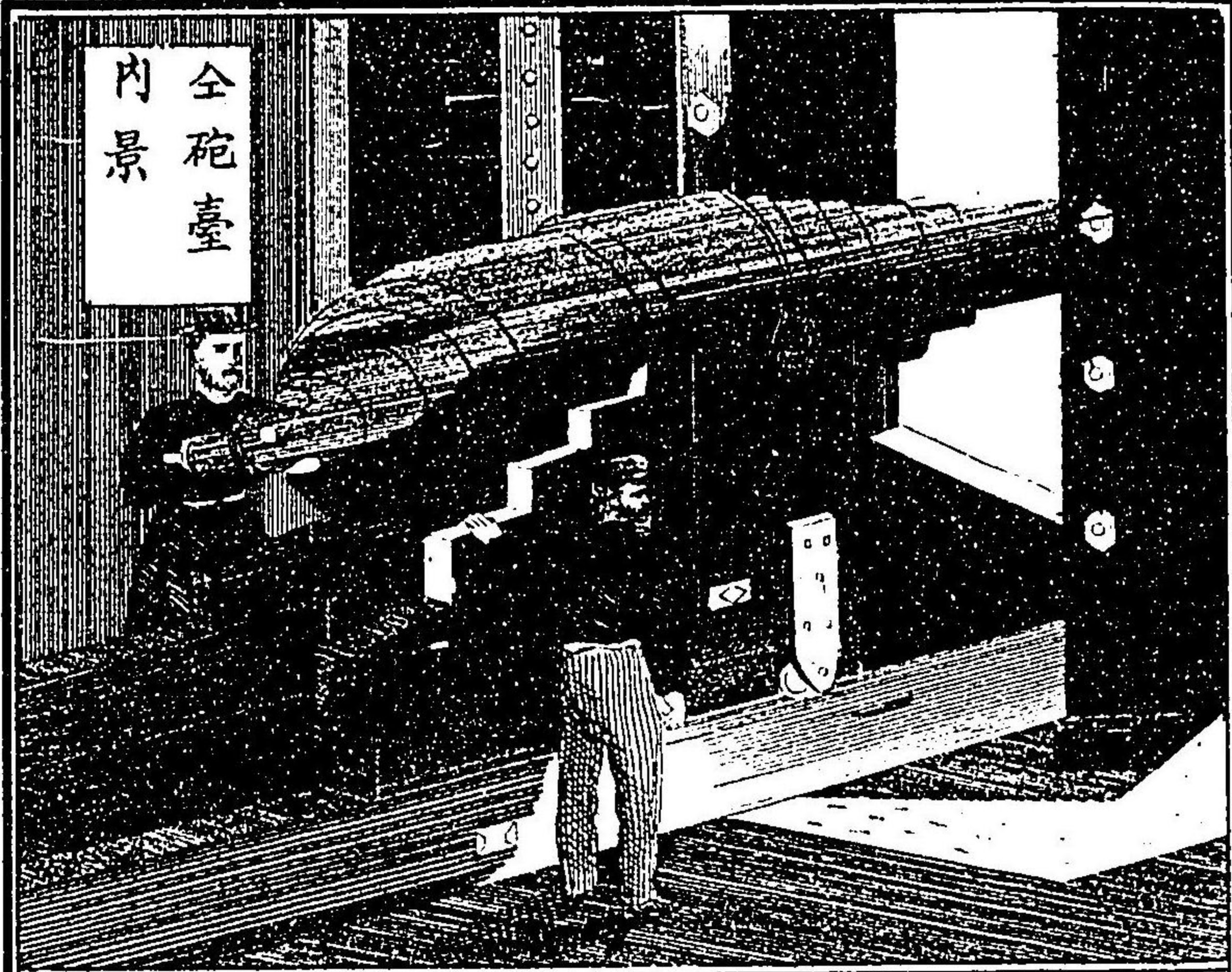


府中ノ橋深夥多あり其數一百三十余  
 ネヴァ河ニ架スル船橋は最も長きものと云ふ  
 只一橋を除く外皆船橋を架設せり  
 冬時河水氷結し春に至りて融解る時  
 河水流勢矢の如く氷塊砂石轉流す  
 故又通常の橋よりは橋杭毀壞の恐きあり  
 以て浮橋とあせしなり  
 冕城島の砲臺は王宮の北五英里余  
 世界に夷々要地也海底悉皆木柵や  
 乱石等を埋没し大船通路を遮断せり  
 只僅か一條の航路を餘すのみありき  
 海中各所は砲臺を築き以て敵艦を  
 十字様に叢射する形に造る而して

COPPER IMAGE OF KING NICOLAI.

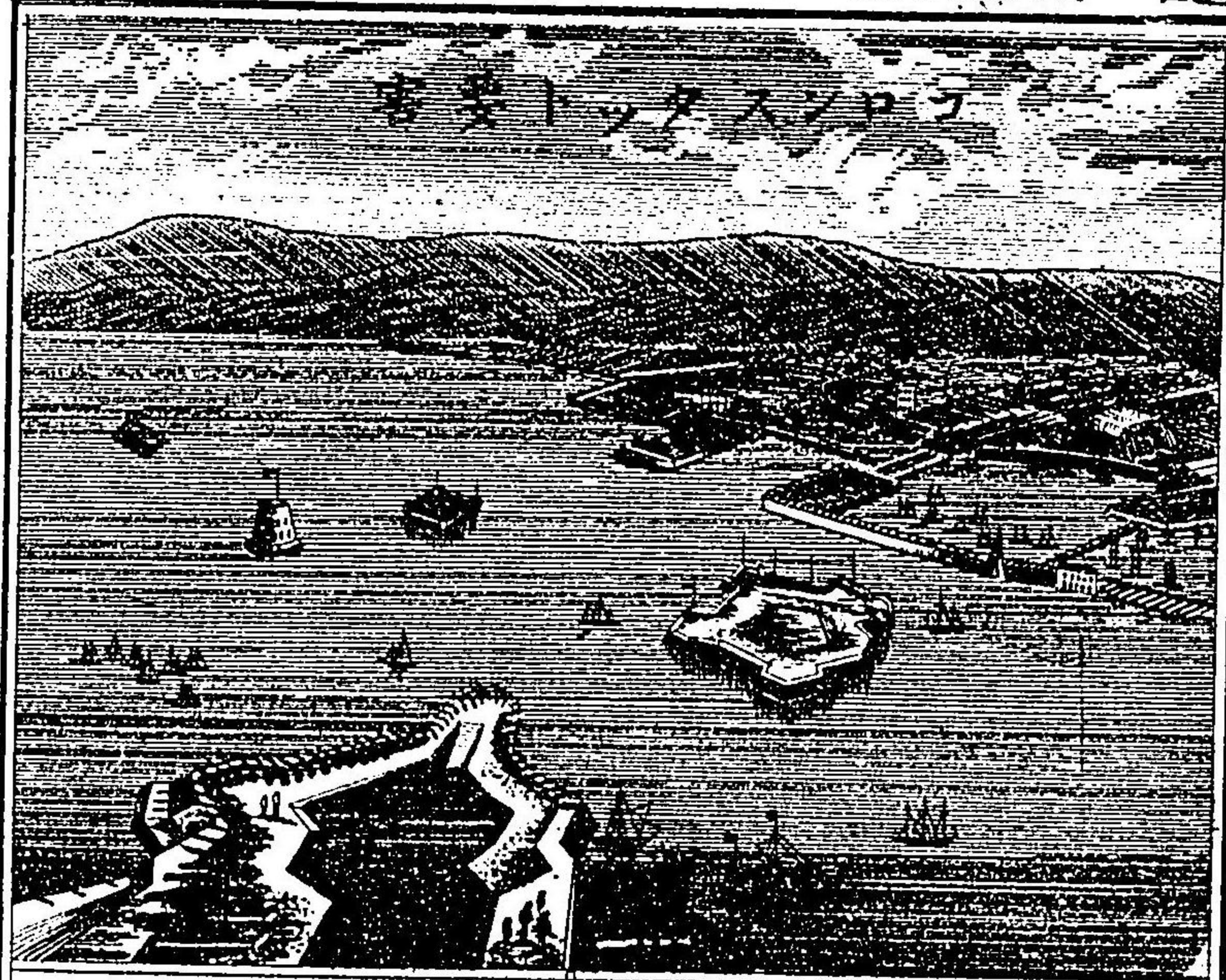


政府の罪か將多民の及ばざる因るもの乎  
 兎も角も諸君子懋め王へ懋めよや  
 國の光輝は皆民の懋むと懋めざるよる  
 般鑑今是の魯西亜あり魯西亜あるよ諸君子  
 ○ジミニツワ宮ニコライ皇太子の宮殿等  
 總体石にて造りたる結構極めし美館あり  
 是をらの建て方英佛も或は耻ずるところあり  
 ペートルゴフの噴水は府中ニ於て著明あり  
 以上述べたる宮殿や噴水等の美觀ある  
 英佛米は耻ぢつして美は則ち羨むべきと  
 其趣や異ふきは同一視し至らざる  
 其成立に注意せよ  
 ニコライ帝の尊像は府中ニ名高き所あり

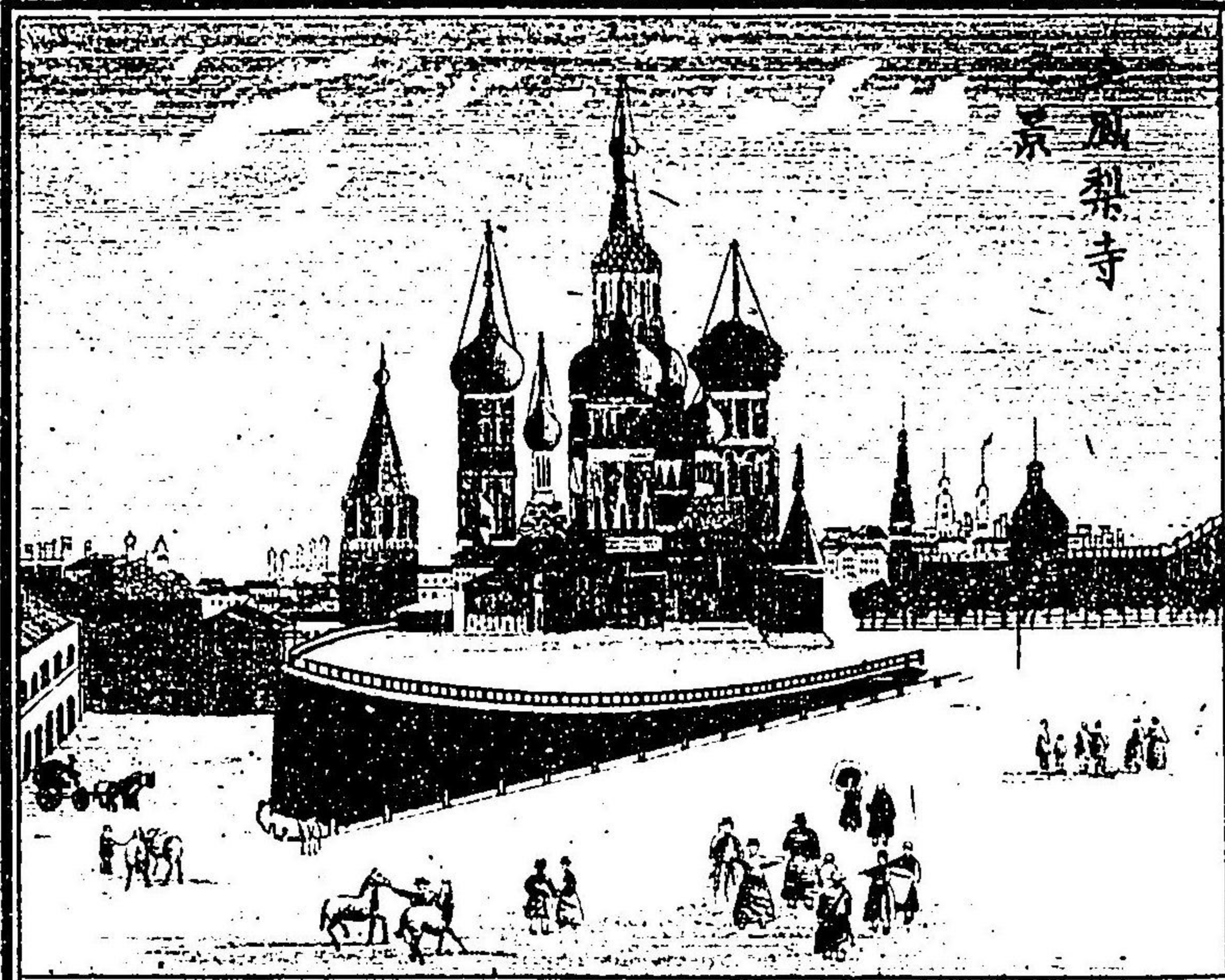


全砲臺  
内景

是を真に天險と云ふべし。占めぬ一の臺場にて  
 彼の近年は名も高きクリメヤの役兵と佛  
 協力一致京城の聖彼得堡を  
 襲はんが爲め軍艦の堅牢なるもの數十艘  
 此砲臺に向ひしが其要害を目撃し  
 軍艦傍へも近寄らず。竟に攻撃をせずして  
 引退きし所あり。  
 近頃又最厚き鐵版を以て堡壁を  
 設置し極めて巨大なる鉄鐵造りの大砲を  
 數門是に備置したり其内景の有様は  
 上欄の寫真で知り給へ。  
 今此府より各國の首府への里程を掲載し  
 以て讀者の参考を供する車左の如し



ニコライはメイチコフ兩砲臺を魁となす  
 且又是も甲鐵艦六艘と余は衝突松  
 十有二艘を備へ置き臺場の援を備へたり  
 今若し敵の軍艦が波羅的海を經過して  
 此地を攻撃するあらば此要害を支へらせ  
 全勝を得難からん且是海邊は総休  
 平坦にして丘陵なし此砲臺は向はず  
 上陸せんとするあらず陸地各所に砲墩あり  
 以て防禦は備へたり顧ふも魯國は全力を  
 竭して以て海門の鎖鑰を防衛すま如し  
 且つ魯の都を攻撃して陸路をとらんか其道程  
 茫漠遼遠兵馬をば休憩せしむる便あらず  
 海よりせんか丹ハ今のコロンスタットの要害有

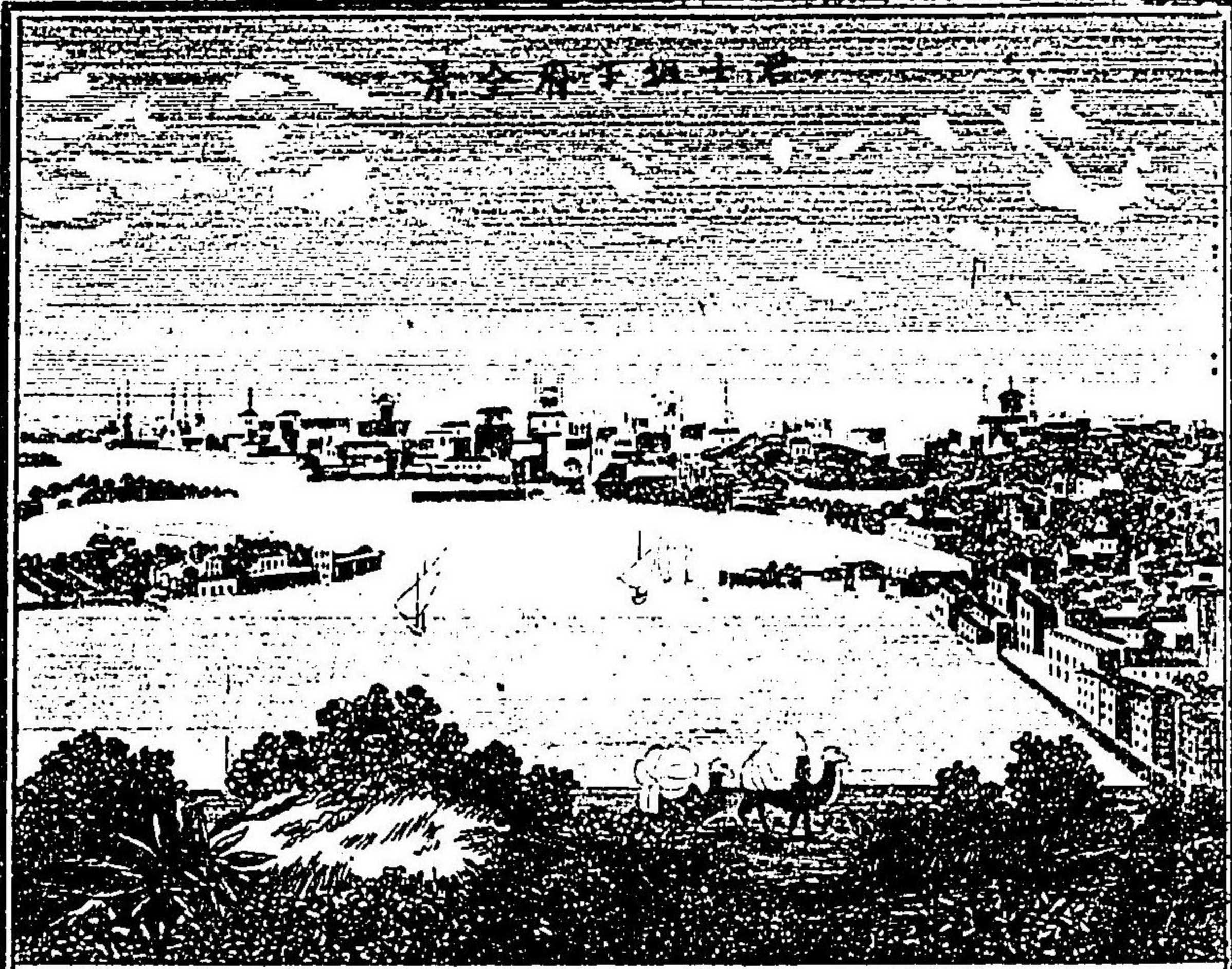


莫斯科聖堂

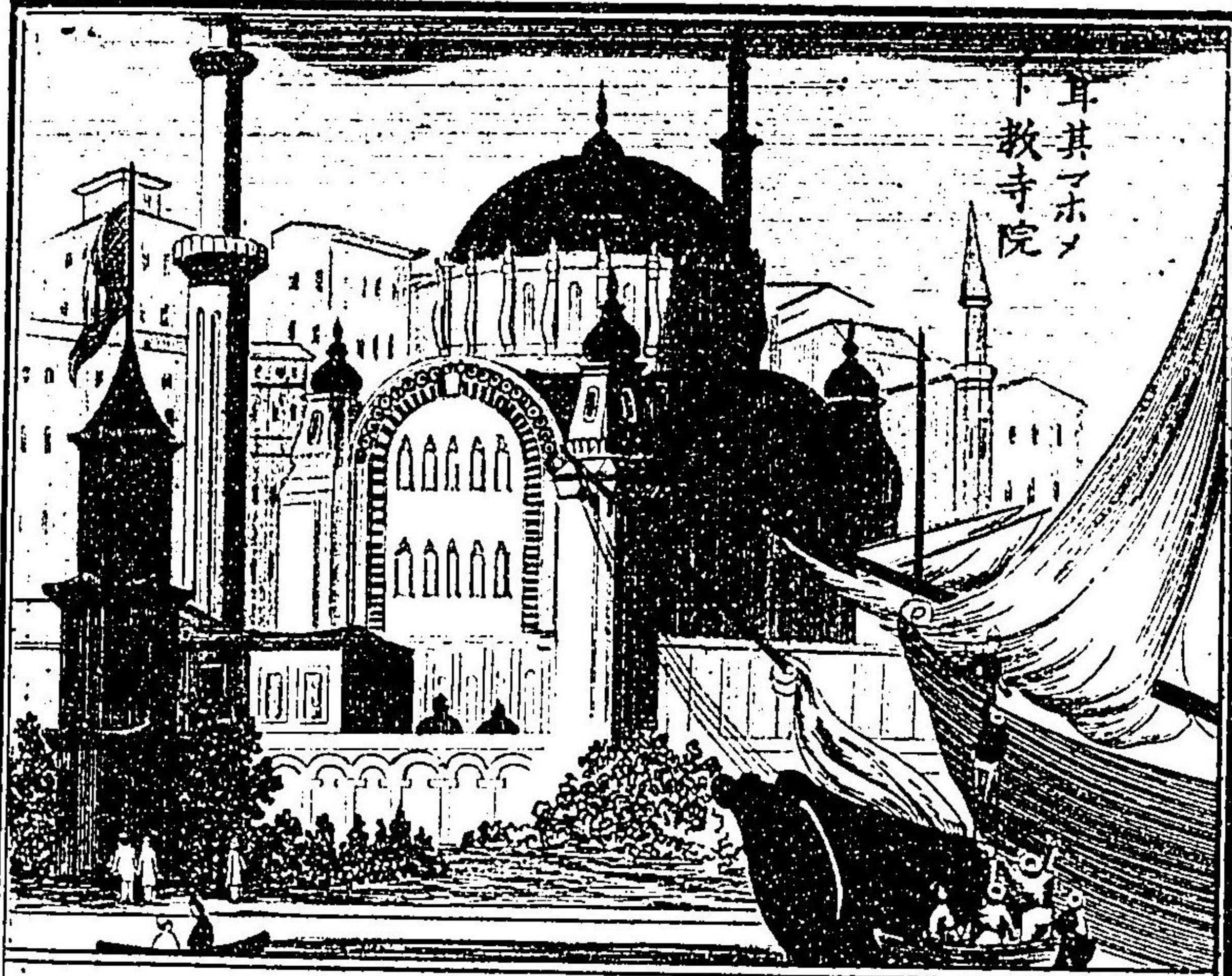
即位の禮を行はる旧都をば名所や古蹟最も多くあり。  
 莫斯科河に臨みふる古城の如きは其中の巨觀をきとれ惜み我未だ眞を得ざる故他日掲載致すべし。其他市街の建築は何れも壯麗風致あり。大厦巨屋も又多く貴賤往來雑踏す。  
 市中無数の尖塔ありて。何れも鍍金青緑し林立光輝炫然あり。是をみる魯國積弊の寺院の標と知らせあり。堂塔七百有余あり其結構は皆奇異の形状をみし他の都府と大に觀を異せり。上欄ある鳳梨寺觀望最も美を稱す。



白耳曼國の伯靈へ鐵路一千四英里余。埃地利の維納へ鐵路一千百英里。佛蘭西國の巴黎まで一千五百五十英里。  
 莫斯科府之記  
 莫斯科府は魯西國の第二等なる都會にて。聖彼得堡府の東南鐵路四百餘英里。大略國の中央に位す。人口四十萬。当府は水利四通して運漕最も便利あり。故に製造貿易は甚だ熾んは行はる。製作場の工人は十一万を役せり。其中最も盛なるは毛布綿布と絹布也。此府往時は代々の京城として今帝のアレキサンドル三世も二年前に此府にて

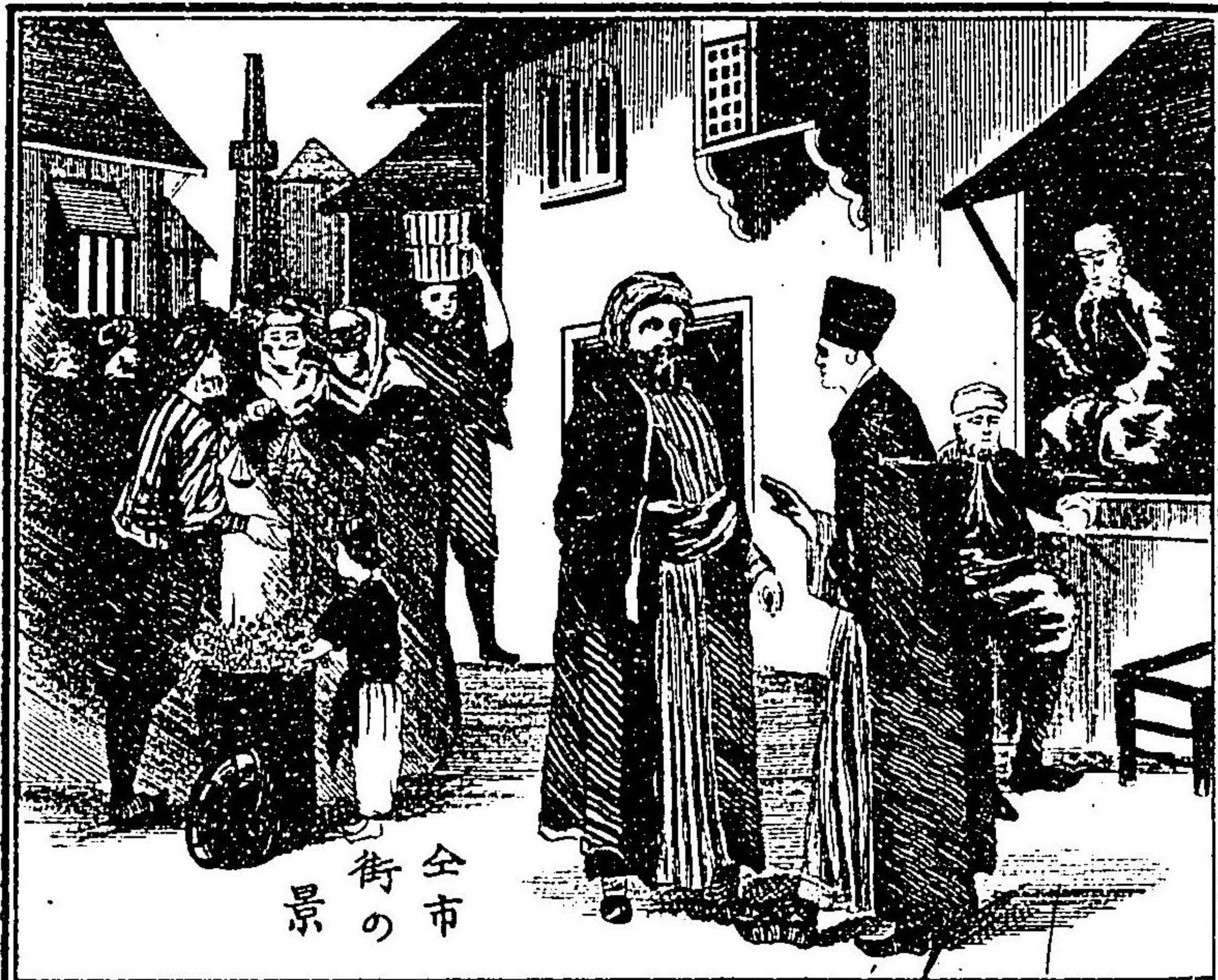


其の市街の形状は前府と同じく貴族者修  
 平民寒陋卑賤にて政弊之極嘆ずべし  
 此府の南鐵路にて八百廿英里余の  
 彼の黒海に面する多病徳沙港は貿易の  
 要港にして土耳其國亞非利加等と通商上  
 最も熾の港あり效より以上の兩國や  
 其他定期の漁船あり尚魯國中小此  
 都府なきはあらねども略して土耳其進むし  
 土耳其國之部  
 土耳其は元來亞細亞洲の西部に起りて今を去る  
 五百年前歐洲より漸々攻め入り國を建つ  
 故に現今此洲内を本部とせり然きども  
 民種政制教法や風俗等に至るまで  
 他の歐洲各國と甚な殊異り而して  
 領地は亞細亞歐羅巴亞非利加洲に跨り  
 其面積の総計は二百三十有九萬  
 六千六百九十二方英里人口総計する時は  
 四千二百三十万今を去る事七年前  
 魯西亞國と戦争し一千八百七十有  
 八年七月十三日伯靈府の條約を  
 調印せしより歐部ある要地を多々失へり  
 然り而して今も各部の副王權強く  
 獨立國に均して本府の命を奉せざる  
 ものも多々且總て政令下は行きず  
 下情も上は達すなき國勢甚微弱なり  
 本部の疆界北方は埃國に塞兩維



耳其マホメ  
 教寺院





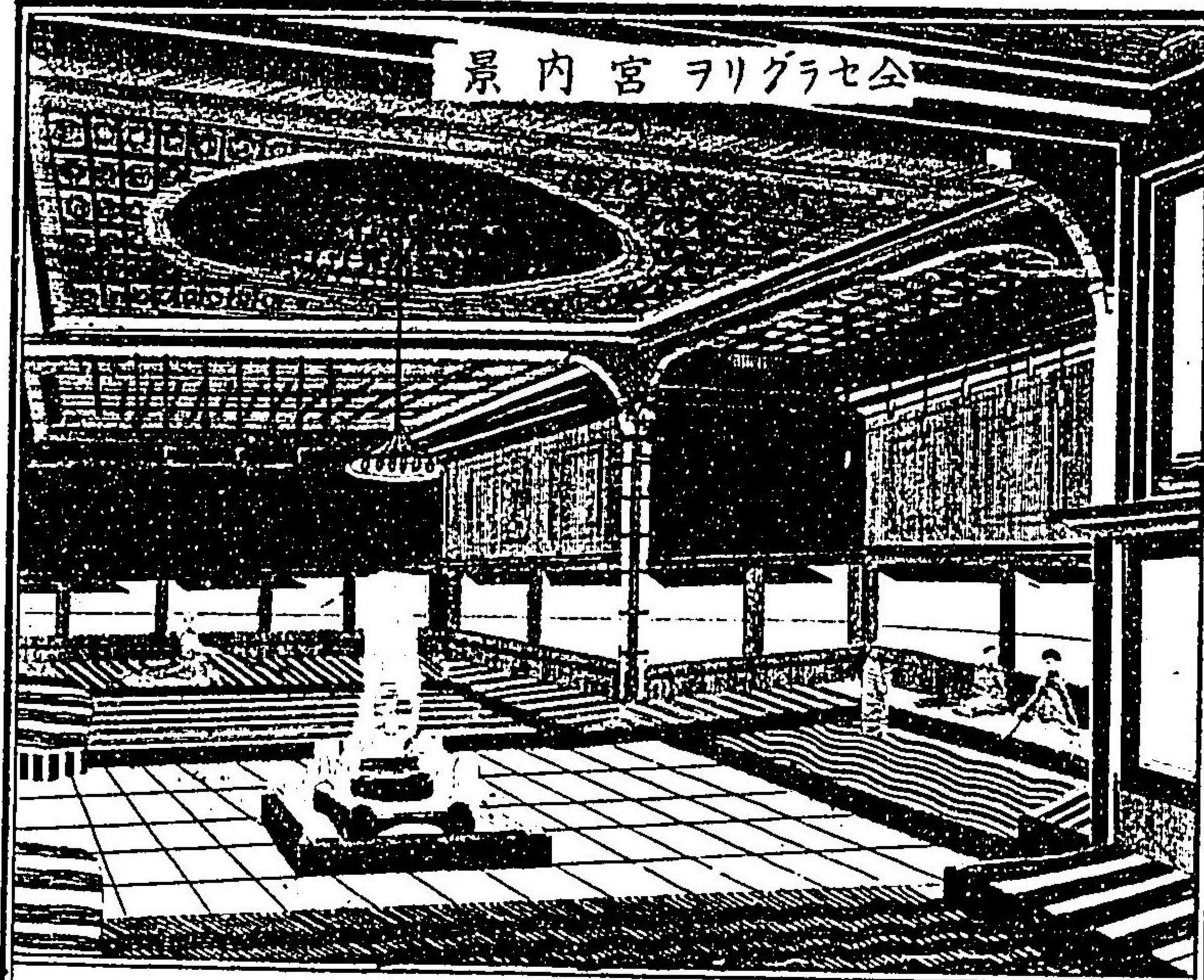
全市の街の景

叔て此國の産物は、穀類、木綿、蠶絲、絹、刺繡等を主とせり。地味は総体豊饒にて、  
 今夫を之を利用して、産物多を生ずせど、  
 國民閑憩製造力を用ゆる薄き、  
 田園荒蕪し村落の到るところ寒しとす。  
 蓋し以て國民の怠惰卑屈の根性と、  
 其政令の宜しきを得ざるを傲す。是れより、  
 且宗教は回教、國民擧て信奉す。  
 政體君主擅治にて國民自主の權はなき。  
 憲法は彼の回教の經典あるコーランの  
 大綱以て基礎とす。苟も該教條より、  
 背戾せざせば帝權は實に無限の者とせり。  
 次マルテカガン子ム。現政治の基礎とす。



羅馬尼亞國に隣接し、東の方は黒海、  
 面して而して西方は亞得里的海に濱臨し、  
 南方希臘と連きり。  
 地勢山嶽併列し、其中央は高原、  
 属して海邊は平坦なり。北方多瑙河邊は  
 低平原野多しとす。  
 此國氣候は海岸地、夏月頗る暖熱の  
 酷烈とも堪へ難く、冬月霰雪多く降り、  
 寒氣厳しく、寒暖計昇降常なく、一日間  
 三十余度の差を生ず。殊に北部の地方は  
 東北の風強々として、氷雪久し、消るるまで  
 土人は橇を使用して、交通運輸に供すあり。  
 此邊地震の患ありて、其害少尠ならずとす。

定期の航海線あり。一晝夜にて通づべし。却て説く其地勢。ハウスホリスの海峡。濱しつ人口六十萬。峽口よりして都城迄行程大約九英里余。峽幅出入三英里。蓋し左方は亞細亞。右方は即ち歐羅巴。是れ天然の境界なり。兩岸人家相喚べは且さ。應へん計り。異想の感觸起るなり。海上都府を眺望せば。人家緑樹と參差しつ。丘陵都府の内外。起伏し。寺院堂塔は。其頂上。併列し。屋蓋圓形。笠。似て中間。尖塔林立し。恰も竹筍の如くあり。又壯麗なる支丹の宮殿ありて。高樓や。俊閣岸邊。又巖岫として。全都光景宛然。と。唇氣樓を現出す。實は意外の美觀あり。金角てふ港は。八九丁間。天然の港灣をなす。各國の商船多く。輪轉す。扱て此阜頭。上陸すれば。曩の美觀。又對し。街衢曲折。路上みな凸凹。細石突出し。泥滓靴を埋没す。家屋木材造り。て。間々石造も散見す。其官宅は美。あれども一般。不潔極まりて。惡臭鼻をつん裂けり。又赤帽の人民は。道路。躑躅立。雜沓。吠犬とも。行人の歩行を防げ。貧民は。道上各所。佇立して。客を擁し。つ錢を乞ふ。其汚穢なる景情は。眼も。あてられぬ計なり。只。僅か。ハザルて。市場。萬貨を陳列し。



景内宮ヲリグラセ全

實は今日の歐洲。類ひ稀なる異國あり。其回教の人民は。身。寛衣を着用し。頭。紅帽戴けり。或は纏ふ。布を用。婦人は。外被を垂。以て。顔を出さず。風俗は。恭敬主とし。上下の分。甚。以て。嚴重あり。男子は。婦人を。蔑。如して。男女の。懸隔。甚。國民一人。以て。よく。教婦を。要。を。帝。と。せり。故。留者は。妻と。妾。數十人。下。る。あり。且。今。奴隷を。販賣。する。の。風。ありて。妾婢の。賣買。盛ん。あり。多くは。他國。より。贖。入り。君士坦丁府。之記。君士坦丁府。は。土耳其國の。首府。京城。魯西亞國の。河德沙。より。南。の方。へ。四百。余。英里。

稍々商勢を弱はせり。

セラグリヲてふ宮殿は、おき國王の御所にして、ゴールデンホールン港面は突出したる美宮なり。周圍郭壁達らして、其中數多の宮殿や庭園堂塔設置しつ。一万余の人々は皆支丹を奉待せり。宮殿の中主任者ハレムと名けて數棟の殿宇を設け一區とす。別殿洞房數知らず。宮中夥多の妃嬪ども並に妾御も皆すべて翠帳紅閣其中に鞠はせつ且つ女官閨人ありてそま之を分司し宮内の事務は秘して世間漏すなし。是又一つの奇談あり支丹後宮に待從する男子は皆みみ鬘丸を切斷せらるを例とせり。蓋し別嬪多きゆへ用心せらるゝ事ならん。談宮中は奢侈を飽迄極むる別世界故に費用は國税の四分一を竭盡とぞ國民の貧乏なるかな。今上皇帝御名はアブダルハミド二世と云る皇室政府の富有なる權制政治の徳なる乎。讀者宜しく評すべし。十有九世紀今日の歐洲中尚ほまた如斯の邦土あり。英佛白蘭日耳曼も又歐洲の邦土なり。然るに彼此の懸隔ある其原因や明けし戒むべきの事とてろ。

希臘國之部



全後宮 風俗

希臘の地勢は地中海東隅に突出し一小國にして北は土耳其と分界し其他三面皆海に圍繞せらるゝ半島あり。西は即ち興尼安海東は群島海。小亞細亞と對岸す。其面積の総計は一万九千九百と四十有一方英里。其人口も纔かみて一百六十八万余。借此國は歐洲の開化しる本源にして彼の文學の鼻祖なるを耶蘇生前千二百余年頃より紀元後二百年に到る迄著名の學士輩出す。其數八百六十三。上古他國は先ちて隆盛を極め學術や製造高度は進達し。宇内の推して宗とする。

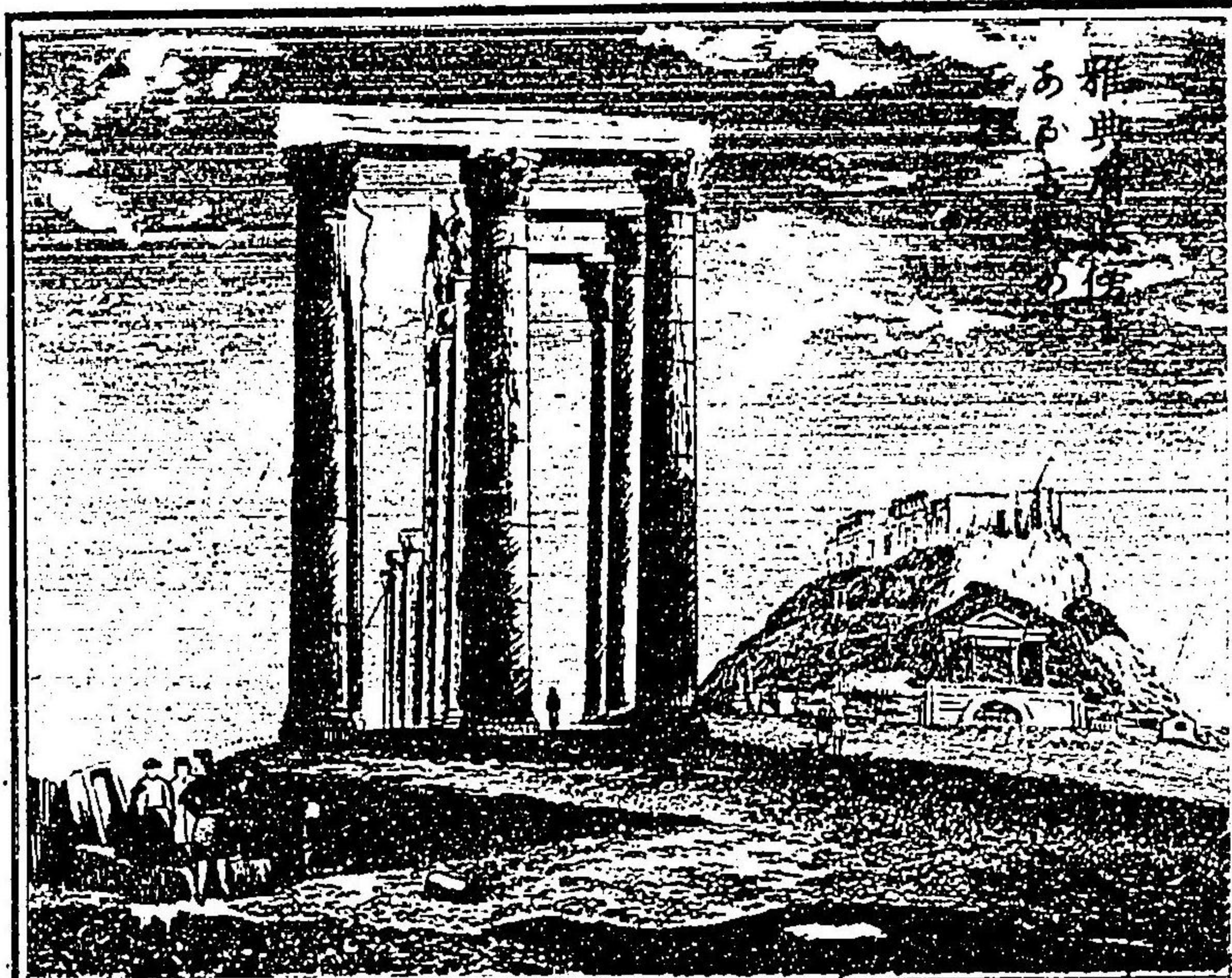
VIEW OF ATHEN CITY.



復古せしちるを莊なれ今世ジョルヂ一世は  
 噠馬の今の王・クリスチアン九世の  
 第二子にして今を去る廿二年三月、  
 當國々會撰舉しつ六月四日噠王の  
 後見より即位せり四年を経て魯西亞國の  
 コンスタンチン大公の長女オルガを娶り以て  
 后妃となせり現今も君民共治の政を布き  
 國運進歩の氣象あり氣候は最も温和にて  
 大氣甚清朗とす土地は普ね豊饒にて  
 耕種に適す産物は橄欖葡萄桑の樹や  
 各種の菓物を最とせり其宗教は希臘教を  
 國教とは爲したせと信仰各自の自由也

雅典府之記

STONE PAIRS IN NEAR ATHEN



所なりき今もあは歐米碩學鴻儒やら  
 藝術學士は此國の意匠を模範となし以て  
 珍器奇工を模造せりをれども今の歐米も  
 昔の希臘の美術よりは及ばざるを嘆すとぞ  
 眞に當時の旺盛を想像するに足りぬべし  
 又チーシルリス・クラテス・ペラート等の先哲が  
 作せる名高き詩文等今に至るも歐人の  
 深く欣慕へる所なり希臘往昔國亡び  
 更に數多の沿革を経歴なして終に彼の  
 土耳其の領地は附屬して久しく壓制邪惡なる  
 政令に苦みいとりが近世國民一致して  
 義兵を擧つ仇國の土耳其に抗し今を去る  
 五十一年前つひに不羈獨立の帝國と